

科目基本情報	科目名	期別	曜日・時限	単位
	英語科教育法演習 I	後期	月 4	2
	担当者	対象年次	授業に関する問い合わせ	
	津波 聡	3年	satoshi@okiu.ac.jp	

学びの準備	ねらい 50分模擬授業、全体討議を通して、英語で授業を行うと共に、授業内容について英語で説明ができる技能を習得する。	メッセージ 教育実習に向けて、まずは英語で堂々と授業ができるようになるよう授業外で十分練習しよう。 【実務経験】中学校教師及び指導主事としての現場経験を活かして、学校現場と行政の両面から日本の英語教育を概説します。
	到達目標 (1) 英文で指導案が書ける (2) 英語で授業ができる(文法指導) (3) 授業のねらい、構成、内容について英語で説明ができる (4) 英検準1級レベル以上の英語力をつける	

学びの実践	学びのヒント 授業計画		
	回	テーマ	時間外学習の内容
	1	オリエンテーション	Reading Assignment, Drills
	2	ワークショップ 1 (Classroom English)	Reading Assignment, Drills
	3	ワークショップ 2 (コミュニケーションとしての文法指導：理論と実践)	Reading Assignment, Drills
	4	ワークショップ 3 (コミュニケーションとしての文法指導：目標設定と導入)	模擬授業準備・練習
	5	模擬授業・全体討議 1 (指導と評価の一体化)	模擬授業準備・練習
	6	模擬授業・全体討議 2 (既習事項との関連)	模擬授業準備・練習
	7	模擬授業・全体討議 3 (帰納法・演繹法)	模擬授業準備・練習
	8	模擬授業・全体討議 4 (ドリル・コミュニケーション活動)	模擬授業準備・練習
	9	模擬授業・全体討議 5 (課題と評価の観点)	模擬授業準備・練習
	10	模擬授業・全体討議 6 (ワークシート)	模擬授業準備・練習
	11	模擬授業・全体討議 7 (指導形態)	模擬授業準備・練習
	12	模擬授業・全体討議 8 (英語運用力)	Reading Assignment, Drills
	13	英語力アップドリル	Reading Assignment, Drills
	14	ワークショップ 4 (4技能統合型指導：課題の与え方)	Reading Assignment, Drills
15	ワークショップ 5 (4技能統合型指導：発問の工夫)	Reading Assignment, Drills	
16	ワークショップ 6 (指導案作成)		
	テキスト・参考文献・資料など 「成長する英語教師」高橋一幸(大修館) 「小学校学習指導要領 外国語活動編」(平成20年8月 文部科学省) 「中学校学習指導要領解説 外国語編」(平成20年9月 文部科学省) 「高等学校学習指導要領解説 外国語編・英語編」(平成22年5月 文部科学省)		
	学びの手立て 英語検定、グループ学習、模擬授業練習を通して英語力・英語指導力の強化を図って下さい。		
	評価 (1) 模擬授業の評価 (40%) (2) 英語力の評価 (40%) (3) 提出物 (20%)		

学びの継続	次のステージ・関連科目 教科書の内容を扱う授業のデザインと実演
-------	------------------------------------

科目基本情報	科目名	期別	曜日・時限	単位
	英語科教育法演習 I	後期	月 4	2
	担当者	対象年次	授業に関する問い合わせ	
	野口 正樹	3年	noguchi@okiu.ac.jp	

学びの準備	ねらい 英語科教育法 I・II の学習内容を踏まえ、個人模擬授業を行います。学習指導案を各自で作成し、I では授業成立度（成否）に焦点を当てます。模擬授業後は、全体討論の時間を取り、各授業の評価・検討を行います。以上の実践を通して、中高における英語授業を計画・実施・評価する技能を磨きます。	メッセージ 学んだ原理を踏襲しながら、つながる授業を目指そう。
	到達目標 interaction を意識しながら、授業目標を達成できる。	

学びの準備	ねらい 英語科教育法 I・II の学習内容を踏まえ、個人模擬授業を行います。学習指導案を各自で作成し、I では授業成立度（成否）に焦点を当てます。模擬授業後は、全体討論の時間を取り、各授業の評価・検討を行います。以上の実践を通して、中高における英語授業を計画・実施・評価する技能を磨きます。	メッセージ 学んだ原理を踏襲しながら、つながる授業を目指そう。
	到達目標 interaction を意識しながら、授業目標を達成できる。	

学びの実践	学びのヒント 授業計画		
	回	テーマ	時間外学習の内容
	1	Orientation	syllabus 熟読
	2	Demo (student A) and Q & A	reaction paper 作成
	3	Class Discussion and Evaluation	reflection 実践
	4	Demo (student B) and Q & A	reaction paper 作成
	5	Class Discussion and Evaluation	reflection 実践
	6	Demo (student C) and Q & A	reaction paper 作成
	7	Class Discussion and Evaluation	reflection 実践
	8	Demo (student D) and Q & A	reaction paper 作成
	9	Class Discussion and Evaluation	reflection 実践
	10	Demo (student E) and Q & A	reaction paper 作成
	11	Class Discussion and Evaluation	reflection 実践
	12	Demo (student F) and Q & A	reaction paper 作成
	13	Class Discussion and Evaluation	reflection 実践
	14	Demo (student G) and Q & A	reaction paper 作成
	15	Class Discussion and Evaluation	reflection 実践
16	Final	課題提出	

学びの実践	テキスト・参考文献・資料など 講義内で配布する。
-------	-----------------------------

学びの実践	学びの手立て 先輩の teaching plans や demo classes を参考にする。
-------	---

学びの実践	評価 ① 授業参加度 15% ② demonstration class 50% ③ 期末試験 20% ④ 課題 15%
-------	---

学びの継続	次のステージ・関連科目 英語科教育法演習 II につなげる。
-------	-----------------------------------

科目基本情報	科目名	期別	曜日・時限	単位
	英語科教育法演習Ⅱ	前期	月4	2
	担当者	対象年次	授業に関する問い合わせ	
	津波 聡	4年	satoshi@okiu.ac.jp	

学びの準備	ねらい 教育実習前の最終点検を行う。	メッセージ 教育実習に臨むにあたり、最終自己点検を。 【実務経験】中学校教師としての現場経験を活かして、教科書の効果的な活用法を解説します。
	到達目標 (1) 英文で指導案が書ける (2) 英語で授業ができる (3) 授業のねらい、構成、内容について英語で説明ができる (4) 英検準1級レベル以上の英語力をつける	

学びの準備	到達目標 (1) 英文で指導案が書ける (2) 英語で授業ができる (3) 授業のねらい、構成、内容について英語で説明ができる (4) 英検準1級レベル以上の英語力をつける

学びの実践	学びのヒント 授業計画		
	回	テーマ	時間外学習の内容
	1	Workshop 1	Drills
	2	English Proficiency Test 1	Drills
	3	Workshop 2	Drills
	4	English Proficiency Test 2	Drills
	5	Workshop 3	Making a lesson plan
	6	Designing a Lesson 1	Making a lesson plan
	7	Designing a Lesson 2	Making a lesson plan
	8	Designing a Lesson 3	Making a lesson plan
	9	Designing a Lesson 4	Making a lesson plan
	10	Designing a Lesson 5	Practice for Demonstration
	11	Demonstration & Discussion 1	Practice for Demonstration
	12	Demonstration & Discussion 2	Practice for Demonstration
	13	Demonstration & Discussion 3	Practice for Demonstration
	14	Demonstration & Discussion 4	Practice for Demonstration
	15	Demonstration & Discussion 5	Practice for Demonstration
16	English Proficiency Test 2		

学びの実践	テキスト・参考文献・資料など 授業の中で紹介します。
-------	-------------------------------

学びの実践	学びの手立て (1) 英語力、英語指導力の強化を図って下さい (2) 教員試験対策を計画的に行ってください
-------	---

学びの実践	評価 (1) 模擬授業の評価 (40%) (2) 英語力の評価 (40%) (3) 提出物 (20%)
-------	--

学びの継続	次のステージ・関連科目 教育実習
-------	---------------------

科目基本情報	科目名	期別	曜日・時限	単位
	英語科教育法演習Ⅱ	前期	月4	2
	担当者	対象年次	授業に関する問い合わせ	
	野口 正樹	4年	noguchi@okiu.ac.jp	

学びの準備	ねらい 英語科教育法演習Ⅰの実践内容を踏まえ、個人模擬授業に再度取り組みます。学習指導案を各自で作成し、Ⅱでは授業深化度（向上的変容）に焦点を当てます。模擬授業後は、全体討論の時間を取り、各授業の評価・検討を行います。以上の実践を通して、中高における英語授業を計画・実施・評価する技能を磨きます。	メッセージ 英語教育領域の総仕上げの科目です。原理・原則を基本に、自分の言語観・教育観・生徒観を反映させよう。
	到達目標 授業目標の達成のみならず、生徒の学びを促せる。	

学びの実践	学びのヒント 授業計画		
	回	テーマ	時間外学習の内容
	1	Orientation	syllabus 熟読
	2	Demo (studnet A), Q & A	reaction paper 作成
	3	Class Discussion and Evaluation	reflection 実践
	4	Demo (studnet B), Q & A	reaction paper 作成
	5	Class Discussion and Evaluation	reflection 実践
	6	Demo (studnet C), Q & A	reaction paper 作成
	7	Class Discussion and Evaluation	reflection 実践
	8	Demo (studnet D), Q & A	reaction paper 作成
	9	Class Discussion and Evaluation	reflection 実践
	10	Demo (studnet E), Q & A	reaction paper 作成
	11	Class Discussion and Evaluation	reflection 実践
	12	Demo (studnet F), Q & A	reaction paper 作成
	13	Class Discussion and Evaluation	reflection 実践
	14	Demo (studnet G), Q & A	reaction paper 作成
	15	Class Discussion and Evaluation	reflection 実践
	16	Final	課題提出
	テキスト・参考文献・資料など 講義内で配布する。		
	学びの手立て 英教法の仲間との協働学習が肝です。		
	評価 ① 授業参加度 15% ② demonstration class 50% ③ 期末試験 20% ④ 課題 15%		

学びの継続	次のステージ・関連科目 教育実習の授業実践につなげる。
-------	--------------------------------

科目基本情報	科目名	期別	曜日・時限	単位
	英語科教育法 I	後期	月 2	2
	担当者	対象年次	授業に関する問い合わせ	
	津波 聡	2年	satoshi@okiu.ac.jp	

学びの準備	ねらい	メッセージ
	<ol style="list-style-type: none"> <li>自主学習力および学びあう力を身につける</li> <li>学校教育全般の現状や課題、学習指導要領を理解する</li> <li>英語習得理論、教授法を理解し基礎的な指導技術を身につける</li> <li>英語で指導できる運用能力を身につける</li> </ol>	自主学習力、協働学習力を身につけよう。 【実務経験】中学校教師及び指導主事としての経験を活かして学校現場と行政の両面から英語教育を解説します。
到達目標	<ol style="list-style-type: none"> <li>英語教育に関する基礎的知識・技能を習得する</li> <li>英検準1級レベルの英語力を獲得する</li> <li>英語教師としての素養を身につける</li> </ol>	

学びの実践	学びのヒント		
	授業計画		
	回	テーマ	時間外学習の内容
	1	オリエンテーション	
	2	英語教育と英語教育学	Reading Assignment
	3	英語の国際化と日本の英語教育	Reading Assignment
	4	学習指導要領	Reading Assignment
	5	学習者	Reading Assignment
	6	英語教員	Reading Assignment
	7	英語教授法	Reading Assignment
8	第二言語習得と英語教育	Reading Assignment	
9	コミュニケーション能力の育成	Reading Assignment	
10	前半総復習、中間テスト	Reading Assignment	
11	リスニング	Reading Assignment	
12	スピーキング	Reading Assignment	
13	リーディング	Reading Assignment	
14	ライティング	Reading Assignment	
15	測定と評価	Reading Assignment	
16	総復習、期末テスト		
テキスト・参考文献・資料など	テキスト 「新学習指導要領にもとづく英語教育法」望月昭彦（編著）、久保田章、磐崎弘貞、卯城祐司（著）、大修館 参考書 「中学校学習指導要領解説 外国語編」（平成20年9月 文部科学省） 「高等学校学習指導要領解説 外国語編・英語編」（平成22年5月 文部科学省） 「現場で使える教室英語」吉田研作・金子朝子（監修）、SANSHUSHA		
学びの手立て	<ol style="list-style-type: none"> <li>学級役員（級長、副級長、班長）を決め、役員を中心に学級を運営する</li> <li>授業内外でクラスメート及び班員と協力しながら課題解決に臨む</li> <li>授業は討論中心になるため、積極的な発言が望まれる</li> <li>事前に教科書を熟読して授業に臨む</li> <li>Group Presentationは教科書の章を担当し、授業形式で進める</li> </ol>		
評価	<ol style="list-style-type: none"> <li>授業参加（発言）・・・・・・・・・・・・・・・・・・20%</li> <li>テスト・・・・・・・・・・・・・・・・・・40%</li> <li>課題（プレゼンテーション、書評、ポートフォリオ）・・・・・・・・・・40%</li> </ol>		

学びの継続	次のステージ・関連科目 英語科教育法IIでは、英語科教育法Iで学習した内容を実践に移していきます。
-------	--

科目基本情報	科目名	期別	曜日・時限	単位
	英語科教育法 I	後期	月 2	2
	担当者	対象年次	授業に関する問い合わせ	
	野口 正樹	2年	noguchi@okiu.ac.jp	

学びの準備	ねらい 前期は、英語教育の在り方に関する理論的な研究成果を概観し、英語教師としての教育観並びに指導観を確立します。そのために、次の2点に注意を払います。まず、英語のコミュニケーション能力を高めることにより、英語を通して英語を教える能力を培います。次に、技能向上のみに偏ることなく、現在の学校教育に求められている「心の教育」に繋がる視点を養成します。	メッセージ 英語を教える原理を学びます。まずは、専門用語を整理しよう。
	到達目標 英語科教育の概要を把握できる。	

学びの実践	学びのヒント 授業計画		
	回	テーマ	時間外学習の内容
	1	Orientation	syllabus 熟読
	2	Purposes of English Education	quiz予習, 文献講読
	3	Becoming a Good Language Teacher	quiz予習, 文献講読
	4	Becoming a Successful Learner	quiz予習, 文献講読
	5	Language Acquisition and Language Teaching	quiz予習, 文献講読
	6	Ways of Teaching	quiz予習, 文献講読
	7	The Courses of Study	quiz予習, 文献講読
	8	Teaching Listening	quiz予習, 文献講読
	9	Teaching Speaking	quiz予習, 文献講読
	10	Teaching Reading	quiz予習, 文献講読
	11	Teaching Writing	quiz予習, 文献講読
	12	Materials Development	quiz予習, 文献講読
	13	Lesson Plans	quiz予習, 文献講読
	14	Team Teaching	quiz予習, 文献講読
	15	Assessment and Testing	quiz予習, 文献講読
	16	Final	課題提出
	テキスト・参考文献・資料など 講義内で配布する。		
	学びの手立て 関連図書・学外 seminars・Internet・図書館などあらゆる機会を利用し、講義を補足する。		
	評価 ①授業参加度 20% ② presentation 30% ③ 期末試験 30% ④ 課題 20%		

学びの継続	次のステージ・関連科目 英語教育教材研究と関連づける。英語科教育法Ⅱとつなげる。
-------	---

科目基本情報	科目名	期別	曜日・時限	単位
	英語科教育法Ⅱ	前期	月2	2
	担当者	対象年次	授業に関する問い合わせ	
	津波 聡	3年	satoshi@okiu.ac.jp	

学びの準備	ねらい 英語指導の基本的な技能を習得する	メッセージ いよいよ実践です。講師にあるための準備（意欲・自己研鑽）ができていないか再点検しよう。【実務経験】中学校教師及び指導主事としての現場経験を活かして、理論と実践について解説します。
	到達目標 (1) 英語教授法に関する知識を基に指導技術の基礎を身につける (2) 原書講読、英語による発表、指導案作成を通して英語力の向上を図る (3) クラスルームイングリッシュを的確に使用できる運用能力を身につける	

学びの実践	学びのヒント 授業計画		
	回	テーマ	時間外学習の内容
	1	Quiz, Chapter 1 & 2	Reading Assignment
	2	Chapter 3	Reading Assignment
	3	Chapter 4	Reading Assignment
	4	Chapter 8	Reading Assignment
	5	Chapter 9	Reading Assignment
	6	Chapter 10	Reading Assignment
	7	Chapter 11	Preparation for Test
	8	Review, Mid-term Exam	Preparation for Demonstration
	テキスト・参考文献・資料など		
	テキスト How Languages are Learned (3rd Edition) by P. M. Lightbrown & N. Spada Oxford) 参考書 「中学校学習指導要領解説 外国語編」(平成20年9月 文部科学省) 「高等学校学習指導要領解説 外国語編・英語編」(平成22年5月 文部科学省)		
	学びの手立て (1) 課題は基本的に授業外に班・クラス単位で取り組む (2) 学外講演会、研修会、ワークショップ等に参加する (3) 英語準1級を取得する		
	評価 (1) 授業参加(発言) . . . . . 20% (2) テスト . . . . . 40% (3) 課題(指導案、書評、5分・10分模擬) . . . . . 40%		

学びの継続	次のステージ・関連科目 文法指導の授業デザインと実演(英語科教育法演習I)
-------	--

科目基本情報	科目名	期別	曜日・時限	単位
	英語科教育法Ⅱ	前期	月 2	2
	担当者	対象年次	授業に関する問い合わせ	
	野口 正樹	3年	noguchi@okiu.ac.jp	

学びの準備	ねらい 前期履修済みの「英語科教育法Ⅰ」で学んだ教育観及び指導観を踏まえ、後期は実際の教室での指導に役立つ知識や技能の養成を目指します。そこで、micro-teachingを試みます。これを通して、教材分析力・教材作成力・教案構成力を培います。また、micro-teachingを核に展開しながら、前期でcoverしていない項目や更に深く掘り下げる内容を取り上げ、理論と実践の橋渡しを試みます。	メッセージ 専門用語の理解を更に進め、目指す授業を具体化しよう。
	到達目標 学んだ原理を生かして teaching plan (略案) が書ける。	

学びの実践	学びのヒント 授業計画		
		テーマ	時間外学習の内容
	回		
	1	Orientation	syllabus 熟読
2	人間形成的英語教育	quiz予習, 文献講読	
3	語るべき自己の未発達	quiz予習, 文献講読	
4	日本語コミュニケーション不全	quiz予習, 文献講読	
5	Input, Output and Interaction	quiz予習, 文献講読	
6	Attention and Noticing	quiz予習, 文献講読	
7	Explicit and Implicit Learning	quiz予習, 文献講読	
8	Language Learners	quiz予習, 文献講読	
9	Teaching Plan 1	teaching plan 作成	
10	Teaching Plan 2	teaching plan 作成	
11	Teaching Plan 3	teaching plan 作成	
12	Microteaching (students A & B) 1	reaction paper 作成	
13	Microteaching (students C & D) 2	reaction paper 作成	
14	Microteaching (students E & F) 3	reaction paper 作成	
15	Microteaching (students G & H) 4	reaction paper 作成	
16	Final	課題提出	
	テキスト・参考文献・資料など 講義内で配布する。		
	学びの手立て 関連書籍の読みを継続し、原理と実践を結ぼう。		
	評価 ①授業参加度 20% ② presentation 30% ③ 期末試験 30% ④ 課題 20%		

学びの継続	次のステージ・関連科目 英語科教育法演習Ⅰにつなげる。
-------	--------------------------------

科目基本情報	科目名	外国史 I	期別	曜日・時限	単位
	担当者	藤波 潔	前期	木 5	2
			対象年次	授業に関する問い合わせ	
			1年	研究室（5434）、またはfujinami@oki.u.ac.jp	

学びの準備	ねらい	本講義では、近代以降の通史を取扱いながら、中学校社会科または高等学校地理歴史科の教員になるために不可欠な外国史の基礎知識を養成するとともに、歴史的事象を多面的多角的に考察するために必要な史料の読解力や、歴史的事象の意義を表現する能力を養成することをねらいとする。	メッセージ 単に歴史的な知識を教えるのではなく、「なぜ世界の歴史を学ぶ必要があるのか」について語ることで能力を持った教員となるよう、「考える歴史」を実践できるようにしましょう。
	到達目標	(1) 近代以降の世界の歴史の大きな枠組みと展開を理解することができる。 (2) 世界の歴史に関する史料・資料を読解し、論理的に説明することができる。 (3) 世界の歴史に関わる諸事象の意味や意義、特色や相互の関連について、多面的・多角的に考察することができる。 (4) 近代以降の世界の歴史と現代社会との関連性について、意欲的に探究する態度をもつことができる。	

学びの実践	学びのヒント	授業計画		
		回	テーマ	時間外学習の内容
		1	ガイダンス：講義に関するルールは何か？	シラバス内容の理解
		2	近代の幕あけ：ルネサンス、大航海時代、宗教改革	予習プリント・ワークシート
		3	海域アジア世界への進出：ポルトガル、スペイン、オランダの海洋進出	予習プリント・ワークシート
		4	イギリスの革命：清教徒革命、王政復古、名誉革命	予習プリント・ワークシート
		5	独立戦争とアメリカ社会：独立戦争、合衆国憲法	予習プリント・ワークシート
		6	フランス革命とナポレオン：フランス革命、人権宣言、ナポレオン体制	予習プリント・ワークシート
		7	アヘン戦争と不平等条約体制：華夷秩序、アヘン戦争、南京条約体制	予習プリント・ワークシート
		8	ドイツ統一とビスマルク体制：ビスマルク、ドイツ統一戦争、ドイツ帝国	予習プリント・ワークシート
	9	19/20世紀転換期の東アジア世界：日朝修好条規、日清戦争、義和団事変	予習プリント・ワークシート	
	10	日露戦争と朝鮮半島情勢：日露戦争、韓国併合	予習プリント・ワークシート	
	11	第1次世界大戦：同盟協商体制、総力戦体制、ロシア革命	予習プリント・ワークシート	
	12	ヴェルサイユ体制：ヴェルサイユ講和会議、国際連盟、ヨーロッパの復興、ドーズ案	予習プリント・ワークシート	
	13	中国における民衆運動の展開：孫文、辛亥革命、袁世凱、中華民国	予習プリント・ワークシート	
	14	世界恐慌：ニューディール政策、ファシズム	予習プリント・ワークシート	
	15	第2次世界大戦：ナチス、宥和政策、独ソ戦	予習プリント・ワークシート	
	16	学期末試験		
	テキスト・参考文献・資料など	特定のテキストは使用せず、レジュメを配付する。 主な参考文献は、下記の通り。 ①南塚信吾他編『新しく学ぶ西洋の歴史 アジアから考える』（ミネルヴァ書房、2016年） ②大下尚一他編『西洋の歴史 [近現代編]』（ミネルヴァ書房、1987年） ③中井義明他『教養のための西洋史入門』（ミネルヴァ書房、2007年）、他。		
	学びの手立て	① 学びの手立て 単に出席しただけでは、単位の修得につながりません。また、出席自体は評価の対象ではありません。講義をしっかりと聴き、講義内容に関するメモを作成し、講義終了後にノートを作成した上で、ワークシートを作成するように求めます。 ② 学びを深めるために 次週の講義内容に係る資料を配布するので熟読し、予習プリントを解いた上で講義を受け、復習としてのワークシートに取り組んでください。		
	評価	到達目標（1）の評価：予習プリント（10%） 到達目標（2）の評価：ワークシート（20%） 到達目標（3）の評価：学期末試験（50%） 到達目標（4）の評価：レポート（20%） による総合評価とする。なお、出席が講義回数の3分の2に満たない者は、試験の評価の対象外とする。		

学びの継続	次のステージ・関連科目 高校地理歴史の免許取得には「外国史Ⅱ」も必修となっている。 また、多面的な歴史認識を深めるために、共通科目の歴史関係科目の履修を勧める。
-------	--

科目基本情報	科目名	期別	曜日・時限	単位
	外国史Ⅱ	後期	木5	2
	担当者 藤波 潔	対象年次	授業に関する問い合わせ	
		1年	研究室（5434）、またはfujinami@oki.u.ac.jp	

学びの準備	ねらい	メッセージ
	本講義では、古代から中世に至る時代の通史を取り扱いながら、中学校社会科または高等学校地理歴史科の教員として不可欠な外国史の基礎知識を培うとともに、歴史的事象を多面的多角的に考察するために必要な史資料の読解力や、歴史的事象の意義を表現する能力を養成することをねらいとする。	単に歴史的な知識を教えるのではなく、「なぜ世界の歴史を学ぶ必要があるのか」について語ることでできる能力を持った教員となるよう、「考える歴史」を実践できるようにしましょう。
	到達目標	
	(1) 古代から中世に至る世界の歴史の大きな枠組みと展開を理解することができる。 (2) 世界の歴史に関する史料・資料を読解し、論理的に説明することができる。 (3) 世界の歴史に関わる諸事象の意味や意義、特色や相互の関連について、多面的・多角的に考察することができる。 (4) 古代から中世に至る世界の歴史と現代社会との関連性について、意欲的に探究する態度をもつことができる。	

学びの実践	学びのヒント		
	授業計画		
	回	テーマ	時間外学習の内容
	1	ガイダンス：講義に関するルールは何か？	シラバス内容の理解
	2	オリエント世界の成立：エジプト文明、メソポタミア文明	予習プリント・ワークシート
	3	インドの古代文明：インダス文明、バラモン教、「新しい思想」	予習プリント・ワークシート
	4	中国の古代文明：殷、周、春秋戦国	予習プリント・ワークシート
	5	中国の古代帝国：秦・漢	予習プリント・ワークシート
	6	隋・唐帝国と世界：隋、唐	予習プリント・ワークシート
	7	漢民族王朝と異民族国家：五代十国、宋、遼、金、元	予習プリント・ワークシート
	8	明帝国とアジア世界：明、北方世界、海禁	予習プリント・ワークシート
	9	満州人と清帝国の成立：満州、多民族国家、華夷秩序	予習プリント・ワークシート
	10	アテナイの発展と民主政：古代民主政、ペルシア戦争、ペロポネソス戦争	予習プリント・ワークシート
	11	ローマ世界の展開：共和政、三頭政治、元首政、ローマの平和	予習プリント・ワークシート
	12	西ヨーロッパ世界の成立：ゲルマン人、フランク王国、カール大帝	予習プリント・ワークシート
	13	初期キリスト教の展開：ユダヤ教、キリスト教	予習プリント・ワークシート
14	教皇権の盛衰：グレゴリウス改革、叙任権闘争、十字軍、アナーニ事件、教会大分裂	予習プリント・ワークシート	
15	中世の西ヨーロッパ世界：大憲章、百年戦争	予習プリント・ワークシート	
16	学期末試験		
	テキスト・参考文献・資料など		
	特定のテキストは使用せず、レジュメを配付する。 主な参考文献は、下記の通り。①山本茂他編『西洋の歴史 [古代・中世編]』(ミネルヴァ書房、1988年)、②中井義明他『教養のための西洋史入門』(ミネルヴァ書房、2007年)、③津田資久・井ノ口哲也編著『教養の中国史』(ミネルヴァ書房、2018年)、他。		
	学びの手立て		
	① 学びの手立て 単に出席しただけでは、単位の修得につながりません。また、出席自体は評価の対象ではありません。講義をしっかりと聞き、講義内容に関するメモを作成し、講義終了後にノートを作成した上で、ワークシートを作成するように求めます。 ② 学びを深めるために 次週の講義内容に係る資料を配布するので熟読し、予習プリントを解いた上で講義を受け、復習としてのワークシートに取り組んでください。		
	評価		
	到達目標 (1) の評価：予習プリント (10%) 到達目標 (2) の評価：ワークシート (20%) 到達目標 (3) の評価：学期末試験 (50%) 到達目標 (4) の評価：レポート (20%) による総合評価とする。なお、出席が講義回数の3分の2に満たない者は、試験の評価の対象外とする。		

学びの継続	次のステージ・関連科目
	高校地理歴史の教員免許取得には、外国史Ⅰ・Ⅱ両方とも必修となっている。 世界の歴史を通史として理解するためにも、外国史Ⅰを履修することが望ましい。

科目基本情報	科目名	期別	曜日・時限	単位
	学習支援実習	前期	集中	1
	担当者	対象年次	授業に関する問い合わせ	
	藤波 潔	2年	研究室 (5434) またはfujinami@okiu.ac.jp	

学びの準備	ねらい 本講義は、教職課程履修者を対象として、学習支援活動に従事することを通じて中学校現場の実態を理解するとともに、自らの教員としての適正を顧みる機会とすることを目的とする。	メッセージ 本講義は、宜野湾市教育委員会と本学との協定に基づいて実施されるものです。中学校の実際の学級で学習支援活動に従事することで中学生の学習実態に触れることができ、より実践的な教職課程の学びにつながられます。
	到達目標 (1) 学習支援活動を通じて、中学校現場の実態を理解することができる。 (2) 学習支援活動を通じて、自らの教員としての適正を顧みることができる。 (3) 学習支援者として適切な身なり、態度、言葉遣いで生徒と接することができる。 (4) 活動記録を適切に作成し、期限内に提出することができる。	

学びの準備	到達目標 (1) 学習支援活動を通じて、中学校現場の実態を理解することができる。 (2) 学習支援活動を通じて、自らの教員としての適正を顧みることができる。 (3) 学習支援者として適切な身なり、態度、言葉遣いで生徒と接することができる。 (4) 活動記録を適切に作成し、期限内に提出することができる。
-------	---

学びの実践	学びのヒント 授業計画 (テーマ・時間外学習の内容含む) <table border="1" style="margin-left: 20px;"> <thead> <tr> <th>回</th> <th>内容</th> <th>時間外学習</th> </tr> </thead> <tbody> <tr> <td>第1回</td> <td>学内事前ガイダンス</td> <td>支援計画の作成</td> </tr> <tr> <td>第2回</td> <td>中学校ガイダンス</td> <td>レポートの作成</td> </tr> <tr> <td>第3回</td> <td>学習支援活動①、②</td> <td>活動参加記録の作成</td> </tr> <tr> <td>第4回</td> <td>学習支援活動③、④</td> <td>活動参加記録の作成</td> </tr> <tr> <td>第5回</td> <td>学習支援活動⑤、⑥</td> <td>活動参加記録の作成</td> </tr> <tr> <td>第6回</td> <td>学習支援活動⑦、⑧</td> <td>活動参加記録の作成</td> </tr> <tr> <td>第7回</td> <td>学習支援活動⑨、⑩</td> <td>活動参加記録の作成</td> </tr> <tr> <td>第8回</td> <td>学内事後ガイダンス</td> <td>レポートの作成</td> </tr> </tbody> </table>	回	内容	時間外学習	第1回	学内事前ガイダンス	支援計画の作成	第2回	中学校ガイダンス	レポートの作成	第3回	学習支援活動①、②	活動参加記録の作成	第4回	学習支援活動③、④	活動参加記録の作成	第5回	学習支援活動⑤、⑥	活動参加記録の作成	第6回	学習支援活動⑦、⑧	活動参加記録の作成	第7回	学習支援活動⑨、⑩	活動参加記録の作成	第8回	学内事後ガイダンス	レポートの作成
	回	内容	時間外学習																									
第1回	学内事前ガイダンス	支援計画の作成																										
第2回	中学校ガイダンス	レポートの作成																										
第3回	学習支援活動①、②	活動参加記録の作成																										
第4回	学習支援活動③、④	活動参加記録の作成																										
第5回	学習支援活動⑤、⑥	活動参加記録の作成																										
第6回	学習支援活動⑦、⑧	活動参加記録の作成																										
第7回	学習支援活動⑨、⑩	活動参加記録の作成																										
第8回	学内事後ガイダンス	レポートの作成																										
学びの実践	テキスト・参考文献・資料など ① テキスト 本講義を受講するための特定のテキストはありません。 ② 参考文献 『中学校学習指導要領』																											

学びの実践	テキスト・参考文献・資料など ① テキスト 本講義を受講するための特定のテキストはありません。 ② 参考文献 『中学校学習指導要領』
-------	--

学びの実践	学びの手立て ① 本講義を受講するためには「教職研究Ⅰ」「教育の思想と原則」「進路指導・生活指導」の単位を修得していることが前提条件となります。 ② 3年次以上は、正規の科目ではなく「学校ボランティア実習プログラム」として実施します。 ③ 取得希望の免許の種類は問いません。また、高校の免許科目のみを取得希望の学生も受講ができます。
-------	---

学びの実践	評価 到達目標 (1) の評価：最終レポートの内容 (40%) 到達目標 (2) の評価：活動報告書の内容 (40%) 到達目標 (3) の評価：中学校担当者による評価 (10%) 到達目標 (4) の評価：最終レポート、活動報告書の提出 (10%)
-------	---

学びの継続	次のステージ・関連科目 本講義での経験を踏まえて、教職課程の各科目の理解、とくに模擬授業科目における実践的、具体的な理解につながることで、ならびに自らの教員としての適正を考える機会につながることを期待します。
-------	---

科目基本情報	科目名	期別	曜日・時限	単位
	学習支援実習	後期	集中	1
	担当者	対象年次	授業に関する問い合わせ	
	藤波 潔	2年	研究室 (5434) またはfujinami@okiu.ac.jp	
学びの準備	ねらい	メッセージ		
	本講義は、教職課程履修者を対象として、学習支援活動に従事することを通じて中学校現場の実態を理解するとともに、自らの教員としての適正を顧みる機会とすることを目的とします。	本講義は、宜野湾市教育委員会と本学との協定に基づいて実施されるものです。中学校の実際の学級で学習支援活動に従事することで中学生の学修実態に触れることができ、より実践的な教職課程の学びにつながられます。		
学びの準備	到達目標			
	(1) 学習支援活動を通じて、中学校現場の実態を理解することができる。 (2) 学習支援活動を通じて、自らの教員としての適正を顧みることができる。 (3) 学習支援者として適切な身なり、態度、言葉遣いで生徒と接することができる。 (4) 活動記録を適切に作成し、期限内に提出することができる。			
学びの実践	学びのヒント	授業計画 (テーマ・時間外学習の内容含む)		
		回	内容	時間外学習
学びの実践	テキスト・参考文献・資料など	第1回	学内事前ガイダンス	支援計画の作成
	① テキスト 本講義を受講するための特定のテキストはありません。 ② 参考文献 『中学校学習指導要領』	第2回	中学校ガイダンス	レポートの作成
学びの実践	学びの手立て	第3回	学習支援活動①、②	活動参加記録の作成
	① 本講義を受講するためには「教職研究Ⅰ」「教育の思想と原則」「進路指導・生活指導」の単位を修得していることが前提条件となります。 ② 3年次以上は正規の科目ではなく、「学校ボランティア実習プログラム」として実施します。 ③ 取得希望の免許の種類は問いません。また、高校の免許科目のみを取得希望の学生も受講ができます。	第4回	学習支援活動③、④	活動参加記録の作成
学びの実践	評価	第5回	学習支援活動⑤、⑥	活動参加記録の作成
	到達目標 (1) の評価：最終レポートの内容 (40%) 到達目標 (2) の評価：活動報告書の内容 (40%) 到達目標 (3) の評価：中学校担当者による評価 (10%) 到達目標 (4) の評価：最終レポート、活動報告書の提出 (10%)	第6回	学習支援活動⑦、⑧	活動参加記録の作成
学びの継続	次のステージ・関連科目	第7回	学習支援活動⑨、⑩	活動参加記録の作成
	本講義での経験を踏まえて、教職課程の各科目の理解、とくに模擬授業科目における実践的、具体的な理解につながることで、ならびに自らの教員としての適正を考える機会につながることを期待します。	第8回	学内事後ガイダンス	レポートの作成

※ポリシーとの関連性

カウンセリングの諸理論と技法を用いた本学の養成する教員像に求められる指導のありかたを実践的に学びます。

[ /一般講義]

科目基本情報	科目名	期別	曜日・時限	単位
	学校カウンセリング	前期	火2	2
	担当者	対象年次	授業に関する問い合わせ	
	-助川 菜生	3年	授業終了後に教室で受け付けます。	

学びの準備	ねらい 教職を目指すにあたり、学校を取り巻くコミュニティに貢献できるようにするために、心理学の立場から、グループワークやロールプレイを通して必要なコミュニケーションスキルを身につけ、カウンセリング的アプローチについて学校現場の実際に即して実践的に学びます。	メッセージ 皆さんが先生になったとき、学校コミュニティにおける実践に役立つように、教育相談が対象とする問題にどう向かうかを、体験的に理解できる授業を目指します。
	到達目標 教育相談、学校カウンセリングの基礎的な知識を身につけ、自分の言葉で説明できる。 自己理解、他者理解の方法を身につけ、対人関係に応用できる。 文部科学省、教育委員会の資料や教育に関する時事問題について自ら調べ、わかりやすく説明できる。	

学びの実践	学びのヒント 授業計画		
	回	テーマ	時間外学習の内容
	1	オリエンテーション・登録調整	テキスト第1章を事前に読む
	2	思春期・青年期における発達障害の理解と対応①	テキスト第7章を事前に読む
	3	思春期・青年期における発達障害の理解と対応②	テキスト第7章を事前に読む
	4	思春期・青年期における精神医学的問題①	テキスト第8章を事前に読む
	5	思春期・青年期における精神医学的問題②	テキスト第8章を事前に読む
	6	カウンセリングの理論と技法	テキスト第11章を事前に読む
	7	解決志向アプローチ①「リソース」	前回配布の宿題に取り組む
	8	解決志向アプローチ②「問題の例外」	前回配布の宿題に取り組む
9	解決志向アプローチ③「未来志向」	前回配布の宿題に取り組む	
10	解決志向アプローチ④「問題の外在化」	前回配布の宿題に取り組む	
11	コミュニケーションの着眼点と留意点	前回配布の宿題に取り組む	
12	ピアサポート、性、ストレスマネジメント	前回配布の宿題に取り組む	
13	学校における緊急支援	テキスト第9章を事前に読む	
14	異職種との連携、コンサルテーション	前回配布の宿題に取り組む	
15	まとめと振り返り	レポート作成	
16			
実践	テキスト・参考文献・資料など テキスト：長谷川啓三、佐藤宏平、花田里欧子 編「事例で学ぶ生徒指導・進路指導・教育相談 中学校・高等学校編」遠見書房 参考文献：森俊夫「先生のためのやさしいブリーフセラピー」 森俊夫、黒沢幸子「森・黒沢のワークショップで学ぶ解決志向ブリーフセラピー」 ほか、講義内で随時、資料を配布する		
	学びの手立て 課題レポート、グループワーク等に自ら課題を見出し、取り組む姿勢を求めます。ワークへの不参加は認めません。 毎回、出欠確認を行いますので、やむを得ず遅刻・欠席する場合は、必ず事前に届けるか、他受講生に伝言を依頼してください。 随時配布資料・宿題は次回必ず持参してください。また、欠席した回の資料は自力で入手してください。 出欠状況の確認には応じませんので、自ら記録してください。		
	評価 受講態度（20%）と講義毎の課題レポート（60%）と最終レポート（20%）から総合評価する。		

学びの継続	次のステージ・関連科目 「介護等の体験」や「特別活動演習」、「教育実習」、総まとめの「教職実践演習」を通じ、最終的には教師として採用された現場で本講義の学びが生かせるよう、模擬授業等にこの講義で得た知見やスキルを反映させていくことが求められます。
-------	--

科目基本情報	科目名	期別	曜日・時限	単位
	学校カウンセリング	後期	金 2	2
	担当者	対象年次	授業に関する問い合わせ	
	片本 恵利	3年	オフィス・アワー 水曜4校時	

学びの準備	ねらい	メッセージ
	<p>本科目では、教育心理学の基礎、進路指導・生活指導のより実践的な知識を踏まえ、臨床心理学の基礎知識を確認しながら、カウンセリングの理論と技法に基づいてグループワーク、ロールプレイ等を交え学校現場でのカウンセリング的アプローチについて実践的に学んでいきます。</p>	<p>「カウンセラーになるわけでもないのにこんな科目不要では」と思いませんか?しかしカウンセリングの理論や技法を用いると通常の指導とは違う対応のヒントが見えるかも知れません。カウンセリングの発想を活用して実際の場面での対応の幅を広げて講義室のドアを出ませんか?なお本講義はスクールカウンセラー等臨床心理士としての実務経験を生かして進められます。</p>

到達目標
<p>①教職の基礎となる学問的態度について理解し、身につけるための行動を継続する。          ②大学での学びの基礎となる「読む」「書く」「話す」を身につけるための行動を継続する。          ③大学での講義への参加の基本となる予習・復習がコンスタントにできる。          ④「教育心理学」「進路指導・生活指導」で学んだ理論が定着していることが確認できる。          ⑤④を踏まえて、カウンセリングの理論や技法に基づいて学校現場の諸問題への対応の選択肢が増やせるようになる。</p>

学びの実践	学びのヒント		
	授業計画		
	回	テーマ	時間外学習の内容
	1	オリエンテーション・登録調整 (グループワークを含む)	シラバスを読んでくる
	2	学校カウンセリングとは (グループワークを含む)	講義中に指示の課題①
	3	異性の理解とライフサイクル理論にもとづいてキャリア・子育て・生徒指導を考察する ( // )	講義中に指示の課題②
	4	臨床心理学の基礎知識① 無意識についての理論～フロイトとユング ( // )	講義中に指示の課題③
	5	発達理論～フロイトを中心に ( // )	講義中に指示の課題④
	6	カウンセリングの実際① ( // )	講義中に指示の課題⑤
	7	学校におけるカウンセリングの注意点 カウンセリングと教師の役割 ～ロジャーズの理論 ( // )	講義中に指示の課題⑥
	8	心理テストの注意点 ( // )	講義中に指示の課題⑦
	9	問題行動の理解① 不登校への対応 (思春期のカウンセリングと心理療法の各種技法) ( // )	講義中に指示の課題⑧
	10	問題行動の理解② 非行への対応 (過ちを犯した生地に反省を促し、行動の改善を図る) ( // )	講義中に指示の課題⑨
	11	学校現場での緊急事態への対応の実際 (ワークショップ)	講義中に指示の課題⑩
	12	こころの病の理解と自殺予防 ( // )	講義中に指示の課題⑪
	13	教師のメンタルヘルス ( // )	講義中に指示の課題⑫
	14	保護者・地域・他の専門機関との連携～クレームへの対応をめぐる ( // )	講義中に指示の課題⑬
15	まとめ・振り返り ( // )	講義中に指示の課題⑭	
16	期末試験		

実践	<p>テキスト・参考文献・資料など</p> <p>教科書は使用しない。適宜資料を配付する。          菅佐和子他「臨床心理学の世界」有斐閣 桑原知子 「教室で生かすカウンセリングマインド」日本評論社          氏原寛「実践から知る学校カウンセリングー教師カウンセラーのためにー」培風館          高橋祥友「自殺予防」岩波新書 藤掛明「非行カウンセリング入門」金剛出版          岩宮恵子「フツの子の思春期」岩波書店 他</p>
----	---

学びの手立て	<p>①予習・復習は必須です。予め講義の範囲のテキスト・資料を読み記入したフォーマットをもとに講義内でグループディスカッションを行い、学びを深めます。          ③欠席は「履修規程」通り厳密に扱います。          ④配布物・提出物等についても、講義内で説明したとおりに進めます。          上記は成績評価に反映します。</p>
--------	---

評価	<p>①予習復習・課題その他成果物をつづった「ポートフォリオ」および中間テストを含む平常点 … 20%          ②期末試験 … 80%          大学の教職課程ですので、「頑張ったから」「出席して感想文を出したから」合格、ということはありません。あくまで、教職につくために必要な能力を見るという観点から、①②を通して上記「到達目標」がどの程度できているかを評価します。</p>
----	---

学びの継続	<p>次のステージ・関連科目</p> <p>この科目の単位を取得する際には教職課程履修が中盤にさしかかっています。「介護等の体験」や「特別活動演習」、「教育実習」、総まとめの「教職実践演習」を通じ、最終的には教師として採用された現場で本講義の学びがいかせるよう、模擬授業等にこの科目で得た知見やスキルを反映させていくことが求められます。</p>
-------	--

※ポリシーとの関連性 「教職に関する科目」の教育課程の意義及び編成の方法と教育の方法及び技術（情報機器及び教材の活用を含む。）に係る科目。

[ /一般講義]

科目基本情報	科目名 教育課程・教育方法	期別 前期	曜日・時限 火3	単位 2
	担当者 三村 和則	対象年次 2年	授業に関する問い合わせ 研究室番号：5505 E-mail:mimura@okiu.ac.jp	

学びの準備	ねらい 学校教育の中核を占める授業を主たる対象にしながら、授業のあり方と授業づくりの方法及び技術ならびに授業の背景をなし授業の一つの主要な場面として具現化する教育課程について論じる。	メッセージ 小中高校と毎日のように受けてきた授業。大学で毎日のように受けている授業（講義も授業の一つです。）。教師になったら仕事の中心として毎日のように行うことになる授業。この授業について、まず時間をかけていけば哲学的に解明していきます。授業とは何か分かったら、今度は具体的な授業づくりの方法について、どの教科にも当てはまる一般教授学の成果を用いて解説をしていきます。
	到達目標 授業は「教授（教えること）と学習（学ぶこと）の統一した過程」として捉えるべきであること、その認識に至るまでの教授学の歴史に関する深い知識・理解を身につける。また、そうした授業を成立させるために欠かせない「指導案づくり」の方法と「授業展開のタクト」の方法に関して深い知識・理解を身につける。関連して教科の成立根拠、他の領域の教育課程、情報機器や教材の活用について知識・理解を深めていく。これらを通して、授業を行うことへの意欲と自信を持つことができる。	

学びの実践	学びのヒント 授業計画		
	回	テーマ	時間外学習の内容
	1	授業びらき	テキスト精読ページ(以下同じ)133
	2	授業とは何か1 教授と学習の統一としての授業	132, 171-3, 175, 177, 192
	3	授業とは何か2 教授理論と授業観の史的変遷	14, 21
	4	授業とは何か3 ドラマとしての授業の成立	117, 130, 138, 180, 指導案・教材精読
	5	授業とは何か4 授業のビデオ視聴	ビデオ視聴した授業の感想文☆
	6	授業とは何か5 ビデオで観た授業の批評・分析	119-20, 123, 140-3, 147, 181, 188
	7	指導案づくり1 指導案の内容項目とその順序・書き方(1) その構造	102, 137, 179, 213
	8	指導案づくり2 指導案の内容項目とその順序・書き方(2) その内容 / 指導目標と学力観	154/163, 231-2, 239-241, 通知表調べ
	9	指導案づくり3 本時の展開計画の枠組みの発展	26, 212, 231, PISA解答
	10	我が国の支配的な授業観の変遷 / 教科内容の確定と教材研究1 教科内容と教材	22, 27-8, 201-2/152, 164
	11	教科内容の確定と教材研究2 教科の成立条件と教育課程	270, 272, 275
	12	教科内容の確定と教材研究3 教材研究(教材づくり・教材解釈)	教材研究☆ 155, 159, 160, 169, 279
	13	発問づくりと指導言の構想 発問、説明(言)、指示(言)、評価(言)、助言	118, 147, 183-6, 191, 224, 228
	14	子どもの応答予想と切り返しの構想の方法 / 授業実践としての授業展開のタクト	135-6, 144, 168, 193-4, 208, 215/213
	15	教育工学的方法と情報機器の活用	71, 262-4
16	試験		

テキスト・参考文献・資料など  
 テキスト：①配付するレジュメ集。②配付する資料集。  
 ③恒吉宏典他編『授業研究 重要用語300の基礎知識』明治図書、1999年。  
 主要参考文献：①三村和則著『沖縄・学力向上のための提言』ボーダーインク、2010年。②岩垣攝他編『吉本均著作選集(全5巻)』明治図書、2006年。③吉本均編著『新 教授学のすすめ(全5巻)』明治図書、1989年。  
 ④岩垣攝他『教室で教えるということ』八千代出版、2010年。⑤深澤広明編著『教育方法技術論』協同出版、2014年。残余については別途指示する。

学びの手立て  
 ①「履修の心構え」：抽選となった場合、科目等履修生、4年生、3年生、2年生の順に登録を受け付ける。教職課程学生に相応しく遅刻・欠席がないよう努めること。  
 ②「学びを深めるために」：大学の講義も授業であることから、授業者の授業展開方法、表現方法、教材・教具使用方法ならびに教材研究方法を学ぶことが大切である。シラバス集と資料集に一度、目を通して毎回の講義に臨むとよい。講義時間内だけでは到達目標達成には至らないため、指定された時間外学習は必ず行うこと。また、別途指示した参考文献で補ったり深めたりするとよい。

評価  
 小レポートを3回程課し、出欠点検をしない場合その3分の2以上の提出を持って期末試験受験資格とする。評価方法と配分は、期末試験90%、小レポート10%とする。期末試験では「到達目標」に掲げた知識・理解、意欲をなるべく網羅的に評価する。特に「教授学キーワード」として整理した授業づくりの専門用語に関する知識・理解に40%程度配点する。論述問題については各設問に関わる講義内容（専門用語や重要事項）の出現率に対応して配点する。時間外の講演会・研究会等への参加報告書に10%加算する(随時案内・指示する)。

学びの継続  
 次のステージ・関連科目  
 本講義の内容は、各教科教授学の母体でもあり統合の学問でもある一般教授学の成果を内容にしているの、どの教科の授業においても共通している。そのため本講義をベースにして「教科教育法」と「同演習」を履修することが望ましい。特に授業をつくるための「教授学キーワード」は大いに活用されるだろう。

※ポリシーとの関連性 「教職に関する科目」の教育課程の意義及び編成の方法と教育の方法及び技術（情報機器及び教材の活用を含む。）に係る科目。

[ /一般講義]

科目基本情報	科目名 教育課程・教育方法	期別 後期	曜日・時限 木4	単位 2
	担当者 三村 和則	対象年次 2年	授業に関する問い合わせ 研究室番号:5505 E-mail:mimura@okiu.ac.jp	

学びの準備	ねらい 学校教育の中核を占める授業を主たる対象にしながら、授業のあり方と授業づくりの方法及び技術ならびに授業の背景をなし授業を一つの主要な場面として具現化する教育課程(選択された教育内容を配列したもの)について論じる。	メッセージ 小中高校と毎日のように受けてきた授業。大学で毎日のように受けている授業(講義も授業の一つです)。教師になったら仕事を中心として毎日のように行うことになる授業。まずこの授業について、時間をかけていけば哲学的に解明していきます。授業とは何か分かったら今度は具体的な授業づくりの方法について、どの教科にも当てはまる一般教授学の成果を用いて解説をしていきます。
	到達目標 授業は「教授(教えること)と学習(学ぶこと)の統一した過程」として捉えるべきであること、その認識に至るまでの教授学の歴史に関する深い知識・理解を身につける。また、そうした授業を成立させるために欠かせない「指導案づくり」の方法と「授業展開のタクト」の方法に関して深い知識・理解を身につける。関連して教科の成立根拠、他の領域の教育課程、情報機器や教材の活用について知識・理解を深めていく。これらを通して、授業を行うことへの意欲と自信を持つことができる。	

学びの実践	学びのヒント 授業計画		
	回	テーマ	時間外学習の内容
	1	授業びらき	テキスト精読ページ(以下同)133
	2	授業とは何か1 教授と学習の統一としての授業	132, 171-3, 175, 177, 192
	3	授業とは何か2 教授理論と授業観の史的変遷	14, 21
	4	授業とは何か3 ドラマとしての授業の成立	117, 130, 138, 180, 指導案・教材精読
	5	授業とは何か4 授業のビデオ視聴	ビデオ視聴した授業の感想文☆
	6	授業とは何か5 ビデオで観た授業の批評・分析	119-20, 123, 140-3, 147, 181, 188
	7	指導案づくり1 指導案の内容項目とその順序・書き方(1) その構造	102, 137, 179, 213
	8	指導案づくり2 指導案の内容項目とその順序・書き方(2) その内容 / 指導目標と学力観	154/163, 231-2, 239-241, 通知表調べ
	9	指導案づくり3 本時の展開計画の枠組みの発展	26, 212, 231, PISA解答
	10	我が国の支配的な授業観の変遷 / 教科内容の確定と教材研究1 教科内容と教材	22, 27-8, 201-2/152, 164
	11	教科内容の確定と教材研究2 教科の成立条件と教育課程	270, 272, 275
	12	教科内容の確定と教材研究3 教材研究(教材づくり・教材解釈)	教材研究☆ 155, 159, 160, 169, 279
	13	発問づくりと指導言の構想 発問、説明(言)、指示(言)、評価(言)、助言	118, 147, 183-6, 191, 224, 228
	14	子どもの応答予想と切り返しの構想の方法	135-6, 144, 168, 193-4, 208, 215
	15	授業実践としての授業展開のタクト / 教育工学的な方法と教育機器の活用	213/71, 262-4
16	試験		

実践	<p>テキスト・参考文献・資料など</p> <p>テキスト：①配付するレジュメ集。②配付する資料集。 ③恒吉宏典、深澤広明編『授業研究 重要用語300の基礎知識』明治図書、1999年。 主要参考文献：①三村和則著『沖縄・学力向上のための提言』ボーダーインク、2010年。②岩垣攝他編『吉本均著作選集(全5巻)』明治図書、2006年。③吉本均編著『新 教授学のすすめ(全5巻)』明治図書、1989年。 ④岩垣攝他『教室で教えるということ』八千代出版、2010年。⑤深澤広明編著『教育方法技術論』協同出版、2014年。残余については別途指示する。</p>
----	---

学びの手立て	<p>①「履修の心構え」：抽選となった場合、科目等履修生、4年生、3年生、2年生の順に登録を受け付ける。教職課程学生に相応しく遅刻・欠席がないよう努めること。 ②「学びを深めるために」：大学の講義も授業であることから、授業者の授業展開方法、表現方法、教材・教具使用方法ならびに教材研究方法を学ぶことが大切である。シラバス集と資料集に一度、目を通して毎回の講義に臨むとよい。講義時間内だけでは到達目標達成には至らないため、指定された時間外学習は必ず行うこと。また、別途指示した参考文献で補ったり深めたりするとよい。</p>
--------	--

評価	<p>小レポートを3回程課し、出欠点検をしない場合その3分の2以上の提出を持って期末試験受験資格とする。評価方法と配分は、期末試験90%、小レポート10%とする。期末試験では「到達目標」に掲げた知識・理解、意欲をなるべく網羅的に評価する。特に「教授学キーワード」として整理した授業づくりの専門用語に関する知識・理解に40%程度配点する。論述問題については各設問に関わる講義内容(専門用語や重要事項)の出現率に対応して配点する。時間外の講演会・研究会等への参加報告書に10%加算する(随時案内・指示する)。</p>
----	--

学びの継続	<p>次のステージ・関連科目</p> <p>本講義の内容は、各教科教授学の母体でもあり統合の学問でもある一般教授学の成果を内容にしているのので、どの教科の授業においても共通している。そのため本講義をベースにして「教科教育法」と「同演習」を履修することが望ましい。特に授業をつくるための「教授学キーワード」は大いに活用されるだろう。</p>
-------	---

※ポリシーとの関連性 「教職に関する科目」の教育課程の意義及び編成の方法と教育の方法及び技術（情報機器及び教材の活用を含む。）に係る科目。

[ /一般講義]

科目基本情報	科目名 教育課程・教育方法	期別 前期	曜日・時限 火5	単位 2
	担当者 三村 和則	対象年次 2年	授業に関する問い合わせ 研究室番号：5505 E-mail:mimura@okiu.ac.jp	

学びの準備	ねらい 学校教育の中核を占める授業を主たる対象にしながら、授業のあり方と授業づくりの方法及び技術ならびに授業の背景をなし授業の一つの主要な場面として具現化する教育課程について論じる。	メッセージ 小中高校と毎日のように受けてきた授業。大学で毎日のように受けている授業（講義も授業の一つです。）。教師になったら仕事の中心として毎日のように行うことになる授業。この授業について、まず時間をかけていけば哲学的に解明していきます。授業とは何か分かったら、今度は具体的な授業づくりの方法について、どの教科にも当てはまる一般教授学の成果を用いて解説をしていきます。
	到達目標 授業は「教授（教えること）と学習（学ぶこと）の統一した過程」として捉えるべきであること、その認識に至るまでの教授学の歴史に関する深い知識・理解を身につける。また、そうした授業を成立させるために欠かせない「指導案づくり」の方法と「授業展開のタクト」の方法に関して深い知識・理解を身につける。関連して教科の成立根拠、他の領域の教育課程、情報機器や教材の活用について知識・理解を深めていく。これらを通して、授業を行うことへの意欲と自信を持つことができる。	

学びの実践	学びのヒント 授業計画	
	回	テーマ
	1	授業びらき
	2	授業とは何か1 教授と学習の統一としての授業
	3	授業とは何か2 教授理論と授業観の史的変遷
	4	授業とは何か3 ドラマとしての授業の成立
	5	授業とは何か4 授業のビデオ視聴
	6	授業とは何か5 ビデオで観た授業の批評・分析
	7	指導案づくり1 指導案の内容項目とその順序・書き方(1) その構造
	8	指導案づくり2 指導案の内容項目とその順序・書き方(2) その内容 / 指導目標と学力観
	9	指導案づくり3 本時の展開計画の枠組みの発展
	10	我が国の支配的な授業観の変遷 / 教科内容の確定と教材研究1 教科内容と教材
	11	教科内容の確定と教材研究2 教科の成立条件と教育課程
	12	教科内容の確定と教材研究3 教材研究(教材づくり・教材解釈)
	13	発問づくりと指導言の構想 発問、説明(言)、指示(言)、評価(言)、助言
	14	子どもの応答予想と切り返しの構想の方法 / 授業実践としての授業展開のタクト
	15	教育工学的方法と情報機器の活用
16	試験	
時間外学習の内容		
テキスト精読ページ(以下同)133		
132, 171-3, 175, 177, 192		
14, 21		
117, 130, 138, 180, 指導案・教材精読		
ビデオ視聴した授業の感想文☆		
119-20, 123, 140-3, 147, 181, 188		
102, 137, 179, 213		
154/163, 231-2, 239-241, 通知表調べ		
26, 212, 231, PISA解答		
22, 27-8, 201-2/152, 164		
270, 272, 275		
教材研究☆ 155, 159, 160, 169, 279		
118, 147, 183-6, 191, 224, 228		
135-6, 144, 168, 193-4, 208, 215/213		
71, 262-4		

テキスト・参考文献・資料など  
 テキスト：①配付するレジュメ集。②配付する資料集。  
 ③恒吉宏典、深澤広明編『授業研究 重要用語300の基礎知識』明治図書、1999年。  
 主要参考文献：①三村和則著『沖縄・学力向上のための提言』ボーダーインク、2010年。②岩垣攝他編『吉本均著作選集(全5巻)』明治図書、2006年。③吉本均編著『新 教授学のすすめ(全5巻)』明治図書、1989年。  
 ④岩垣攝他『教室で教えるということ』八千代出版、2010年。⑤深澤広明編著『教育方法技術論』協同出版、2014年。残余については別途指示する。

学びの手立て  
 ①「履修の心構え」：抽選となった場合、科目等履修生、4年生、3年生、2年生の順に登録を受け付ける。教職課程学生に相応しく遅刻・欠席がないよう努めること。  
 ②「学びを深めるために」：大学の講義も授業であることから、授業者の授業展開方法、表現方法、教材・教具使用方法ならびに教材研究方法を学ぶことが大切である。シラバス集と資料集に一度、目を通して毎回の講義に臨むとよい。講義時間内だけでは到達目標達成には至らないため、指定された時間外学習は必ず行うこと。また、別途指示した参考文献で補ったり深めたりするとよい。

評価  
 小レポートを3回程課し、出欠点検をしない場合その3分の2以上の提出を持って期末試験受験資格とする。評価方法と配分は、期末試験90%、小レポート10%とする。期末試験では「到達目標」に掲げた知識・理解、意欲をなるべく網羅的に評価する。特に「教授学キーワード」として整理した授業づくりの専門用語に関する知識・理解に40%程度配点する。論述問題については各設問に関わる講義内容（専門用語や重要事項）の出現率に対応して配点する。時間外の講演会・研究会等への参加報告書に10%加算する（随時案内・指示する）。

次のステージ・関連科目  
 本講義の内容は、各教科教授学の母体でもあり統合の学問でもある一般教授学の成果を内容にしているの、どの教科の授業においても共通している。そのため本講義をベースにして「教科教育法」と「同演習」を履修することが望ましい。特に授業をつくるための「教授学キーワード」は大いに活用されるだろう。

※ポリシーとの関連性 「教職に関する科目」の教育課程の意義及び編成の方法と教育の方法及び技術（情報機器及び教材の活用を含む。）に係る科目。

[ /一般講義]

科目基本情報	科目名 教育課程・教育方法	期別 後期	曜日・時限 木6	単位 2
	担当者 三村 和則	対象年次 2年	授業に関する問い合わせ 研究室番号：5505 E-mail:mimura@okiu.ac.jp	

学びの準備	ねらい 学校教育の中核を占める授業を主たる対象にしながら、授業のあり方と授業づくりの方法及び技術ならびに授業の背景をなし授業の一つの主要な場面として具現化する教育課程について論じる。	メッセージ 小中高校と毎日のように受けてきた授業。大学で毎日のように受けている授業（講義も授業の一つです。）。教師になったら仕事の中心として毎日のように行うことになる授業。この授業について、まず時間をかけていけば哲学的に解明していきます。授業とは何か分かったら、今度は具体的な授業づくりの方法について、どの教科にも当てはまる一般教授学の成果を用いて解説をしていきます。
	到達目標 授業は「教授（教えること）と学習（学ぶこと）の統一した過程」として捉えるべきであること、その認識に至るまでの教授学の歴史に関する深い知識・理解を身につける。また、そうした授業を成立させるために欠かせない「指導案づくり」の方法と「授業展開のタクト」の方法に関して深い知識・理解を身につける。関連して教科の成立根拠、他の領域の教育課程、情報機器や教材の活用について知識・理解を深めていく。これらを通して、授業を行うことへの意欲と自信を持つことができる。	

学びの実践	学びのヒント 授業計画		
	回	テーマ	時間外学習の内容
	1	授業びらき	テキスト精読ページ(以下同じ)133
	2	授業とは何か1 教授と学習の統一としての授業	132, 171-3, 175, 177, 192
	3	授業とは何か2 教授理論と授業観の史的変遷	14, 21
	4	授業とは何か3 ドラマとしての授業の成立	117, 130, 138, 180, 指導案・教材精読
	5	授業とは何か4 授業のビデオ視聴	ビデオ視聴した授業の感想文☆
	6	授業とは何か5 ビデオで観た授業の批評・分析	119-20, 123, 140-3, 147, 181, 188
	7	指導案づくり1 指導案の内容項目とその順序・書き方(1) その構造	102, 137, 179, 213
	8	指導案づくり2 指導案の内容項目とその順序・書き方(2) その内容 / 指導目標と学力観	154/163, 231-2, 239-241, 通知表調べ
	9	指導案づくり3 本時の展開計画の枠組みの発展	26, 212, 231, PISA解答
	10	我が国の支配的な授業観の変遷 / 教科内容の確定と教材研究1 教科内容と教材	22, 27-8, 201-2/152, 164
	11	教科内容の確定と教材研究2 教科の成立条件と教育課程	270, 272, 275
	12	教科内容の確定と教材研究3 教材研究(教材づくり・教材解釈)	教材研究☆ 155, 159, 160, 169, 279
	13	発問づくりと指導言の構想 発問、説明(言)、指示(言)、評価(言)、助言	118, 147, 183-6, 191, 224, 228
	14	子どもの応答予想と切り返しの構想の方法	135-6, 144, 168, 193-4, 208, 215
	15	授業実践としての授業展開のタクト / 教育工学的な方法と教育機器の活用	213/71, 262-4
16	試験		

実践	テキスト・参考文献・資料など テキスト：①配付するレジュメ集。②配付する資料集。 ③恒吉宏典、深澤広明編『授業研究 重要用語300の基礎知識』明治図書、1999年。 主要参考文献：①三村和則著『沖縄・学力向上のための提言』ボーダーインク、2010年。②岩垣攝他編『吉本均著作選集(全5巻)』明治図書、2006年。③吉本均編著『新 教授学のすすめ(全5巻)』明治図書、1989年。 ④岩垣攝他『教室で教えるということ』八千代出版、2010年。⑤深澤広明編著『教育方法技術論』協同出版、2014年。残余については別途指示する。
----	---

学びの手立て	①「履修の心構え」：抽選となった場合、科目等履修生、4年生、3年生、2年生の順に登録を受け付ける。教職課程学生に相応しく遅刻・欠席がないよう努めること。 ②「学びを深めるために」：大学の講義も授業であることから、授業者の授業展開方法、表現方法、教材・教具使用方法ならびに教材研究方法を学ぶことが大切である。シラバス集と資料集に一度、目を通して毎回の講義に臨むとよい。講義時間内だけでは到達目標達成には至らないため、指定された時間外学習は必ず行うこと。また、別途指示した参考文献で補ったり深めたりするとよい。
--------	--

評価	小レポートを3回程課し、出欠点検をしない場合その3分の2以上の提出を持って期末試験受験資格とする。評価方法と配分は、期末試験90%、小レポート10%とする。期末試験では「到達目標」に掲げた知識・理解と意欲をなるべく網羅的に評価する。特に「教授学キーワード」として整理した授業づくりの専門用語に関する知識・理解に40%程度配点する。論述問題については各設問に関わる講義内容（専門用語や重要事項）の出現率に対応して配点する。時間外の講演会・研究会等への参加報告書に10%加算する（随時案内・指示する）。
----	---

学びの継続	次のステージ・関連科目 本講義の内容は、各教科教授学の母体でもあり統合の学問でもある一般教授学の成果を内容にしているの、どの教科の授業においても共通している。そのため本講義をベースにして「教科教育法」と「同演習」を履修することが望ましい。特に授業をつくるための「教授学キーワード」は大いに活用されるだろう。
-------	--

※ポリシーとの関連性

本講義は、本学の要請する教員像に求められる資質能力に必要な基礎理論と教育現場での活用の仕方を学ぶ科目です。

[ /一般講義]

科目基本情報	科目名	期別	曜日・時限	単位
	教育心理学	後期	火3	2
	担当者	対象年次	授業に関する問い合わせ	
	片本 恵利	2年	オフィスアワー：水曜4校時	

学びの準備	ねらい	メッセージ
	<p>本科目は、教職に必要な発達・学習・教育評価・障害の理解を柱として、基礎理論と学校現場とのつながりや活用の仕方についてグループメンバーや教員とともに考察します。</p>	<p>理論など面白くないと思うかもしれませんが。予習・復習も難儀と感ずるかもしれませんが。しかし、スポーツと同様学問や教職にも基礎トレーニングは必要ですし、それが結局、一番役に立ちます。一人で悩んで「正解」を出す必要も失敗を恐れる必要もありません。毎回の講義でさまざまな考えを出し合いながら仲間や教員と一緒に「この理論は使える！」と発見して講義室のドアを出しましょう。</p>
到達目標	<p>①教職の基礎となる学問的態度について理解し、身につけるための行動を継続する。                  ②大学での学びの基礎となる「読む」「書く」「話す」を身につけるための行動を継続する。                  ③大学での講義への参加の基本となる予習・復習ができる。                  ④教育に関する諸理論の現場での活用についてイメージできるようになる。                  ⑤教育現場の諸問題について学問を基礎とした解決法が探せるようになる。</p>	

学びの実践	学びのヒント		
	授業計画		
	回	テーマ	時間外学習の内容
	1	オリエンテーション・登録調整（グループワークを含む）	シラバスを読んでくる
	2	発達① 青年期の発達（グループワークを含む）	講義中に指示の課題①
	3	発達② 幼児・児童の発達とピアジェ理論（ " ）	講義中に指示の課題②
	4	発達③ 成人期～中年期危機と老年期 ～保護者との連携のために（ " ）	講義中に指示の課題③
	5	発達④ 「発達」の視点を教育に生かす（発達理論を用いた授業・生徒指導の工夫）（ " ）	講義中に指示の課題④
	6	学習・教育① さまざまな学習理論（ " ）	講義中に指示の課題⑤
	7	学習・教育② 動機づけ（ " ）	講義中に指示の課題⑥
	8	学習・教育③ 学習理論の現場での活用 社会的存在としての人間の学習（ " ）	講義中に指示の課題⑦
	9	教育評価① 教育評価（近代科学・統計学の考え方の基礎）（ " ）	講義中に指示の課題⑧
	10	教育評価② 教育評価の注意点（テストや通知表の活用）（ " ）	講義中に指示の課題⑨
	11	教育評価③ 知能・知能テスト（ " ）	講義中に指示の課題⑩
	12	障がいの理解① さまざまな障害の理解を踏まえた中学高校の指導の課題（ " ）	講義中に指示の課題⑪
	13	障がいの理解② 発達障がい LD・ADHD・ASD・DCD（ " ）	講義中に指示の課題⑫
	14	障がいの理解③ 学校の中のマイノリティ（ " ）	講義中に指示の課題⑬
15	まとめ・振り返り（ " ）	講義中に指示の課題⑭	
16	期末試験		

テキスト・参考文献・資料など	<p>テキスト： 仲淳「こどものころが見えてくる本 臨床心理士が提案するちょっと新しい教育心理学のかたち」あいり出版                  参考文献：北村邦夫+JUNIE編集部「ティーンズ・ボディブック改訂版」扶桑社                  金森俊朗「希望の教室」角川出版 東田直樹「自閉症の僕が飛び跳ねる理由」エスコアール出版部                  他</p>
----------------	---

学びの手立て	<p>①予習・復習は必須です。予め講義の範囲のテキスト・資料を読み「分かったこと」「分からなかったこと」「共感できる点」「共感できなかった点」を記入したフォーマットをもとに講義内でグループディスカッションを行い、学びを深めます。                  ②欠席は「履修規程」通り厳密に扱います。                  ③配布物・提出物についても、講義内で説明した通りに薦めます。                  上記は成績評価に反映します。                  また、前提科目として共通科目の「心理学Ⅰ」「心理学Ⅱ」の受講を推奨します。</p>
--------	---

評価	<p>①予習復習・課題成果物をつづった「ポートフォリオ」および中間テストを含む平常点 … 20%                  ②期末試験…80%                  大学の教職課程ですので、「頑張ったから」「出席して感想文を出したから」合格、と言うことはありません。あくまで、教職に就くために必要な能力を見るという観点から、①②を通して上記「到達目標」がどの程度できているかを評価します。</p>
----	--

学びの継続	<p>次のステージ・関連科目</p> <p>この科目と「教育の思想と還俗」の単位を取得すると教科教育法に進めます。また、3年次以上で「介護等の体験」をする方もあります。これら科目や体験では、本講義で学んだ理論に基づいて授業や指導の計画を立てることが求められます。                  また、心理学の関連科目として「学校カウンセリング」があります。</p>
-------	--

科目基本情報	科目名	期別	曜日・時限	単位
	教育心理学	前期	木2	2
	担当者	対象年次	授業に関する問い合わせ	
	-金武 育子	2年	講義終了後に講義室で受け付けます。	

学びの準備	ねらい 学校現場の諸問題について発達・学習・教育評価を柱とする教育心理学の諸理論や知識を基に考える。	メッセージ 教育心理学で取り上げる理論は、どれも基礎・基本に根差したものです。だからこそ実生活にも役立てられるものが多く含まれています。講義を立体的な自身の力に変えていくアイデアをご自身のために活用してください。
	到達目標 学校現場の諸問題について発達・学習・教育評価を柱とする教育心理学の諸理論や知識を基礎とした解決法について考え、探せるようになる。	

学びの実践	<p>学びのヒント</p> <p>授業計画（テーマ・時間外学習の内容含む）</p> <p>第1回：オリエンテーション～教育心理学を教職課程で学ぶ意義  第2回：発達① 青年期の発達その1 青年期の発達に関するさまざまな理論  第3回：発達② 青年期の発達その2 理論をふまえた青年期への対応  第4回：発達③ 幼児・児童の心身の発達～ピアジェ理論を中心に  第5回：発達④ 成人の発達  第6回：発達⑤ 発達の視点を学校教育に生かす  第7回：学習の過程① さまざまな学習理論  第8回：学習の過程② 動機づけ  第9回：学習の過程③ 社会的存在としての人間の学習  第10回：学習の過程④ 学習理論を生かした生徒への対応  第11回：教育評価① 教育評価の基本～統計学・近代科学の考え方  第12回：教育評価② 望ましいテストと通知表とは  第13回：知能  第14回：適応  第15回：まとめと振り返り  定期試験</p> <p>&lt;時間外学習&gt;  各回の講義内で、課題やワークシートを指示します。</p>
	<p>テキスト・参考文献・資料など</p> <p>テキスト  仲淳「こどものこころが見えてくる本」あいり出版</p> <p>参考書  富永他「教職をめざすひとのための発達と教育の心理学」ナカニシヤ出版</p>
	<p>学びの手立て</p> <p>「教育心理学」は、前提科目として共通科目「心理学Ⅰ」「心理学Ⅱ」を推奨しています。遅刻や欠席につきましては、科目の特性上、毎回の積み上げになりますのでできる限り無いようにお願いします。受講態度につきましては、過度な私語やモバイルツールの使用は原則認めません（要相談）。他の受講者の迷惑になったり、士気がさがるような態度は謹んでください。</p>
	<p>評価</p> <p>毎回の授業に関する振り返りをまとめた小レポート・ワークシート（40%）  学期末テスト／レポート（60%）</p>

学びの継続	<p>次のステージ・関連科目</p> <p>単位取得後、「教科教育法」や介護等の体験、教育実習等では、本講義で学んだ理論について指導や授業の計画を立てることが求められます。</p>
-------	--

科目基本情報	科目名 教育心理学	期別 前期	曜日・時限 水5	単位 2
	担当者 片本 恵利	対象年次 2年	授業に関する問い合わせ オフィス・アワー 水曜4校時	

学びの準備	ねらい 本科目は、教職に必要な発達・学習・教育評価・障がいの理解を柱として、基礎理論が学校現場とのつながりや活用のしかたについてグループメンバーや教員とともに考察します。	メッセージ 理論など面白くない、予習復習も難儀と感ずるかも知れません。しかしスポーツ同様学問や教職にも基礎トレーニングは必要ですし、結局一番役に立ちます。仲間や教員と考えを出し合いながら「この理論は使える！」と発見して講義室のドアを出しましょう。なお本講義はスクールカウンセラーをはじめとする諸領域での担当教員の臨床心理士としての実務経験を生かして進められます。
	到達目標 ①教職の基礎となる学問的態度について理解し、身につけるための行動を継続する。 ②大学での学びの基礎となる「読む」「書く」「話す」を身につけるための行動を継続する。 ③大学での講義への参加の基本となる予習・復習ができる。 ④教育に関する諸理論の現場での活用についてイメージできるようになる。 ⑤教育現場での諸問題について学問を基礎とした解決法が探せるようになる。	

学びの実践	学びのヒント 授業計画		
	回	テーマ	時間外学習の内容
	1	オリエンテーション・登録調整 (グループワークを含む)	シラバスを読んでくる
	2	発達① 青年期の発達 (グループワークを含む)	講義中に指示の課題①
	3	発達② 幼児・児童の発達とピアジェ理論 (グループワークを含む)	講義中に指示の課題②
	4	発達③ 成人期～中年期危機と老年期 ～保護者との連携のために ( " )	講義中に指示の課題③
	5	発達④ 「発達」の視点を教育に活かす (発達理論を用いた授業・生徒指導の工夫) ( " )	講義中に指示の課題④
	6	学習・教育① さまざまな学習理論 ( " )	講義中に指示の課題⑤
	7	学習・教育② 動機づけ ( " )	講義中に指示の課題⑥
	8	学習・教育③ 学習理論の現場での活用 社会的存在としての人間の学習 ( " )	講義中に指示の課題⑦
9	教育評価① 教育評価 (近代科学・統計学の考え方の基礎) ( " )	講義中に指示の課題⑧	
10	教育評価② 教育評価の注意点 (テストや通知表の活用) ( " )	講義中に指示の課題⑨	
11	教育評価③ 知能・知能テスト ( " )	講義中に指示の課題⑩	
12	障がいの理解① さまざまな障がいの理解をふまえた中学高校の指導の課題 ( " )	講義中に指示の課題⑪	
13	障がいの理解② 発達障がい LD・ADHD・ASD・DCD ( " )	講義中に指示の課題⑫	
14	障がいの理解③ 学校の中のマイノリティ ( " )	講義中に指示の課題⑬	
15	まとめ・振り返り ( " )	講義中に指示の課題⑭	
16	期末試験		
実践	テキスト・参考文献・資料など テキスト：仲 淳「こどものころが見えてくる本 臨床心理士が提案するちょっとあたらしい教育心理学のかたち」 あいり出版 参考書等：北村邦夫＋JUNIE編集部「ティーンズ・ボディブック改訂版」扶桑社 金森俊朗「希望の教室」角川書店 東田直樹「自閉症の僕が跳びはねる理由」エスコアール出版部 他		
	学びの手立て ①予習・復習は必須です。予め講義の範囲のテキスト・資料を読み課題を記入したフォーマットをもとに講義内でグループディスカッションを行い、学びを深めます。 ②欠席は「履修規程」通り厳密に扱います。 ③配布物・提出物等についても、講義内で説明したとおりに進めます。 上記は成績評価に反映します。 なお、前提科目として共通科目の「心理学Ⅰ」「心理学Ⅱ」を受講されることを推奨します。		
	評価 ①予習復習・課題その他成果物をつづった「ポートフォリオ」および中間テストを含む平常点 … 20% ②最終レポート … 80% 大学の教職課程ですので、「頑張ったから」「出席して感想文を出したから」合格、ということはありません。あくまで、教職につくために必要な能力を見るという観点から、①②を通して上記「到達目標」がどの程度できているかを評価します。		

学びの継続	次のステージ・関連科目 各教科教育法や教育実習では、本講義で学んだ理論に基づいて授業や指導の計画を立てることが求められます。また、介護等体験を行う方にも必須の知識が含まれている科目です。心理学の関連科目として「学校カウンセリング」があります。
-------	--

科目基本情報	科目名	期別	曜日・時限	単位
	教育実習指導	集中	その他	1
	担当者	対象年次	授業に関する問い合わせ	
	安原 陽平、他	4年	y.yasuhara@okiu.ac.jp	

学びの準備	ねらい	メッセージ
	<p>本科目は、「教育実習A」「教育実習B」の事前指導、中間指導並びに事後指導のために開講され、2回の全体オリエンテーション、1回の教科別オリエンテーション、中間懇談会、教科別反省会によって構成される科目である。</p>	<p>教育実習にふさわしい服装、身だしなみ、マナーが修得されていない、または、遅刻、欠席等が多く教育実習に行くことが適当でないと判断された場合は、本科目の受講を認めず、結果として教育実習に行くことはできなくなる場合がある。前年度9月に開催された「教育実習校選定方法説明会」における説明資料を、再度熟読しておくこと。</p>
到達目標	<p>(1) 教育法規やハラスメントなど、必要な知識について理解できる。                  (2) 教育実習に参加する者としての自覚を確立し、教育実習に際しての目標を設定できる。                  (3) 自らの教育実習体験を省察し、課題を明確にして、他者に向けて表現できる。                  (4) 他者の教育実習体験を、当事者意識をもって受け止めることができる。                  (5) 教育実習に適切な服装、身だしなみ、マナー等を実践することができる。</p>	

学びの実践	学びのヒント		
	授業計画		
	回	テーマ	時間外学習の内容
	1	第1回教育実習オリエンテーション①：講話「学校現場と教育法規」／諸指導	学習した内容の教育実習録への記録
	2	第1回教育実習オリエンテーション②：学校現場での安全について（1）	学習した内容の教育実習録への記録
	3	第1回教育実習オリエンテーション③：学校現場での安全について（2）	学習した内容の教育実習録への記録
	4	第2回教育実習オリエンテーション：講話「教育実習を迎えるにあたって」／ハラスメント研修	学習した内容の教育実習録への記録
	5	教科別オリエンテーション	学習した内容の教育実習録への記録
	6	中間懇談会	懇談会内容の教育実習録への記録
	7	教科別反省会	教育実習反省録の作成と提出
	8	教育実習録の返却とまとめ	教育実習録の指摘事項の修正
	9		
	10		
	11		
	12		
	13		
	14		
15			
16			

学びの実践	<p>テキスト・参考文献・資料など</p> <p>テキストは使用しない。適宜、資料を配付する。参考文献は、(1) 教育実習校選定方法説明会資料、(2) 『教育実習の手引き』。</p>
-------	---

学びの実践	<p>学びの手立て</p> <p>各オリエンテーションの日程については、教育実習校選定方法説明会で配布された日程表を参考にすること。ただし、変更の場合があるので、大学からの連絡を必ず確認すること。また、オリエンテーションにおける学習内容を忘れずに「教育実習録」に記入し、各自振り返りをしておくこと。</p>
-------	---

学びの実践	<p>評価</p> <p>到達目標 (1) の評価：教育実習録の記載内容 (25%)                  到達目標 (2) の評価：教科別オリエンテーションでの取り組み内容 (15%)                  到達目標 (3) の評価：中間懇談会、教科別反省会での取り組み内容 (15%) / 教育実習反省録の提出 (15%)                  到達目標 (4) の評価：中間懇談会での取り組み内容 (15%)                  到達目標 (5) の評価：各回における取り組み内容 (15%)</p>
-------	--

学びの継続	<p>次のステージ・関連科目</p> <p>教職実践演習</p>
-------	----------------------------------

科目基本情報	科目名	期別	曜日・時限	単位
	教育制度論	前期	金 2	2
	担当者	対象年次	授業に関する問い合わせ	
	安原 陽平	1年	E-mailアドレスや研究室番号等は、講義内でお伝えします。	

学びの準備	ねらい	メッセージ
	<p>本講義のねらいは、日本における公教育の仕組みと運用について理解し、長所および短所を自分自身で考察できるようになることです。教育に関心のある学生、とりわけ将来教職に就くことを希望している学生にとっては、公教育制度とその運用についての理解は必須と言えます。</p>	<p>日本の公教育の仕組みについて理解し、その長所と短所を検討していきます。これまでの議論を参考にしながら、お互いに頭を悩ませて考えていきましょう。</p>
到達目標	<p>本講義の到達目標は、日本における公教育制度について、長所ならびに課題を自ら発見し、考察できるようになることです。また、学校自治をめぐる各主体間の連携、子どもの安全を守るための安全管理に関する基礎的知識の獲得も目指します。</p>	

学びの実践	学びのヒント		
	授業計画		
	回	テーマ	時間外学習の内容
	1	ガイダンス 教育と制度について	
	2	公教育とは一歴史的に形成されてきた公教育の原理を考える一	講義内で挙げた参考文献の閲読
	3	憲法26条の教育を受ける権利について一公教育制度の出发点一	講義内で挙げた参考文献の閲読
	4	教育基本法の構造と理解	講義内で挙げた参考文献の閲読
	5	学校制度総論一学校教育法の総則を中心に一	講義内で挙げた参考文献の閲読
	6	学校制度各論一学校教育法の各学校種の規定を中心に一	講義内で挙げた参考文献の閲読
	7	教育制度をめぐる諸問題①一教科書検定、教科書採択、教科書使用義務一	講義内で挙げた参考文献の閲読
	8	教育制度をめぐる諸問題②一教育制度・学校運営と児童・生徒の権利一	講義内で挙げた参考文献の閲読
	9	学校事故と学校安全一学校事故をめぐる裁判例を読む一	講義内で挙げた参考文献の閲読
	10	学校災害への取り組み一過去の災害と現在の安全管理・安全教育を考える一	講義内で挙げた参考文献の閲読
	11	教師の法的地位一地方公務員法 教育公務員特例法	講義内で挙げた参考文献の閲読
	12	教育行政に関する制度一地方教育行政法と教育委員会一	講義内で挙げた参考文献の閲読
	13	学校教育活動と様々な主体の参加・共同・協働一チーム学校一	講義内で挙げた参考文献の閲読
14	開かれた学校の理論と実践一学校自治論再訪一	講義内で挙げた参考文献の閲読	
15	教育制度と教師の教育の自由	講義内で挙げた参考文献の閲読	
16	試験		
テキスト・参考文献・資料など	<p>テキスト・教科書はとくに指定しません。必要に応じてレジュメを配付し、それに沿って講義を進めます。復習が出来るように講義中に参考文献を紹介します。テーマが多岐にわたるため、参考文献は講義内で適宜紹介します。また、教育制度に関わる各種法律を参照することがあるため、『解説教育六法』（三省堂）、『教育小六法』（学陽書房）が手元にあることが望ましいです。</p>		
学びの手立て	<p>講義開始時の知識量は問いません。少しでも成長しようという意思をもって講義に臨んでください。快く講義を受けられるように、学びやすい環境をお互いに協力してつくりましょう。また、一方的に講義をするのではなく、意見も求めます。特定の問題に対して自分はどう考えるのかということ意識しながら、主体的に講義に参加してください。</p> <p>※講義の進度や学生の理解度、あるいは教育政策の進み方によって、スケジュール・内容等を変更する場合がありますので、その点注意してください。</p>		
評価	<p>リアクションペーパー（30%）と試験（70%）によって評価をおこないます。リアクションペーパーについては、講義内で提出を求め、授業内容等の理解度を評価します。試験については、正誤問題・論述問題の形式で構成し、教育と法に関する知識の定着や論証の能力等を評価します。</p>		

学びの継続	<p>次のステージ・関連科目</p> <p>公教育の制度と運用という視点を、他の領域を学ぶ際にも活かしてください。政治、経済、福祉などが、どのような制度のもと、いかにすすめられているのかを理解する際に、本講義で得た視点は参考になります。</p>
-------	--

科目基本情報	科目名 教育制度論	期別 前期	曜日・時限 土3	単位 2
	担当者 安原 陽平	対象年次 1年	授業に関する問い合わせ	
			E-mailアドレスや研究室番号等は、講義内でお伝えします。	

学びの準備	ねらい 本講義のねらいは、日本における公教育の仕組みと運用について理解し、長所および短所を自分自身で考察できるようになることです。教育に関心のある学生、とりわけ将来教職に就くことを希望している学生にとっては、公教育制度とその運用についての理解は必須と言えます。	メッセージ 日本の公教育の仕組みについて理解し、その長所と短所を検討していきます。これまでの議論を参考にしながら、お互いに頭を悩ませて考えていきましょう。
	到達目標 本講義の到達目標は、日本における公教育制度について、長所ならびに課題を自ら発見し、考察できるようになることです。また、学校自治をめぐる各主体間の連携、子どもの安全を守るための安全管理に関する基礎的知識の獲得も目指します。	

学びの実践	学びのヒント 授業計画		
	回	テーマ	時間外学習の内容
	1	ガイダンス 教育と制度について	
	2	公教育とは一歴史的に形成されてきた公教育の原理を考える一	講義内で挙げた参考文献の閲読
	3	憲法26条の教育を受ける権利について一公教育制度の出发点一	講義内で挙げた参考文献の閲読
	4	教育基本法の構造と理解	講義内で挙げた参考文献の閲読
	5	学校制度総論一学校教育法の総則を中心に一	講義内で挙げた参考文献の閲読
	6	学校制度各論一学校教育法の各学校種の規定を中心に一	講義内で挙げた参考文献の閲読
	7	教育制度をめぐる諸問題①一教科書検定、教科書採択、教科書使用義務一	講義内で挙げた参考文献の閲読
	8	教育制度をめぐる諸問題②一教育制度・学校運営と児童・生徒の権利一	講義内で挙げた参考文献の閲読
9	学校事故と学校安全一学校事故をめぐる裁判例を読む一	講義内で挙げた参考文献の閲読	
10	学校災害への取り組み一過去の災害と現在の安全管理・安全教育を考える一	講義内で挙げた参考文献の閲読	
11	教師の法的地位一地方公務員 教育公務員特例法一	講義内で挙げた参考文献の閲読	
12	教育行政に関する制度一地方教育行政法と教育委員会一	講義内で挙げた参考文献の閲読	
13	学校教育活動と様々な主体の参加・共同・協働一チーム学校一	講義内で挙げた参考文献の閲読	
14	開かれた学校の理論と実践一学校自治論再訪一	講義内で挙げた参考文献の閲読	
15	教育制度と教師の教育の自由	講義内で挙げた参考文献の閲読	
16	試験		
実践	テキスト・参考文献・資料など テキスト・教科書はとくに指定しません。必要に応じてレジュメを配付し、それに沿って講義を進めます。復習が出来るように講義中に参考文献を紹介します。テーマが多岐にわたるため、参考文献は講義内で適宜紹介します。また、教育制度に関わる各種法律を参照することがあるため、『解説教育六法』（三省堂）、『教育小六法』（学陽書房）が手元にあることが望ましいです。		
	学びの手立て 講義開始時の知識量は問いません。少しでも成長しようという意思をもって講義に臨んでください。快く講義を受けられるように、学びやすい環境をお互いに協力してつくりましょう。また、一方的に講義をするのではなく、意見も求めます。特定の問題に対して自分はどう考えるのかということ意識しながら、主体的に講義に参加してください。  ※講義の進度や学生の理解度、あるいは教育政策の進み方によって、スケジュール・内容等を変更する場合がありますので、その点注意してください。		
	評価 リアクションペーパー（30%）と試験（70%）によって評価をおこないます。リアクションペーパーについては、講義内で提出を求め、授業内容等の理解度を評価します。試験については、正誤問題・論述問題の形式で構成し、教育と法に関する知識の定着や論証の能力等を評価します。		

学びの継続	次のステージ・関連科目 公教育の制度と運用という視点を、他の領域を学ぶ際にも活かしてください。政治、経済、福祉などが、どのような制度のもと、いかにすすめられているのかを理解する際に、本講義で得た視点は参考になります。
-------	---

科目基本情報	科目名 教育制度論	期別 前期	曜日・時限 木5	単位 2
	担当者 安原 陽平	対象年次 1年	授業に関する問い合わせ	
			E-mailアドレスや研究室番号等は、講義内でお伝えします。	

学びの準備	ねらい 本講義のねらいは、日本における公教育の仕組みと運用について理解し、長所および短所を自分自身で考察できるようになることです。教育に関心のある学生、とりわけ将来教職に就くことを希望している学生にとっては、公教育制度とその運用についての理解は必須と言えます。	メッセージ 日本の公教育の仕組みについて理解し、その長所と短所を検討していきます。これまでの議論を参考にしながら、お互いに頭を悩ませて考えていきましょう。
	到達目標 本講義の到達目標は、日本における公教育制度について、長所ならびに課題を自ら発見し、考察できるようになることです。また、学校自治をめぐる各主体間の連携、子どもの安全を守るための安全管理に関する基礎的知識の獲得も目指します。	

学びの実践	学びのヒント 授業計画		
	回	テーマ	時間外学習の内容
	1	ガイダンス 教育と制度について	
	2	公教育とは一歴史的に形成されてきた公教育の原理を考える一	講義内で挙げた参考文献の閲読
	3	憲法26条の教育を受ける権利について一公教育制度の出发点一	講義内で挙げた参考文献の閲読
	4	教育基本法の構造と理解	講義内で挙げた参考文献の閲読
	5	学校制度総論一学校教育法の総則を中心に一	講義内で挙げた参考文献の閲読
	6	学校制度各論一学校教育法の各学校種の規定を中心に一	講義内で挙げた参考文献の閲読
	7	教育制度をめぐる諸問題①一教科書検定、教科書採択、教科書使用義務一	講義内で挙げた参考文献の閲読
	8	教育制度をめぐる諸問題②一教育制度・学校運営と児童・生徒の権利一	講義内で挙げた参考文献の閲読
	9	学校事故と学校安全一学校事故をめぐる裁判例を読む一	講義内で挙げた参考文献の閲読
	10	学校災害への取り組み一過去の災害と現在の安全管理・安全教育を考える一	講義内で挙げた参考文献の閲読
	11	教師の法的地位一地方公務員法 教育公務員特例法一	講義内で挙げた参考文献の閲読
	12	教育行政に関する制度一地方教育行政法と教育委員会一	講義内で挙げた参考文献の閲読
	13	学校教育活動と様々な主体の参加・共同・協働一チーム学校一	講義内で挙げた参考文献の閲読
	14	開かれた学校の理論と実践一学校自治論再訪一	講義内で挙げた参考文献の閲読
15	教育制度と教師の教育の自由	講義内で挙げた参考文献の閲読	
16	試験		
	テキスト・参考文献・資料など テキスト・教科書はとくに指定しません。必要に応じてレジュメを配付し、それに沿って講義を進めます。復習が出来るように講義中に参考文献を紹介します。テーマが多岐にわたるため、参考文献は講義内で適宜紹介します。また、教育制度に関わる各種法律を参照することがあるため、『解説教育六法』（三省堂）、『教育小六法』（学陽書房）が手元にあることが望ましいです。		
	学びの手立て 講義開始時の知識量は問いません。少しでも成長しようという意思をもって講義に臨んでください。快く講義を受けられるように、学びやすい環境をお互いに協力してつくりましょう。また、一方的に講義をするのではなく、意見も求めます。特定の問題に対して自分はどう考えるのかということ意識しながら、主体的に講義に参加してください。  ※講義の進度や学生の理解度、あるいは教育政策の進み方によって、スケジュール・内容等を変更する場合がありますので、その点注意してください。		
	評価 リアクションペーパー（30%）と試験（70%）によって評価をおこないます。リアクションペーパーについては、講義内で提出を求め、授業内容等の理解度を評価します。試験については、正誤問題・論述問題の形式で構成し、教育と法に関する知識の定着や論証の能力等を評価します。		

学びの継続	次のステージ・関連科目 公教育の制度と運用という視点を、他の領域を学ぶ際にも活かしてください。政治、経済、福祉などが、どのような制度のもと、いかにすすめられているのかを理解する際に、本講義で得た視点は参考になります。
-------	---

科目基本情報	科目名 教育制度論	期別 後期	曜日・時限 木5	単位 2
	担当者 安原 陽平	対象年次 1年	授業に関する問い合わせ	
			E-mailアドレスや研究室番号等は、講義内でお伝えします。	

学びの準備	ねらい 本講義のねらいは、日本における公教育の仕組みと運用について理解し、長所および短所を自分自身で考察できるようになることです。教育に関心のある学生、とりわけ将来教職に就くことを希望している学生にとっては、公教育制度とその運用についての理解は必須と言えます。	メッセージ 日本の公教育の仕組みについて理解し、その長所と短所を検討していきます。これまでの議論を参考にしながら、お互いに頭を悩ませて考えていきましょう。
	到達目標 本講義の到達目標は、日本における公教育制度について、長所ならびに課題を自ら発見し、考察できるようになることです。また、学校自治をめぐる各主体間の連携、子どもの安全を守るための安全管理に関する基礎的知識の獲得も目指します。	

学びの実践	学びのヒント 授業計画		
	回	テーマ	時間外学習の内容
	1	ガイダンス 教育と制度について	
	2	公教育とは一歴史的に形成されてきた公教育の原理を考える一	講義内で挙げた参考文献の閲読
	3	憲法26条の教育を受ける権利について一公教育制度の出发点一	講義内で挙げた参考文献の閲読
	4	教育基本法の構造と理解	講義内で挙げた参考文献の閲読
	5	学校制度総論一学校教育法の総則を中心に一	講義内で挙げた参考文献の閲読
	6	学校制度各論一学校教育法の各学校種の規定を中心に一	講義内で挙げた参考文献の閲読
	7	教育制度をめぐる諸問題①一教科書検定、教科書採択、教科書使用義務一	講義内で挙げた参考文献の閲読
	8	教育制度をめぐる諸問題②一教育制度・学校運営と児童・生徒の権利一	講義内で挙げた参考文献の閲読
	9	学校事故と学校安全一学校事故をめぐる裁判例を読む一	講義内で挙げた参考文献の閲読
	10	学校災害への取り組み一過去の災害と現在の安全管理・安全教育を考える一	講義内で挙げた参考文献の閲読
	11	教師の法的地位一地方公務員法 教育公務員特例法一	講義内で挙げた参考文献の閲読
	12	教育行政に関する制度一地方教育行政法と教育委員会一	講義内で挙げた参考文献の閲読
	13	学校教育活動と様々な主体の参加・共同・協働一チーム学校一	講義内で挙げた参考文献の閲読
	14	開かれた学校の理論と実践一学校自治論再訪一	講義内で挙げた参考文献の閲読
15	教育制度と教師の教育の自由	講義内で挙げた参考文献の閲読	
16	試験		
	テキスト・参考文献・資料など テキスト・教科書はとくに指定しません。必要に応じてレジュメを配付し、それに沿って講義を進めます。復習が出来るように講義中に参考文献を紹介します。テーマが多岐にわたるため、参考文献は講義内で適宜紹介します。また、教育制度に関わる各種法律を参照することがあるため、『解説教育六法』（三省堂）、『教育小六法』（学陽書房）が手元にあることが望ましいです。		
	学びの手立て 講義開始時の知識量は問いません。少しでも成長しようという意思をもって講義に臨んでください。快く講義を受けられるように、学びやすい環境をお互いに協力してつくりましょう。また、一方的に講義をするのではなく、意見も求めます。特定の問題に対して自分はどう考えるのかということ意識しながら、主体的に講義に参加してください。  ※講義の進度や学生の理解度、あるいは教育政策の進み方によって、スケジュール・内容等を変更する場合がありますので、その点注意してください。		
	評価 リアクションペーパー（30%）と試験（70%）によって評価をおこないます。リアクションペーパーについては、講義内で提出を求め、授業内容等の理解度を評価します。試験については、正誤問題・論述問題の形式で構成し、教育と法に関する知識の定着や論証の能力等を評価します。		

学びの継続	次のステージ・関連科目 公教育の制度と運用という視点を、他の領域を学ぶ際にも活かしてください。政治、経済、福祉などが、どのような制度のもと、いかにすすめられているのかを理解する際に、本講義で得た視点は参考になります。
-------	---

科目基本情報	科目名	期別	曜日・時限	単位
	教育制度論	後期	金 2	2
	担当者	対象年次	授業に関する問い合わせ	
	安原 陽平	1年	E-mailアドレスや研究室番号等は、講義内でお伝えします。	

学びの準備	ねらい	メッセージ
	<p>本講義のねらいは、日本における公教育の仕組みと運用について理解し、長所および短所を自分自身で考察できるようになることです。教育に関心のある学生、とりわけ将来教職に就くことを希望している学生にとっては、公教育制度とその運用についての理解は必須と言えます。</p>	<p>日本の公教育の仕組みについて理解し、その長所と短所を検討していきます。これまでの議論を参考にしながら、お互いに頭を悩ませて考えていきましょう。</p>
到達目標	<p>本講義の到達目標は、日本における公教育制度について、長所ならびに課題を自ら発見し、考察できるようになることです。また、学校自治をめぐる各主体間の連携、子どもの安全を守るための安全管理に関する基礎的知識の獲得も目指します。</p>	

学びの実践	学びのヒント		
	授業計画		
	回	テーマ	時間外学習の内容
	1	ガイダンス 教育と制度について	
	2	公教育とは一歴史的に形成されてきた公教育の原理を考える一	講義内で挙げた参考文献の閲読
	3	憲法26条の教育を受ける権利について一公教育制度の出发点一	講義内で挙げた参考文献の閲読
	4	教育基本法の構造と理解	講義内で挙げた参考文献の閲読
	5	学校制度総論一学校教育法の総則を中心に一	講義内で挙げた参考文献の閲読
	6	学校制度各論一学校教育法の各学校種の規定を中心に一	講義内で挙げた参考文献の閲読
	7	教育制度をめぐる諸問題①一教科書検定、教科書採択、教科書使用義務一	講義内で挙げた参考文献の閲読
	8	教育制度をめぐる諸問題②一教育制度・学校運営と児童・生徒の権利一	講義内で挙げた参考文献の閲読
	9	学校事故と学校安全一学校事故をめぐる裁判例を読む一	講義内で挙げた参考文献の閲読
	10	学校災害への取り組み一過去の災害と現在の安全管理・安全教育を考える一	講義内で挙げた参考文献の閲読
	11	教師の法的地位一地方公務員法 教育公務員特例法一	講義内で挙げた参考文献の閲読
	12	教育行政に関する制度一地方教育行政法と教育委員会一	講義内で挙げた参考文献の閲読
	13	学校教育活動と様々な主体の参加・共同・協働一チーム学校一	講義内で挙げた参考文献の閲読
14	開かれた学校の理論と実践一学校自治論再訪一	講義内で挙げた参考文献の閲読	
15	教育制度と教師の教育の自由	講義内で挙げた参考文献の閲読	
16	試験		
テキスト・参考文献・資料など	<p>テキスト・教科書はとくに指定しません。必要に応じてレジュメを配付し、それに沿って講義を進めます。復習が出来るように講義中に参考文献を紹介します。テーマが多岐にわたるため、参考文献は講義内で適宜紹介します。また、教育制度に関わる各種法律を参照することがあるため、『解説教育六法』（三省堂）、『教育小六法』（学陽書房）が手元にあることが望ましいです。</p>		
学びの手立て	<p>講義開始時の知識量は問いません。少しでも成長しようという意思をもって講義に臨んでください。快く講義を受けられるように、学びやすい環境をお互いに協力してつくりましょう。また、一方的に講義をするのではなく、意見も求めます。特定の問題に対して自分はどう考えるのかということ意識しながら、主体的に講義に参加してください。</p> <p>※講義の進度や学生の理解度、あるいは教育政策の進み方によって、スケジュール・内容等を変更する場合がありますので、その点注意してください。</p>		
評価	<p>リアクションペーパー（30%）と試験（70%）によって評価をおこないます。リアクションペーパーについては、講義内で提出を求め、授業内容等の理解度を評価します。試験については、正誤問題・論述問題の形式で構成し、教育と法に関する知識の定着や論証の能力等を評価します。</p>		

学びの継続	<p>次のステージ・関連科目</p> <p>公教育の制度と運用という視点を、他の領域を学ぶ際にも活かしてください。政治、経済、福祉などが、どのような制度のもと、いかにすすめられているのかを理解する際に、本講義で得た視点は参考になります。</p>
-------	--

科目基本情報	科目名 教育制度論	期別 後期	曜日・時限 土3	単位 2
	担当者 安原 陽平	対象年次 1年	授業に関する問い合わせ	
			E-mailアドレスや研究室番号等は、講義内でお伝えします。	

学びの準備	ねらい 本講義のねらいは、日本における公教育の仕組みと運用について理解し、長所および短所を自分自身で考察できるようになることです。教育に関心のある学生、とりわけ将来教職に就くことを希望している学生にとっては、公教育制度とその運用についての理解は必須と言えます。	メッセージ 日本の公教育の仕組みについて理解し、その長所と短所を検討していきます。これまでの議論を参考にしながら、お互いに頭を悩ませて考えていきましょう。
	到達目標 本講義の到達目標は、日本における公教育制度について、長所ならびに課題を自ら発見し、考察できるようになることです。また、学校自治をめぐる各主体間の連携、子どもの安全を守るための安全管理に関する基礎的知識の獲得も目指します。	

学びの実践	学びのヒント 授業計画		
	回	テーマ	時間外学習の内容
	1	ガイダンス 教育と制度について	
	2	公教育とは一歴史的に形成されてきた公教育の原理を考える一	講義内で挙げた参考文献の閲読
	3	憲法26条の教育を受ける権利について一公教育制度の出发点一	講義内で挙げた参考文献の閲読
	4	教育基本法の構造と理解	講義内で挙げた参考文献の閲読
	5	学校制度総論一学校教育法の総則を中心に一	講義内で挙げた参考文献の閲読
	6	学校制度各論一学校教育法の各学校種の規定を中心に一	講義内で挙げた参考文献の閲読
	7	教育制度をめぐる諸問題①一教科書検定、教科書採択、教科書使用義務一	講義内で挙げた参考文献の閲読
	8	教育制度をめぐる諸問題②一教育制度・学校運営と児童・生徒の権利一	講義内で挙げた参考文献の閲読
	9	学校事故と学校安全一学校事故をめぐる裁判例を読む一	講義内で挙げた参考文献の閲読
	10	学校災害への取り組み一過去の災害と現在の安全管理・安全教育を考える一	講義内で挙げた参考文献の閲読
	11	教師の法的地位一地方公務員法 教育公務員特例法一	講義内で挙げた参考文献の閲読
	12	教育行政に関する制度一地方教育行政法と教育委員会一	講義内で挙げた参考文献の閲読
	13	学校教育活動と様々な主体の参加・共同・協働一チーム学校一	講義内で挙げた参考文献の閲読
	14	開かれた学校の理論と実践一学校自治論再訪一	講義内で挙げた参考文献の閲読
15	教育制度と教師の教育の自由	講義内で挙げた参考文献の閲読	
16	試験		
	テキスト・参考文献・資料など テキスト・教科書はとくに指定しません。必要に応じてレジュメを配付し、それに沿って講義を進めます。復習が出来るように講義中に参考文献を紹介します。テーマが多岐にわたるため、参考文献は講義内で適宜紹介します。また、教育制度に関わる各種法律を参照することがあるため、『解説教育六法』（三省堂）、『教育小六法』（学陽書房）が手元にあることが望ましいです。		
	学びの手立て 講義開始時の知識量は問いません。少しでも成長しようという意思をもって講義に臨んでください。快く講義を受けられるように、学びやすい環境をお互いに協力してつくりましょう。また、一方的に講義をするのではなく、意見も求めます。特定の問題に対して自分はどう考えるのかということ意識しながら、主体的に講義に参加してください。  ※講義の進度や学生の理解度、あるいは教育政策の進み方によって、スケジュール・内容等を変更する場合がありますので、その点注意してください。		
	評価 リアクションペーパー（30%）と試験（70%）によって評価をおこないます。リアクションペーパーについては、講義内で提出を求め、授業内容等の理解度を評価します。試験については、正誤問題・論述問題の形式で構成し、教育と法に関する知識の定着や論証の能力等を評価します。		

学びの継続	次のステージ・関連科目 公教育の制度と運用という視点を、他の領域を学ぶ際にも活かしてください。政治、経済、福祉などが、どのような制度のもと、いかにすすめられているのかを理解する際に、本講義で得た視点は参考になります。
-------	---

科目基本情報	科目名	期別	曜日・時限	単位
	教育の思想と原則	前期	木6	2
	担当者	対象年次	授業に関する問い合わせ	
	安原 陽平	1年	E-mailアドレスや研究室番号等は、講義内でお伝えします。	

学びの準備	ねらい	メッセージ
	到達目標	

本講義のねらいは、「教育はどういった考え方に基づいて進められるべきか」「教育はどういった考え方に基づいて進められているか」ということを、様々な学説や事案を通して考察し、教育の思想と原則に関する自分自身の考えを持てるようにすることです。

「教育」「思想」「原則」と聞くと、なんだか難しそうなことを扱うのではないかと不安になったりする学生もいるのではないかと思います。しかし、教育は、とても身近な存在です。最初は難しいかもしれませんが、自分自身の教育観をつくることができるように主体的に取り組んでください。この講義の時間が有意義な時間となるよう、お互いに頑張りましょう。

本講義の到達目標は、教育、子ども、各教育主体、学校、あるいは教育の思想等に関する基礎的概念・知識を獲得し、それらが持つ長所ならびに課題を自ら考察できるようになることです。また、教育をめぐる現代的課題についても理解・考察ができるようになることを目指します。

学びの実践	学びのヒント		
	授業計画		
	回	テーマ	時間外学習の内容
	1	ガイダンス 教育の原理を考えることの意義・意味	
	2	教育思想に関する概説	講義内で挙げた参考文献の閲読
	3	近代公教育制度の確立	講義内で挙げた参考文献の閲読
	4	日本における学校の成立と展開①—戦前の教育制度から新学制・高度経済成長期まで—	講義内で挙げた参考文献の閲読
	5	日本における学校の成立と展開②—臨教審の設置から現代まで—	講義内で挙げた参考文献の閲読
	6	子ども・子どもの権利をめぐる思想	講義内で挙げた参考文献の閲読
	7	国民の教育権論と国家の教育権論からみる公教育観	講義内で挙げた参考文献の閲読
	8	教育と家庭について—親の教育権を中心に	講義内で挙げた参考文献の閲読
	9	教育と国家	講義内で挙げた参考文献の閲読
	10	教育の公共性	講義内で挙げた参考文献の閲読
	11	教育と価値をめぐる諸問題	講義内で挙げた参考文献の閲読
	12	教育の現代的課題①—子どもの貧困—	講義内で挙げた参考文献の閲読
	13	教育の現代的課題②—性別 LGBTをめぐる諸問題—	講義内で挙げた参考文献の閲読
14	シティズンシップ教育 主権者教	講義内で挙げた参考文献の閲読	
15	権利としての教育 教育の自由とは	自分自身の考えをまとめる	
16	試験		
実践	テキスト・参考文献・資料など		
	テキスト・教科書はとくに指定しません。必要に応じてレジュメを配付し、それに沿って講義を進めます。テーマが多岐にわたるため、参考文献は講義内で適宜紹介します。		
	学びの手立て		
	講義開始時の知識量は問いません。少しでも成長しようという意思をもって講義に臨んでください。快く講義を受けられるように、学びやすい環境をお互いに協力してつくりましょう。また、一方的に講義をするのではなく、意見も求めます。特定の問題に対して自分はどう考えるのかということを意識しながら、主体的に講義に参加してください。		
	※講義の進度や学生の理解度、あるいは教育政策の進み方によって、スケジュール・内容等を変更する場合がありますので、その点注意してください。		
	評価		
	リアクションペーパー (30%) と試験 (70%) によって評価をおこないます。リアクションペーパーについては、講義内で提出を求め、授業内容等の理解度を評価します。試験については、論述問題の形式で構成し、教育と思想の原則に関する知識の定着や論証の能力等を評価します。		

学びの継続	次のステージ・関連科目
	教育に関わる他の講義を受講する際、本講義を通して獲得した教育の思想と原則に関する自分自身の考えの長所・短所を確認してみてください。他の講義の受講を通して、自身の考えを補強し、修正し、より良いものへと発展できるように努めましょう。とくに、将来教職に就くことを希望している学生は、自分自身の教育観をしっかりとして持てるように学びを続けてください。

科目基本情報	科目名 教育の思想と原則	期別 後期	曜日・時限 木3	単位 2
	担当者 安原 陽平	対象年次 1年	授業に関する問い合わせ E-mailアドレスや研究室番号等は、講義内でお伝えします。	

学びの準備	ねらい 本講義のねらいは、「教育はどういった考え方に基づいて進められるべきか」「教育はどういった考え方に基づいて進められているか」ということを、様々な学説や事案を通して考察し、教育の思想と原則に関する自分自身の考えを持てるようにすることです。	メッセージ 「教育」「思想」「原則」と聞くと、なんだか難しそうなことを扱うのではないかと不安になったりする学生もいるのではないかと思います。しかし、教育は、とても身近な存在です。最初は難しいかもしれませんが、自分自身の教育観をつくることができるように主体的に取り組んでください。この講義の時間が有意義な時間となるよう、お互いに頑張りましょう。
	到達目標 本講義の到達目標は、教育、子ども、各教育主体、学校、あるいは教育の思想等に関する基礎的概念・知識を獲得し、それらが持つ長所ならびに課題を自ら考察できるようになることです。また、教育をめぐる現代的課題についても理解・考察ができるようになることを目指します。	

学びの実践	学びのヒント 授業計画		
	回	テーマ	時間外学習の内容
	1	ガイダンス 教育の原理を考えることの意義・意味	
	2	教育思想に関する概説	講義内で挙げた参考文献の閲読
	3	近代公教育制度の確立	講義内で挙げた参考文献の閲読
	4	日本における学校の成立と展開①—戦前の教育制度から新学制・高度経済成長期まで—	講義内で挙げた参考文献の閲読
	5	日本における学校の成立と展開②—臨教審の設置から現代まで—	講義内で挙げた参考文献の閲読
	6	映画鑑賞（子ども・子どもの権利に関する映画）	これまでの復習
	7	国民の教育権論と国家の教育権論からみる公教育観	講義内で挙げた参考文献の閲読
	8	教育と家庭について—親の教育権を中心に—	講義内で挙げた参考文献の閲読
	9	教育と国家	講義内で挙げた参考文献の閲読
	10	教育の公共性	講義内で挙げた参考文献の閲読
	11	教育と価値をめぐる諸問題	講義内で挙げた参考文献の閲読
	12	教育の現代的課題①—子どもの貧困—	講義内で挙げた参考文献の閲読
	13	教育の現代的課題②—性別 LGBTをめぐる諸問題—	講義内で挙げた参考文献の閲読
	14	シティズンシップ教育 主権者教育	講義内で挙げた参考文献の閲読
	15	権利としての教育 教育の自由とは	自分自身の考えをまとめる
16	試験		

実践	テキスト・参考文献・資料など テキスト・教科書はとくに指定しません。必要に応じてレジュメを配付し、それに沿って講義を進めます。テーマが多岐にわたるため、参考文献は講義内で適宜紹介します
----	---

学びの手立て	講義開始時の知識量は問いません。少しでも成長しようという意思をもって講義に臨んでください。快く講義を受けられるように、学びやすい環境をお互いに協力してつくりましょう。また、一方的に講義をするのではなく、意見も求めます。特定の問題に対して自分はどう考えるのかということ意識しながら、主体的に講義に参加してください。  ※講義の進度や学生の理解度、あるいは教育政策の進み方によって、スケジュール・内容等を変更する場合がありますので、その点注意してください。
--------	--

評価	リアクションペーパー（30%）と試験（70%）によって評価をおこないます。リアクションペーパーについては、講義内で提出を求め、授業内容等の理解度を評価します。試験については、論述問題の形式で構成し、教育と思想の原則に関する知識の定着や論証の能力等を評価します。
----	--

学びの継続	次のステージ・関連科目 教育に関わる他の講義を受講する際、本講義を通して獲得した教育の思想と原則に関する自分自身の考えの長所・短所を確認してください。他の講義の受講を通して、自身の考えを補強し、修正し、より良いものへと発展できるように努めましょう。とくに、将来教職に就くことを希望している学生は、自分自身の教育観をしっかりとして持てるように学びを続けてください。
-------	--

科目基本情報	科目名	期別	曜日・時限	単位
	教育の思想と原則	後期	火 4	2
	担当者	対象年次	授業に関する問い合わせ	
	野見 収	1年	研究室：5号館5階5514 E-mail:onomi(at)okiu.ac.jp	

学びの準備	ねらい	メッセージ
	<p>おもに歴史的な観点から、近代公教育理念・原則の意義とその実現をめぐる問題について取り扱う。近代において生み出された公教育の理念・原則が、資本主義の展開のもとでいかなる運命を辿っていったのかを歴史的に整理することを通じ、教職を志す者が今後考えていくべき課題を模索する。</p>	<p>テストではおもに授業の理解度をはかるので、毎回、集中して受講すること。</p>
到達目標	授業の内容を理解し、それを自分の言葉で語り直せるようになる。	

学びの実践	<p>学びのヒント</p> <p>授業計画（テーマ・時間外学習の内容含む）</p> <ol style="list-style-type: none"> <li>1 インTRODクシヨン</li> <li>2 近代以前の教育思想（1）—諸外国</li> <li>3 近代以前の教育思想（2）—日本</li> <li>4 近代教育の成り立ちと変遷（1）—市民社会の理念と公教育</li> <li>5 近代教育の成り立ちと変遷（2）—市民社会の現実と公教育</li> <li>6 近代教育の成り立ちと変遷（3）—市民社会の構造転換と公教育</li> <li>7 近代教育の成り立ちと変遷（4）—帝国主義下における公教育</li> <li>8 近代教育の成り立ちと変遷（5）—戦前・戦中の日本の教育①</li> <li>9 近代教育の成り立ちと変遷（6）—戦前・戦中の日本の教育②</li> <li>10 戦後日本の教育（1）—戦後教育改革</li> <li>11 戦後日本の教育（2）—冷戦構造と教育①</li> <li>12 戦後日本の教育（3）—冷戦構造と教育②</li> <li>13 戦後日本の教育（4）—経済成長と教育</li> <li>14 今日における教育の課題（1）</li> <li>15 今日における教育の課題（2）</li> <li>16 期末試験</li> </ol> <p>※毎回、高校までに学んだ現代史の内容を復習したうえで授業に臨むこと。</p>
	<p>テキスト・参考文献・資料など</p> <p>特定のテキストは使用しない。レジュメを配布する。参考文献については授業中に適宜紹介する。</p>
	<p>学びの手立て</p> <p>無断欠席、遅刻、私語、正当な理由のない途中退席は認めない。 授業内容の復習は必ずおこなうこと。 毎回、授業終盤にリアクション・ペーパーを課す（この提出をもって出席とする）。なお、数名分を次の授業時に紹介する。 五回以上欠席した場合は、期末試験の受験を認めない。</p>
評価	期末試験の結果によって評価する。

学びの継続	<p>次のステージ・関連科目</p> <p>履修階梯上、本科目を単位取得しなければ、教科教育法等の科目を履修できない。</p>
-------	---

科目基本情報	科目名	期別	曜日・時限	単位
	教育の思想と原則	後期	火6	2
	担当者	対象年次	授業に関する問い合わせ	
	野見 収	1年	研究室：5号館5階5514 E-mail:onomi(at)okiu.ac.jp	

学びの準備	ねらい おもに歴史的な観点から、近代公教育理念・原則の意義とその実現をめぐる問題について取り扱う。近代において生み出された公教育の理念・原則が、資本主義の展開のもとでいかなる運命を辿っていったのかを歴史的に整理することを通じ、教職を志す者が今後考えていくべき課題を模索する。	メッセージ テストではおもに授業の理解度をはかるので、毎回、集中して受講すること。
	到達目標 授業の内容を理解し、それを自分の言葉で語り直せるようになる。	

学びの実践	学びのヒント 授業計画（テーマ・時間外学習の内容含む） 1 インTRODクシヨN 2 近代以前の教育思想（1）—諸外国 3 近代以前の教育思想（2）—日本 4 近代教育の成り立ちと変遷（1）—市民社会の理念と公教育 5 近代教育の成り立ちと変遷（2）—市民社会の現実と公教育 6 近代教育の成り立ちと変遷（3）—市民社会の構造転換と公教育 7 近代教育の成り立ちと変遷（4）—帝国主義下における公教育 8 近代教育の成り立ちと変遷（5）—戦前・戦中の日本の教育① 9 近代教育の成り立ちと変遷（6）—戦前・戦中の日本の教育② 10 戦後日本の教育（1）—戦後教育改革 11 戦後日本の教育（2）—冷戦構造と教育① 12 戦後日本の教育（3）—冷戦構造と教育② 13 戦後日本の教育（4）—経済成長と教育 14 今日における教育の課題（1） 15 今日における教育の課題（2） 16 期末試験  ※毎回、高校までに学んだ現代史の内容を復習したうえで授業に臨むこと。
	テキスト・参考文献・資料など 特定のテキストは使用しない。レジュメを配布する。参考文献については授業中に適宜紹介する。
	学びの手立て 無断欠席、遅刻、私語、正当な理由のない途中退席は認めない。 授業内容の復習は必ずおこなうこと。 毎回、授業終盤にリアクション・ペーパーを課す（この提出をもって出席とする）。なお、数名分を次の授業時に紹介する。 五回以上欠席した場合は、期末試験の受験を認めない。
評価	期末試験の結果によって評価する。

学びの継続	次のステージ・関連科目 履修階梯上、本科目を単位取得しなければ、教科教育法等の科目を履修できない。
-------	--

科目基本情報	科目名	期別	曜日・時限	単位
	教育の思想と原則	後期	木6	2
	担当者	対象年次	授業に関する問い合わせ	
	安原 陽平	1年	E-mailアドレスや研究室番号等は、講義内でお伝えします。	

学びの準備	ねらい	メッセージ
	到達目標	

本講義のねらいは、「教育はどういった考え方に基づいて進められるべきか」「教育はどういった考え方に基づいて進められているか」ということを、様々な学説や事案を通して考察し、教育の思想と原則に関する自分自身の考えを持てるようにすることです。

「教育」「思想」「原則」と聞くと、なんだか難しそうなことを扱うのではないかと不安になったりする学生もいるのではないかと思います。しかし、教育は、とても身近な存在です。最初は難しいかもしれませんが、自分自身の教育観をつくることができるように主体的に取り組んでください。この講義の時間が有意義な時間となるよう、お互いに頑張りましょう。

本講義の到達目標は、教育、子ども、各教育主体、学校、あるいは教育の思想等に関する基礎的概念・知識を獲得し、それらが持つ長所ならびに課題を自ら考察できるようになることです。また、教育をめぐる現代的課題についても理解・考察ができるようになることを目指します。

学びの実践	学びのヒント		
	授業計画		
	回	テーマ	時間外学習の内容
	1	ガイダンス 教育の原理を考えることの意義・意味	
	2	教育思想に関する概説	講義内で挙げた参考文献の閲読
	3	近代公教育制度の確立	講義内で挙げた参考文献の閲読
	4	日本における学校の成立と展開①—戦前の教育制度から新学制・高度経済成長期まで—	講義内で挙げた参考文献の閲読
	5	日本における学校の成立と展開②—臨教審の設置から現代まで—	講義内で挙げた参考文献の閲読
	6	子ども・子どもの権利をめぐる思想	講義内で挙げた参考文献の閲読
	7	国民の教育権論と国家の教育権論からみる公教育観	講義内で挙げた参考文献の閲読
	8	教育と家庭について—親の教育権を中心に—	講義内で挙げた参考文献の閲読
	9	教育と国家	講義内で挙げた参考文献の閲読
	10	教育の公共性	講義内で挙げた参考文献の閲読
	11	教育と価値をめぐる諸問題	講義内で挙げた参考文献の閲読
	12	教育の現代的課題①—子どもの貧困—	講義内で挙げた参考文献の閲読
	13	教育の現代的課題②—性別 LGBTをめぐる諸問題—	講義内で挙げた参考文献の閲読
14	シティズンシップ教育 主権者教育	講義内で挙げた参考文献の閲読	
15	権利としての教育 教育の自由とは	自分自身の考えをまとめる	
16	試験		
実践	テキスト・参考文献・資料など		
	テキスト・教科書はとくに指定しません。必要に応じてレジュメを配付し、それに沿って講義を進めます。テーマが多岐にわたるため、参考文献は講義内で適宜紹介します。		
	学びの手立て		
	講義開始時の知識量は問いません。少しでも成長しようという意思をもって講義に臨んでください。快く講義を受けられるように、学びやすい環境をお互いに協力してつくりましょう。また、一方的に講義をするのではなく、意見も求めます。特定の問題に対して自分はどうか考えるのかということ意識しながら、主体的に講義に参加してください。		
	※講義の進度や学生の理解度、あるいは教育政策の進み方によって、スケジュール・内容等を変更する場合がありますので、その点注意してください。		
	評価		
	リアクションペーパー (30%) と試験 (70%) によって評価をおこなう。リアクションペーパーについては、講義内で提出を求め、授業内容等の理解度を評価する。試験については、論述問題の形式で構成し、教育と思想の原則に関する知識の定着や論証の能力等を評価する。		

学びの継続	次のステージ・関連科目
	教育に関わる他の講義を受講する際、本講義を通して獲得した教育の思想と原則に関する自分自身の考えの長所・短所を確認してください。他の講義の受講を通して、自身の考えを補強し、修正し、より良いものへと発展できるように努めましょう。とくに、将来教職に就くことを希望している学生は、自分自身の教育観をしっかりとして持てるように学びを続けてください。

科目基本情報	科目名 教育の思想と原則	期別 前期	曜日・時限 木3	単位 2
	担当者 安原 陽平	対象年次 1年	授業に関する問い合わせ E-mailアドレスや研究室番号等は、講義内でお伝えします。	

学びの準備	ねらい 本講義のねらいは、「教育はどういった考え方に基づいて進められるべきか」「教育はどういった考え方に基づいて進められているか」ということを、様々な学説や事案を通して考察し、教育の思想と原則に関する自分自身の考えを持てるようにすることです。	メッセージ 「教育」「思想」「原則」と聞くと、なんだか難しそうなことを扱うのではないかと不安になったりする学生もいるのではないかと思います。しかし、教育は、とても身近な存在です。最初は難しいかもしれませんが、自分自身の教育観をつくることのできるよう主体的に取り組んでください。この講義の時間が有意義な時間となるよう、お互いに頑張りましょう。
	到達目標 本講義の到達目標は、教育、子ども、各教育主体、学校、あるいは教育の思想等に関する基礎的概念・知識を獲得し、それらが持つ長所ならびに課題を自ら考察できるようになることです。また、教育をめぐる現代的課題についても理解・考察ができるようになることを目指します。	

学びの実践	学びのヒント 授業計画		
	回	テーマ	時間外学習の内容
	1	ガイダンス 教育の原理を考えることの意義・意味	
	2	教育思想に関する概説	講義内で挙げた参考文献の閲読
	3	近代公教育制度の確立	講義内で挙げた参考文献の閲読
	4	日本における学校の成立と展開①—戦前の教育制度から新学制・高度経済成長期まで—	講義内で挙げた参考文献の閲読
	5	日本における学校の成立と展開②—臨教審の設置から現代まで—	講義内で挙げた参考文献の閲読
	6	子ども・子どもの権利をめぐる思想	講義内で挙げた参考文献の閲読
	7	国民の教育権論と国家の教育権論からみる公教育観	講義内で挙げた参考文献の閲読
	8	教育と家庭について—親の教育権を中心に—	講義内で挙げた参考文献の閲読
	9	教育と国家	講義内で挙げた参考文献の閲読
	10	教育の公共性	講義内で挙げた参考文献の閲読
	11	教育と価値をめぐる諸問題	講義内で挙げた参考文献の閲読
	12	教育の現代的課題①—子どもの貧困—	講義内で挙げた参考文献の閲読
	13	教育の現代的課題②—性別 LGBTをめぐる諸問題—	講義内で挙げた参考文献の閲読
	14	シティズンシップ教育 主権者教育	講義内で挙げた参考文献の閲読
	15	権利としての教育 教育の自由とは	自分自身の考えをまとめる
16	試験		

実践	テキスト・参考文献・資料など テキスト・教科書はとくに指定しません。必要に応じてレジュメを配付し、それに沿って講義を進めます。テーマが多岐にわたるため、参考文献は講義内で適宜紹介します。
----	--

学びの手立て	講義開始時の知識量は問いません。少しでも成長しようという意思をもって講義に臨んでください。快く講義を受けられるように、学びやすい環境をお互いに協力してつくりましょう。また、一方的に講義をするのではなく、意見も求めます。特定の問題に対して自分はどうか考えるのかということ意識しながら、主体的に講義に参加してください。  ※講義の進度や学生の理解度、あるいは教育政策の進み方によって、スケジュール・内容等を変更する場合がありますので、その点注意してください。
--------	---

評価	リアクションペーパー (30%) と試験 (70%) によって評価をおこなう。 リアクションペーパーについては、講義内で提出を求め、授業内容等の理解度を評価する。試験については、論述問題の形式で構成し、教育と思想の原則に関する知識の定着や論証の能力等を評価する。
----	--

学びの継続	次のステージ・関連科目 教育に関わる他の講義を受講する際、本講義を通して獲得した教育の思想と原則に関する自分自身の考えの長所・短所を確認してください。他の講義の受講を通して、自身の考えを補強し、修正し、より良いものへと発展できるように努めましょう。とくに、将来教職に就くことを希望している学生は、自分自身の教育観をしっかりとして持てるように学びを続けてください。
-------	--

科目基本情報	科目名	期別	曜日・時限	単位
	教育の制度	前期	木5	2
	担当者	対象年次	授業に関する問い合わせ	
	安原 陽平	2年	E-mailアドレスや研究室番号等は、講義内でお伝えします。	

学びの準備	ねらい	メッセージ
	<p>本講義のねらいは、日本における公教育の仕組みと運用について理解し、長所および短所を自分自身で考察できるようになることです。教育に関心のある学生、とりわけ将来教職に就くことを希望している学生にとっては、公教育制度とその運用についての理解は必須と言えます。</p>	<p>日本の公教育の仕組みについて理解し、その長所と短所を検討していきます。これまでの議論を参考にしながら、お互いに頭を悩ませて考えていきましょう。</p>
到達目標	<p>本講義の到達目標は、日本における公教育制度について、長所ならびに課題を自ら発見し、考察できるようになることです。また、学校自治をめぐる各主体間の連携、子どもの安全を守るための安全管理に関する基礎的知識の獲得も目指します。</p>	

学びの実践	学びのヒント		
	授業計画		
	回	テーマ	時間外学習の内容
	1	ガイダンス 教育と制度について	
	2	公教育とは一歴史的に形成されてきた公教育の原理を考える一	講義内で挙げた参考文献の閲読
	3	憲法26条の教育を受ける権利について一公教育制度の出发点一	講義内で挙げた参考文献の閲読
	4	教育基本法の構造と理解	講義内で挙げた参考文献の閲読
	5	学校制度総論一学校教育法の総則を中心に一	講義内で挙げた参考文献の閲読
	6	学校制度各論一学校教育法の各学校種の規定を中心に一	講義内で挙げた参考文献の閲読
	7	教育制度をめぐる諸問題①一教科書検定、教科書採択、教科書使用義務一	講義内で挙げた参考文献の閲読
	8	教育制度をめぐる諸問題②一教育制度・学校運営と児童・生徒の権利一	講義内で挙げた参考文献の閲読
	9	学校事故と学校安全一学校事故をめぐる裁判例を読む一	講義内で挙げた参考文献の閲読
	10	学校災害への取り組み一過去の災害と現在の安全管理・安全教育を考える一	講義内で挙げた参考文献の閲読
	11	教師の法的地位一地方公務員法 教育公務員特例法一	講義内で挙げた参考文献の閲読
	12	教育行政に関する制度一地方教育行政法と教育委員会一	講義内で挙げた参考文献の閲読
	13	学校教育活動と様々な主体の参加・共同・協働一チーム学校一	講義内で挙げた参考文献の閲読
14	開かれた学校の理論と実践一学校自治論再訪一	講義内で挙げた参考文献の閲読	
15	教育制度と教師の教育の自由	講義内で挙げた参考文献の閲読	
16	試験		
テキスト・参考文献・資料など	<p>テキスト・教科書はとくに指定しません。必要に応じてレジュメを配付し、それに沿って講義を進めます。復習が出来るように講義中に参考文献を紹介します。テーマが多岐にわたるため、参考文献は講義内で適宜紹介します。また、教育制度に関わる各種法律を参照することがあるため、『解説教育六法』（三省堂）、『教育小六法』（学陽書房）が手元にあることが望ましいです。</p>		
学びの手立て	<p>講義開始時の知識量は問いません。少しでも成長しようという意思をもって講義に臨んでください。快く講義を受けられるように、学びやすい環境をお互いに協力してつくりましょう。また、一方的に講義をするのではなく、意見も求めます。特定の問題に対して自分はどうか考えるのかということ意識しながら、主体的に講義に参加してください。</p> <p>※講義の進度や学生の理解度、あるいは教育政策の進み方によって、スケジュール・内容等を変更する場合がありますので、その点注意してください。</p>		
評価	<p>リアクションペーパー（30%）と試験（70%）によって評価をおこないます。リアクションペーパーについては、講義内で提出を求め、授業内容等の理解度を評価します。試験については、正誤問題・論述問題の形式で構成し、教育と法に関する知識の定着や論証の能力等を評価します。</p>		

学びの継続	<p>次のステージ・関連科目</p> <p>公教育の制度と運用という視点を、他の領域を学ぶ際にも活かしてください。政治、経済、福祉などが、どのような制度のもと、いかにすすめられているのかを理解する際に、本講義で得た視点は参考になります。</p>
-------	--

科目基本情報	科目名	期別	曜日・時限	単位
	教育の制度	前期	金 2	2
	担当者	対象年次	授業に関する問い合わせ	
	安原 陽平	2年	E-mailアドレスや研究室番号等は、講義内でお伝えします。	

学びの準備	ねらい	メッセージ
	<p>本講義のねらいは、日本における公教育の仕組みと運用について理解し、長所および短所を自分自身で考察できるようになることです。教育に関心のある学生、とりわけ将来教職に就くことを希望している学生にとっては、公教育制度とその運用についての理解は必須と言えます。</p>	<p>日本の公教育の仕組みについて理解し、その長所と短所を検討していきます。これまでの議論を参考にしながら、お互いに頭を悩ませて考えていきましょう。</p>
到達目標	<p>本講義の到達目標は、日本における公教育制度について、長所ならびに課題を自ら発見し、考察できるようになることです。また、学校自治をめぐる各主体間の連携、子どもの安全を守るための安全管理に関する基礎的知識の獲得も目指します。</p>	

学びの実践	学びのヒント		
	授業計画		
	回	テーマ	時間外学習の内容
	1	ガイダンス 教育と制度について	
	2	公教育とは一歴史的に形成されてきた公教育の原理を考える一	講義内で挙げた参考文献の閲読
	3	憲法26条の教育を受ける権利について一公教育制度の出发点一	講義内で挙げた参考文献の閲読
	4	教育基本法の構造と理解	講義内で挙げた参考文献の閲読
	5	学校制度総論一学校教育法の総則を中心に一	講義内で挙げた参考文献の閲読
	6	学校制度各論一学校教育法の各学校種の規定を中心に一	講義内で挙げた参考文献の閲読
	7	教育制度をめぐる諸問題①一教科書検定、教科書採択、教科書使用義務一	講義内で挙げた参考文献の閲読
8	教育制度をめぐる諸問題②一教育制度・学校運営と児童・生徒の権利一	講義内で挙げた参考文献の閲読	
9	学校事故と学校安全一学校事故をめぐる裁判例を読む一	講義内で挙げた参考文献の閲読	
10	学校災害への取り組み一過去の災害と現在の安全管理・安全教育を考える一	講義内で挙げた参考文献の閲読	
11	教師の法的地位一地方公務員法 教育公務員特例法	講義内で挙げた参考文献の閲読	
12	教育行政に関する制度一地方教育行政法と教育委員会一	講義内で挙げた参考文献の閲読	
13	学校教育活動と様々な主体の参加・共同・協働一チーム学校一	講義内で挙げた参考文献の閲読	
14	開かれた学校の理論と実践一学校自治論再訪一	講義内で挙げた参考文献の閲読	
15	教育制度と教師の教育の自由	講義内で挙げた参考文献の閲読	
16	試験		
テキスト・参考文献・資料など	<p>テキスト・教科書はとくに指定しません。必要に応じてレジュメを配付し、それに沿って講義を進めます。復習が出来るように講義中に参考文献を紹介します。テーマが多岐にわたるため、参考文献は講義内で適宜紹介します。また、教育制度に関わる各種法律を参照することがあるため、『解説教育六法』（三省堂）、『教育小六法』（学陽書房）が手元にあることが望ましいです。</p>		
学びの手立て	<p>講義開始時の知識量は問いません。少しでも成長しようという意思をもって講義に臨んでください。快く講義を受けられるように、学びやすい環境をお互いに協力してつくりましょう。また、一方的に講義をするのではなく、意見も求めます。特定の問題に対して自分はどう考えるのかということ意識しながら、主体的に講義に参加してください。</p> <p>※講義の進度や学生の理解度、あるいは教育政策の進み方によって、スケジュール・内容等を変更する場合がありますので、その点注意してください。</p>		
評価	<p>リアクションペーパー（30%）と試験（70%）によって評価をおこないます。リアクションペーパーについては、講義内で提出を求め、授業内容等の理解度を評価します。試験については、正誤問題・論述問題の形式で構成し、教育と法に関する知識の定着や論証の能力等を評価します。</p>		

学びの継続	<p>次のステージ・関連科目</p> <p>公教育の制度と運用という視点を、他の領域を学ぶ際にも活かしてください。政治、経済、福祉などが、どのような制度のもと、いかにすすめられているのかを理解する際に、本講義で得た視点は参考になります。</p>
-------	--

科目基本情報	科目名	期別	曜日・時限	単位
	教育の制度	後期	木5	2
	担当者	対象年次	授業に関する問い合わせ	
	安原 陽平	2年	E-mailアドレスや研究室番号等は、講義内でお伝えします。	

学びの準備	ねらい	メッセージ
	<p>本講義のねらいは、日本における公教育の仕組みと運用について理解し、長所および短所を自分自身で考察できるようになることです。教育に関心のある学生、とりわけ将来教職に就くことを希望している学生にとっては、公教育制度とその運用についての理解は必須と言えます。</p>	<p>日本の公教育の仕組みについて理解し、その長所と短所を検討していきます。これまでの議論を参考にしながら、お互いに頭を悩ませて考えていきましょう。</p>
到達目標	<p>本講義の到達目標は、日本における公教育制度について、長所ならびに課題を自ら発見し、考察できるようになることです。また、学校自治をめぐる各主体間の連携、子どもの安全を守るための安全管理に関する基礎的知識の獲得も目指します。</p>	

学びの実践	学びのヒント		
	授業計画		
	回	テーマ	時間外学習の内容
	1	ガイダンス 教育と制度について	
	2	公教育とは一歴史的に形成されてきた公教育の原理を考える一	講義内で挙げた参考文献の閲読
	3	憲法26条の教育を受ける権利について一公教育制度の出发点一	講義内で挙げた参考文献の閲読
	4	教育基本法の構造と理解	講義内で挙げた参考文献の閲読
	5	学校制度総論一学校教育法の総則を中心に一	講義内で挙げた参考文献の閲読
	6	学校制度各論一学校教育法の各学校種の規定を中心に一	講義内で挙げた参考文献の閲読
	7	教育制度をめぐる諸問題①一教科書検定、教科書採択、教科書使用義務一	講義内で挙げた参考文献の閲読
	8	教育制度をめぐる諸問題②一教育制度・学校運営と児童・生徒の権利一	講義内で挙げた参考文献の閲読
	9	学校事故と学校安全一学校事故をめぐる裁判例を読む一	講義内で挙げた参考文献の閲読
	10	学校災害への取り組み一過去の災害と現在の安全管理・安全教育を考える一	講義内で挙げた参考文献の閲読
	11	教師の法的地位一地方公務員法 教育公務員特例法一	講義内で挙げた参考文献の閲読
	12	教育行政に関する制度一地方教育行政法と教育委員会一	講義内で挙げた参考文献の閲読
	13	学校教育活動と様々な主体の参加・共同・協働一チーム学校一	講義内で挙げた参考文献の閲読
14	開かれた学校の理論と実践一学校自治論再訪一	講義内で挙げた参考文献の閲読	
15	教育制度と教師の教育の自由	講義内で挙げた参考文献の閲読	
16	試験		
テキスト・参考文献・資料など	<p>テキスト・教科書はとくに指定しません。必要に応じてレジュメを配付し、それに沿って講義を進めます。復習が出来るように講義中に参考文献を紹介します。テーマが多岐にわたるため、参考文献は講義内で適宜紹介します。また、教育制度に関わる各種法律を参照することがあるため、『解説教育六法』（三省堂）、『教育小六法』（学陽書房）が手元にあることが望ましいです。</p>		
学びの手立て	<p>講義開始時の知識量は問いません。少しでも成長しようという意思をもって講義に臨んでください。快く講義を受けられるように、学びやすい環境をお互いに協力してつくりましょう。また、一方的に講義をするのではなく、意見も求めます。特定の問題に対して自分はどう考えるのかということ意識しながら、主体的に講義に参加してください。</p> <p>※講義の進度や学生の理解度、あるいは教育政策の進み方によって、スケジュール・内容等を変更する場合がありますので、その点注意してください。</p>		
評価	<p>リアクションペーパー（30%）と試験（70%）によって評価をおこないます。リアクションペーパーについては、講義内で提出を求め、授業内容等の理解度を評価します。試験については、正誤問題・論述問題の形式で構成し、教育と法に関する知識の定着や論証の能力等を評価します。</p>		

学びの継続	<p>次のステージ・関連科目</p> <p>公教育の制度と運用という視点を、他の領域を学ぶ際にも活かしてください。政治、経済、福祉などが、どのような制度のもと、いかにすすめられているのかを理解する際に、本講義で得た視点は参考になります。</p>
-------	--

科目基本情報	科目名 教育の制度	期別 後期	曜日・時限 金 2	単位 2
	担当者 安原 陽平	対象年次 2年	授業に関する問い合わせ	
			E-mailアドレスや研究室番号等は、講義内でお伝えします。	

学びの準備	ねらい 本講義のねらいは、日本における公教育の仕組みと運用について理解し、長所および短所を自分自身で考察できるようになることです。教育に関心のある学生、とりわけ将来教職に就くことを希望している学生にとっては、公教育制度とその運用についての理解は必須と言えます。	メッセージ 日本の公教育の仕組みについて理解し、その長所と短所を検討していきます。これまでの議論を参考にしながら、お互いに頭を悩ませて考えていきましょう。
	到達目標 本講義の到達目標は、日本における公教育制度について、長所ならびに課題を自ら発見し、考察できるようになることです。また、学校自治をめぐる各主体間の連携、子どもの安全を守るための安全管理に関する基礎的知識の獲得も目指します。	

学びの実践	学びのヒント 授業計画		
	回	テーマ	時間外学習の内容
	1	ガイダンス 教育と制度について	
	2	公教育とは一歴史的に形成されてきた公教育の原理を考える一	講義内で挙げた参考文献の閲読
	3	憲法26条の教育を受ける権利について一公教育制度の出发点一	講義内で挙げた参考文献の閲読
	4	教育基本法の構造と理解	講義内で挙げた参考文献の閲読
	5	学校制度総論一学校教育法の総則を中心に一	講義内で挙げた参考文献の閲読
	6	学校制度各論一学校教育法の各学校種の規定を中心に一	講義内で挙げた参考文献の閲読
	7	教育制度をめぐる諸問題①一教科書検定、教科書採択、教科書使用義務一	講義内で挙げた参考文献の閲読
	8	教育制度をめぐる諸問題②一教育制度・学校運営と児童・生徒の権利一	講義内で挙げた参考文献の閲読
9	学校事故と学校安全一学校事故をめぐる裁判例を読む一	講義内で挙げた参考文献の閲読	
10	学校災害への取り組み一過去の災害と現在の安全管理・安全教育を考える一	講義内で挙げた参考文献の閲読	
11	教師の法的地位一地方公務員法 教育公務員特例法一	講義内で挙げた参考文献の閲読	
12	教育行政に関する制度一地方教育行政法と教育委員会一	講義内で挙げた参考文献の閲読	
13	学校教育活動と様々な主体の参加・共同・協働一チーム学校一	講義内で挙げた参考文献の閲読	
14	開かれた学校の理論と実践一学校自治論再訪一	講義内で挙げた参考文献の閲読	
15	教育制度と教師の教育の自由	講義内で挙げた参考文献の閲読	
16	試験		
実践	テキスト・参考文献・資料など テキスト・教科書はとくに指定しません。必要に応じてレジュメを配付し、それに沿って講義を進めます。復習が出来るように講義中に参考文献を紹介します。テーマが多岐にわたるため、参考文献は講義内で適宜紹介します。また、教育制度に関わる各種法律を参照することがあるため、『解説教育六法』（三省堂）、『教育小六法』（学陽書房）が手元にあることが望ましいです。		
	学びの手立て 講義開始時の知識量は問いません。少しでも成長しようという意思をもって講義に臨んでください。快く講義を受けられるように、学びやすい環境をお互いに協力してつくりましょう。また、一方的に講義をするのではなく、意見も求めます。特定の問題に対して自分はどうか考えるのかということ意識しながら、主体的に講義に参加してください。  ※講義の進度や学生の理解度、あるいは教育政策の進み方によって、スケジュール・内容等を変更する場合がありますので、その点注意してください。		
	評価 リアクションペーパー（30%）と試験（70%）によって評価をおこないます。リアクションペーパーについては、講義内で提出を求め、授業内容等の理解度を評価します。試験については、正誤問題・論述問題の形式で構成し、教育と法に関する知識の定着や論証の能力等を評価します。		

学びの継続	次のステージ・関連科目 公教育の制度と運用という視点を、他の領域を学ぶ際にも活かしてください。政治、経済、福祉などが、どのような制度のもと、いかにすすめられているのかを理解する際に、本講義で得た視点は参考になります。
-------	---

科目基本情報	科目名 教育の制度	期別 後期	曜日・時限 土3	単位 2
	担当者 安原 陽平	対象年次 2年	授業に関する問い合わせ	
			E-mailアドレスや研究室番号等は、講義内でお伝えします。	

学びの準備	ねらい 本講義のねらいは、日本における公教育の仕組みと運用について理解し、長所および短所を自分自身で考察できるようになることです。教育に関心のある学生、とりわけ将来教職に就くことを希望している学生にとっては、公教育制度とその運用についての理解は必須と言えます。	メッセージ 日本の公教育の仕組みについて理解し、その長所と短所を検討していきます。これまでの議論を参考にしながら、お互いに頭を悩ませて考えていきましょう。
	到達目標 本講義の到達目標は、日本における公教育制度について、長所ならびに課題を自ら発見し、考察できるようになることです。また、学校自治をめぐる各主体間の連携、子どもの安全を守るための安全管理に関する基礎的知識の獲得も目指します。	

学びの実践	学びのヒント 授業計画		
	回	テーマ	時間外学習の内容
	1	ガイダンス 教育と制度について	
	2	公教育とは一歴史的に形成されてきた公教育の原理を考える一	講義内で挙げた参考文献の閲読
	3	憲法26条の教育を受ける権利について一公教育制度の出发点一	講義内で挙げた参考文献の閲読
	4	教育基本法の構造と理解	講義内で挙げた参考文献の閲読
	5	学校制度総論一学校教育法の総則を中心に一	講義内で挙げた参考文献の閲読
	6	学校制度各論一学校教育法の各学校種の規定を中心に一	講義内で挙げた参考文献の閲読
	7	教育制度をめぐる諸問題①一教科書検定、教科書採択、教科書使用義務一	講義内で挙げた参考文献の閲読
	8	教育制度をめぐる諸問題②一教育制度・学校運営と児童・生徒の権利一	講義内で挙げた参考文献の閲読
9	学校事故と学校安全一学校事故をめぐる裁判例を読む一	講義内で挙げた参考文献の閲読	
10	学校災害への取り組み一過去の災害と現在の安全管理・安全教育を考える一	講義内で挙げた参考文献の閲読	
11	教師の法的地位一地方公務員法 教育公務員特例法一	講義内で挙げた参考文献の閲読	
12	教育行政に関する制度一地方教育行政法と教育委員会一	講義内で挙げた参考文献の閲読	
13	学校教育活動と様々な主体の参加・共同・協働一チーム学校一	講義内で挙げた参考文献の閲読	
14	開かれた学校の理論と実践一学校自治論再訪一	講義内で挙げた参考文献の閲読	
15	教育制度と教師の教育の自由	講義内で挙げた参考文献の閲読	
16	試験		
実践	テキスト・参考文献・資料など テキスト・教科書はとくに指定しません。必要に応じてレジュメを配付し、それに沿って講義を進めます。復習が出来るように講義中に参考文献を紹介します。テーマが多岐にわたるため、参考文献は講義内で適宜紹介します。また、教育制度に関わる各種法律を参照することがあるため、『解説教育六法』（三省堂）、『教育小六法』（学陽書房）が手元にあることが望ましいです。		
	学びの手立て 講義開始時の知識量は問いません。少しでも成長しようという意思をもって講義に臨んでください。快く講義を受けられるように、学びやすい環境をお互いに協力してつくりましょう。また、一方的に講義をするのではなく、意見も求めます。特定の問題に対して自分はどうか考えるのかということ意識しながら、主体的に講義に参加してください。  ※講義の進度や学生の理解度、あるいは教育政策の進み方によって、スケジュール・内容等を変更する場合がありますので、その点注意してください。		
	評価 リアクションペーパー（30%）と試験（70%）によって評価をおこないます。リアクションペーパーについては、講義内で提出を求め、授業内容等の理解度を評価します。試験については、正誤問題・論述問題の形式で構成し、教育と法に関する知識の定着や論証の能力等を評価します。		

学びの継続	次のステージ・関連科目 公教育の制度と運用という視点を、他の領域を学ぶ際にも活かしてください。政治、経済、福祉などが、どのような制度のもと、いかにすすめられているのかを理解する際に、本講義で得た視点は参考になります。
-------	---

科目基本情報	科目名	期別	曜日・時限	単位
	教育の制度	前期	土3	2
	担当者	対象年次	授業に関する問い合わせ	
	安原 陽平	2年	E-mailアドレスや研究室番号等は、講義内でお伝えします。	

学びの準備	ねらい	メッセージ
	<p>本講義のねらいは、日本における公教育の仕組みと運用について理解し、長所および短所を自分自身で考察できるようになることです。教育に関心のある学生、とりわけ将来教職に就くことを希望している学生にとっては、公教育制度とその運用についての理解は必須と言えます。</p>	<p>日本の公教育の仕組みについて理解し、その長所と短所を検討していきます。これまでの議論を参考にしながら、お互いに頭を悩ませて考えていきましょう。</p>
到達目標	<p>本講義の到達目標は、日本における公教育制度について、長所ならびに課題を自ら発見し、考察できるようになることです。また、学校自治をめぐる各主体間の連携、子どもの安全を守るための安全管理に関する基礎的知識の獲得も目指します。</p>	

学びの実践	学びのヒント		
	授業計画		
	回	テーマ	時間外学習の内容
	1	ガイダンス 教育と制度について	
	2	公教育とは一歴史的に形成されてきた公教育の原理を考える一	講義内で挙げた参考文献の閲読
	3	憲法26条の教育を受ける権利について一公教育制度の出发点一	講義内で挙げた参考文献の閲読
	4	教育基本法の構造と理解	講義内で挙げた参考文献の閲読
	5	学校制度総論一学校教育法の総則を中心に一	講義内で挙げた参考文献の閲読
	6	学校制度各論一学校教育法の各学校種の規定を中心に一	講義内で挙げた参考文献の閲読
	7	教育制度をめぐる諸問題①一教科書検定、教科書採択、教科書使用義務一	講義内で挙げた参考文献の閲読
8	教育制度をめぐる諸問題②一教育制度・学校運営と児童・生徒の権利一	講義内で挙げた参考文献の閲読	
9	学校事故と学校安全一学校事故をめぐる裁判例を読む一	講義内で挙げた参考文献の閲読	
10	学校災害への取り組み一過去の災害と現在の安全管理・安全教育を考える一	講義内で挙げた参考文献の閲読	
11	教師の法的地位一地方公務員 教育公務員特例法一	講義内で挙げた参考文献の閲読	
12	教育行政に関する制度一地方教育行政法と教育委員会一	講義内で挙げた参考文献の閲読	
13	学校教育活動と様々な主体の参加・共同・協働一チーム学校一	講義内で挙げた参考文献の閲読	
14	開かれた学校の理論と実践一学校自治論再訪一	講義内で挙げた参考文献の閲読	
15	教育制度と教師の教育の自由	講義内で挙げた参考文献の閲読	
16	試験		
テキスト・参考文献・資料など	<p>テキスト・教科書はとくに指定しません。必要に応じてレジュメを配付し、それに沿って講義を進めます。復習が出来るように講義中に参考文献を紹介します。テーマが多岐にわたるため、参考文献は講義内で適宜紹介します。また、教育制度に関わる各種法律を参照することがあるため、『解説教育六法』（三省堂）、『教育小六法』（学陽書房）が手元にあることが望ましいです。</p>		
学びの手立て	<p>講義開始時の知識量は問いません。少しでも成長しようという意思をもって講義に臨んでください。快く講義を受けられるように、学びやすい環境をお互いに協力してつくりましょう。また、一方的に講義をするのではなく、意見も求めます。特定の問題に対して自分はどうか考えるのかということ意識しながら、主体的に講義に参加してください。</p> <p>※講義の進度や学生の理解度、あるいは教育政策の進み方によって、スケジュール・内容等を変更する場合がありますので、その点注意してください。</p>		
評価	<p>リアクションペーパー（30%）と試験（70%）によって評価をおこないます。リアクションペーパーについては、講義内で提出を求め、授業内容等の理解度を評価します。試験については、正誤問題・論述問題の形式で構成し、教育と法に関する知識の定着や論証の能力等を評価します。</p>		

学びの継続	<p>次のステージ・関連科目</p> <p>公教育の制度と運用という視点を、他の領域を学ぶ際にも活かしてください。政治、経済、福祉などが、どのような制度のもと、いかにすすめられているのかを理解する際に、本講義で得た視点は参考になります。</p>
-------	--

※ポリシーとの関連性

教育職員免許法に定める「教職に関する科目」の「教職の意義等に関する科目」（2単位）の内の初年次用を内容とする科目。

[ /一般講義]

科目基本情報	科目名	期別	曜日・時限	単位
	教職研究 I	前期	水 3	1
	担当者	対象年次	授業に関する問い合わせ	
	三村 和則	2年	研究室番号：5505 E-mail：mimura@okiu.ac.jp	

学びの準備	ねらい	メッセージ
	<p>教育職員免許法では「教職の意義等に関する科目」(2単位)の内容を①教職の意義及び教員の役割②進路選択に資する各種の機会の提供③教員の職務内容(研修、服務及び身分保障等を含む。)と定めている。この科目は教職課程初年時用に1単位として編成しており、①と②を主な内容としている。なお残りの1単位分は、3年次用に「教職研究Ⅱ」として開設している。</p>	<p>ようこそ、沖縄国際大学教職課程へ。 教員免許状取得希望者は必ずこの科目から受講してください。</p>
到達目標	<p>沖縄国際大学の教職課程の履修方法、教職課程カリキュラムの仕組みとその意義、現代社会で求められる教員の資質と能力ならびにわが国の教員養成の歴史と諸外国の教員養成制度についての知識・理解が身につく。現在の職業興味と教師を目指すために必要な課題についての自己認識が深まる。よい教師とは何かについての思考力・判断力が身につく。これらを通して教職課程を受講することへの関心・意欲・態度が形成される。</p>	

学びの実践	学びのヒント		
	授業計画		
	回	テーマ	時間外学習の内容
	1	ガイダンス/先発・後発クラス分け/課題レポート提示(なぜ、教師をめざすのか)	「なぜ、教師をめざすのか」書く☆
	2	教職課程の履修方法について(『履修ガイド』の解説)1 教職に関する科目、他	『履修ガイド』教職課程の章精読
	3	教職課程の履修方法について(『履修ガイド』の解説)2 教科に関する科目、その他の指定科目、他	同上、履修計画作成☆
	4	教員養成カリキュラム改編の背景と今日の教師に求められる資質と能力	資料2015年答申とpp. 6-9精読
	5	教職実践演習とその到達目標について/教職適性検査(V P I 職業興味検査と自己判定)	資料2006年答申とpp. 10-11精読
	6	教員養成の歴史(戦前の閉鎖制養成と戦後の開放制養成)、世界の教員養成	ライフプラン作成☆、pp. 12-15精読
	7	履修カルテについて/よい教師への道1 履修計画、ライフプラン、なぜ教師をめざすのか	祖父母又は曾祖父母の学校調べ
	8	よい教師への道2 公務員と教員、自主研修/課題レポート提示(再び、なぜ教師をめざすのか)	資料合格体験記とpp. 25-34精読
	9		
	10		
	11		
	12		
	13		
	14		
15			
16			

実践	<p>テキスト・参考文献・資料など</p> <p>テキスト：①『履修ガイド』。②配付する資料集。 主要参考文献：①上地・西本編『沖縄で教師をめざす人のために』協同出版、2015年。②赤星晋作他編著『学校教師の探求』学文社、2001年。③教養審第1次答申「新たな時代に向けた教員養成の改善方策について」1997年。④中教審答申「今後の教員養成・免許制度の在り方について」2006年。⑤中教審答申「これからの学教教育を担う教員の資質能力の向上について」2015年。</p>
----	--

学びの手立て	<p>①履修の心構え：抽選の場合でも他のクラスで必ず受講できるようにするので、必ず相談に来ること。1単位科目なので8週で終了する。そのため受講者数の関係で、前期は先発クラスと後発クラスに分ける。先発クラスは4～6月、後発クラスは6～7月が受講期間の目安である。後期は先発クラスだけの開講となり、12月初旬に終了予定である。 教職課程学生に相応しく遅刻・欠席がないよう努めること。 ②学びを深めるために：毎回の講義を受講し理解することは当然であるが、講義時間内だけでは到達目標を達成するには至らないため、指定された時間外学習を行うとよい。</p>
--------	--

評価	<p>①提出物100%。5件提出物がある。最後の提出物(「再び、なぜ教師をめざすのか」)で、まず仮の評価を決める。決め方は、8回の講義内容の要点となる用語の出現が6回分以上は優、4回分と5回分は良、3回分は可、2回分以下は不可とする。その後、この評価を他の4件の提出物の件数とクロスさせ最終の評価とする。4件の場合1ランク上、3件の場合そのまま、2件の場合1ランク下の評価とする。但し、1件以下の場合不可の評価とする。 ②時間外の講演会・研究会等への参加報告書に10%加算する(随時案内・指示する)。</p>
----	--

学びの継続	<p>次のステージ・関連科目</p> <p>本学教職課程の「教職に関する科目」には「履修階梯」があり、その最初の科目がこの科目である。この科目を履修することで次の段階の科目である「教育の思想と原則」と「進路指導・生活指導」(2017年度以前の入学生は「教育心理学」)を受講することができる。「教職の意義等に関する科目」(2単位)の内、残りの1単位分については、3年次用科目として『教職研究Ⅱ』を開設している。</p>
-------	--

※ポリシーとの関連性

本講義は、本学の養成する教員像を理解し求められる資質能力を身につけるための具体的な行動が起こせるようになる科目です。

[ /一般講義]

科目基本情報	科目名	期別	曜日・時限	単位
	教職研究 I	前期	火 5	1
	担当者	対象年次	授業に関する問い合わせ	
	片本 恵利	2年	オフィス・アワー 水曜4校時	

学びの準備	ねらい	メッセージ
	<p>本科目は、教職課程履修階梯の入り口に当たり、他の受講生とのグループワークや先輩との関わりを通じて、教職課程履修について具体的に学び、学問的立場から教師の仕事および教職につくということの理解を深めるための科目です。講義を通じて青年期の発達課題と進路選択の観点から教職を考察することもくろんでいます。</p>	<p>教職課程履修への不安や疑問は誰にでもあります。1人で悩んで「正解」を出す必要も失敗を恐れる必要もありません。他の受講生や教職の先輩とディスカッションを通じてたくさんの考えを共有しながら教職課程を始めましょう。なお、本講義はスクールカウンセラーを始めとする諸領域での担当教員の臨床心理士としての実務経験を生かして進められます。</p>
到達目標	<p>①4年間の教職課程履修の道筋を理解し、大まかな計画が立てられる。                  ②教職の基礎となる学問的態度について理解し、身につけるための行動を起こす。                  ③大学での学びの基礎となる「読む」「書く」「話す」を身につけるための行動を起こす。                  ④大学での講義への参加の基本となる予習・復習ができるようになる。                  ⑤青年期の発達と進路選択の観点から教職について考察することができる。</p>	

学びの実践	学びのヒント		
	授業計画		
	回	テーマ	時間外学習の内容
	1	オリエンテーション 教師を目指すために必要なもの（グループワークを含む）	シラバスを読み内容を理解する
	2	教員に求められる資質能力①教員に求められる資質能力をふまえた大学教職課程の成り立ち（〃）	講義内指示の課題①
	3	教員に求められる資質能力② 教員養成の歴史と諸外国の教員養成（〃）	講義内指示の課題②
	4	学教員に求められる資質能力③ 青年期の発達課題と進路選択の観点から教職を考察する（〃）	講義内指示の課題③
	5	教員に求められる資質能力④ 学問の基礎（〃）	講義内指示の課題④
	6	教師になるということ～映画に見る教師像（〃）	講義内指示の課題⑤
	7	教師に求められる倫理（〃）	講義内指示の課題⑥
	8	まとめ・振り返り（〃）	講義内指示の課題⑦
	9		
	10		
	11		
	12		
	13		
	14		
15			
16			

学びの実践	<p>テキスト・参考文献・資料など</p> <p>教科書は使用しない。講義の中で適宜配付する資料や、各自が文科省や県教育委員会HP等からダウンロードした資料を活用する。参考書等は講義内で指示する。</p>
-------	--

学びの実践	<p>学びの手立て</p> <p>①予習・復習は必須です。                  ②グループディスカッションが苦手でも、社交的でなくとも結構です。講義のために工夫された方法を用いて実践するうちにやり方が身に着きます。                  ③欠席は「履修規程」通り厳密に扱います。                  ④配布物・提出物等についても、講義内で説明したとおりに進めます。                  上記①～④は成績評価に反映します。</p>
-------	---

学びの実践	<p>評価</p> <p>①予習復習・課題その他成果物をつづった「ポートフォリオ」を含む平常点 … 20%                  ②最終レポート … 80%                  大学の教職課程ですので、「頑張ったから」「出席して感想文を出したから」合格、ということはありません。あくまで、教職につくために必要な能力を見るという観点から、①②を通して上記「到達目標」①～⑤がどの程度できているかを評価します。</p>
-------	--

学びの継続	<p>次のステージ・関連科目</p> <p>この科目の単位を取得すると、本学の履修階梯に沿って、「進路指導・生活指導」「教育の思想と原則」などに進むことができます。履修階梯上、この科目は全ての基礎となるスタート科目であり、単位取得が遅れると半期、1年単位で教育実習や免許取得が遅れていきますので注意して下さい。</p>
-------	---

※ポリシーとの関連性

本講義は、本学の養成する教員像を理解し求められる資質能力を身につけるための具体的な行動が起こせるようになる科目です。

[ /一般講義]

科目基本情報	科目名	期別	曜日・時限	単位
	教職研究 I	前期	火 3	1
	担当者	対象年次	授業に関する問い合わせ	
	片本 恵利	2年	オフィス・アワー 水曜4校時	

学びの準備	ねらい	メッセージ
	<p>本科目は、教職課程履修階梯の入り口に当たり、他の受講生とのグループワークや先輩との関わりを通じて、教職課程履修について具体的に学び、学問的立場から教師の仕事および教職につくというここの理解を深めるための科目です。講義を通じて青年期の発達課題と進路選択の観点から教職を考察することももくろんでいます。</p>	<p>教職課程履修への不安や疑問は誰にでもあります。1人で悩んで正解を出す必要も、失敗を恐れる必要もありません。他の受講生や教職の先輩とディスカッションし、たくさんの考えを出し合いながら教職課程履修を始めましょう。なお、本講義はスクールカウンセラーを始めとする諸領域での担当教員の臨床心理士としての実務経験を生かして進められます。</p>
到達目標	<p>①4年間の教職課程履修の道筋を理解し、大まかな計画が立てられる。                  ②教職の基礎となる学問的態度について理解し、身につけるための行動を起こす。                  ③大学での学びの基礎となる「読む」「書く」「話す」を身につけるための行動を起こす。                  ④大学での講義への参加の基本となる予習・復習ができるようになる。                  ⑤青年期の発達と進路選択の観点から教職について考察することができる。</p>	

学びの実践	学びのヒント		
	授業計画		
	回	テーマ	時間外学習の内容
	1	オリエンテーション 教師を目指すために必要なもの（グループワークを含む）	シラバスを読んでくる
	2	教員に求められる資質能力①教員に求められる資質能力をふまえた大学教職課程の成り立ち（＼）	講義中に指示の課題①
	3	教員に求められる資質能力② 教員養成の歴史と諸外国の教員養成（ ＼ ）	講義中に指示の課題②
	4	教員に求められる資質能力③ 青年期の発達課題と進路選択の観点から教職を考察する（ ＼ ）	講義中に指示の課題③
	5	教員に求められる資質能力④ 学問の基礎（ ＼ ）	講義中に指示の課題④
	6	教師として生きる～映画に見る教師像（ ＼ ）	講義中に指示の課題⑤
	7	教師に求められる倫理（ ＼ ）	講義中に指示の課題⑥
	8	まとめ・振り返り（ ＼ ）	講義中に指示の課題⑦
	9		
	10		
	11		
	12		
	13		
	14		
15			
16			

学びの実践	<p>テキスト・参考文献・資料など</p> <p>教科書は使用しない。講義の中で適宜配布する資料や、各自が文科省や県教育委員会HP等からダウンロードした資料を活用する。                  参考書等は講義中に指示する。</p>
-------	--

学びの実践	<p>学びの手立て</p> <p>①予習・復習は必須です。                  ②グループディスカッションが苦手でも、社交的でなくとも結構です。講義のために工夫された方法を用いて実践を重ねるうちに少しずつできるようになっていきます。                  ③欠席は「履修規程」通り厳密に扱います。                  ④配布物・提出物等についても、講義内で説明したとおりに進めます。                  上記①～④は成績評価に反映します。</p>
-------	--

学びの実践	<p>評価</p> <p>①予習復習・課題その他成果物をつづった「ポートフォリオ」を含む平常点 … 20%                  ②最終レポート … 80%                  大学の教職課程ですので、「頑張ったから」「出席して感想文を出したから」合格、ということはありません。あくまで、教職につくために必要な能力を見るという観点から、①②を通して上記「到達目標」①～⑤がどの程度できているかを評価します。</p>
-------	--

学びの継続	<p>次のステージ・関連科目</p> <p>この科目の単位を取得すると、本学の履修階梯に沿って、「進路指導・生徒指導」「教育の思想と原則」などに進むことができます。履修階梯上、この科目は全ての基礎となるスタート科目であり、単位取得が遅れると半期、1年単位で教育実習や免許取得が遅れていきますので注意して下さい。</p>
-------	---

※ポリシーとの関連性

教育職員免許法に定める「教職に関する科目」の「教職の意義等に関する科目」（2単位）の内の初年次用を内容とする科目。

[ /一般講義]

科目基本情報	科目名 教職研究 I	期別 後期	曜日・時限 月 5	単位 1
	担当者 三村 和則	対象年次 2年	授業に関する問い合わせ 研究室番号：5505 E-mail：mimura@okiu.ac.jp	

ねらい  
教育職員免許法では「教職の意義等に関する科目」(2単位)の内容を①教職の意義及び教員の役割②進路選択に資する各種の機会の提供③教員の職務内容(研修、服務及び身分保障等を含む。)と定めている。この科目は教職課程初年時用に1単位として編成しており、①と②を主な内容としている。なお残りの1単位分は、3年次用に「教職研究Ⅱ」として開設している。

メッセージ  
ようこそ、沖縄国際大学教職課程へ。  
教員免許状取得希望者は必ずこの科目から受講してください。

到達目標  
沖縄国際大学の教職課程の履修方法、教職課程カリキュラムの仕組みとその意義、現代社会で求められる教員の資質と能力ならびにわが国の教員養成の歴史と諸外国の教員養成制度についての知識・理解が身につく。現在の職業興味と教師を目指すために必要な課題についての自己認識が深まる。よい教師とは何かについての思考力・判断力が身につく。これらを通して教職課程を受講することへの関心・意欲・態度が形成される。

学びのヒント  
授業計画

回	テーマ	時間外学習の内容
1	ガイダンス/課題レポート提示(「なぜ、教師をめざすのか」)	「なぜ、教師をめざすのか」書く☆
2	教職課程の履修方法について(『履修ガイド』の解説) 1 教職に関する科目、他	『履修ガイド』教職課程の章精読
3	教職課程の履修方法について(『履修ガイド』の解説) 2 教科に関する科目、その他の指定科目、他	同上、履修計画作成☆
4	教員養成カリキュラム改編の背景と今日の教師に求められる資質と能力	資料2015年答申とpp. 6-9精読
5	教職実践演習とその到達目標について/教職適性検査(V P I 職業興味検査と自己判定)	資料2006年答申とpp. 10-11精読
6	教員養成の歴史(戦前の閉鎖制養成と戦後の開放制養成)、世界の教員養成	ライフプラン作成☆、pp. 12-15精読
7	履修カルテについて/よい教師への道 1 履修計画、ライフプラン、なぜ教師をめざすのか	祖父母又は曾祖父母の学校調べ
8	よい教師への道 2 公務員と教員、自主研修/課題レポート提示(「再び、なぜ教師をめざすのか」)	資料合格体験記とpp. 25-34精読
9		
10		
11		
12		
13		
14		
15		
16		

テキスト・参考文献・資料など  
 テキスト：①『履修ガイド』。②配付する資料集。  
 主要参考文献：①上地・西本編『沖縄で教師をめざす人のために』協同出版、2015年。②赤星晋作他編著『学校教師の探求』学文社、2001年。③教養審第1次答申「新たな時代に向けた教員養成の改善方策について」1997年。④中教審答申「今後の教員養成・免許制度の在り方について」2006年。⑤中教審答申「これからの学教教育を担う教員の資質能力の向上について」2015年。

学びの手立て  
 ①履修の心構え：抽選の場合でも他のクラスで必ず受講できるようにするので、必ず相談に来ること。1単位科目なので8週で終了する。そのため後期は、12月初旬に終了予定である。  
 教職課程学生に相応しく遅刻・欠席がないよう努めること。  
 ②学びを深めるために：毎回の講義を受講し理解することは当然であるが、講義時間内だけでは到達目標を達成するには至らないため、指定された時間外学習を行うとよい。

評価  
 ①提出物100%。5件提出物がある。最後の提出物(「再び、なぜ教師をめざすのか」)で、まず仮の評価を決める。決め方は、8回の講義内容の要点となる用語の出現が6回分以上は優、4回分と5回分は良、3回分は可、2回分以下は不可とする。その後、この評価を他の4件の提出物の件数とクロスさせ最終の評価とする。4件の場合1ランク上、3件の場合そのまま、2件の場合1ランク下の評価とする。但し、1件以下の場合不可の評価とする。  
 ②時間外の講演会・研究会等への参加報告書に10%加算する(随時案内・指示する)。

学びの継続  
 次のステージ・関連科目  
 本学教職課程の「教職に関する科目」には「履修階梯」があり、その最初の科目がこの科目である。この科目を履修することで次の段階の科目である「教育の思想と原則」と「進路指導・生活指導」(2017年度以前の入学生は「教育心理学」)を受講することができる。「教職の意義等に関する科目」(2単位)の内、残りの1単位分については、3年次用科目として『教職研究Ⅱ』を開設している。

科目基本情報	科目名	期別	曜日・時限	単位
	教職研究Ⅱ	前期	土5	1
	担当者	対象年次	授業に関する問い合わせ	
	安原 陽平	3年	E-mailアドレスや研究室番号等は、講義内でお伝えします。	

学びの準備	ねらい	メッセージ
	<p>本講義は、教育実習の前提となる科目です。そのため、本講義のねらいは、特定のテーマにつき、賛成意見・反対意見の考え方を知り、そのうえで自分の考えを根拠を示し論理的に相手に伝えられるようになることです。講義では、グループ分けをし、ディベートをおこないます。</p> <p>到達目標</p> <p>本講義の到達目標は、教職の性格、内容に関する基礎的概念・知識を獲得し、それらの長所ならびに課題を自ら考察できるようになることです。また、学校自治やチーム学校に関する知識の獲得も目指します。</p>	<p>学校の先生は、特定の事柄について、児童・生徒、保護者、同僚の先生、地域住民などに、理由を挙げて説明することが求められます。「私がこう思うのだからこうだ！」では、相手も納得してくれず、信頼を築くことが難しくなります。自分とは異なる意見を持つ相手に、適切に理由を示して自分の主張を伝えられるようになるために、この講義を通じて経験を積んでみてください。</p>

学びの実践	学びのヒント		
	授業計画		
	回	テーマ	時間外学習の内容
	1	ガイダンス 教職を改めて考える	
	2	教職の専門性 専門家としての教師 ディベート①	ディベート準備
	3	教師と職務—教育課程内外の様々な教育活動— ディベート②	ディベート準備
	4	教師と研修—研修の法的根拠と意義、様々な研修— ディベート③	ディベート準備
	5	教師とサービス—身分上の義務と職務上の義務— ディベート④	ディベート準備
	6	人事評価制度 教職員評価システム ディベート⑤	ディベート準備
	7	学校自治 チーム学校 ディベート⑥	ディベート準備
8	まとめ		
9			
10			
11			
12			
13			
14			
15			
16			
	テキスト・参考文献・資料など		
	<p>○テキスト</p> <p>テキストは、使用しません。</p> <p>○参考文献</p> <p>秋田喜代美・佐藤学 (2015) 『新しい時代の教職入門 [改訂版]』 (有斐閣) など。また、各授業回と関連する参考書・参考資料等も適宜紹介することを予定しています。</p>		
	学びの手立て		
	<p>①ディベートの準備期間を確保します。また、クラスを学期の前半クラス・後半クラスに分ける可能性があります。そのため、第1週～8週で終了するわけではありません。その点注意してください。具体的な日程は講義内にて確定します。</p> <p>②ディベートをおこなうため、数人1組のグループ分けをおこないます。</p> <p>③特定のテーマにつき、賛成グループと反対グループの対立でディベートをすすめます。その際、自分の実際の考えと異なるグループとなることがあります。</p> <p>④ディベートの準備 (文献等の調査) のために、十分な時間が必要となります。</p> <p>⑤ディベートの実施、その後の質疑応答等のため、講義を延長する場合があります。</p>		
	評価		
	<p>○他のグループのディベートの分析と評価 (30%)</p> <p>○ディベートの内容に関するレポート (50%)</p> <p>○最終レポート (20%)</p> <p>※講義の進捗や学生の理解度、あるいは教育政策の進み方によって、スケジュール・内容等を変更する場合がありますので、その点注意してください。</p>		

学びの継続	<p>次のステージ・関連科目</p> <p>この講義を踏まえて、教育実習に参加することになります。児童・生徒、保護者、同僚の先生、地域住民など、多くの方が学校に集い、多様な価値観のもと様々な意見を持っています。様々な意見を持つ人々と建設的な対話ができるように、この講義で得たものを役立ててください。</p>
-------	---

科目基本情報	科目名	期別	曜日・時限	単位
	教職研究Ⅱ	後期	土5	1
	担当者	対象年次	授業に関する問い合わせ	
	安原 陽平	3年	E-mailアドレスや研究室番号等は、講義内でお伝えします。	

学びの準備	ねらい	メッセージ
	<p>本講義は、教育実習の前提となる科目です。そのため、本講義のねらいは、特定のテーマにつき、賛成意見・反対意見の考え方を知り、そのうえで自分の考えを根拠を示し論理的に相手に伝えられるようになることです。講義では、グループ分けをし、ディベートをおこないます。</p>	<p>学校の先生は、特定の事柄について、児童・生徒、保護者、同僚の先生、地域住民などに、理由を挙げて説明することが求められます。「私がこう思うのだからこうだ！」では、相手も納得してくれず、信頼を築くことが難しくなります。自分とは異なる意見を持つ相手に、適切に理由を示して自分の主張を伝えられるようになるために、この講義を通じて経験を積んでみてください。</p>
到達目標	<p>本講義の到達目標は、教職の性格、内容に関する基礎的概念・知識を獲得し、それらの長所ならびに課題を自ら考察できるようになることです。また、学校自治やチーム学校に関する知識の獲得も目指します。</p>	

学びの実践	学びのヒント																																																			
	授業計画																																																			
	<table border="1"> <thead> <tr> <th>回</th> <th>テーマ</th> <th>時間外学習の内容</th> </tr> </thead> <tbody> <tr> <td>1</td> <td>ガイダンス 教職を改めて考える</td> <td></td> </tr> <tr> <td>2</td> <td>教職の専門性 専門家としての教師 ディベート①</td> <td>ディベート準備</td> </tr> <tr> <td>3</td> <td>教師と職務—教育課程内外の様々な教育活動— ディベート②</td> <td>ディベート準備</td> </tr> <tr> <td>4</td> <td>教師と研修—研修の法的根拠と意義、様々な研修— ディベート③</td> <td>ディベート準備</td> </tr> <tr> <td>5</td> <td>教師とサービス—身分上の義務と職務上の義務— ディベート④</td> <td>ディベート準備</td> </tr> <tr> <td>6</td> <td>人事評価制度 教職員評価システム ディベート⑤</td> <td>ディベート準備</td> </tr> <tr> <td>7</td> <td>学校自治 チーム学校 ディベート⑥</td> <td>ディベート準備</td> </tr> <tr> <td>8</td> <td>まとめ</td> <td></td> </tr> <tr> <td>9</td> <td></td> <td></td> </tr> <tr> <td>10</td> <td></td> <td></td> </tr> <tr> <td>11</td> <td></td> <td></td> </tr> <tr> <td>12</td> <td></td> <td></td> </tr> <tr> <td>13</td> <td></td> <td></td> </tr> <tr> <td>14</td> <td></td> <td></td> </tr> <tr> <td>15</td> <td></td> <td></td> </tr> <tr> <td>16</td> <td></td> <td></td> </tr> </tbody> </table>	回	テーマ	時間外学習の内容	1	ガイダンス 教職を改めて考える		2	教職の専門性 専門家としての教師 ディベート①	ディベート準備	3	教師と職務—教育課程内外の様々な教育活動— ディベート②	ディベート準備	4	教師と研修—研修の法的根拠と意義、様々な研修— ディベート③	ディベート準備	5	教師とサービス—身分上の義務と職務上の義務— ディベート④	ディベート準備	6	人事評価制度 教職員評価システム ディベート⑤	ディベート準備	7	学校自治 チーム学校 ディベート⑥	ディベート準備	8	まとめ		9			10			11			12			13			14			15			16		
	回	テーマ	時間外学習の内容																																																	
	1	ガイダンス 教職を改めて考える																																																		
	2	教職の専門性 専門家としての教師 ディベート①	ディベート準備																																																	
	3	教師と職務—教育課程内外の様々な教育活動— ディベート②	ディベート準備																																																	
	4	教師と研修—研修の法的根拠と意義、様々な研修— ディベート③	ディベート準備																																																	
	5	教師とサービス—身分上の義務と職務上の義務— ディベート④	ディベート準備																																																	
	6	人事評価制度 教職員評価システム ディベート⑤	ディベート準備																																																	
	7	学校自治 チーム学校 ディベート⑥	ディベート準備																																																	
	8	まとめ																																																		
	9																																																			
	10																																																			
	11																																																			
	12																																																			
13																																																				
14																																																				
15																																																				
16																																																				
テキスト・参考文献・資料など																																																				
<p>○テキスト テキストは、使用しません。</p> <p>○参考文献 秋田喜代美・佐藤学(2015)『新しい時代の教職入門 [改訂版]』(有斐閣)など。また、各授業回と関連する参考書・参考資料等も適宜紹介することを予定しています。</p>																																																				
学びの手立て																																																				
<p>①ディベートの準備期間を確保します。また、クラスを学期の前半クラス・後半クラスに分ける可能性があります。そのため、第1週～8週で終了するわけではありません。その点注意してください。具体的な日程は講義内にて確定します。</p> <p>②ディベートをおこなうため、数人1組のグループ分けをおこないます。</p> <p>③特定のテーマにつき、賛成グループと反対グループの対立でディベートをすすめます。その際、自分の実際の考えと異なるグループとなることがあります。</p> <p>④ディベートの準備(文献等の調査)のために、十分な時間が必要となります。</p> <p>⑤ディベートの実施、その後の質疑応答等のため、講義を延長する場合があります。</p>																																																				
評価																																																				
<p>○他のグループのディベートの分析と評価 (30%)</p> <p>○ディベートの内容に関するレポート (50%)</p> <p>○最終レポート (20%)</p> <p>※講義の進捗や学生の理解度、あるいは教育政策の進み方によって、スケジュール・内容等を変更する場合がありますので、その点注意してください。</p>																																																				

学びの継続	<p>次のステージ・関連科目</p> <p>この講義を踏まえて、教育実習に参加することになります。児童・生徒、保護者、同僚の先生、地域住民など、多くの方が学校に集い、多様な価値観のもと様々な意見を持っています。様々な意見を持つ人々と建設的な対話ができるように、この講義で得たものを役立ててください。</p>
-------	---

科目基本情報	科目名	期別	曜日・時限	単位
	教職実践演習（中・高）	集中	集中	2
	担当者	対象年次	授業に関する問い合わせ	
	安原 陽平、他	4年	科目全体に関しては教職課程主任か学務課、個別の内容は担当者に直接問合わせること。	

学びの準備	ねらい	メッセージ
	教職課程における四年間の学びを発展的に振り返ることで、これまで培ってきた数々の学習知・実践知の統合をはかる。また、授業全体を通じ、受講者相互の協力・協働を前提とした課題設定を行うことで、社会性や対人関係能力をはかる。	本学では15回の講義を、「教科外活動研究」「授業実践研究」「教育科学研究」の3つの領域に分けて、それぞれ別の担当者が5回分ずつの授業を担当する。クラス編成や講義の詳細については、5月に実施される「第2回教育実習オリエンテーション」の際に説明する。
到達目標	(1) 「特別活動演習」や教育実習での経験をふまえて、生徒理解や学級経営能力の錬成を図ることができる。 (2) 教育実習において析出された課題の克服をふまえて、授業の再実践ができる。 (3) 教育現場の現在および将来について、科学的に考察し、討議することができる。	

学びの実践	学びのヒント
	授業計画（テーマ・時間外学習の内容含む）  第1～5回 教科外活動研究 学級経営を中心とした教科外活動実践（学級通信作成、模擬学級行事の実践など）をおこなう。時間外学習として、当該パートで学んだことの復習、関連文献の講読、次のパートの予習をおこなう。基本的には、10月に集中講義の形式で開講する。  第6～10回 授業実践研究 問題点の改善をふまえた教育実習の研究授業の再実践をおこなう。時間外学習として、当該パートで学んだことの復習、関連文献の講読、次のパートの予習をおこなう。原則として、11月から12月にかけて、通常講義の形式で開講するが、担当教員や教室の関係で、集中講義形式となる場合がある。  第11～15回 教育科学研究 教育実習をふまえて、教育現場の現在および将来に関する問題（いじめ、不登校、教育政策、学力問題など）について、科学的に考察し、討議する。時間外学習として、当該パートで学んだことの復習、関連文献の講読、各パートのまとめをおこなう。原則として12月から2月にかけて、通常講義また集中講義の形式で開講する。
	テキスト・参考文献・資料など テキストや参考文献については、クラス担当教員が授業中に指示、紹介する。
	学びの手立て ① 本講義は必修科目であるので、教育実習を終えても、本講義の単位が修得できなければ、教員免許証は取得できない。 ② 教職課程の「集大成」としての位置づけがなされる授業であるので、教育実習を含め、これまでの学びの成果を総動員することが不可欠である。 ③ 日常的に教育や子どもを取り巻く社会状況について、強く関心を持つことが重要である。
評価	クラス担当教員三者がそれぞれ100点で評価したものを、合算し、100点に換算した結果に基づき、総合的に評価する。なお、それぞれの領域ごとの評価基準、評価方法については、担当者より説明がある。

学びの継続	次のステージ・関連科目 本科目は、教職課程の最終段階に位置づけられる。
-------	--

※ポリシーとの関連性

本講義は、本学の養成する教員像を理解し求められる資質能力を身につけるための具体的な行動が起こせるようになる科目です。

[ /一般講義]

科目基本情報	科目名	期別	曜日・時限	単位
	教職論 I	前期	火 3	1
	担当者	対象年次	授業に関する問い合わせ	
	片本 恵利	1年	オフィス・アワー 水曜4校時	

学びの準備	ねらい	メッセージ
	<p>本科目は、教職課程履修階梯の入り口に当たり、他の受講生とのグループワークや先輩との関わりを通じて、教職課程履修について具体的に学び、学問的立場から教師の仕事および教職につくというこゝの理解を深めるための科目です。講義を通じて青年期の発達課題と進路選択の観点から教職を考察することももろんでいます。</p>	<p>教職課程履修への不安や疑問は誰にでもあります。1人で悩んで正解を出す必要も、失敗を恐れる必要もありません。他の受講生や教職の先輩とディスカッションし、たくさんの考えを出し合いながら教職課程履修を始めましょう。なお、本講義はスクールカウンセラーを始めとする諸領域での担当教員の臨床心理士としての実務経験を生かして進められます。</p>
到達目標	<p>①4年間の教職課程履修の道筋を理解し、大まかな計画が立てられる。                  ②教職の基礎となる学問的態度について理解し、身につけるための行動を起こす。                  ③大学での学びの基礎となる「読む」「書く」「話す」を身につけるための行動を起こす。                  ④大学での講義への参加の基本となる予習・復習ができるようになる。                  ⑤青年期の発達と進路選択の観点から教職について考察することができる。</p>	

学びの実践	学びのヒント		
	授業計画		
	回	テーマ	時間外学習の内容
	1	オリエンテーション 教師を目指すために必要なもの（グループワークを含む）	シラバスを読んでくる
	2	教員に求められる資質能力①教員に求められる資質能力をふまえた大学教職課程の成り立ち（〃）	講義中に指示の課題①
	3	教員に求められる資質能力② 教員養成の歴史と諸外国の教員養成（ 〃 ）	講義中に指示の課題②
	4	教員に求められる資質能力③ 青年期の発達課題と進路選択の観点から教職を考察する（ 〃 ）	講義中に指示の課題③
	5	教員に求められる資質能力④ 学問の基礎（ 〃 ）	講義中に指示の課題④
	6	教師として生きる～映画に見る教師像（ 〃 ）	講義中に指示の課題⑤
	7	教師に求められる倫理（ 〃 ）	講義中に指示の課題⑥
	8	まとめ・振り返り（ 〃 ）	講義中に指示の課題⑦
	9		
	10		
	11		
	12		
	13		
	14		
15			
16			

学びの実践	<p>テキスト・参考文献・資料など</p> <p>教科書は使用しない。講義の中で適宜配布する資料や、各自が文科省や県教育委員会HP等からダウンロードした資料を活用する。 参考書等は講義中に指示する。</p>
-------	---

学びの実践	<p>学びの手立て</p> <p>①予習・復習は必須です。                  ②グループディスカッションが苦手でも、社交的でなくとも結構です。講義のために工夫された方法を用いて実践を重ねるうちに少しずつできるようになっていきます。                  ③欠席は「履修規程」通り厳密に扱います。                  ④配布物・提出物等についても、講義内で説明したとおりに進めます。                  上記①～④は成績評価に反映します。</p>
-------	--

学びの実践	<p>評価</p> <p>①予習復習・課題その他成果物をつづった「ポートフォリオ」を含む平常点 … 20%                  ②最終レポート … 80%                  大学の教職課程ですので、「頑張ったから」「出席して感想文を出したから」合格、ということはありません。あくまで、教職につくために必要な能力を見るという観点から、①②を通して上記「到達目標」①～⑤がどの程度できているかを評価します。</p>
-------	--

学びの継続	<p>次のステージ・関連科目</p> <p>この科目の単位を取得すると、本学の履修階梯に沿って、「進路指導・生徒指導」「教育の思想と原則」などに進むことができます。履修階梯上、この科目は全ての基礎となるスタート科目であり、単位取得が遅れると半期、1年単位で教育実習や免許取得が遅れていきますので注意して下さい。</p>
-------	---

科目基本情報	科目名	期別	曜日・時限	単位
	教職論Ⅰ	前期	水3	1
	担当者	対象年次	授業に関する問い合わせ	
	三村 和則	1年	研究室番号：5505 E-mail：mimura@okiu.ac.jp	

学びの準備	ねらい	メッセージ
	現代社会における教職の重要性の高まりを背景に、①教職の意義、②教員の役割・資質能力、③職務内容、④チーム学校への対応等について身に付け、教職への意欲を高め、さらに適性を判断し、進路選択に資する教職のあり方を理解する。この科目は教職課程初年次用科目として①と②を主な内容としている。なお③と④は、3年次用の「教職論Ⅱ」で履修する。	ようこそ、沖縄国際大学教職課程へ。 教員免許状取得希望者は必ずこの科目から受講してください。
到達目標	沖繩国際大学の教職課程の履修方法、教職課程カリキュラムの仕組みとその意義、現代社会で求められる教員の資質と能力ならびにわが国の教員養成の歴史と諸外国の教員養成制度についての知識・理解が身につく。現在の職業興味と教師を目指すために必要な課題についての自己認識が深まる。よい教師とは何かについての思考力・判断力が身につく。これらを通して教職課程を受講することへの関心・意欲・態度が形成される。	

学びの実践	学びのヒント		
	授業計画		
	回	テーマ	時間外学習の内容
	1	ガイダンス／先発・後発クラス分け／課題レポート提示(「なぜ、教師をめざすのか」)	「なぜ、教師をめざすのか」書く☆
	2	教職課程の履修方法について(『履修ガイド』の解説) 1 教育の基礎的理解に関する科目等、他	『履修ガイド』教職課程の章精読
	3	同上2 教科及び教科の指導法に関する科目、その他の指定科目、他	同上、履修計画作成☆
	4	教員養成カリキュラム改編の背景と今日の教師に求められる資質と能力	資料2015年答申とpp. 6-9精読
	5	教職実践演習とその到達目標について／教職適性検査(V P I 職業興味検査と自己判定)	資料2006年答申とpp. 10-11精読
	6	教員養成の歴史(戦前の閉鎖制養成と戦後の開放制養成)、世界の教員養成	ライフプラン作成☆、pp. 12-15精読
	7	履修カルテについて／よい教師への道1 履修計画、ライフプラン、なぜ、教師をめざすのか	祖父母又は曾祖父母の学校調べ
	8	よい教師への道2 公務員と教員、自主研修/課題レポート提示(「再び、なぜ教師をめざすのか」)	資料合格体験記とpp. 25-34精読
	9		
	10		
	11		
	12		
	13		
	14		
15			
16			

学びの実践	テキスト・参考文献・資料など
	テキスト：①『履修ガイド』。②配付する資料集。 主要参考文献：①上地・西本編『沖縄で教師をめざす人のために』協同出版、2015年。②赤星晋作他編著『学校教師の探求』学文社、2001年。③教養審第1次答申「新たな時代に向けた教員養成の改善方策について」1997年。④中教審答申「今後の教員養成・免許制度の在り方について」2006年。⑤中教審答申「これからの学教教育を担う教員の資質能力の向上について」2015年。

学びの実践	学びの手立て
	①履修の心構え：抽選の場合でも他のクラスで必ず受講できるようにするので、必ず相談に来ること。1単位科目なので8週で終了する。そのため受講者数の関係で、前期は先発クラスと後発クラスに分ける。先発クラスは4～6月、後発クラスは6～7月が受講期間の目安である。後期は先発クラスだけの開講となり、12月初旬に終了予定である。 教職課程学生に相応しく遅刻・欠席がないよう努めること。 ②学びを深めるために：毎回の講義を受講し理解することは当然であるが、講義時間内だけでは到達目標を達成するには至らないため、指定された時間外学習を行うとよい。

学びの実践	評価
	①提出物100%。5件提出物がある。最後の提出物(「再び、なぜ教師をめざすのか」)で、まず仮の評価を決める。決め方は、8回の講義内容の要点となる用語の出現が6回分以上は優、4回分と5回分は良、3回分は可、2回分以下は不可とする。その後、この評価を他の4件の提出物の件数とクロスさせ最終の評価とする。4件の場合1ランク上、3件の場合そのまま、2件の場合1ランク下の評価とする。但し、1件以下の場合不可の評価とする。 ②時間外の講演会・研究会等への参加報告書に10%加算する(随時案内・指示する)。

学びの継続	次のステージ・関連科目
	本学教職課程の「教育の基礎的理解に関する科目等」には「履修階梯」があり、その最初の科目がこの科目である。この科目を履修して次の段階の科目である「教育の思想と原則」と「進路指導・生徒指導」を受講することができる。教職の意義及び教員の役割・職務内容に係る科目(2単位)の内、残りの1単位分については、3年次用科目として「教職論Ⅱ」を開設している。

科目基本情報	科目名	期別	曜日・時限	単位
	教職論Ⅰ	後期	月5	1
	担当者	対象年次	授業に関する問い合わせ	
	三村 和則	1年	研究室番号：5505 E-mail：mimura@okiu.ac.jp	

学びの準備	ねらい	メッセージ
	現代社会における教職の重要性の高まりを背景に、①教職の意義、②教員の役割・資質能力、③職務内容、④チーム学校への対応等について身に付け、教職への意欲を高め、さらに適性を判断し、進路選択に資する教職のあり方を理解する。この科目は教職課程初年次用科目として①と②を主な内容としている。なお③と④は、3年次用の「教職論Ⅱ」で履修する。	ようこそ、沖縄国際大学教職課程へ。 教員免許状取得希望者は必ずこの科目から受講してください。
到達目標	沖繩国際大学の教職課程の履修方法、教職課程カリキュラムの仕組みとその意義、現代社会で求められる教員の資質と能力ならびにわが国の教員養成の歴史と諸外国の教員養成制度についての知識・理解が身につく。現在の職業興味と教師を目指すために必要な課題についての自己認識が深まる。よい教師とは何かについての思考力・判断力が身につく。これらを通して教職課程を受講することへの関心・意欲・態度が形成される。	

学びの実践	学びのヒント		
	授業計画		
	回	テーマ	時間外学習の内容
	1	ガイダンス／課題レポート提示（「なぜ、教師をめざすのか」）	「なぜ、教師をめざすのか」書く☆
	2	教職課程の履修方法について（『履修ガイド』の解説）1 教育の基礎的理解に関する科目等、他	『履修ガイド』教職課程の章精読
	3	同上2 教科及び教科の指導法に関する科目、その他の指定科目、他	同上、履修計画作成☆
	4	教員養成カリキュラム改編の背景と今日の教師に求められる資質と能力	資料2015年答申とpp. 6-9精読
	5	教職実践演習とその到達目標について／教職適性検査（V P I 職業興味検査と自己判定）	資料2006年答申とpp. 10-11精読
	6	教員養成の歴史（戦前の閉鎖制養成と戦後の開放制養成）、世界の教員養成	ライフプラン作成☆、pp. 12-15精読
	7	履修カルテについて／よい教師への道1 履修計画、ライフプラン、なぜ教師をめざすのか	祖父母又は曾祖父母の学校調べ
	8	よい教師への道2 公務員と教員、自主研修/ 課題レポート提示（「再び、なぜ教師をめざすのか」）	資料合格体験記とpp. 25-34精読
	9		
	10		
	11		
	12		
	13		
	14		
15			
16			

実践	テキスト・参考文献・資料など
	テキスト：①『履修ガイド』。②配付する資料集。 主要参考文献：①上地・西本編『沖縄で教師をめざす人のために』協同出版、2015年。②赤星晋作他編著『学校教師の探求』学文社、2001年。③教養審第1次答申「新たな時代に向けた教員養成の改善方策について」1997年。④中教審答申「今後の教員養成・免許制度の在り方について」2006年。⑤中教審答申「これからの学教教育を担う教員の資質能力の向上について」2015年。

学びの手立て	①履修の心構え：抽選の場合でも他のクラスで必ず受講できるようにするので、必ず相談に来ること。1単位科目なので8週で終了する。そのため後期は、12月初旬に終了予定である。 教職課程学生に相応しく遅刻・欠席がないよう努めること。 ②学びを深めるために：毎回の講義を受講し理解することは当然であるが、講義時間内だけでは到達目標を達成するには至らないため、指定された時間外学習を行うとよい。
--------	---

評価	①提出物100%。5件提出物がある。最後の提出物（「再び、なぜ教師をめざすのか」）で、まず仮の評価を決める。決め方は、8回の講義内容の要点となる用語の出現が6回分以上は優、4回分と5回分は良、3回分は可、2回分以下は不可とする。その後、この評価を他の4件の提出物の件数とクロスさせ最終の評価とする。4件の場合1ランク上、3件の場合そのまま、2件の場合1ランク下の評価とする。但し、1件以下の場合不可の評価とする。 ②時間外の講演会・研究会等への参加報告書に10%加算する（随時案内・指示する）。
----	--

学びの継続	次のステージ・関連科目 本学教職課程の「教育の基礎的理解に関する科目等」には「履修階梯」があり、その最初の科目がこの科目である。この科目を履修して次の段階の科目である「教育の思想と原則」と「進路指導・生徒指導」を受講することができる。教職の意義及び教員の役割・職務内容に係る科目(2単位)の内、残りの1単位分については、3年次用科目として「教職論Ⅱ」を開設している。
-------	--

※ポリシーとの関連性

本講義は、本学の養成する教員像を理解し求められる資質能力を身につけるための具体的な行動が起こせるようになる科目です。

[ /一般講義]

科目基本情報	科目名	期別	曜日・時限	単位
	教職論 I	前期	火 5	1
	担当者	対象年次	授業に関する問い合わせ	
	片本 恵利	1年	オフィス・アワー 水曜4校時	

学びの準備	ねらい	メッセージ
	<p>本科目は、教職課程履修階梯の入り口に当たり、他の受講生とのグループワークや先輩との関わりを通じて、教職課程履修について具体的に学び、学問的立場から教師の仕事および教職につくということの理解を深めるための科目です。講義を通じて青年期の発達課題と進路選択の観点から教職を考察することももくろんでいます。</p>	<p>教職課程履修への不安や疑問は誰にでもあります。1人で悩んで「正解」を出す必要も失敗を恐れる必要もありません。他の受講生や教職の先輩とディスカッションを通じてたくさんの考えを共有しながら教職課程を始めましょう。なお、本講義はスクールカウンセラーを始めとする諸領域での担当教員の臨床心理士としての実務経験を生かして進められます。</p>
到達目標	<p>①4年間の教職課程履修の道筋を理解し、大まかな計画が立てられる。                  ②教職の基礎となる学問的態度について理解し、身につけるための行動を起こす。                  ③大学での学びの基礎となる「読む」「書く」「話す」を身につけるための行動を起こす。                  ④大学での講義への参加の基本となる予習・復習ができるようになる。                  ⑤青年期の発達と進路選択の観点から教職について考察することができる。</p>	

学びの実践	学びのヒント		
	授業計画		
	回	テーマ	時間外学習の内容
	1	オリエンテーション 教師を目指すために必要なもの（グループワークを含む）	シラバスを読み内容を理解する
	2	教員に求められる資質能力①教員に求められる資質能力をふまえた大学教職課程の成り立ち（〃）	講義内指示の課題①
	3	教員に求められる資質能力② 教員養成の歴史と諸外国の教員養成（〃）	講義内指示の課題②
	4	学教員に求められる資質能力③ 青年期の発達課題と進路選択の観点から教職を考察する（〃）	講義内指示の課題③
	5	教員に求められる資質能力④ 学問の基礎（〃）	講義内指示の課題④
	6	教師になるということ～映画に見る教師像（〃）	講義内指示の課題⑤
	7	教師に求められる倫理（〃）	講義内指示の課題⑥
	8	まとめ・振り返り（〃）	講義内指示の課題⑦
	9		
	10		
	11		
	12		
	13		
	14		
15			
16			

学びの実践	<p>テキスト・参考文献・資料など</p> <p>教科書は使用しない。講義の中で適宜配付する資料や、各自が文科省や県教育委員会HP等からダウンロードした資料を活用する。参考書等は講義内で指示する。</p>
-------	--

学びの実践	<p>学びの手立て</p> <p>①予習・復習は必須です。                  ②グループディスカッションが苦手でも、社交的でなくとも結構です。講義のために工夫された方法を用いて実践するうちにやり方が身に着きます。                  ③欠席は「履修規程」通り厳密に扱います。                  ④配布物・提出物等についても、講義内で説明したとおりに進めます。                  上記①～④は成績評価に反映します。</p>
-------	---

学びの実践	<p>評価</p> <p>①予習復習・課題その他成果物をつづった「ポートフォリオ」を含む平常点 … 20%                  ②最終レポート … 80%                  大学の教職課程ですので、「頑張ったから」「出席して感想文を出したから」合格、ということはありません。あくまで、教職につくために必要な能力を見るという観点から、①②を通して上記「到達目標」①～⑤がどの程度できているかを評価します。</p>
-------	--

学びの継続	<p>次のステージ・関連科目</p> <p>この科目の単位を取得すると、本学の履修階梯に沿って、「進路指導・生活指導」「教育の思想と原則」などに進むことができます。履修階梯上、この科目は全ての基礎となるスタート科目であり、単位取得が遅れると半期、1年単位で教育実習や免許取得が遅れていきますので注意して下さい。</p>
-------	---

科目基本情報	科目名	期別	曜日・時限	単位
	憲法 I	通年	火 5	4
	担当者	対象年次	授業に関する問い合わせ	
	-儀部 和歌子	1年	授業終了後に教室で受け付けます	

学びの準備	ねらい	メッセージ
	<p>教職を目指しているみなさんには、憲法の細かい知識よりも、「そもそも憲法とは何か」「なぜ教職を目指す人にとって憲法が必須科目なのか」「主権者であるということは具体的にどういうことなのか」「少数者の人権を保障するということは具体的にどういうことなのか」ということを実感していただくことが大切だと考えています。このような実感を目指した講義を行いたいと思います。</p>	<p>現在、日本国憲法の改正は現実味を帯びています。その問題について、主権者として、また主権者を育てる教職に就く者としてご自分で判断していただけるよう、できるだけ多くの情報を提供したいと考えています。また、多くの事例を通していわゆる「人権感覚」を掴んで頂けるようにしたいと考えています。</p>
到達目標	「憲法とは何か」を正確に理解するとともに、社会に想起する様々な問題を憲法の視点から考えられるようになる。	

学びの実践	学びのヒント		
	授業計画		
	回	テーマ	時間外学習の内容
	1	ガイダンス	
	2	法とは何かー国家と法	
	3	憲法とは何か	
	4	憲法を取り巻く現状～憲法改正の問題点	
	5	公権力のイメージ①（映画視聴）	
	6	公権力のイメージ②（映画視聴）	
	7	基本的人権の歴史	
	8	基本的人権の尊重	
	9	明治憲法と日本国憲法とコスタリカ憲法	
	10	平和主義	
	11	国民主権と日本国憲法の三大基本原理について	
	12	人権は誰に対して保障されているのか	
	13	人権を制約することは許されるか	
	14	新しい人権	
	15	不合理な差別とは①	
	16	前期復習テスト	
	17	不合理な差別とは②	
	18	思想良心の自由	
	19	信教の自由と政教分離原則	
	20	表現の自由①	
	21	表現の自由②	
	22	職業選択の自由	
	23	生存権	
	24	教育を受ける権利～教育権の所在	
	25	働く人の権利	
	26	被疑者・被告人の権利	
	27	裁判員制度	
	28	人権と統治機構の関係	
	29	現代日本の憲法問題	
30	総復習（質問に対する回答）		
31	試験		

学	<p>テキスト・参考文献・資料など</p> <p>教科書は使用しません。ただし、六法等、日本国憲法の条文が掲載されているものを必ず持参すること（講義中に指名して、条文を読んでいただくこともあります）。また、夏休み中のレポートに必要な書籍については、講義時に指示します。</p> <p>講義の理解を補うための参考文献は以下のとおり。（１）井端正幸・渡名喜庸安・中山忠克編『憲法と沖縄を問う』法律文化社 （２）伊藤真『高校生からわかる日本国憲法の論点』株式会社トランスビュー</p>
び の 実 践	<p>学びの手立て</p> <p>「履修の心構え」</p> <p>受講時に指示がある際は、その都度、必ず憲法の該当条文を参照すること（そのために憲法の条文が掲載されているもの必ず持参してください）。後期に予定しているグループ討論では積極的に討論に参加すること。</p>
	<p>評価</p> <p>夏休み明けの前期復習試験（穴埋め筆記問題） 35%、夏休み中のレポート 20%、後期末試験（穴埋め筆記問題＋論述問題） 35%、講義態度（六法持参状況＋講義への参加態度） 10%</p>
学 び の 継 続	<p>次のステージ・関連科目</p>

※ポリシーとの関連性

本学の教員養成の目標1・2（採用当初から、教科等の専門的知識・技能を有し、実践的指導力のある教員）の養成。に関連する。

[ /演習]

科目基本情報	科目名	期別	曜日・時限	単位
	国語科教育法演習Ⅰ	後期	火4	2
	担当者 桃原 千英子	対象年次	授業に関する問い合わせ	
		3年	授業終了後に、教室で受け付けます。 またはメールにて。	

学びの準備	ねらい	メッセージ
	<p>「国語科教育法Ⅰ」「国語科教育法Ⅱ」で学んだ、国語科学習指導の理念や教材研究の方法についての理解を深化させ、実際の授業ができるようになることを目標とする。また、授業実践者として常に学ぶ姿勢をもち、自らを省みる客観的な視点を持つことも目標とする。</p>	<p>中学教諭としての現場経験を活かして、国語科教育の基礎理論や学習者の実態を、指導案作成に反映できるよう解説する。履修前に実施するテストの合格者のみ、履修が認められる。教育実習における研究授業を想定した模擬授業を行う。教材を読み込み、実践論文などの文献に当たり、指導案を作成すること。</p>
	到達目標	
	<p>①授業実践に応じた教材分析を十分にを行い、学習のねらいを明確にした指導案を作成することができる。 ②「学習目標達成」のための「言語活動」を取り入れた授業を構想し実践することができる。 ③情報機器の操作等に習熟し、授業実践に活用することができる。</p>	

学びのヒント	授業計画	
	回	テーマ
	1	ガイダンス
	2	授業構築の実際について（講義①：教材分析方法）
	3	授業構築の実際について（講義②：発問作成・学習者分析方法）
	4	模擬授業と研究討議について【読むこと・文学的文章教材（小説）】情報機器の活用
	5	模擬授業と研究討議について【読むこと・文学的文章教材（随筆・韻文）】情報機器の活用
	6	模擬授業と研究討議について【読むこと・説明的文章教材（説明文）】情報機器の活用
	7	模擬授業と研究討議について【読むこと・説明的文章教材（論説文・評論）】情報機器の活用
	8	模擬授業と研究討議について【話すこと】情報機器の活用
学びの実践	9	模擬授業と研究討議について【聞くこと】情報機器の活用
	10	模擬授業と研究討議について【書くこと（文学的文章）】情報機器の活用
	11	模擬授業と研究討議について【書くこと（論理的文章・再現的文章）】情報機器の活用
	12	模擬授業と研究討議について【我が国の言語文化に関する事項（古文）】情報機器の活用
	13	模擬授業と研究討議について【我が国の言語文化に関する事項（漢文）】情報機器の活用
	14	模擬授業と研究討議について【言葉の特徴や使い方に関する事項（文法・漢字）】情報機器活用
	15	模擬授業と研究討議について【言葉の特徴や使い方に関する事項（言葉の特徴）】情報機器活用
	16	総括
	時間外学習の内容	
	1	指導案作成
	2	指導案作成
	3	指導案作成・配布・リフレクション
	4	指導案作成・配布・リフレクション
	5	指導案作成・配布・リフレクション
	6	指導案作成・配布・リフレクション
	7	指導案作成・配布・リフレクション
	8	指導案作成・配布・リフレクション
	9	指導案作成・配布・リフレクション
	10	指導案作成・配布・リフレクション
	11	指導案作成・配布・リフレクション
	12	指導案作成・配布・リフレクション
	13	指導案作成・配布・リフレクション
	14	指導案作成・配布・リフレクション
	15	リフレクション
	16	リフレクション・最終提出
	テキスト・参考文献・資料など	
	<p>【テキスト】 中学校・高等学校の国語科教科書 『中学校学習指導要領解説 国語編』 文部科学省 2017 『高等学校学習指導要領解説 国語編』 文部科学省 【参考文献】 授業中に適宜資料を配付する。</p>	
	学びの手立て	
	<p>①「国語科教育法Ⅰ・Ⅱ」の単位を取得していること。 ②履修前の所定の期日に行われるテストを受け、合格しなければならない。 ③無断欠席・遅刻・途中退席は一切認めない。 ④毎週1人、授業開始前に、1分間スピーチを行う。 ⑤授業終了後、翌週までにリフレクションシートを作成し、受講者及び教員に配布すること。</p>	
	評価	
	指導案の内容、取り組み状況（事前指導含む）、討論への参加状況（80%）、模擬授業の発表内容（20%）	

学びの継続	<p>次のステージ・関連科目</p> <p>(1) 関連科目【上位科目】国語科教育法演習Ⅱ（4年次・前期） (2) 次のステージ 国語科教育法演習Ⅱでは、個人で学習指導案作成を行う。 教材の価値・学習者にとっての意味という視点に立った、実際の授業を想定した指導案作成の力が求められる。 【教員養成の目標との関連】1・2</p>
-------	---

科目基本情報	科目名	期別	曜日・時限	単位
	国語科教育法演習Ⅰ	後期	火4	2
	担当者	対象年次	授業に関する問い合わせ	
	田場 裕規	3年	ytaba@okiu.ac.jp	

学びの準備	ねらい	メッセージ
	<p>教育実習における研究授業を想定した模擬授業をおこないます。前期の国語科教育法等でおこなった教材研究を応用しつつ、各自が担当する教材をもとに模擬授業をおこないます。教材研究を行うために必要な見識を深め、さらに基本的な授業実践力を身に付けることがねらいです。</p>	<p>・ 模擬授業担当者は、事前に教員の指導を受け、担当する回の1週間前に、教材研究資料、学習指導案（教材観・指導目標・指導計画・授業細案・発問計画・教材の分析等を含む）を配布したうえで模擬授業に臨んでください。・ 教職課程に関わる事務的な手続きをしっかりと行いましょう。【実務経験】高等学校教諭だった現場経験を生かして、授業実践に関する視点を意識した指導を行います。</p>
到達目標	<p>1 教材研究、学習指導案を踏まえた基本的な授業実践力を身に付ける。 2 模擬授業を振り返り、省察を繰り返すことで、指導技術の向上に資する授業実践の視点を身に付ける。</p>	

学びの実践	学びのヒント	授業計画		
	回	テーマ	時間外学習の内容	
	1	ガイダンス	次時の資料の検討	
	2	国語科授業づくりの視点と工夫	次時の資料の検討	
	3	言語活動、アクティブラーニングと国語の学び、ICTの活用	次時の資料の検討	
	4	模擬授業と研究討議1（中学校 文学的文章教材「故郷」）読むこと	次時の資料の検討	
	5	模擬授業と研究討議2（中学校 説明的文章教材「モアイは語る」）読むこと	次時の資料の検討	
	6	模擬授業と研究討議3（中学校 音声言語表現教材「スピーチ」）話すこと聞くこと	次時の資料の検討	
	7	模擬授業と研究討議4（中学校 文章表現教材「鑑賞文を書く」）書くこと	次時の資料の検討	
	8	模擬授業と研究討議5（高等学校 文学的文章教材「とんかつ」）読むこと	次時の資料の検討	
	9	模擬授業と研究討議6（高等学校 説明的文章教材「水の東西」）読むこと	次時の資料の検討	
	10	模擬授業と研究討議7（高等学校 音声言語表現教材「意見を述べる」）話すこと聞くこと	次時の資料の検討	
	11	模擬授業と研究討議8（高等学校 文章表現教材「手紙を書く」）書くこと	次時の資料の検討	
	12	模擬授業と研究討議9（中学校 言語文化教材「竹取物語」）古文	次時の資料の検討	
	13	模擬授業と研究討議10（高等学校 言語文化教材「白水素女」）漢文	次時の資料の検討	
	14	模擬授業と研究討議11（中・高校共通 文学的文章教材「I was born」）韻文	次時の資料の検討	
15	模擬授業と研究討議12（中・高校共通 郷土教材「執心鐘入」）戯曲	次時の資料の検討		
16	総括	授業の振り返り		
実践	テキスト・参考文献・資料など	必要に応じて紹介する。または、プリント等を適宜配布します（熟読すること）。		
学びの手立て	<ul style="list-style-type: none"> <li>・ 模擬授業では授業記録をつけ、具体的な応答、指示、発問に対する反応、教師の動きなどをまとめておきましょう。</li> <li>・ 模擬授業者は、担当した授業後、リフレクションシートを作成し、次回提出してください。</li> </ul>			
評価	教材研究資料、学習指導案（40%）、模擬授業（40%）、授業態度、授業参加状況（20%）			

学びの継続	次のステージ・関連科目
	国語科教育法演習Ⅱ、教育実習指導、教育実習A、教育実習B、教職実践演習

※ポリシーとの関連性

本学の教員養成の目標 1・2（採用当初から、教科等の専門的知識・技能を有し、実践的指導力のある教員）の養成。に関連する。

[ /演習]

科目基本情報	科目名 国語科教育法演習Ⅱ	期別 前期	曜日・時限 火 5	単位 2
	担当者 桃原 千英子	対象年次 4年	授業に関する問い合わせ	
			授業終了後に、教室で受け付けます。 またはメールにて。	

学びの準備	ねらい 国語科教育法等で行った教材研究を応用しつつ、各自が担当する教材をもとに指導案（教材観・指導目標・指導計画・授業細案・発問計画・教材の分析等を含む）を作成する。教育実習における研究授業を想定して模擬授業を行い、教材の価値・学習者にとっての意味という視点に立って質疑応答を行い、授業改善の方法を検討する。	メッセージ 中学教諭としての現場経験を活かして、国語科教育の基礎理論や学習者の実態を反映した学習デザインを解説する。履修前に実施するテストの合格者のみ、履修が認められる。教育実習における研究授業を想定した模擬授業を行う。発問の工夫・応答予想も具体的に考えること。
	到達目標 指導目標を明確にした、学習指導案を作成することができる。 学習者の思考を促す発問と、予想される応答を考えることができる。 板書、ワークシートを工夫することができる。	

学びの実践	学びのヒント 授業計画		
	回	テーマ	時間外学習の内容
	1	ガイダンス	指導案作成
	2	国語科授業の改善と工夫について（講義）	指導案作成
	3	模擬授業と研究討議について【読むこと・文学的文章教材（小説）】情報機器の活用	指導案作成・配布・リフレクション
	4	模擬授業と研究討議について【読むこと・文学的文章教材（随筆）】情報機器の活用	指導案作成・配布・リフレクション
	5	模擬授業と研究討議について【読むこと・文学的文章教材（韻文）】情報機器の活用	指導案作成・配布・リフレクション
	6	模擬授業と研究討議について【読むこと・説明的文章教材（説明文）】情報機器の活用	指導案作成・配布・リフレクション
	7	模擬授業と研究討議について【読むこと・説明的文章教材（論説文）】情報機器の活用	指導案作成・配布・リフレクション
	8	模擬授業と研究討議について【読むこと・説明的文章教材（評論）】情報機器の活用	指導案作成・配布・リフレクション
	9	模擬授業と研究討議について【話すこと】情報機器の活用	指導案作成・配布・リフレクション
	10	模擬授業と研究討議について【聞くこと】情報機器の活用	指導案作成・配布・リフレクション
	11	模擬授業と研究討議について【書くこと（文学的文章）】情報機器の活用	指導案作成・配布・リフレクション
	12	模擬授業と研究討議について【書くこと（論理的文章・再現的文章）】情報機器の活用	指導案作成・配布・リフレクション
	13	模擬授業と研究討議について【我が国の言語文化に関する事項（古文）】情報機器の活用	指導案作成・配布・リフレクション
	14	模擬授業と研究討議について【我が国の言語文化に関する事項（漢文）】情報機器の活用	指導案作成・配布・リフレクション
15	模擬授業と研究討議について【言葉の特徴や使い方に関する事項（文法・漢字）】情報機器の活用	指導案作成・配布・リフレクション	
16	模擬授業と研究討議について【言葉の特徴や使い方に関する事項（言葉の特徴）】情報機器の活用	リフレクション・最終提出	
	テキスト・参考文献・資料など 【テキスト】 中学校・高等学校の国語科教科書 『中学校学習指導要領解説 国語編』 文部科学省 2017 『高等学校学習指導要領解説 国語編』 文部科学省 【参考文献】 授業中に適宜資料を配付する。		
	学びの手立て ①「国語科教育法演習Ⅰ」の単位を修得していること。 ②履修前の所定の期日に行われるテストを受け、合格しなければならない。 ③無断欠席・遅刻・途中退席は一切認めない。 ④毎週1人、授業開始時に1分間スピーチを行う。教育や社会情勢をテーマに、考えておくこと。 ⑤授業担当者は、指導案等について事前指導を受けること。 ⑥模擬授業担当者は、模擬授業終了後翌週までに授業のリフレクションシートを作成し、受講者及び教員に配布すること。 ⑦授業終了後、翌週までにリフレクションシートを作成し、受講者及び教員に配布すること。		
	評価 指導案の内容、取り組み状況（事前指導含む）、討論への参加状況（80%）、模擬授業の発表内容（20%）		

学びの継続	次のステージ・関連科目 (1) 関連科目【上位科目】教育実習A・B（4年次・前期）教育実践演習（4年次・後期） (2) 次のステージ 教育実習では、専門的な教材分析の力、学習者の実態に応じた指導案作成が求められる。 【教員養成の目標との関連】 1・2・3
-------	--

科目基本情報	科目名	期別	曜日・時限	単位
	国語科教育法演習Ⅱ	前期	火5	2
	担当者	対象年次	授業に関する問い合わせ	
	田場 裕規	4年	ytaba@okiu.ac.jp	

学びの準備	ねらい	メッセージ
	<p>・教育実習における研究授業を想定した模擬授業をおこないます。国語科教育法ⅠⅡ、国語科教育法演習Ⅰでおこなった教材研究を応用しつつ、各自が担当する教材をもとに模擬授業をおこないます。</p> <p>到達目標</p> <p>1 教材研究、学習指導案を踏まえた基本的な授業実践力を身に付ける。</p> <p>2 模擬授業を振り返り、省察を深めることで、指導技術の向上に資する授業実践の視点を身に付ける。</p>	<p>模擬授業担当者は、教員の指導を受け、担当する回の1週間前までに、教材研究資料、学習指導案（教材観・指導目標・指導計画・授業細案・発問計画・教材の分析等）を作成し、受講者配布したうえで模擬授業に臨んでください。・教職課程に関わる事務的な手続きをしっかりと行いましょう。【実務経験】高等学校教諭だった現場経験を生かして、授業実践に関する視点を意識した指導を行います。</p>

学びの実践	学びのヒント		
	授業計画		
	回	テーマ	時間外学習の内容
	1	ガイダンス	次時の資料の検討
	2	国語科授業づくりの視点と工夫	次時の資料の検討
	3	言語活動、アクティブラーニングと国語の学び、ICTの活用	次時の資料の検討
	4	模擬授業と研究討議1（中学校 文学的文章教材「形」）読むこと	次時の資料の検討
	5	模擬授業と研究討議2（中学校 説明的文章教材「恥ずかしい話」）読むこと	次時の資料の検討
	6	模擬授業と研究討議3（中学校 音声言語表現教材「パネルディスカッション」）話すこと聞くこと	次時の資料の検討
	7	模擬授業と研究討議4（中学校 文章表現教材「反対を想定して書く一意文」）書くこと	次時の資料の検討
	8	模擬授業と研究討議5（高等学校 文学的文章教材「血であがなったもの」）読むこと	次時の資料の検討
	9	模擬授業と研究討議6（高等学校 説明的文章教材「手の変幻」）読むこと	次時の資料の検討
	10	模擬授業と研究討議7（高等学校 音声言語表現教材「ディベート」）話すこと聞くこと	次時の資料の検討
	11	模擬授業と研究討議8（高等学校 文章表現教材「説明文を書く」）書くこと	次時の資料の検討
	12	模擬授業と研究討議9（中学校 言語文化教材「おくの細道」）古文	次時の資料の検討
	13	模擬授業と研究討議10（高等学校 言語文化教材「桃花源記」）漢文	次時の資料の検討
14	模擬授業と研究討議11（中・高校共通 文学的文章教材「六月」）韻文	次時の資料の検討	
15	模擬授業と研究討議12（中・高校共通 郷土教材「琉歌」）	次時の資料の検討	
16	総括	授業の振り返り	
	テキスト・参考文献・資料など		
	必要に応じて紹介する。または、プリント等を適宜配布する（熟読すること）。		
	学びの手立て		
	<ul style="list-style-type: none"> <li>・模擬授業では授業記録をつけ、具体的な応答、指示、発問に対する反応、教師の動きなどをまとめておきましょう。</li> <li>・模擬授業者は、担当した授業後、リフレクションシートを作成し、次回提出してください。</li> </ul>		
	評価		
	教材研究資料、学習指導案（40%）、模擬授業（40%）、授業態度、授業参加状況（20%）		

学びの継続	次のステージ・関連科目
	教育実習指導、教育実習A、教育実習B、教職実践演習

※ポリシーとの関連性

本学の教員養成の目標1・2（採用当初から、教科等の専門的知識・技能を有し、実践的指導力のある教員）の養成。に関連する。

[ /一般講義]

科目基本情報	科目名	期別	曜日・時限	単位
	国語科教育法Ⅰ	後期	火5	2
	担当者	対象年次	授業に関する問い合わせ	
	桃原 千英子	2年	授業終了後に教室で、またはメールで受け付けます。	

学びの準備	ねらい	メッセージ
	<p>中学校及び高等学校国語科教師を目指す学生のための、入門的な科目である。国語科教育学の諸領域に関する歴史と理論の概要を理解するとともに、実践事例を検討して優れた点に学び、自らの教材研究・授業構想に生かすための基礎を身につけることを目標とする。</p> <p>到達目標 学習指導要領に関する基礎的知識と、国語科教育学の基礎を身に付け、実践論文をもとに学習の実体を分析、検討することができる。新たな学習デザインや、学習方法の改善策を考えることができる。</p>	<p>中学教諭としての現場経験を活かして、国語科教育の基礎理論を授業実践例を紹介しながら解説する。 履修前に実施するテストの合格者のみ、履修が認められる。 国語科の基礎的能力を身に付け、学習指導力をつけておくこと。</p>

学びの実践	学びのヒント		
	授業計画		
	回	テーマ	時間外学習の内容
	1	ガイダンス	レポート課題
	2	国語科教育法を学ぶにあたって（講義）	レポート課題・グループ課題
	3	国語科の授業構築に向けて（講義）	レポート課題・グループ課題
	4	表現（「書くこと」）教育の研究について(1) 報告・考察	レポート課題・グループ課題
	5	表現（「書くこと」）教育の研究について(2) 実践論文分析・考察	レポート課題・グループ課題
	6	文学教育の研究について(1) 報告・考察	レポート課題・グループ課題
	7	文学教育の研究について(2) 実践論文分析・考察	レポート課題・グループ課題
	8	説明的文章教育の研究について(1) 報告・考察	レポート課題・グループ課題
	9	説明的文章教育の研究について(2) 実践論文分析・考察	レポート課題・グループ課題
	10	読書教育の研究について(1) 報告・考察	レポート課題・グループ課題
	11	読書教育の研究について(2) 実践論文分析・考察	レポート課題・グループ課題
	12	音声言語教育の研究について(1) 報告・考察	レポート課題・グループ課題
	13	音声言語教育の研究について(2) 実践論文分析・考察	レポート課題・グループ課題
14	〔我が国の言語文化と国語の特質に関する事項〕の指導に関する研究について報告・考察	レポート課題・グループ課題	
15	情報機器の活用（電子黒板等の情報機器を活用した実践）について（講義）	レポート課題・グループ課題	
16	総括・期末試験	期末試験の復習	
	テキスト・参考文献・資料など		
	森田信義・山元隆春・山元悦子・千々岩弘一『新訂国語科教育学の基礎』溪水社 2010 全国大学国語教育学会編『新たな時代の学びを創る 中学校・高等学校 国語科教育研究』東洋館出版社 2019 予定 『中学校学習指導要領解説 国語編』 文部科学省 2017 『高等学校学習指導要領解説 国語編』 文部科学省		
	学びの手立て		
	①中学校及び高等学校国語科の教員免許を取得するための必修科目である。 ②履修前の所定の期日に行われるテストを受け、合格しなければならない。 ③無断欠席・遅刻・途中退回は一切認めない。 ④授業外の課題や、グループ活動などへの参加が要求される。		
	評価		
	課題レポートの内容、取組状況、討論参加状況等（60%）、期末試験（40%）		

学びの継続	次のステージ・関連科目 （1）関連科目【上位科目】国語科教育法Ⅱ（3年次・前期）国語科教育法演習Ⅰ（3年次・後期）国語科教育法演習Ⅱ（4年次・前期）（2）次のステージ 国語科教育法Ⅱでは、グループでの教材研究・学習指導案作成を行う。国語科教育学の基礎を学び、それを実践に活かす事が求められる。【教員養成の目標との関連】1・2
-------	---

※ポリシーとの関連性

本学の教員養成の目標1・2（採用当初から、教科等の専門的知識・技能を有し、実践的指導力のある教員）の養成。に関連する。

[ /一般講義]

科目基本情報	科目名	期別	曜日・時限	単位
	国語科教育法Ⅱ	前期	火4	2
	担当者	対象年次	授業に関する問い合わせ	
	桃原 千英子	3年	授業終了後に、教室で受け付けます。 またはメールにて。	

学びの準備	ねらい	メッセージ
	<p>国語科の授業における諸教材について、素材としての分析のみならず、教材としての価値、学習者にとっての意味という視点をもって研究を深め、実際の授業を想定した学習指導案の作成ができるようになることを目標とする。</p> <p>到達目標</p> <p>①学習指導案の書き方の基本的な構成・項目等を知り、実際に学習指導案の細案を作成することができる。 ②教材研究に必要な基本的な文献の検索方法及び先行実践研究等をもとにした、学習素材分析・教材分析を行うことができる。 ③情報機器の操作等に習熟し、授業実践に活用することができる。</p>	<p>中学教諭としての現場経験を活かして、国語科教育の基礎理論を指導案作成に反映できるよう解説する。 履修前に実施するテストの合格者のみ、履修が認められる。 国語科教育法Ⅰで学んだ、国語科教育学の基礎的知識・技能をもとに、学習指導案を作成します。教材文の読解力をつけておくこと。</p>

学びの実践	学びのヒント		
	授業計画		
	回	テーマ	時間外学習の内容
	1	ガイダンス	教材研究（教材を読み込む）
	2	授業と学習指導案について（講義）	復習（用語の確認）指導案作成
	3	教材化の視点について、情報機器の活用と授業実践（講義）	指導案作成
	4	学習指導案の研究について 【読むこと・文学的文章教材（小説）】	指導案作成
	5	学習指導案の研究について 【読むこと・文学的文章教材（随筆・韻文）】	指導案作成
	6	学習指導案の研究について 【読むこと・説明的文章教材（説明文）】	指導案作成
	7	学習指導案の研究について 【読むこと・説明的文章教材（論説文・評論）】	指導案作成
	8	学習指導案の研究について 【話すこと】	指導案作成
	9	学習指導案の研究について 【聞くこと】	指導案作成
	10	学習指導案の研究について 【書くこと（文学的文章）】	指導案作成
	11	学習指導案の研究について 【書くこと（論理的文章・再現的文章）】	指導案作成
	12	学習指導案の研究について 【我が国の言語文化に関する事項（古文）】	指導案作成
	13	学習指導案の研究について 【我が国の言語文化に関する事項（漢文）】	指導案作成
14	学習指導案の研究について 【言葉の特徴や使い方に関する事項（文法・漢字）】	指導案作成	
15	学習指導案の研究について 【言葉の特徴や使い方に関する事項（言葉の特徴）】	リフレクション	
16	総括	リフレクション作成・提出	
	テキスト・参考文献・資料など		
	<p>【テキスト】</p> <p>中学校・高等学校の国語科教科書 『中学校学習指導要領解説 国語編』 文部科学省 2017 『高等学校学習指導要領解説 国語編』 文部科学省</p> <p>【参考文献】</p> <p>授業中に適宜資料を配付する。</p>		
	学びの手立て		
	<p>①「国語科教育法Ⅰ」の単位を修得していること。 ②履修前の所定の期日に行われるテストを受け、合格しなければならない。 ③無断欠席・遅刻・途中退席は一切認めない。 ④授業外の課題やグループ活動などへの参加が要求される。</p>		
	評価		
	課題レポートの内容、取り組み状況、討論への参加状況（80%）、模擬授業の発表内容（20%）		

学びの継続	<p>次のステージ・関連科目</p> <p>(1) 関連科目【上位科目】国語科教育法演習Ⅰ（3年次・後期）国語科教育法演習Ⅱ（4年次・前期） (2) 次のステージ 国語科教育法演習Ⅰでは、個人で教材研究・学習指導案作成を行う。ワークシートや板書の工夫も求められ、より実践的な力が必要とされる。【教員養成の目標との関連】1・2</p>
-------	--

科目基本情報	科目名	期別	曜日・時限	単位
	国語科教育法Ⅱ	前期	火4	2
	担当者	対象年次	授業に関する問い合わせ	
	田場 裕規	3年	ytaba@okiu.ac.jp	

学びの準備	ねらい	メッセージ
	<p>本講は国語科の授業における教材について、素材としての分析のみならず、教材としての価値、学習者にとっての意味という視点をもって研究を深め、実際の授業を想定した学習指導案の作成ができるようになることをねらいとします。</p>	<p>・真に教員を目指す学生が受講するように。・事前指導の日程調整をしっかりと行いましょう。・教職関係の事務的な手続きをしっかりと行いましょう。・国語科教員の姿を具体的にイメージし、資格のための学びではなく、子どもたちのための学びを追求する視点を持ちましょう。【実務経験】高等学校教諭だった現場経験を生かして、授業実践に関する視点を意識した指導を行います。</p>
到達目標	<p>1 教材研究の方法を学び、教材研究資料を作成できるようになる。 2 学習指導案の作成方法を学び、授業実践を想定した指導案が作成できるようになる。</p>	

学びの実践	学びのヒント		
	授業計画		
	回	テーマ	時間外学習の内容
	1	ガイダンス	シラバスの確認
	2	授業と学習指導案	学習指導要領等の予習
	3	国語科教材論と教材化の視点、アクティブ・ラーニングについて、ICTの活用	次時資料の検討、予習
	4	教材研究と学習指導案の研究1（中学校 文学的文章教材「遠い山脈」）読むこと	次時資料の検討、予習
	5	教材研究と学習指導案の研究2（中学校 説明的文章教材「絶滅の意味」）読むこと	次時資料の検討、予習
	6	教材研究と学習指導案の研究3（中学校 音声言語表現教材「効果的に説明する」）話すこと聞くこと	次時資料の検討、予習
	7	教材研究と学習指導案の研究4（中学校 文章表現教材「批評文を書く」）書くこと	次時資料の検討、予習
8	教材研究と学習指導案の研究5（高等学校 文学的文章教材「ナイン」）読むこと	次時資料の検討、予習	
9	教材研究と学習指導案の研究6（高等学校 説明的文章教材「『見る』」）読むこと	次時資料の検討、予習	
10	教材研究と学習指導案の研究7（高等学校 音声言語表現教材「話し合い」）話すこと聞くこと	次時資料の検討、予習	
11	教材研究と学習指導案の研究8（高等学校 文章表現教材「創作をする」）書くこと	次時資料の検討、予習	
12	教材研究と学習指導案の研究9（中学校 言語文化教材「万葉集・古今集・新古今集」）古文	次時資料の検討、予習	
13	教材研究と学習指導案の研究10（高等学校 言語文化教材「花は盛りに」）古文	次時資料の検討、予習	
14	教材研究と学習指導案の研究11（中高共通 言語文化教材「論語」）漢文	次時資料の検討、予習	
15	教材研究と学習指導案の研究12（中高共通 文学的文章教材・郷土教材「弾を浴びた島」）韻文	次時資料の検討、予習	
16	総括	授業の振り返り	
実践	テキスト・参考文献・資料など	各自の必要に応じて中学校・高等学校の教科書を購入してください。	
学びの手立て	国語教育指導用語事典（教育出版）、国語教育総合事典（朝倉書店）で下調べを行い、まずは、先行する実践研究に学びましょう。		
評価	発表資料（70%）、授業参加状況・授業態度（発表の内容、討論への参加状況、提出物、出席状況等）（30%）		

学びの継続	次のステージ・関連科目 国語科教育法演習Ⅰ、国語科教育法演習Ⅱ
-------	------------------------------------

※ポリシーとの関連性 「実社会で活躍できる人材の育成」に関連する講義であり、IT技術における基礎知識を学びます。

[ /実験実習]

科目基本情報	科目名	期別	曜日・時限	単位
	システム設計実習	後期	水5	1
	担当者	対象年次	授業に関する問い合わせ	
	小渡 悟	2年	E-mail: sodo@okiu.ac.jp	

学びの準備	ねらい LEGO MINDSTORMSを用いて移動自律ロボットを組み立て、センサからの外部入力に応じてロボットの動きを制御する仕組みを学ぶ。タイムトライアルによる競技を通して制御プログラムについて各自が創意工夫を行うことで問題解決能力を身につけることを目指す。	メッセージ ETロボコン2019デベロッパー部門プライマリークラスの課題に挑戦します。 チームで力を合わせて取り組みましょう。
	到達目標 ロボットの構造・動作の仕組みを理解し、チームで課題を共有し制御システムを構築することができる。	

学びの実践	学びのヒント 授業計画		
	回	テーマ	時間外学習の内容
	1	オリエンテーション	教科書・参考書の内容確認
	2	ロボット作成、開発環境の設定	当該演習の復習/次回演習の予習
	3	制御プログラミング(1)	当該演習の復習/次回演習の予習
	4	制御プログラミング(2)	当該演習の復習/次回演習の予習
	5	ライントレース(ミニ競技会)	当該演習の復習/次回演習の予習
	6	オブジェクト指向とUML	当該演習の復習/次回演習の予習
	7	UMLモデリング(1)	当該演習の復習/次回演習の予習
	8	UMLモデリング(2)	当該演習の復習/次回演習の予習
	9	UMLモデリング(3)	当該演習の復習/次回演習の予習
	10	障害物回避(ミニ競技会)	当該演習の復習/次回演習の予習
	11	全体の総復習	当該演習の復習/次回演習の予習
	12	グループ製作によるシステムの企画・開発(1)	課題作成
	13	グループ製作によるシステムの企画・開発(2)	課題作成
	14	グループ製作によるシステムの企画・開発(3)	課題作成
15	グループ製作によるシステムの企画・開発(4)	課題作成・発表準備	
16	競技会	課題作成・発表準備	
テキスト・参考文献・資料など 竹政昭利 他「かんたんUML入門」技術評論社(2013) ETロボコン実行委員会「ロボットレースによる組込み技術者養成講座」毎日コミュニケーションズ(2008) 河合昭男「ゼロからわかるUML超入門」技術評論社(2010) オージス総研「その場でつかえるしっかり学べるUML2.0」秀和システム(2006) 桐越信一他「UMLモデリング教科書 UMLモデリングL2 第2版」翔泳社(2008)			
学びの手立て 難解な部分も多いので予習・復習を怠らないようにしてください。 テキスト以外の参考文献、またWeb上の情報通信に関する資料を積極的に利用するようにしてください。			
評価 グループ制作によるシステムの完成度(40%)、個人制作によるシステムの完成度(40%)、ならびに、演習への参加度(20%)などを勘案して総合的に行う。 総合評価の9割以上「秀」、8割以上「優」、7割以上「良」、6割以上「可」とし6割未満「不可」とする。			

学びの継続	次のステージ・関連科目 関連科目：情報処理システム論、情報通信ネットワーク実習
-------	--

科目基本情報	科目名	期別	曜日・時限	単位
	自然地理学概論	前期	木6	2
	担当者	対象年次	授業に関する問い合わせ	
	-前門 晃	1年	am2597@me.au-hikari.ne.jp	

学びの準備	ねらい	メッセージ
	私達が生活する地球の表面では、さまざまな自然現象がみられ、私たちの生活は自然現象から大きな影響を受けている。その自然現象も地球の歴史を通して変化している。地球の表面にみられる気候、土、地形、水について、私たちの住んでいる沖縄からみることによって、自然の認識の仕方について考える。	教科書には、自然環境の話がでできます。皆さんが教壇に立ったとき、自然環境について楽しく教えられるように、生徒の100歩先を行く知識を身につけられるようにします。
到達目標	私達が暮らす沖縄・琉球列島には、他府県には見られない特徴的な自然環境があります。特徴的な自然環境の実態、その仕組みを理解することによって、地域の自然環境に自信と誇りを持てるようになり、自然環境とどのように向き合っているのかの知恵が得られます。自然環境の仕組みについての知識を習得し、沖縄・琉球列島の地域特性を理解する能力を養い、沖縄・琉球列島の自然環境が抱える課題を解決する能力を身につける。	

学びの実践	学びのヒント		
	授業計画		
	回	テーマ	時間外学習の内容
	1	ガイドダンス	シラバスをよく読むこと
	2	サンゴ礁を育む島々の気候	参考文献①④
	3	島をとりまくサンゴ礁とその成り立ち (1)	参考文献①②
	4	島をとりまくサンゴ礁とその成り立ち (2)	参考文献①②
	5	島をとりまくサンゴ礁とその成り立ち (3)	参考文献①②
	6	海面と地殻の変動を記録する石灰岩段丘 (1)	参考文献①②③
	7	海面と地殻の変動を記録する石灰岩段丘 (2)	参考文献①②③
	8	溶けゆく島々 (石灰岩の溶食) (1)	配布する資料の参考文献
	9	溶けゆく島々 (石灰岩の溶食) (2)	配布する資料の参考文献
	10	地下ダム	配布する資料の参考文献
	11	溶かされたサンゴ礁—熱帯カルスト (1)	参考文献①
	12	溶かされたサンゴ礁—熱帯カルスト (2)	参考文献①
	13	隆起サンゴ礁の赤い土—島尻マージ (1)	配布する資料の参考文献
	14	隆起サンゴ礁の赤い土—島尻マージ (2)	配布する資料の参考文献
15	石灰岩と沖縄社会	配布する資料の参考文献	
16	期末試験		

実践	テキスト・参考文献・資料など
	<p>テキスト：使用しません。資料を配布します。配布する資料に参考文献が記載されています。</p> <p>参考文献：①河名俊男(1988)：『琉球列島の地形』新星図書出版                  ②町田 洋ほか(2001)：『日本の地形7 九州・南西諸島』東京大学出版会                  ③氏家 宏編(1990)：『沖縄の自然：地形と地質』ひるぎ社                  ④中村和夫・氏家 宏・池原貞夫・田川日出夫・堀 信行(1996)：『日本の自然 地域編8 南の島々』岩波書店</p>

学びの手立て	高等学校教諭一種免許状「地理歴史」、中学校教諭一種免許状「社会」に必要な科目です。授業のまとめを書かせます。
--------	--

評価	<p>期末試験：70点 上記の到達目標を評価する</p> <p>平常点：30点 授業時間中の提出物を評価する</p>
----	--

学びの継続	<p>次のステージ・関連科目</p> <p>地球表面の姿がどのようにして形作られてきたのかを理解できるようになる。</p> <p>関連科目：「自然地理学特講」</p>
-------	---

科目基本情報	科目名	期別	曜日・時限	単位
	自然地理学特講	後期	木6	2
	担当者	対象年次	授業に関する問い合わせ	
	-前門 晃	1年	am2597@me.au-hikari.ne.jp	

学びの準備	ねらい 私達が生活する地球の表面はさまざまな姿をしており、その姿は地球の歴史を通して変貌してきた。現在私達が目の前にする地球表面の姿がどのようにして形作られてきたのか、地面の姿のできかたを考える。	メッセージ 教科書には、自然環境の話がでできます。皆さんが教壇に立ったとき、自然環境について楽しく教えられるように、生徒の100歩先を行く知識を身につけられるようにします。
	到達目標 地球表面に見られる自然環境は、どこでも同じような仕組みで成り立っています。私達が暮らす沖縄・琉球列島には、他府県には見られない特徴的な自然環境がありますが、その仕組みも同様です。自然環境の仕組みについての知識を習得し、沖縄・琉球列島の地域特性を理解する能力を養い、沖縄・琉球列島の自然環境が抱える課題を解決する能力を身につける。	

学びの実践	学びのヒント 授業計画		
	回	テーマ	時間外学習の内容
	1	ガイダンス	シラバスをよく読むこと
	2	河川の作用 (1)	参考文献①②, 資料中の参考文献
3	河川の作用 (2)	参考文献①②, 資料中の参考文献	
4	河川の作用 (3)	参考文献①②, 資料中の参考文献	
5	土壌侵食：赤土流出 (1)	参考文献①②③④, 資料中の参考文献	
6	土壌侵食：赤土流出 (2)	参考文献①②③④, 資料中の参考文献	
7	土壌侵食：赤土流出 (3)	参考文献①②③④, 資料中の参考文献	
8	土壌侵食：赤土流出 (4)	参考文献①②③④, 資料中の参考文献	
9	河谷地形 (1)	参考文献①②, 資料中の参考文献	
10	河谷地形 (2)	参考文献①②, 資料中の参考文献	
11	河谷地形 (3)	参考文献①②, 資料中の参考文献	
12	海岸地形 (1)	参考文献①②, 資料中の参考文献	
13	海岸地形 (2)	参考文献①②, 資料中の参考文献	
14	海岸地形 (3)	参考文献①②, 資料中の参考文献	
15	海岸地形 (4)	参考文献①②, 資料中の参考文献	
16	期末試験		
	テキスト・参考文献・資料など テキスト：使用しません。資料を配布します。配布する資料に参考文献が記載されています。 参考文献：①町田 貞 (1984)：『地形学』大明堂 ②佐藤 久・町田 洋 (1990)：『地形学』朝倉書店 ③氏家 宏編 (1990)：『沖縄の自然：地形と地質』ひるぎ社 ④中村和夫・氏家 宏・池原貞夫・田川日出夫・堀 信行 (1996)：『日本の自然 地域編8 南の島々』岩波書店		
	学びの手立て 高等学校教諭一種免許状「地理歴史」に必要な科目です。授業のまとめを書かせます。冬休みにレポートを課します。レポートのテーマは冬休みの前の授業時間に知らせます。		
	評価 期末試験：50点 上記の到達目標を評価する レポート：30点 上記の到達目標を評価する 平常点：20点 授業時間中の提出物を評価する		

学びの継続	次のステージ・関連科目
-------	-------------

※ポリシーとの関連性

教育職員免許法に定める「教職に関する科目」の「教育課程及び指導法に関する科目」の内、高校公民科の指導法に係る科目。

[ /一般講義]

科目基本情報	科目名	期別	曜日・時限	単位
	社会科・公民科教育法	前期	水 5	2
	担当者	対象年次	授業に関する問い合わせ	
	芝田 秀幹	3年	hidekis@okiu.ac.jp	

学びの準備	ねらい	メッセージ
	わが国の中等社会科教育、特に公民科教育の歴史、目的及び内容の批判的検討ならびに教材研究と授業方法を学ぶことで、中等社会科教育、特に公民科教育の理論の修得をめざす。	後期の「社会科・公民科教育法演習」も同一教員(芝田)・同一クラスで受講するので通年のゼミという理解で受講して下さい。内容も演習形式で行い、課題が毎回のようにあります。本来は公民科が好きで得意という学生が受講する科目です。しかしこの点が不十分な者がいますので、学期末に公民科学力試験を実施します。まだ時間はたっぷりあります。合格するよう準備をしてください。
到達目標	公民科3科目(現代社会、倫理、政治・経済)のカリキュラム構造、公民科をはじめとするわが国の中等社会科教育の歴史、公民科教材研究の方法及び指導案作成の方法についての知識・理解ならびに公民科の教材づくりの技能が身につく。日常的に自学科の専門教育科目から教材研究のヒントを見つけようとする関心・意欲・態度が身につく。今日の公民科授業はどうあるべきかを批判的かつ創造的に思考・判断できるようになる。これらを通して後期の模擬授業に向けての知識・理解、技能、思考力・判断力・表現力、関心・意欲・態度が身につく。	

学びの実践	学びのヒント		
	授業計画		
	回	テーマ	時間外学習の内容
	1	講義ガイダンス	前期スケジュールの理解・試験対策
	2	学級組織編成 / 公民科教材研究のための批判的リテラシーの方法	社説の要旨読み
	3	「現代社会」のカリキュラム構造	教科書指導要領専攻親学問対照
	4	「倫理」のカリキュラム構造	同上
	5	「政治・経済」のカリキュラム構造	同上
	6	わが国の中等社会科の成立と展開 1 「公民」概念の変遷	公民概念変遷調べ、公民概念指定
	7	わが国の中等社会科の成立と展開 2 「公民」名称復活の問題性	公民用語復活理由考究
	8	高校社会科解体の問題性 1 地理歴史科と公民科分離の問題点	社会科≠地歴科+公民科理由考究
	9	高校社会科解体の問題性 2 社会科解体の対抗軸を考える	地歴科と公民科再統合方法考究
	10	公民科授業づくりの工夫 1 日常の世界から科学の世界へ、「ウソッ!」「ホント!」教材	人間網目法則調べ、教材づくり
	11	公民科授業づくりの工夫 2 絵・図・マンガの教材化、実際にやっておもしろい、社会認識変革教材	教材づくり
	12	公民科授業づくりの工夫 3 一つのものから社会のしくみへ、音楽・歌の教材化、ICTの活用	同上
	13	公民科学習指導案づくりの方法 1 学習指導案づくりの方法	「教育課程・教育方法」の復習
	14	公民科学習指導案づくりの方法 2 学力観の変遷と公民科指導目標の設定方法、学習評価方法	指導案例集精読
15	講義のまとめと学力試験・夏休みの課題について		
16	予備		

実践	テキスト・参考文献・資料など
	テキスト：1.配付する資料集。2.現代社会、倫理、政治・経済の教科書(一括して注文・購入します。)。主要参考文献：文部科学省『高等学校学習指導要領』2009年、2018年。

学びの手立て	①履修の心構え：初回にクラス分け(芝田クラスと三村先生クラス)を行うが、少人数の場合は芝田クラスのみ開講となる。教育実習事前指導科目として位置づけるので遅刻や無断欠席を絶対にはならない。②前期末に公民科学力試験を行う。不合格者は後期の同演習を受講できないので、注意すること(大学入試センター試験レベル。6割以上の成績が合格の目安)。③教科に関する科目や自学科専門教育科目は公民科の親学問を構成し、教科内容の供給源となっているので、それらの科目に教材研究のヒントが多く隠されている。そのことを意識してそれらの科目を受講するとよい。
--------	--

評価	期末試験70%、課題20%、リアクションペーパー10%。
----	------------------------------

学びの継続	次のステージ・関連科目 後期の「社会科・公民科教育法演習」と同一教員(芝田)・同一クラスで受講し、4年次6月の教育実習の教壇実習に備える。
-------	--

科目基本情報	科目名	期別	曜日・時限	単位
	社会科・公民科教育法	後期	金 5	2
	担当者	対象年次	授業に関する問い合わせ	
	安原 陽平	2年	E-mailアドレスや研究室番号等は、講義内でお伝えします。	

学びの準備	ねらい 本講義は、社会科教育法の最初の講義となります。本講義のねらいは、社会科のための基本的な知識を深めることです。	メッセージ 将来自分になりたい教師像、あるいは実際に展開したい授業モデルなど、教師になったときのイメージがみなさんのなかにあるかと思えます。そのイメージを大切にしながら、講義に臨んでみてください。新しい発見のある講義となるよう、お互いに頑張ってください。
	到達目標 本講義の到達目標は、中学校社会科ならびに高等学校公民科／地理歴史科のカリキュラム、学習指導の理論等について理解することです。また、次年度以降予定されている教科教育法（演習）あるいは教育実習で、自ら授業を設計し、具体的に展開できる基盤の獲得も目指します。	

学びの実践	学びのヒント 授業計画		
	回	テーマ	時間外学習の内容
	1	ガイダンス	
	2	中学校社会科のカリキュラムについて	中学校社会科の内容を復習する
	3	高等学校公民科／地理歴史科のカリキュラムについて	高校公民／地歴科の内容を復習する
	4	社会科の授業モデル概観	講義内容の復習
	5	社会科学文献講読①—地理的分野関連—	文献の予習復習
	6	社会科学文献講読②—歴史的分野関連—	文献の予習復習
	7	社会科学文献講読③—公民的分野関連—	文献の予習復習
	8	社会科学文献講読④—現代社会関連—	文献の予習復習
	9	社会科学文献講読⑤—倫理関連—	文献の予習復習
	10	社会科学文献講読⑥—政治経済関連—	文献の予習復習
	11	社会科における成績評価基準	講義内容の復習
	12	学習指導案の作成について	講義内容の復習
	13	授業におけるICT機器の活用について	講義内容の復習
	14	映像教育の可能性 著作権問題も合わせて	講義内容の復習
15	学習指導案に基づく授業設計について考える	学習指導案の作成	
16	まとめと課題の確認（試験は実施しない）		
	テキスト・参考文献・資料など テキスト・教科書はとくに指定しません。必要に応じてレジュメを配付し、それに沿って講義を進めます。参考文献は、渡部竜也（2016）編訳『世界初 市民性教育の国家規模カリキュラム 20世紀初頭アメリカNEA社会科委員会報告書の事例から』（春風社）、ステイブーン・J・ソーントン（渡部竜也ほか訳）（2012）『教師のゲートキーピング 主体的な学習者を生む社会科カリキュラムに向けて』（春風社）など。また、各授業回と関連する参考書・参考資料等も適宜紹介することを予定している。		
	学びの手立て ①社会科学文献講読等では、個人による報告を予定しています。 ②報告準備のために、十分な時間が必要となります。 ③講義を延長する場合があります。		
	評価 ○講読の対象となる文献の分析と評価に関するレポート（30%） ○個人報告（50%） ○最終レポート（20%）		

学びの継続	次のステージ・関連科目 次年度から、社会科教育法においては模擬授業が中心となります。そのため、本講義での基礎的な知識の確認および個人報告の経験を活かして、将来自分になりたい教師像あるいは展開したい授業モデルをイメージしながら、次年度以降の模擬授業に臨んでください。
-------	---

※ポリシーとの関連性

教免法で定める「教職に関する科目」のうち「教育課程及び指導法に関する科目」に該当する。

[ / 演習 ]

科目基本情報	科目名	期別	曜日・時限	単位
	社会科・公民科教育法演習	前期	金 6	2
	担当者	対象年次	授業に関する問い合わせ	
	野見 収	3年	研究室：5号館5階5514 E-mail:onomi(at)okiu.ac.jp	

学びの準備	ねらい	メッセージ
	「社会科・公民科教育法」における学習内容をふまえ、教育実習にむかって、学生各人が教材研究および指導案の作成を行い、それをもとに模擬授業およびその分析と評価を行う。本演習の眼目は、授業技術、情報機器の活用法はもちろんのこと、参加者全員の相互協力、相互批評による総合的教職実践力の練成にある。	社会科を教育学的に追究したい学生の受講を歓迎する。

到達目標	今日における社会・公教育の課題をふまえた社会科の授業を構想し、実践することができる。
------	--

学びの実践	<p>学びのヒント</p> <p>授業計画（テーマ・時間外学習の内容含む）</p> <p>授業計画</p> <p>第1回：イントロダクション（本講義の概要）</p> <p>第2回：社会科教育の目的と課題</p> <p>第3回：シティズンシップ教育の理論</p> <p>第4回：シティズンシップ教育の実際</p> <p>第5回：学習指導要領の検討</p> <p>第6回：指導案の作成方法</p> <p>第7回：模擬授業・分析と評価（1）—現代社会と文化の特色</p> <p>第8回：模擬授業・分析と評価（2）—現代社会をとらえる仕組み</p> <p>第9回：模擬授業・分析と評価（3）—市場の働きと経済</p> <p>第10回：模擬授業・分析と評価（4）—国民の生活と政府の役割</p> <p>第11回：模擬授業・分析と評価（5）—人間の尊重と日本国憲法の基本的原則</p> <p>第12回：模擬授業・分析と評価（6）—民主政治と政治参加</p> <p>第13回：模擬授業・分析と評価（7）—世界平和と人類の福祉</p> <p>第14回：模擬授業・分析と評価（8）—より良い社会を目指して</p> <p>第15回：まとめ</p> <p>定期試験は行わない。</p> <p>※教材研究、指導案作成は時間外学習において行うことになる。</p>
-------	--

テキスト・参考文献・資料など	中学校社会科公民分野の教科書、学習指導要領など。授業中に適宜紹介する。
----------------	-------------------------------------

学びの手立て	無断欠席、遅刻は認めない。 他の受講生との共同学習が必須である。 模擬授業の実施は成績評価の前提条件である。
--------	--

評価	模擬授業（50%）、学習指導案（50%）。
----	-----------------------

学びの継続	次のステージ・関連科目 社会科・地理歴史科教育法
-------	-----------------------------

科目基本情報	科目名	期別	曜日・時限	単位
	社会科・公民科教育法演習	前期	火5	2
	担当者	対象年次	授業に関する問い合わせ	
	藤波 潔	3年	研究室 (5434)、またはfujinami@okiu.ac.jp	

学びの準備	ねらい	メッセージ
	<p>本講義は、公的分野の模擬授業を実践することで授業実践能力を修得することを目的とする。そのため、教材研究の実施、学習指導案の作成、自らの模擬授業実践の省察とともに、他者の模擬授業の批判的分析、評価表の作成をおこなう。なお、模擬授業の準備段階では、他者の模擬授業作成に協力することにより、他者の経験を自らの経験値に転換するように努めるものとする。</p>	<p>教員として社会科を指導するのに必要な技能の基礎を修得するだけでなく、教員になるための大変さを経験し、他者との協力と自らの責任において、その大変さを克服することをめざします。また、4年次の取り組みを模範として、取り組むことを求めます。</p>
到達目標	<p>(1) 自らの担当する単元について、適切かつ多面的に教材研究をおこなうことができる。                  (2) 基本的な形式に従い、論理的な構成に基づく指導案を作成することができる。                  (3) 情報機器の活用等、適切かつ効果的な教材の活用や指導方法を用いて、模擬授業実践をおこなうことができる。                  (4) 他者が実践した模擬授業について、建設的に批評することができる。                  (5) 自らの省察と他者からの批評に基づき、模擬授業実践の改善点を把握することができる。</p>	

学びの実践	学びのヒント		
	授業計画		
	回	テーマ	時間外学習の内容
	1	ガイダンス：班分けと担当単元の決定	シラバス内容の理解
	2	教材研究①：中単元の理解と指導目標の作成	配布資料の精読／指導目標作成
	3	教材研究②：担当単元の理解と指導目標の作成	配布資料の精読／教材研究
	4	模擬授業の批判的検討①	模擬授業の準備・協力/評価表作成
	5	模擬授業の批判的検討②	模擬授業の準備・協力/評価表作成
	6	模擬授業の批判的検討③	模擬授業の準備・協力/評価表作成
	7	模擬授業の批判的検討④	模擬授業の準備・協力/評価表作成
	8	模擬授業の批判的検討⑤	模擬授業の準備・協力/評価表作成
	9	模擬授業の批判的検討⑥	模擬授業の準備・協力/評価表作成
	10	模擬授業の実践①	模擬授業の準備・協力/評価表作成
	11	模擬授業の実践②	模擬授業の準備・協力/評価表作成
	12	模擬授業の実践③	模擬授業の準備・協力/評価表作成
	13	模擬授業の実践④	模擬授業の準備・協力/評価表作成
	14	模擬授業の実践⑤	模擬授業の準備・協力/評価表作成
15	模擬授業の実践⑥	模擬授業の準備・協力/評価表作成	
16	まとめ		

学びの実践	<p>テキスト・参考文献・資料など</p> <p>中学校社会科公的分野の教科書、中学校学習指導要領および『教育実習実践録』。                  参考資料については、適宜紹介する。</p>
-------	---

学びの実践	<p>学びの手立て</p> <p>① 安原先生担当の「社会科・公民科教育法演習」の単位を修得済みであること。                  ② 教職科目であるので、無断欠席、遅刻は厳禁である。                  ③ ゼミ生との協調に基づき学びに、積極的に取り組み姿勢が求められる。                  ④ 受講生数によっては、休日や6校時に補講を実施することがある。</p>
-------	--

学びの実践	<p>評価</p> <table border="0"> <tr> <td>指導案作成時における教材研究の内容（指導案の提出）</td> <td>30%</td> </tr> <tr> <td>模擬授業実践における授業内容（模擬授業実践）</td> <td>40%</td> </tr> <tr> <td>自らの模擬授業実践に対する省察（リフレクションペーパーの提出）</td> <td>20%</td> </tr> <tr> <td>他者の模擬授業実践に対する批判的分析（評価票の提出）</td> <td>10%</td> </tr> </table> <p>の総合評価とする。</p>	指導案作成時における教材研究の内容（指導案の提出）	30%	模擬授業実践における授業内容（模擬授業実践）	40%	自らの模擬授業実践に対する省察（リフレクションペーパーの提出）	20%	他者の模擬授業実践に対する批判的分析（評価票の提出）	10%
指導案作成時における教材研究の内容（指導案の提出）	30%								
模擬授業実践における授業内容（模擬授業実践）	40%								
自らの模擬授業実践に対する省察（リフレクションペーパーの提出）	20%								
他者の模擬授業実践に対する批判的分析（評価票の提出）	10%								

学びの継続	<p>次のステージ・関連科目</p> <p>本科目が未修得だと、後期開講の社会科・地理歴史科教育法は履修できない。</p>
-------	---

※ポリシーとの関連性

教育職員免許法に定める「教職に関する科目」の「教育課程及び指導法に関する科目」の内、高校公民科の指導法に係る科目。

[ /演習]

科目基本情報	科目名	期別	曜日・時限	単位
	社会科・公民科教育法演習	後期	水5	2
	担当者	対象年次	授業に関する問い合わせ	
	芝田 秀幹	3年	hidekis@okiu.ac.jp	

学びの準備	ねらい	メッセージ
	<p>前期の「社会科・公民科教育法」の履修成果を踏まえ学習指導案を作成し、各自1時間（約45分）の模擬授業を後期2回行い、授業実践の力量を身につける。生徒役として模擬授業を受ける際は授業の分析と批評を行い、授業実践の力量形成の一助とする。課外活動としてクラス行事を自主的に企画・実施し、学級経営の指導力量も形成したい。以上を通して、教育実習のための資質・能力を準備する。</p>	<p>前期の「社会科・公民科教育法」を合格した者が同一教員(芝田)・同一クラスで受講します。通年のゼミという理解で受講して下さい。このクラスで4年生の教育実習の教壇実習に備えます。</p>
到達目標	<p>教育実習校で「そのまま残ってほしい」と言われるくらいの実習生をめざす。          ○公民科を高校生に教えることができる初歩的な授業づくりの力量を身につける          ・学習指導の基本的事項（教科等の知識や技能など）を身につける／教材研究を行いそれを活かした学習指導案を作成できるようになる／板書、話し方、表情など授業を行う上での基本的な表現力が身につく／子どもの反応や学習の定着状況に応じ、授業計画や学習形態等を工夫できるようになる          ○教師として社会人に相応しい服装・身だしなみや言葉遣いができるようになる／他人のために一肌脱げる人間になる。</p>	

学びの実践	学びのヒント		
	授業計画		
	回	テーマ	時間外学習の内容
	1	ガイダンス、学習指導案の素案と教材研究レポートの講評	模擬授業指導案づくり・支援
	2	公民科の授業ビデオ視聴と「授業改善視点表」の記入方法について	授業改善視点表記入
	3	模擬授業の実践	指導案づくり・支援、授業評価記入
	4	模擬授業の実践	同上
	5	模擬授業の実践	同上
	6	模擬授業の実践	同上
	7	模擬授業の実践	同上
	8	模擬授業の実践、中間総括（成果と課題）	同上
	9	模擬授業の実践	同上
	10	模擬授業の実践	同上
	11	模擬授業の実践	同上
	12	模擬授業の実践	同上
	13	模擬授業の実践	同上
	14	模擬授業の実践	同上
15	模擬授業の実践、まとめ	同上	
16			

学びの実践	<p>テキスト・参考文献・資料など</p> <p>テキスト：使用しない。          主要参考文献：1. 藤井剛『詳説 政治・経済研究』山川出版社、2008年。2. 歴史教育者協議会<a href="http://www.jca.apc.org/rekkyo/">http://www.jca.apc.org/rekkyo/</a> 3. 文部科学省『高等学校学習指導要領』2009年、2018年。4. 現代社会、倫理、政治・経済の教科書。</p>
-------	---

学びの手立て	<p>①履修の心構え：前期の「社会科・公民科教育法」芝田クラスと連続して受講しなければならない（前期合格者のみ）。以前の年度に単位修得済みの者でも前期に聴講していなければ受講できない。夏休みの課題（模擬授業の学習指導案の素案と教材研究レポート）の提出がない者は受講できない。模擬授業の指導案作成と事前練習に相当の時間と労力を要することを念頭におき、受講すること。教育実習に直結する科目なので、遅刻や無断欠席をしてはならない。不合格となることがある。</p> <p>②学びを深めるために：自分の模擬授業だけ熱心に取り組むようではいけない。生徒役としても学び、また指定された時間外学習にあるように、学友の模擬授業準備支援と授業評価にも熱心に取り組まなければならない。</p>
--------	---

評価	<p>模擬授業（2回分）80%、課題20%。</p>
----	----------------------------

学びの継続	<p>次のステージ・関連科目</p> <p>教科教育法科目は本学教職課程の主軸科目であり、「教育実習」の広義の事前指導科目であるため、前期の「社会科・公民科教育法」と同一教員・同一クラスで受講し、教育実習に備えることになる。そのため「特別活動演習」、「教育実習指導」及び「教職実践演習（中・高）」でも学修を共にする。この結果級友は、卒業後も持続する教員採用試験の学習や社会人として自立するため共に励まし合う存在となるだろう。</p>
-------	--

科目基本情報	科目名	期別	曜日・時限	単位
	社会科・地理歴史科教育法	後期	金 6	2
	担当者	対象年次	授業に関する問い合わせ	
	野見 収	3年	研究室：5号館5階5514 E-mail:onomi(at)okiu.ac.jp	

学びの準備	ねらい	メッセージ
	<p>社会科教育は、子どもたちの社会観を決定付けるという意味で、極めて責任の重い仕事である。そうである以上、社会科教員を志す者には、社会と教育に対する深い考察能力が求められることになる。ゆえに本講義では、種々の資料・論考の検討を通じて社会科学的・教育学的認識能力の錬成をはかりつつ、情報機器の活用法の検討も含め、あるべき社会科授業実践のあり方を模索していく。</p>	<p>社会科を教育学的に追究したい学生の受講を歓迎する。</p>
到達目標	今日における社会・公教育の課題をふまえた社会科の授業を構想し、実践することができる。	

学びの実践	<p>学びのヒント</p> <p>授業計画（テーマ・時間外学習の内容含む）</p> <p>第1回：イントロダクション（本講義の概要）                  第2回：社会科教育の目的と課題                  第3回：学習指導要領の検討                  第4回：社会科学的・教育学的認識の錬成（1）—教育法学の観点から                  第5回：社会科学的・教育学的認識の錬成（2）—教育社会学の観点から                  第6回：社会科学的・教育学的認識の錬成（3）—教育史の観点から                  第7回：社会科学的・教育学的認識の錬成（4）—教育哲学の観点から                  第8回：社会科学的・教育学的認識の錬成（5）—教育心理学の観点から                  第9回：社会科学的・教育学的認識の錬成（6）—教育方法学の観点から                  第10回：模擬授業・分析と評価（1）—世界と日本の地域構成                  第11回：模擬授業・分析と評価（2）—世界地理①（アジア、ヨーロッパ、アフリカ）                  第12回：模擬授業・分析と評価（3）—世界地理②（北アメリカ、南アメリカ、オセアニア）                  第13回：模擬授業・分析と評価（4）—日本地理①（地域調査）                  第14回：模擬授業・分析と評価（5）—日本地理②（日本の地域的特色と区分）                  第15回：模擬授業・分析と評価（6）—日本地理③（日本の諸地域）                  定期試験は行わない。</p> <p>※教材研究、指導案作成は時間外学習において行うことになる。</p>
	<p>テキスト・参考文献・資料など</p> <p>中学校社会科歴史的分野・地理的分野の教科書、学習指導要領など。授業中に適宜紹介する。</p>
	<p>学びの手立て</p> <p>無断欠席、遅刻は認めない。                  他の受講生との共同学習が必須である。                  模擬授業の実施は成績評価の前提条件である。</p>
	<p>評価</p> <p>模擬授業（50%）、学習指導案（50%）。</p>

学びの継続	<p>次のステージ・関連科目</p> <p>社会科・地理歴史科教育法演習</p>
-------	--

科目基本情報	科目名	期別	曜日・時限	単位
	社会科・地理歴史科教育法	後期	火5	2
	担当者	対象年次	授業に関する問い合わせ	
	藤波 潔	3年	研究室 (5434) 、またはfujinami@oki.u.ac.jp	

学びの準備	ねらい 本講義は、質の高い地理教育、歴史教育の方法論を修得させるため、学生による学習指導要領の精読とその発表、卒業生教員による授業実践に関する講話、地理及び歴史教育についての実践論文のグループ形式による検討と分析、教材研究の実際と授業方法に関する理論に関する講義、情報機器を用いた教材作成の演習等をおこなう。	メッセージ 発表や討議など、主体的な学び、他者との協調に基づく学びの姿勢が強く求められます。
	到達目標 (1) 学習指導要領における社会科および地理的分野・歴史的分野の目的と内容を理解できる。 (2) 授業実践をするにあたって必要となる教材研究の方法を修得できる。 (3) 効果的な授業実践に不可欠な情報機器の活用について習熟できる。 (4) 授業実践の実際について触れることを通じて、学習評価や発展的な学習への誘導の仕方等について理解できる。	

学びの実践	学びのヒント 授業計画		
	回	テーマ	時間外学習の内容
	1	ガイダンス：「教科教育法」とは	シラバス内容の理解
	2	中学校学習指導要領の理解①：学習指導要領改訂のねらい	事前配布資料の精読／報告の準備
	3	中学校学習指導要領の理解②：社会科地理的分野のねらいと内容	事前配布資料の精読／報告の準備
	4	中学校学習指導要領の理解③：社会科歴史的分野のねらいと内容	事前配布資料の精読／報告の準備
	5	高等学校学習指導要領の理解①：歴史総合のねらいと内容	事前配布資料の精読／報告の準備
	6	高等学校学習指導要領の理解②：世界史探究のねらいと内容	事前配布資料の精読／報告の準備
	7	高等学校学習指導要領の理解③：日本史探究のねらいと内容	事前配布資料の精読／報告の準備
	8	地理教育の実際：卒業生講話	レポートの作成
	9	歴史教育の実際：卒業生講話	レポートの作成
	10	地理教育の工夫：実践論文の批判的検討	班での議論・班レポの作成
	11	歴史教育の工夫：実践論文の批判的検討	班での議論・班レポの作成
	12	情報機器の活用：情報機器のメリット・デメリット	事前配布資料の精読
	13	地理・歴史居部の教材研究①：多様な授業方法の理解	事前配布資料の精読
	14	地理・歴史教育の教材研究②：地理の教材開発	事前配布資料の精読
15	地理・歴史教育の教材研究③：歴史の教材開発	事前配布資料の精読／指導案の作成	
16	まとめ		
	テキスト・参考文献・資料など		
	テキスト (1) 『中学校学習指導要領』『高等学校学習指導要領』 (2) 配布するレジュメ (3) 『教育実習実践録』 参考文献 (1) 『社会科教育』『地理歴史教育』等の教育雑誌 (2) 野崎雅秀『これからの「歴史教育法」』山川出版社、2017年 (3) 永松靖典編『歴史的思考力を育てる』山川出版社、2017年 (4) 小林浩二編『実践 地理教育の課題』ナカニシヤ出版、2007年、等		
	学びの手立て ① 藤波担当の「社会科・公民科教育法演習」の単位を修得済みであること。 ② 教職科目であるので、無断欠席、遅刻は厳禁である。 ③ ゼミ生との協調に基づく学びに、積極的に取り組む姿勢が求められる。		
	評価 学習指導要領の内容理解（発表の内容） 30% 実践論文と卒業生講話に関する批判的分析（レポート） 30% 教材研究と教材開発、情報機器の活用（指導案の作成） 40% による総合評価とする。		

学びの継続	次のステージ・関連科目 本科目が未修得だと、社会科・地理歴史科教育法演習は履修できない。
-------	---

科目基本情報	科目名	期別	曜日・時限	単位
	社会科・地理歴史科教育法	前期	火6	2
	担当者	対象年次	授業に関する問い合わせ	
	崎浜 靖	3年	sakihama@okiu.ac.jp	

学びの準備	ねらい	メッセージ
	<p>本講義では、高等学校における地理・歴史教育の理論の修得を基本に、授業研究・教材研究の方法を体得させる。とくに、模擬授業への参加や授業実践論文の分析を通して、現場の状況に対応した学習指導案の作成を目指す。また本講義では、学校現場の課題について幅広く議論しながら、実践的なトレーニングの場となることを目標とする。</p> <p>到達目標</p> <ul style="list-style-type: none"> <li>・学習指導案を作成する。</li> <li>・世界史、地理、日本史など各科目の特性を理解する。</li> </ul>	<ul style="list-style-type: none"> <li>・高等学校教諭としての現場経験を活かして、社会科・地理歴史科の教授法を解説します。</li> <li>・学校現場の情報を盛り込みながら、講義を進めていきます。</li> </ul>

学びの実践	学びのヒント		
	授業計画		
	回	テーマ	時間外学習の内容
	1	ガイダンス	シラバスをよく読むこと
	2	社会科・地理歴史科の歴史と学習指導要領	事前に配ったプリントを読むこと
	3	高等学校社会科教育（地理・歴史）の目標	同上
	4	高等学校社会科教育（地理・歴史）の課題	同上
	5	現場教師との情報交換会	同上
	6	教材研究と授業方法論①-教材分析の視点-	同上
	7	教材研究と授業方法論②-歴史資料・地図の活用方法	同上
	8	教材研究と授業方法論③-板書・発問の方法-	同上
	9	模擬授業の見学・討論①-世界史の授業-	同上
	10	模擬授業の見学・討論②-日本史・地理の授業-	同上
	11	学習指導案の作成方法	世界史教材を検討すること
	12	学習指導案作成の手順	同上
	13	学習指導案の発表①-世界史・前近代史-	同上
14	学習指導案の発表②-世界史・近代史-	同上	
15	学習指導案の検討	同上	
16	まとめ	事前に配ったプリントの検討	
テキスト・参考文献・資料など			
高等学校用教科書：東京書籍『地理B』、東京書籍『新選日本史B』、東京書籍『世界史B』帝国書院『新詳高等地図』などを使用する。学習指導要領解説編（高校地歴科編）などは、講義のなかで適宜紹介する。			
学びの手立て			
<ul style="list-style-type: none"> <li>・やむを得ず欠席・遅刻する場合は、メールなどで事前に連絡すること。</li> <li>・履修にあたり、教師を目指す意識を高く持ち、各課題にチャレンジすること。</li> </ul>			
評価			
①授業時における質問・意見・討論・発表などにみられる熱意や態度（40点）。 ②学習指導案などに示された学習・研究活動の成果（40点）。 ③その他、指定した課題レポート（20点）。			

学びの継続	次のステージ・関連科目 後期の演習科目（社会科・地理歴史科教育法演習）での教壇実践に繋げるように、各自、教材研究を行うこと。
-------	---

※ポリシーとの関連性 教免法で定める「教職に関する科目」のうち「教育課程及び指導法に関する科目」に該当する。

[ /演習]

科目基本情報	科目名	期別	曜日・時限	単位
	社会科・地理歴史科教育法演習	前期	金 6	2
	担当者	対象年次	授業に関する問い合わせ	
	野見 収	3年	研究室：5号館5階5514 E-mail:onomi(at)okiu.ac.jp	

学びの準備	ねらい 「社会科・地理歴史科教育法」における学習内容をふまえ、学生各人が教材研究および指導案の作成を行い、それをもとに模擬授業およびその分析と評価を行う。本演習の眼目は、授業技術、情報機器の活用法のみならず、参加者全員の相互協力、相互批評による総合的教職実践力の練成にある。ゆえに、学生各人のコミュニケーションスキルの深化が強く求められると考えてよい。	メッセージ 社会科を教育学的に追究したい学生の受講を歓迎する。
	到達目標 今日における社会・公教育の課題をふまえた社会科の授業を構想し、実践することができる。	

学びの実践	学びのヒント 授業計画（テーマ・時間外学習の内容含む）  授業計画 第1回：イントロダクション（本講義の概要） 第2回：社会科教育の目的と課題 第3回：学習指導要領の検討 第4回：指導案の作成方法・情報機器及び教材の活用法 第5回：模擬授業・分析と評価（1）—世界の古代 第6回：模擬授業・分析と評価（2）—日本の古代 第7回：模擬授業・分析と評価（3）—世界の中世 第8回：模擬授業・分析と評価（4）—日本の中世 第9回：模擬授業・分析と評価（5）—世界の近世 第10回：模擬授業・分析と評価（6）—日本の近世 第11回：模擬授業・分析と評価（7）—世界の近代 第12回：模擬授業・分析と評価（8）—日本の近代 第13回：模擬授業・分析と評価（9）—世界の現代 第14回：模擬授業・分析と評価（10）—日本の現代 第15回：まとめ 定期試験は行わない。  ※教材研究、指導案作成は時間外学習において行うことになる。
	テキスト・参考文献・資料など 中学校社会科歴史的分野・地理的分野の教科書、学習指導要領など。適宜紹介する。
	学びの手立て 無断欠席、遅刻は認めない。 他の受講生との共同学習が必須である。 模擬授業の実施は成績評価の前提条件である。
	評価 模擬授業（50%）、学習指導案（50%）。

学びの継続	次のステージ・関連科目 教育実習
-------	---------------------

科目基本情報	科目名	期別	曜日・時限	単位
	社会科・地理歴史科教育法演習	前期	火5	2
	担当者	対象年次	授業に関する問い合わせ	
	藤波 潔	3年	研究室 (5434)、またはfujinami@okiu.ac.jp	

学びの準備	ねらい	メッセージ
	<p>本講義は、地理教育、歴史教育の模擬授業実践を通じた授業実践能力の修得を目的とする。そのため、教材研究を実施し、学習指導案を作成して模擬授業を実践した上で、自らの模擬授業実践の省察をおこなう。また、他者の模擬授業への批判的分析をおこない、評価表を作成する。なお、他者の模擬授業作成に協力することにより、他者の経験を自らの経験値に転換するように務めるものとする。</p>	<p>単に2度目の模擬授業に取り組むだけでなく、教育実習生として学校現場に出ることを強く意識して、ゼミでの学びに取り組んでもらいたい。また、3年次の模範となるような取り組みを行うとともに、3年次に対して適切な助言をおこなうことを求める。</p>
到達目標	<p>(1) 自らの担当する単元について、適切かつ多面的に教材研究をおこなうことができる。                  (2) 基本的な形式に従い、論理的な構成に基づく指導案を作成することができる。                  (3) 情報機器の活用等、適切かつ効果的な教材の活用や指導方法を用いて、模擬授業実践をおこなうことができる。                  (4) 他者が実践した模擬授業について、建設的に批評することができる。                  (5) 自らの省察と他者からの批評に基づき、模擬授業実践の改善点を把握することができる。</p>	

学びの実践	学びのヒント			
	授業計画			
	回	テーマ	時間外学習の内容	
	1	ガイダンス：班分けと担当単元の決定	シラバス内容の理解	
	2	教材研究①：中単元の理解と指導目標の作成	指導目標の作成/教材研究	
	3	教材研究②：担当単元の理解と指導目標の作成	教材研究	
	4	模擬授業実践①	模擬授業の準備・協力/評価表作成	
	5	模擬授業実践②	模擬授業の準備・協力/評価表作成	
	6	模擬授業実践③	模擬授業の準備・協力/評価表作成	
	7	模擬授業実践④	模擬授業の準備・協力/評価表作成	
	8	模擬授業実践⑤	模擬授業の準備・協力/評価表作成	
	9	模擬授業実践⑥	模擬授業の準備・協力/評価表作成	
	10	模擬授業の批判的検討①	模擬授業の準備・協力/評価表作成	
	11	模擬授業の批判的検討②	模擬授業の準備・協力/評価表作成	
	12	模擬授業の批判的検討③	模擬授業の準備・協力/評価表作成	
	13	模擬授業の批判的検討④	模擬授業の準備・協力/評価表作成	
14	模擬授業の批判的検討⑤	模擬授業の準備・協力/評価表作成		
15	模擬授業の批判的検討⑥	模擬授業の準備・協力/評価表作成		
16	まとめ			
テキスト・参考文献・資料など	<p>中学校社会科歴史的分野・地理的分野の教科書、中学校学習指導要領および『教育実習実践録』。                  参考資料については、適宜紹介する。</p>			
学びの手立て	<p>① 藤波担当の「社会科・地理歴史科教育法」の単元を修得済みであること。                  ② 教職科目であるので、無断欠席、遅刻は厳禁である。                  ③ ゼミ生との協調に基づく学びに、積極的に取り組む姿勢が求められる。                  ④ 受講生数によっては、休日や6校時に補講を実施することがある。</p>			
評価	指導案作成時における教材研究の内容（指導案の提出）	30%		
	模擬授業実践における授業内容（模擬授業実践）	40%		
	自らの模擬授業実践に対する省察（リフレクションペーパーの提出）	20%		
	他者の模擬授業実践に対する批判的分析（評価票の提出）	10%		
	による総合評価。			

学びの継続	次のステージ・関連科目
	本科目が未修得だと、教育実習を受講することはできない。

科目基本情報	科目名	期別	曜日・時限	単位
	社会科・地理歴史科教育法演習	後期	火6	2
	担当者	対象年次	授業に関する問い合わせ	
	崎浜 靖	3年	sakihama@okiu.ac.jp	

学びの準備	ねらい	メッセージ
	<p>①前期の地理歴史科教育法をふまえて、模擬授業を実施する。</p> <p>②教材研究の方法と学習指導案作成の実際について、総合的な理解を深める。</p> <p>③模擬授業による自己評価と他者批評を行う。</p>	<p>・高等学校教諭としての現場経験を活かして、社会科・地理歴史科における教授法を解説します。</p> <p>・学校現場の情報を盛り込みながら、講義を進めていきます。</p>

到達目標	<ul style="list-style-type: none"> <li>・世界史・日本史・地理の学習指導案を作成し、授業実践を行う。</li> <li>・教育実習に向けての課題を明確にする。</li> </ul>
------	---

学びの実践	学びのヒント		
	授業計画		
	回	テーマ	時間外学習の内容
	1	教科教育法演習の進め方	シラバスをよく読むこと
	2	教材研究および学習指導案の作成方法	事前に配った資料を読むこと
	3	教材研究および学習指導案の作成手順	同上
	4	現職教員による模擬授業の実践とディスカッション	同上
	5	高校における世界史分野の模擬授業実施と授業検討会ーヨーロッパ文化圏ー	同上
	6	高校における世界史分野の模擬授業実施と授業検討会ー中国・イスラム文化圏ー	同上
	7	高校における世界史分野の模擬授業実施と授業検討会ー新大陸ー	同上
	8	高校における日本史分野の模擬授業実施と授業検討会ー古代史・中世史ー	同上
	9	高校における日本史分野の模擬授業実施と授業検討会ー近世史ー	同上
	10	高校における日本史分野の模擬授業実施と授業検討会ー近現代史ー	同上
	11	高校における地理分野の模擬授業実施と授業検討会ー自然地理（気候）ー	同上
	12	高校における地理分野の模擬授業実施と授業検討会ー自然地理（地形）ー	同上
	13	高校における地理分野の模擬授業実施と授業検討会ー人文地理・地誌ー	同上
	14	現職教員を招いての講話とディスカッション	同上
15	教育実習に向けての教材研究・授業実践の検討	同上	
16	まとめ	同上	

テキスト・参考文献・資料など	<ul style="list-style-type: none"> <li>・東京書籍『新選世界史B』、東京書籍『新選日本史B』、東京書籍『地理B』、帝国書院『地歴高等地図-現代世界とその歴史的背景-最新版』、学習指導要領解説編（高校地歴科）および副教材。</li> </ul>
----------------	--

学びの手立て	<ul style="list-style-type: none"> <li>・やむを得ず欠席・遅刻する場合は、メールなどで事前に連絡すること。</li> <li>・履修にあたり、教師を目指す意識を高く持ち、各課題にチャレンジすること。</li> </ul>
--------	---

評価	<p>①学習指導案の内容と模擬授業の成果（40点）。</p> <p>②模擬授業合評会での発言および熱意・態度（30点）。</p> <p>③ゼミ運営への関わり、課題レポートなどに示された学習活動への熱意や態度（30点）。</p>
----	---

学びの継続	<p>次のステージ・関連科目</p> <p>学校現場における教育実習に繋げるように、各自、教材研究・授業研究を行うこと。</p>
-------	--

科目基本情報	科目名 商業科教育法	期別 前期	曜日・時限 月 3	単位 2
	担当者 清村 英之	対象年次 3年	授業に関する問い合わせ	
			・研究室：5627室（5号館6階） ・メール：hkiyomura(at)okiu.ac.jp	

学びの準備	ねらい この講義では、まず、商業教育の歴史の変遷を概観し、高等学校における商業教育の意義と役割を学びます。次いで、学習指導要領に基づき、教科「商業」の目標と組織、各科目の目標と授業内容を理解します。さらに、後期の模擬授業に向けて、学習指導の形態と方法、学習評価の在り方、教材研究の方法、情報機器の活用方法、学習指導案の作成方法を学びます。	メッセージ 教科「商業」に関する専門性を高めるのはもちろんですが、教員採用試験に向けた受験勉強（一般教養・教職教養）にも早めに取り組みましょう。
	到達目標 ① 高等学校における商業教育の意義・役割を理解し、説明できる。 ② 学習指導要領に基づき、教科「商業」の目標と組織、各科目の目標、授業内容と指導上の留意点を理解し、説明できる。 ③ 学習指導の意義、その形態と方法、学習評価について理解し、説明できる。 ④ 適切な教材研究の方法および効果的な授業実践に不可欠な情報機器の活用方法を習得し、学習指導案を作成できる。	

学びの実践	学びのヒント 授業計画	
	回	テーマ
	1	ガイダンス(履修上の注意点の確認等)
	2	高等学校における商業教育の意義
	3	高等学校における商業教育の歴史（教育課程の変遷）
	4	学習指導要領における教科「商業」の目標と組織
	5	各科目の目標と授業内容①－教科の基礎的科目と総合的科目
	6	各科目の目標と授業内容②－マーケティング分野とビジネス経済分野の科目
	7	各科目の目標と授業内容③－会計分野とビジネス情報分野の科目
	8	学習指導①－学習指導の意義と形態
	9	学習指導②－学習指導の方法
	10	教育課程と指導計画①－教育課程
	11	教育課程と指導計画②－指導計画の意義と学習指導案
	12	学習評価
	13	学習指導案の作成①－ビジネス基礎
	14	学習指導案の作成②－簿記
	15	高等学校における商業教育の現状と課題
16	まとめ	
		時間外学習の内容 シラバスの理解（以下、前/後） 配布資料①の精読/講義内容の復習 配布資料②の精読/講義内容の復習 配布資料③の精読/講義内容の復習 配布資料④の精読/講義内容の復習 配布資料④の精読/講義内容の復習 配布資料④の精読/講義内容の復習 配布資料⑤の精読/講義内容の復習 配布資料⑤の精読/講義内容の復習 配布資料⑥の精読/講義内容の復習 配布資料⑥の精読/講義内容の復習 配布資料⑦の精読/講義内容の復習 指導案の作成/指導案の改善 指導案の作成/指導案の改善 配布資料⑧の精読/講義内容の復習 講義内容の復習/－

実践	テキスト・参考文献・資料など テキスト：文部科学省「高等学校学習指導要領」平成21年3月告示（必須）。 文部科学省『高等学校学習指導要領解説商業編』実教出版，平成22年5月，459円（必須）。 片岡寛他『ビジネス基礎（新訂版）』実教出版，平成29年1月（必須）。 安藤英義他『新簿記（新訂版）』実教出版，平成29年1月（必須）。 上記テキストの他に資料を配布し，これに基づき講義を行います。
----	--

学びの手立て	<ul style="list-style-type: none"> <li>○履修上の注意事項/心構え：                     <ul style="list-style-type: none"> <li>・教員を目指す者が受講する科目なので、遅刻・無断欠席は認めません。</li> <li>・教育実習に最低限必要な技能（日商簿記検定2級・販売士検定3級レベル）の習得に努めてください。</li> </ul> </li> <li>○学びを深めるために：                     <ul style="list-style-type: none"> <li>・商業科の教員には商業に関する幅広い知識（マーケティング分野、ビジネス経済分野、会計分野、ビジネス情報分野）が必要とされます。各コースの科目をまんべんなく履修してください。</li> </ul> </li> </ul>
--------	---

評価	<ul style="list-style-type: none"> <li>・平常点……20点（講義中の取組みを評価します）</li> <li>・課題……80点（学習指導案，学習プリント，板書計画など。上記「到達目標」を評価します）</li> </ul>
----	--

学びの継続	次のステージ・関連科目 関連科目：商業科教育法演習
-------	------------------------------

科目基本情報	科目名	期別	曜日・時限	単位
	商業科教育法演習	後期	月 5	2
	担当者	対象年次	授業に関する問い合わせ	
	清村 英之	3年	・研究室：5627室（5号館6階） ・メール：hkiyomura(at)okiu.ac.jp	

学びの準備	ねらい	メッセージ
	「商業科教育法」の学習内容を踏まえ、来年6月の教育実習に向けて、模擬授業を行います。模擬授業を行うことによって、教材研究の方法、学習指導案の作成方法、効果的な指導方法など、実践的な技能を習得します。また、他者が行った模擬授業を批判的に分析・評価することによって、授業実践力の向上を目指します。	教科「商業」に関する専門性を高めるのはもちろんですが、教員採用試験に向けた受験勉強（一般教養・教職教養）にも早めに取り組みましょう。
到達目標	① 担当する単元について、適当・適切な教材研究を行える。 ② 指導案作成の意義、記載内容と形式を理解し、学習指導案を作成できる。 ③ 情報機器の活用等、効果的な指導方法を用いて、模擬授業を展開できる。 ④ 他者が行った模擬授業に対して、適切にコメントできる。	

学びの実践	学びのヒント		
	授業計画		
	回	テーマ	時間外学習の内容
	1	ガイダンス（模擬授業の単元割振り等）	シラバスの理解（以下、前/後）
	2	商業科教育法の復習（学習指導、指導計画、学習評価等）	配布資料の精読/講義内容の復習
	3	模擬授業と授業内容の分析・評価①－「簿記」模擬授業（現金・現金出納帳）	模擬授業の準備・協力/評価表作成
	4	模擬授業と授業内容の分析・評価②－「簿記」模擬授業（現金過不足）	模擬授業の準備・協力/評価表作成
	5	模擬授業と授業内容の分析・評価③－「簿記」模擬授業（当座預金）	模擬授業の準備・協力/評価表作成
	6	模擬授業と授業内容の分析・評価④－「簿記」模擬授業（当座借越）	模擬授業の準備・協力/評価表作成
	7	模擬授業と授業内容の分析・評価⑤－「簿記」模擬授業（当座預金出納帳）	模擬授業の準備・協力/評価表作成
	8	模擬授業と授業内容の分析・評価⑥－「簿記」模擬授業（小口現金）	模擬授業の準備・協力/評価表作成
	9	模擬授業と授業内容の分析・評価①－「ビジネス基礎」模擬授業（流通の意味）	模擬授業の準備・協力/評価表作成
	10	模擬授業と授業内容の分析・評価②－「ビジネス基礎」模擬授業（流通の役割）	模擬授業の準備・協力/評価表作成
	11	模擬授業と授業内容の分析・評価③－「ビジネス基礎」模擬授業（流通機構）	模擬授業の準備・協力/評価表作成
	12	模擬授業と授業内容の分析・評価④－「ビジネス基礎」模擬授業（流通をとりまく環境の変化）	模擬授業の準備・協力/評価表作成
	13	模擬授業と授業内容の分析・評価⑤－「ビジネス基礎」模擬授業（ものの生産者の役割・種類）	模擬授業の準備・協力/評価表作成
	14	模擬授業と授業内容の分析・評価⑥－「ビジネス基礎」模擬授業（ものの生産者の動向）	模擬授業の準備・協力/評価表作成
15	模擬授業の反省（授業改善に向けての検討等）	模擬授業の振り返り/改善策の検討	
16	まとめ	模擬授業の振り返り/改善策の検討	

実践	テキスト・参考文献・資料など テキスト：文部科学省「高等学校学習指導案」平成21年3月告示（必須）。 文部科学省『高等学校学習指導要領解説商業編』実教出版，平成22年5月，459円（必須）。 片岡寛他『ビジネス基礎（新訂版）』実教出版，平成29年1月（必須）。 安藤英義他『新簿記（新訂版）』実教出版，平成29年1月（必須）。
----	---

学びの手立て	○履修上の注意事項/心構え： ・教員を目指す者が受講する科目なので、遅刻・無断欠席は認めません。 ・教育実習に最低限必要な技能（日商簿記検定2級・販売士検定3級レベル）の習得に努めてください。  ○学びを深めるために： ・商業科の教員には商業に関する幅広い知識（マーケティング分野、ビジネス経済分野、会計分野、ビジネス情報分野）が必要とされます。各コースの科目をまんべんなく履修してください。
--------	---

評価	・指導案……30点（上記「到達目標①②」を評価します） ・模擬授業への取組み……50点（上記「到達目標①②③」を評価します） ・他者が実施する模擬授業へのコメント……20点（上記「到達目標④」を評価します）
----	---

学びの継続	次のステージ・関連科目 来年6月の教育実習に向けて、日々の学習に励んでください。
-------	---

科目基本情報	科目名	期別	曜日・時限	単位
	進路指導・生活指導	前期	金2	2
	担当者	対象年次	授業に関する問い合わせ	
	片本 恵利	2年	オフィス・アワー 水曜4校時	

学びの準備	ねらい	メッセージ
	本講義は、心理学(とりわけ青年期の発達に関する諸理論)の立場から、グループワークやロールプレイを交えながら、学校現場の実際に即して実践的に学んでいきます。	「いじめが起きたらどうしよう」「不登校や非行への対応が分からない」と悩んだりすることはありませんか。本講義では基礎理論に基づいて実際の場面に即した形で課題解決の方法を探ります。「こんなときこうすることもできる」と選択肢を増やして講義室を出ましよう。本講義はスクールカウンセラー等臨床心理士としての実務経験を生かして進められます。
到達目標	①教職の基礎となる学問的態度について理解し、身につけるための行動を継続する。 ②大学での学びの基礎となる「読む」「書く」「話す」を身につけるための行動を継続する。 ③大学での講義への参加の基本となる予習・復習がコンスタントにできる。 ④青年期の発達課題と学校現場での諸問題の関係について理解できるようになる。 ⑤④を踏まえて、学校現場の諸問題への対応の選択肢が増やせるようになる。	

学びの実践	学びのヒント		
	授業計画		
	回	テーマ	時間外学習の内容
	1	オリエンテーション 全ての生徒を対象とした計画的組織的な進路指導・生徒指導の取り組み	シラバスを読んでくる
	2	進路指導・生活指導に関わる基礎理論① ～エリクソンを中心に(グループワークを含む)	講義中に指示の課題①
	3	進路指導・生活指導に関わる基礎理論② ～マズローを中心に(〃)	講義中に指示の課題②
	4	進路指導・生活指導の歴史 ～適材適所主義からキャリア教育・キャリア・カウンセリングへ(〃)	講義中に指示の課題③
	5	青年期の発達課題をふまえた進路指導① ～事例に見る進路指導のポイント(〃)	講義中に指示の課題④
	6	青年期の発達課題をふまえた進路指導② ～“やりたい仕事”の見つけ方～事例を通じて(〃)	講義中に指示の課題⑤
	7	生徒の心に添う進路指導とは ～個別指導と集団指導(〃)	講義中に指示の課題⑥
	8	今日の進路指導に求められるもの ～近代的アイデンティティからダイバーシティへ(〃)	講義中に指示の課題⑦
	9	生徒指導の基本方針～各教科・道徳教育・総合的な学習の時間・特別活動における生徒指導(〃)	講義中に指示の課題⑧
	10	不登校への対応 青年期の発達課題と虐待・貧困等の理解に基づく集団指導・個別指導(〃)	講義中に指示の課題⑨
	11	非行への対応① 今日の非行をめぐる動向に基づく学級集団における非行防止の取り組み(〃)	講義中に指示の課題⑩
	12	非行への対応② 青年期の発達課題を踏まえた非行への対応～性教育・法教育を含む(〃)	講義中に指示の課題⑪
	13	青年期の発達課題といじめ いじり・インターネットへの対応を含めた集団指導・個別指導(〃)	講義中に指示の課題⑫
	14	体罰と指導死 ～校則・懲戒・関連する法令の理解に基づいた生徒指導のありかた(〃)	講義中に指示の課題⑬
15	進路指導・生活指導における教師集団と保護者・地域・専門機関との連携(〃)	講義中に指示の課題⑭	
16	期末試験		

学びの実践	テキスト・参考文献・資料など
	テキスト 白井利明「生活指導の心理学」勁草書房 文部科学省「生徒指導提要」 参考文献・参考資料等 文部科学省 国立教育政策研究所 生活指導・進路指導研究センター編「変わる！キャリア教育ミネルヴァ書房 文部科学省HP 沖縄県教育庁HP

学びの実践	学びの手立て ①予習・復習は必須です。予め講義の範囲の資料を読み課題を記入したフォーマットをもとに講義内でグループディスカッションを行い、学びを深めます。 ②欠席は「履修規程」通り厳密に扱います。 ③配布物・提出物についても、講義内で説明した通りに進めます。 上記は成績評価に反映します。
-------	--

学びの実践	評価 ①予習復習・課題その他成果物をつづった「ポートフォリオ」および中間テストを含む平常点…25% ②期末試験…75%。 大学の教職課程ですので、「頑張ったから」「出席して感想文を出したから」合格、と言うことはありません。あくまで、教職に就くために必要な能力を見るという観点から、①②を通じて上記「到達目標」がどの程度達成できているかを評価します。
-------	---

学びの継続	次のステージ・関連科目 この科目と「教育の思想と原則」の単位を取得すると、本学教職課程の履修階梯に添って教科教育法に進めます。これらの科目や教育実習では、本講義で学んだ理論に基づいて指導や授業の計画を立てることが求められます。 また、心理学の関連科目として「教育心理学」があります。
-------	---

※ポリシーとの関連性

本講義では、基礎理論に基づいて本学の養成する教員像に求められる指導のありかたを実践的に学びます。

[ /一般講義]

科目基本情報	科目名	期別	曜日・時限	単位
	進路指導・生活指導	前期	水3	2
	担当者	対象年次	授業に関する問い合わせ	
	片本 恵利	2年	オフィス・アワー 水曜4校時	

学びの準備	ねらい	メッセージ
	<p>本科目は、心理学(とりわけ青年期の発達に関する諸理論)の立場から、グループワークやロールプレイを交えながら、学校現場の実際に即して実践的に学んでいきます。また本講義は本格的な教職課程履修の準備ができていないかを見極める「関門科目」でもあり、教壇に立つことを念頭に厳しい基準で成績評価を行います。</p>	<p>「いじめが起きたらどうしよう」「不登校や非行への対応が分からない」と悩んだりすることはありませんか。この科目では基礎理論を用いて実際の場面に即した形で課題解決の方法を探ります。「こんなとき、こうすることもできる」と選択肢を増やして講義室のドアを出しましょう。本講義はスクールカウンセラー等臨床心理士としての実務経験を生かして進められます。</p>
到達目標	<p>①教職の基礎となる学問的態度について理解し、身につけるための行動を継続する。                  ②大学での学びの基礎となる「読む」「書く」「話す」を身につけるための行動を継続する。                  ③大学での講義への参加の基本となる予習・復習がコンスタントにできる。                  ④青年期の発達課題と学校現場での諸問題の関係について理解できるようになる。                  ⑤④を踏まえて、学校現場の諸問題への対応の選択肢が増やせるようになる。</p>	

学びの実践	学びのヒント		
	授業計画		
	回	テーマ	時間外学習の内容
	1	オリエンテーション 全ての生徒を対象とした、計画的で組織的な進路指導・生徒指導の取り組み	シラバスを読んでくる
	2	思進路指導・生徒指導に関わる基礎理論① ～エリクソンを中心に(グループワークを含む)	講義中に指示の課題①
	3	進路指導・生徒指導に関わる基礎理論② ～マズローを中心に(〃)	講義中に指示の課題②
	4	進路指導の歴史 ～適材適所主義からキャリア教育・キャリア・カウンセリングへ(〃)	講義中に指示の課題③
	5	青年期の発達課題を踏まえた進路指導① ～事例にみる進路指導のポイント(〃)	講義中に指示の課題④
	6	青年期の発達課題を踏まえた進路指導② ～“やりたい仕事”の見つけ方～事例を通じて(〃)	講義中に指示の課題⑤
	7	生徒の心に添う進路指導とは ～個別指導と集団指導(〃)	講義中に指示の課題⑥
	8	今日の進路指導に求められるもの ～近代的アイデンティティからダイバーシティへ(〃)	講義中に指示の課題⑦
	9	生徒指導の基本方針～各教科・道徳教育・総合的な学習の時間・特別活動における生徒指導(〃)	講義中に指示の課題⑧
	10	不登校への対応 青年期の発達課題と虐待貧困等の理解に基づく集団指導・個別指導(〃)	講義中に指示の課題⑨
	11	非行への対応① 今日の非行をめぐる動向に基づく学級集団における非行防止の取り組み(〃)	講義中に指示の課題⑩
	12	非行への対応② 青年期の発達課題を踏まえた非行への対応～性教育・法教育を含む(〃)	講義中に指示の課題⑪
	13	青年期の発達課題といじめ～いじり・インターネットへの対応を含む集団指導・個別指導(〃)	講義中に指示の課題⑫
	14	体罰と指導死 ～校則・懲戒・関連する法令の理解に基づいた生徒指導のありかた(〃)	講義中に指示の課題⑬
15	進路指導・生活指導における教師集団と保護者・地域・専門機関との連携(〃)	講義中に指示の課題⑭	
16	期末試験		

学びの実践	テキスト・参考文献・資料など
	<p>テキスト： 白井利明「生活指導の心理学」 勁草書房、文部科学省「生徒指導提要」                  参考書：文部科学省 国立教育政策研究所 生徒指導・進路指導研究センター編「変わる！キャリア教育」 ミネルヴァ書房 文部科学省HP 沖縄県教育庁HP</p>

学びの実践	学びの手立て
	<p>①予習・復習は必須です。予め講義の範囲のテキスト・資料を読み課題を記入したフォーマットをもとに講義内でグループディスカッションを行い、学びを深めます。                  ②欠席は「履修規程」通り厳密に扱います。                  ③配布物・提出物等についても、講義内で説明したとおりに進めます。                  上記は成績評価に反映します。</p>

学びの実践	評価
	<p>①予習復習・課題その他成果物をつづった「ポートフォリオ」および中間テストを含む平常点 …25%                  ②期末試験 …75%                  大学の教職課程ですので、「頑張ったから」「出席して感想文を出したから」合格、ということはありません。あくまで、教職につくために必要な能力を見るという観点から、①②を通して上記「到達目標」がどの程度できているかを評価します。</p>

学びの継続	次のステージ・関連科目
	<p>本講義および「教育の思想と原則」の単位を取得すると教科教育法に進めます。これら上位科目や教育実習では本講義で学んだ基礎理論に基づいて諸問題を考察し指導や授業の計画を立てることが求められます。また、心理学の関連科目として「教育心理学」等があります。</p>

科目基本情報	科目名 進路指導・生活指導	期別 後期	曜日・時限 水5	単位 2
	担当者 片本 恵利	対象年次 2年	授業に関する問い合わせ オフィス・アワー 水曜4校時	

学びの準備	ねらい 本科目は、心理学（とりわけ青年期の発達に関する諸理論）の立場から、グループワークやロールプレイを交えながら学校現場の実際に即して実践的に学んでいきます。全ての事例で基本的な理論を参照しながら考察を深めていくことを徹底します。また、教職課程を本格的に履修する準備ができていないかを見極める「関門科目」でもあり教壇に立つことを念頭に厳しい基準で成績評価を行います。	メッセージ 「いじめが起きたらどうしよう」「不登校や非行への対応が分からない」と悩んだりすることはありませんか。本講義では基礎理論に基づいて実際の場面に即した形で課題解決の方法を探ります。「理論はこんな風に使える」「こんなときこうすることもできる」と選択肢を増やして講義室を出しましょう。本講義はスクールカウンセラー等臨床心理士としての実務経験を生かして進められます。
	到達目標 ①教職の基礎となる学問的態度について理解し、身につけるための行動を継続する。 ②大学での学びの基礎と鳴る「読む」「書く」「話す」を身につけるための行動を継続する。 ③大学での講義への参加の基本となる予習・復習がコンスタントにできる。 ④青年期の発達課題と学校現場の諸問題との関係について理論に基づいて理解できるようになる。 ⑤④を踏まえて、学校現場の諸問題への対応の選択肢が増やせるようになる。	

学びの実践	学びのヒント 授業計画		
	回	テーマ	時間外学習の内容
	1	オリエンテーション 全ての生徒を対象とした、計画的で組織的な進路指導・生徒指導の取り組み	シラバスを読んでくる
	2	進路指導・生活指導に関わる基礎理論①～エリクソンを中心に（グループワークを含む）	講義中に指示の課題①
	3	進路指導・生活指導に関わる基礎理論② ～マズローを中心に（グループワークを含む）	講義中に指示の課題②
	4	進路指導の歴史～適材適所主義からキャリア教育、キャリア・カウンセリングへ（ 〃 ）	講義中に指示の課題③
	5	青年期の発達課題を踏まえた進路指導① ～事例に見る進路指導のポイント（ 〃 ）	講義中に指示の課題④
	6	青年期の発達課題を踏まえた進路指導②～“やりたい仕事”の見つけ方～事例を通じて（ 〃 ）	講義中に指示の課題⑤
	7	生徒の心に添う進路指導とは ～個別指導と集団指導（ 〃 ）	講義中に指示の課題⑥
	8	今日の進路指導に求められるもの ～近代的アイデンティティからダイバーシティへ（ 〃 ）	講義中に指示の課題⑦
	9	生徒指導の基本方針～各教科・道徳教育・総合的な学習の時間・特別活動における生徒指導（ 〃 ）	講義中に指示の課題⑧
	10	不登校への対応 青年期の発達課題と虐待・貧困等の理解に基づく集団指導・個別指導（ 〃 ）	講義中に指示の課題⑨
	11	非行への対応① 今日の非行をめぐる動向に基づく学級集団における非行防止の取り組み（ 〃 ）	講義中に指示の課題⑩
	12	非行への対応② 青年期の発達課題を踏まえた非行への対応～性教育・法教育を含む（ 〃 ）	講義中に指示の課題⑪
	13	青年期の発達課題といじめ いじり・インターネットへの対応を含めた集団指導・個別指導（ 〃 ）	講義中に指示の課題⑫
	14	体罰と指導死 ～校則・懲戒・関連する法令の理解に基づいた生徒指導のありかた（ 〃 ）	講義中に指示の課題⑬
	15	進路指導・生活指導における教師集団と保護者・地域・専門機関との連携（ 〃 ）	講義中に指示の課題⑭
16	期末試験		

学びの実践	テキスト・参考文献・資料など テキスト：白井利明 「生活指導の心理学」 勁草書房 文部科学省「生徒指導提要」 文部科学省 国立教育政策研究所 生徒指導・進路指導研究センター編「変わる！キャリア教育」 ミネルヴァ書房 文部科学省HP 沖縄県教育庁HP
-------	---

学びの実践	学びの手立て ①予習・復習は必須です。予め講義の範囲の資料を読み課題を記入したフォーマットをもとに講義内でグループディスカッションを行い、学びを深めます。 ②欠席は「履修規程」通り厳密に扱います。 ③配布物・提出物等についても、講義内で説明したとおりに進めます。 上記は成績評価に反映します。
-------	--

学びの実践	評価 ①予習復習・課題その他青果物をつづった「ポートフォリオ」および中間テストを含む平常点 … 25% ②期末試験 … 75% 大学の教職課程ですので、「頑張ったから」「出席して感想文を出したから」郷学、ということはありません。あくまで、教職に就くために必要な能力を見るという観点から、①②を通して上記「到達目標」がどの程度できているかを評価します。
-------	--

学びの継続	次のステージ・関連科目 この科目と「教育の思想と原則」の単位を取得すると、本学教職課程の履修階梯に添って教科教育法に進めます。これら上位の科目や教育実習では、本講義で学んだ理論に基づいて諸問題について考察し指導や授業の計画を立てることが求められます。また、心理学の関連科目として「教育心理学」があります。
-------	---

科目基本情報	科目名	期別	曜日・時限	単位
	進路指導・生活指導	後期	水3	2
	担当者	対象年次	授業に関する問い合わせ	
	片本 恵利	2年	オフィス・アワー 水曜4校時	

学びの準備	ねらい	メッセージ
	<p>本講義は、心理学とりわけ青年期の発達に関する諸理論の立場からグループワークやロールプレイを交えながら、学校現場の実際に即して実践的に学んでいきます。全ての事例で基本的な理論を参照しながら考察を深めていくことを徹底します。また、本格的な教職課程履修の準備ができていくを見極める「関門科目」でもあり、教壇に立つことを念頭に厳しい基準で成績評価を行います。</p>	<p>「いじめが起きたらどうしよう」「不登校や非行への対応が分からない」と悩んだりすることはありませんか。本講義では基礎理論に基づいて実際の場面に即した形で課題解決の方法を探ります。「理論はこんな風に使える」「こんなときこうすることもできる」と選択肢を増やして講義室を出しましょう。本講義はスクールカウンセラー等臨床心理士としての実務経験を生かして進められます。</p>
到達目標	<p>①教職の基礎となる学問的態度について理解し、身につけるための行動を継続できる。                  ②大学での学びの基礎となる「読む」「書く」「話す」を身につけるための行動を継続できる。                  ③大学での講義への参加の基本となる予習・復習がコンスタントにできる。                  ④青年期の発達課題と学校現場の諸問題との関係について理論に基づいた理解ができるようになる。                  ⑤④をふまえて、学校現場の諸問題への対応の選択肢が増やせるようになる。</p>	

学びの実践	学びのヒント		
	授業計画		
	回	テーマ	時間外学習の内容
	1	オリエンテーション 全ての生徒を対象とした計画的組織的な進路指導・生徒指導の取り組み	シラバスを読んでくる
	2	進路指導・生活指導に関わる基礎理論① ～エリクソンを中心に（グループワークを含む）	講義中に指示の課題①
	3	進路指導・生活指導に関わる基礎理論② ～マズローを中心に（ 〃 ）	講義中に指示の課題②
	4	進路指導・生活指導の歴史 ～適材適所主義からキャリア教育・キャリア・カウンセリングへ（ 〃 ）	講義中に指示の課題③
	5	青年期の発達課題をふまえた進路指導① ～事例に見る進路指導のポイント（ 〃 ）	講義中に指示の課題④
	6	青年期の発達課題をふまえた進路指導② ～“やりたい仕事”の見つけ方～事例を通じて（ 〃 ）	講義中に指示の課題⑤
	7	生徒の心に添う進路指導とは ～個別指導と集団指導（ 〃 ）	講義中に指示の課題⑥
	8	今日の進路指導に求められるもの ～近代的アイデンティティからダイバーシティへ（ 〃 ）	講義中に指示の課題⑦
	9	生徒指導の基本方針～各教科・道徳教育・総合的な学習の時間・特別活動における生徒指導（ 〃 ）	講義中に指示の課題⑧
	10	不登校への対応 青年期の発達課題と虐待・貧困等の理解に基づく集団指導・個別指導（ 〃 ）	講義中に指示の課題⑨
	11	非行への対応① 今日の非行をめぐる動向に基づく学級集団における非行防止の取り組み（ 〃 ）	講義中に指示の課題⑩
	12	非行への対応② 青年期の発達課題を踏まえた非行への対応～性教育・法教育を含む（ 〃 ）	講義中に指示の課題⑪
	13	青年期の発達課題といじめ いじり・インターネットへの対応を含めた集団指導・個別指導（ 〃 ）	講義中に指示の課題⑫
	14	体罰と指導死 ～校則・懲戒・関連する法令の理解に基づいた生徒指導のありかた（ 〃 ）	講義中に指示の課題⑬
15	進路指導・生活指導における教師集団と保護者・地域・専門機関との連携（ 〃 ）	講義中に指示の課題⑭	
16	期末試験		

学びの実践	テキスト・参考文献・資料など
	<p>テキスト： 白井利明「生活指導の心理学」勁草書房 文部科学省「生徒指導提要」                  参考文献・参考資料等： 文部科学省 国立教育政策研究所 生徒指導・進路指導研究センター編「変わる！キャリア教育」ミネルヴァ書房 文部科学省HP 沖縄県教育庁HP</p>

学びの実践	学びの手立て
	<p>①予習・復習は必須です。予め講義の範囲の資料を読み課題を記入したフォーマットをもとに講義内でグループディスカッションを行い、学びを深めます。                  ②欠席は「履修規程」通り厳密に扱います。                  ③配布物・提出物等についても、講義内で説明したとおりに進めます。                  上記は成績評価に反映します。</p>

学びの実践	評価
	<p>①予習復習・課題その他成果物をつづった「ポートフォリオ」お呼び中間テストを含む平常点 …25%                  ②期末試験 …75%                  大学の教職課程ですので、「頑張ったから」「出席して感想文を出したから」合格、ということはありません。あくまで、教職に就くために必要な能力を見るという観点から、①②を通して上記「到達目標」がどの程度達成できているかを評価します。</p>

学びの継続	次のステージ・関連科目
	<p>この科目と「教育の思想と原則」の単位を取得すると、本学教職課程の履修階梯に沿って教科教育法に進めます。これらの科目や教育実習では、本講義で学んだ理論に基づいて指導や授業の計画を立てることが求められます。また、心理学の関連科目として「教育心理学」があります。</p>

科目基本情報	科目名 進路指導・生活指導	期別 後期	曜日・時限 火5	単位 2
	担当者 片本 恵利	対象年次 2年	授業に関する問い合わせ オフィス・アワー 水曜4校時	

学びの準備	ねらい 本科目は、心理学とりわけ青年期の発達に関する諸理論の立場からグループワークやロールプレイを交えながら、学校現場の実際に即して実践的に学んでいきます。全ての事例で基本的な理論を参照しながら考察を深めテイクことを徹底します。また、教職課程を本格的に履修する準備ができているかを見極める「関門科目」でもあり教壇に立つことを念頭に厳しい基準で成績評価を行います。	メッセージ 「いじめが起きたらどうしよう」「不登校や非行への対応が分からない」と悩んだりすることはありませんか。本講義では基礎理論にもとづいて実際の場面に即した形で課題解決の方法を探ります。「理論はこんな風に使える」「こんなときこうすることもできる」と選択肢を増やして講義室を出しましょう。本講義はスクールカウンセラー等臨床心理士としての実務経験を生かして進められます。
	到達目標 ①教職の基礎となる学問的態度について理解し、身につけるための行動を継続する。 ②大学での学びの基礎と鳴る「読む」「書く」「話す」を身につけるための行動を継続する。 ③大学での講義への参加の基本となる予習・復習がコンスタントにできる。 ④青年期の発達課題と学校現場の諸問題との関係について理論に基づいて理解できるようになる。 ⑤④をふまえて、学校現場の諸問題への対応の選択肢が増やせるようになる。	

学びの実践	学びのヒント 授業計画		
	回	テーマ	時間外学習の内容
	1	オリエンテーション 全ての生徒を対象とした計画的組織的な進路指導・生徒指導の取り組み	シラバスを読んでくる
	2	進路指導・生活指導に関わる基礎理論① ～エリクソンを中心に（グループワークを含む）	講義中に指示の課題①
	3	進路指導・生活指導に関わる基礎理論② ～マズローを中心に（ 〃 ）	講義中に指示の課題②
	4	進路指導の歴史～適材適所主義からキャリア教育、キャリア・カウンセリングへ（ 〃 ）	講義中に指示の課題③
	5	青年期の発達課題をふまえた進路指導① ～事例に見る進路指導のポイント（ 〃 ）	講義中に指示の課題④
	6	青年期の発達課題を踏まえた進路指導②～“やりたい仕事”の見つけ方～事例を通じて（ 〃 ）	講義中に指示の課題⑤
	7	生徒の心に添う進路指導とは ～個別指導と集団指導（ 〃 ）	講義中に指示の課題⑥
	8	今日の進路指導に求められるもの ～近代的アイデンティティからダイバーシティへ（ 〃 ）	講義中に指示の課題⑦
	9	生徒指導の基本方針～各教科・道徳教育・総合的な学習の時間・特別活動における生徒指導（ 〃 ）	講義中に指示の課題⑧
	10	不登校への対応 青年期の発達課題と虐待・貧困等の理解に基づく集団指導・個別指導（ 〃 ）	講義中に指示の課題⑨
	11	非行への対応① 今日の非行をめぐる動向に基づく学級集団における非行防止の取り組み（ 〃 ）	講義中に指示の課題⑩
	12	非行への対応② 青年期の発達課題を踏まえた非行への対応～性教育・法教育を含む（ 〃 ）	講義中に指示の課題⑪
	13	青年期の発達課題といじめ いじり・インターネットへの対応を含めた集団指導・個別指導（ 〃 ）	講義中に指示の課題⑫
	14	体罰と指導死 ～校則・懲戒・関連する法令の理解に基づいた生徒指導のありかた（ 〃 ）	講義中に指示の課題⑬
	15	進路指導・生活指導における教師集団と保護者・地域・専門機関との連携（ 〃 ）	講義中に指示の課題⑭
16	期末試験		

学びの実践	テキスト・参考文献・資料など テキスト：白井利明「生活指導の心理学」勁草書房 文部科学省「生徒指導提要」 参考文献・参考資料等：文部科学省 教育政策研究所 生活指導・進路指導研究センター編「変わる！キャリア教育」文部科学省HP 沖縄県教育庁HP
-------	--

学びの実践	学びの手立て ①予習・復習は必須です。予め講義の範囲の資料を読み課題を記入したフォーマットをもとに講義内でグループディスカッションを行い、学びを深めます。 ②欠席は「履修規程」通り厳密に扱います。 ③配布物・提出物等についても、講義内で指示したとおりに進めます。 上記は成績評価に反映します。
-------	--

学びの実践	評価 ①予習復習・課題その他成果物をつづった「ポートフォリオ」および中間テストを含む平常点 …25% ②期末試験 …75% 大学の教職課程ですので、「頑張ったから」「出席して感想文を出したから」合格、ということはありません。あくまで、教職に就くために必要な能力を見るという観点から、①②を通じて上記「到達目標」がどの程度できているかを評価します。
-------	--

学びの継続	次のステージ・関連科目 この科目と「教育の思想と原則」の単位を取得すると、本学教職課程の履修階梯に沿って教科教育法に進めます。これらの科目や教育実習では、本講義で学んだ理論に基づいて指導や授業の計画を立てることが求められます。また、心理学の関連科目として「教育心理学」があります。
-------	---

科目基本情報	科目名	期別	曜日・時限	単位
	進路指導・生徒指導	前期	金2	2
	担当者	対象年次	授業に関する問い合わせ	
	片本 恵利	1年	オフィス・アワー 水曜4校時	

学びの準備	ねらい	メッセージ
	本講義は、心理学(とりわけ青年期の発達に関する諸理論)の立場から、グループワークやロールプレイを交えながら、学校現場の実際に即して実践的に学んでいきます。	「いじめが起きたらどうしよう」「不登校や非行への対応が分からない」と悩んだりすることはありませんか。本講義では基礎理論に基づいて実際の場面に即した形で課題解決の方法を探ります。「こんなときこうすることもできる」と選択肢を増やして講義室を出ましよう。本講義はスクールカウンセラー等臨床心理士としての実務経験を生かして進められます。
到達目標	①教職の基礎となる学問的態度について理解し、身につけるための行動を継続する。 ②大学での学びの基礎となる「読む」「書く」「話す」を身につけるための行動を継続する。 ③大学での講義への参加の基本となる予習・復習がコンスタントにできる。 ④青年期の発達課題と学校現場での諸問題の関係について理解できるようになる。 ⑤④を踏まえて、学校現場の諸問題への対応の選択肢が増やせるようになる。	

学びの実践	学びのヒント		
	授業計画		
	回	テーマ	時間外学習の内容
	1	オリエンテーション 全ての生徒を対象とした計画的組織的な進路指導・生徒指導の取り組み	シラバスを読んでくる
	2	進路指導・生活指導に関わる基礎理論① ～エリクソンを中心に(グループワークを含む)	講義中に指示の課題①
	3	進路指導・生徒指導に関わる基礎理論② ～マズローを中心に(〃)	講義中に指示の課題②
	4	進路指導の歴史～適材適所主義からキャリア教育、キャリア・カウンセリングへ(〃)	講義中に指示の課題③
	5	青年期の発達課題をふまえた進路指導① ～事例に見る進路指導のポイント(〃)	講義中に指示の課題④
	6	青年期の発達課題を踏まえた進路指導②～“やりたい仕事”の見つけ方～事例を通じて(〃)	講義中に指示の課題⑤
	7	生徒の心に添う進路指導とは ～個別指導と集団指導(〃)	講義中に指示の課題⑥
	8	今日の進路指導に求められるもの ～近代的アイデンティティからダイバーシティへ(〃)	講義中に指示の課題⑦
	9	生徒指導の基本方針～各教科・道徳教育・総合的な学習の時間・特別活動における生徒指導(〃)	講義中に指示の課題⑧
	10	不登校への対応 青年期の発達課題と虐待・貧困等の理解に基づく集団指導・個別指導(〃)	講義中に指示の課題⑨
	11	非行への対応① 今日の非行をめぐる動向に基づく学級集団における非行防止の取り組み(〃)	講義中に指示の課題⑩
	12	非行への対応② 青年期の発達課題を踏まえた非行への対応～性教育・法教育を含む(〃)	講義中に指示の課題⑪
	13	青年期の発達課題といじめ いじり・インターネットへの対応を含めた集団指導・個別指導(〃)	講義中に指示の課題⑫
	14	体罰と指導死 ～校則・懲戒・関連する法令の理解に基づいた生徒指導のありかた(〃)	講義中に指示の課題⑬
15	進路指導・生活指導における教師集団と保護者・地域・専門機関との連携(〃)	講義中に指示の課題⑭	
16	期末試験		

テキスト・参考文献・資料など  
 教科書： 白井利明「生活指導の心理学」勁草書房 文部科学省「生徒指導提要」  
 参考文献・参考資料等：文部科学省 教育政策研究所 生活指導・進路指導研究センター編「変わる！キャリア教育」  
 文部科学省HP 沖縄県教育庁HP

学びの手立て  
 ①予習・復習は必須です。予め講義の範囲のテキスト・資料を読み課題を記入したフォーマットをもとに講義内でグループディスカッションを行い、学びを深めます。  
 ③欠席は「履修規程」通り厳密に扱います。  
 ④配布物・提出物等についても、講義内で説明したとおりに進めます。  
 上記は成績評価に反映します。

評価  
 ①予習復習・課題その他成果物をつづった「ポートフォリオ」および中間テストを含む平常点 …25%  
 ②期末試験 …75%  
 大学の教職課程ですので、「頑張ったから」「出席して感想文を出したから」合格、ということはありません。あくまで、教職につくために必要な能力を見るという観点から、①②を通して上記「到達目標」がどの程度できているかを評価します。

学びの継続  
 次のステージ・関連科目  
 本講義および「教育の思想と原則」の単位を取得すると各教科教育法に進めます。上位科目では、本講義で学んだ基礎理論に基づいて諸問題を考察し指導や授業の計画を立てることが求められます。心理学の関連科目として、「教育心理学」等があります。

※ポリシーとの関連性

本講義では、基礎理論に基づいて本学の養成する教員像に求められる指導のありかたを実践的に学びます。

[ /一般講義]

科目基本情報	科目名	期別	曜日・時限	単位
	進路指導・生徒指導	前期	水3	2
	担当者	対象年次	授業に関する問い合わせ	
	片本 恵利	1年	オフィス・アワー 水曜4校時	

学びの準備	ねらい	メッセージ
	<p>本科目は、心理学(とりわけ青年期の発達に関する諸理論)の立場から、グループワークやロールプレイを交えながら、学校現場の実際に即して実践的に学んでいきます。また本講義は本格的な教職課程履修の準備ができていないかを見極める「関門科目」でもあり、教壇に立つことを念頭に厳しい基準で成績評価を行います。</p>	<p>「いじめが起きたらどうしよう」「不登校や非行への対応が分からない」と悩んだりすることはありませんか。この科目では基礎理論を用いて実際の場面に即した形で課題解決の方法を探ります。「こんなとき、こうすることもできる」と選択肢を増やして講義室のドアを出しましょう。本講義はスクールカウンセラー等臨床心理士としての実務経験を生かして進められます。</p>
到達目標	<p>①教職の基礎となる学問的態度について理解し、身につけるための行動を継続する。          ②大学での学びの基礎となる「読む」「書く」「話す」を身につけるための行動を継続する。          ③大学での講義への参加の基本となる予習・復習がコンスタントにできる。          ④青年期の発達課題と学校現場での諸問題の関係について理解できるようになる。          ⑤④を踏まえて、学校現場の諸問題への対応の選択肢が増やせるようになる。</p>	

学びの実践	学びのヒント		
	授業計画		
	回	テーマ	時間外学習の内容
	1	オリエンテーション 全ての生徒を対象とした、計画的で組織的な進路指導・生徒指導の取り組み	シラバスを読んでくる
	2	思進路指導・生徒指導に関わる基礎理論① ～エリクソンを中心に(グループワークを含む)	講義中に指示の課題①
	3	進路指導・生徒指導に関わる基礎理論② ～マズローを中心に(〃)	講義中に指示の課題②
	4	進路指導の歴史 ～適材適所主義からキャリア教育・キャリア・カウンセリングへ(〃)	講義中に指示の課題③
	5	青年期の発達課題を踏まえた進路指導① ～事例にみる進路指導のポイント(〃)	講義中に指示の課題④
	6	青年期の発達課題を踏まえた進路指導② ～“やりたい仕事”の見つけ方～事例を通じて(〃)	講義中に指示の課題⑤
	7	生徒の心に添う進路指導とは ～個別指導と集団指導(〃)	講義中に指示の課題⑥
	8	今日の進路指導に求められるもの ～近代的アイデンティティからダイバーシティへ(〃)	講義中に指示の課題⑦
	9	生徒指導の基本方針～各教科・道徳教育・総合的な学習の時間・特別活動における生徒指導(〃)	講義中に指示の課題⑧
	10	不登校への対応 青年期の発達課題と虐待貧困等の理解に基づく集団指導・個別指導(〃)	講義中に指示の課題⑨
	11	非行への対応① 今日の非行をめぐる動向に基づく学級集団における非行防止の取り組み(〃)	講義中に指示の課題⑩
	12	非行への対応② 青年期の発達課題を踏まえた非行への対応～性教育・法教育を含む(〃)	講義中に指示の課題⑪
	13	青年期の発達課題といじめ～いじり・インターネットへの対応を含む集団指導・個別指導(〃)	講義中に指示の課題⑫
	14	体罰と指導死 ～校則・懲戒・関連する法令の理解に基づいた生徒指導のありかた(〃)	講義中に指示の課題⑬
15	進路指導・生活指導における教師集団と保護者・地域・専門機関との連携(〃)	講義中に指示の課題⑭	
16	期末試験		

学びの実践	テキスト・参考文献・資料など
	<p>テキスト： 白井利明「生活指導の心理学」勁草書房、文部科学省「生徒指導提要」          参考書：文部科学省 国立教育政策研究所 生徒指導・進路指導研究センター編「変わる！キャリア教育」ミネルヴァ書房 文部科学省HP 沖縄県教育庁HP</p>

学びの実践	学びの手立て
	<p>①予習・復習は必須です。予め講義の範囲のテキスト・資料を読み課題を記入したフォーマットをもとに講義内でグループディスカッションを行い、学びを深めます。          ②欠席は「履修規程」通り厳密に扱います。          ③配布物・提出物等についても、講義内で説明したとおりに進めます。          上記は成績評価に反映します。</p>

学びの実践	評価
	<p>①予習復習・課題その他成果物をつづった「ポートフォリオ」および中間テストを含む平常点 …25%          ②期末試験 …75%          大学の教職課程ですので、「頑張ったから」「出席して感想文を出したから」合格、ということはありません。あくまで、教職につくために必要な能力を見るという観点から、①②を通して上記「到達目標」がどの程度できているかを評価します。</p>

学びの継続	次のステージ・関連科目
	<p>本講義および「教育の思想と原則」の単位を取得すると教科教育法に進めます。これら上位科目や教育実習では本講義で学んだ基礎理論に基づいて諸問題を考察し指導や授業の計画を立てることが求められます。また、心理学の関連科目として「教育心理学」等があります。</p>

科目基本情報	科目名 進路指導・生徒指導	期別 後期	曜日・時限 水5	単位 2
	担当者 片本 恵利	対象年次 1年	授業に関する問い合わせ オフィス・アワー 水曜4校時	

学びの準備	ねらい 本科目は、心理学（とりわけ青年期の発達に関する諸理論）の立場から、グループワークやロールプレイを交えながら学校現場の実際に即して実践的に学んでいきます。全ての事例で基本的な理論を参照しながら考察を深めていくことを徹底します。また、教職課程を本格的に履修する準備ができていないかを見極める「関門科目」でもあり教壇に立つことを念頭に厳しい基準で成績評価を行います。	メッセージ 「いじめが起きたらどうしよう」「不登校や非行への対応が分からない」と悩んだりすることはありませんか。本講義では基礎理論に基づいて実際の場面に即した形で課題解決の方法を探ります。「理論はこんな風に使える」「こんなときこうすることもできる」と選択肢を増やして講義室を出しましょう。本講義はスクールカウンセラー等臨床心理士としての実務経験を生かして進められます。
	到達目標 ①教職の基礎となる学問的態度について理解し、身につけるための行動を継続する。 ②大学での学びの基礎と鳴る「読む」「書く」「話す」を身につけるための行動を継続する。 ③大学での講義への参加の基本となる予習・復習がコンスタントにできる。 ④青年期の発達課題と学校現場の諸問題との関係について理論に基づいて理解できるようになる。 ⑤④を踏まえて、学校現場の諸問題への対応の選択肢が増やせるようになる。	

学びの実践	学びのヒント 授業計画		
	回	テーマ	時間外学習の内容
	1	オリエンテーション 全ての生徒を対象とした、計画的で組織的な進路指導・生徒指導の取り組み	シラバスを読んでくる
	2	進路指導・生活指導に関わる基礎理論①～エリクソンを中心に（グループワークを含む）	講義中に指示の課題①
	3	進路指導・生活指導に関わる基礎理論② ～マズローを中心に（グループワークを含む）	講義中に指示の課題②
	4	進路指導の歴史～適材適所主義からキャリア教育、キャリア・カウンセリングへ（ 〃 ）	講義中に指示の課題③
	5	青年期の発達課題を踏まえた進路指導① ～事例に見る進路指導のポイント（ 〃 ）	講義中に指示の課題④
	6	青年期の発達課題を踏まえた進路指導②～“やりたい仕事”の見つけ方～事例を通じて（ 〃 ）	講義中に指示の課題⑤
	7	生徒の心に添う進路指導とは ～個別指導と集団指導（ 〃 ）	講義中に指示の課題⑥
	8	今日の進路指導に求められるもの ～近代的アイデンティティからダイバーシティへ（ 〃 ）	講義中に指示の課題⑦
	9	生徒指導の基本方針～各教科・道徳教育・総合的な学習の時間・特別活動における生徒指導（ 〃 ）	講義中に指示の課題⑧
	10	不登校への対応 青年期の発達課題と虐待・貧困等の理解に基づく集団指導・個別指導（ 〃 ）	講義中に指示の課題⑨
	11	非行への対応① 今日の非行をめぐる動向に基づく学級集団における非行防止の取り組み（ 〃 ）	講義中に指示の課題⑩
	12	非行への対応② 青年期の発達課題を踏まえた非行への対応～性教育・法教育を含む（ 〃 ）	講義中に指示の課題⑪
	13	青年期の発達課題といじめ いじり・インターネットへの対応を含めた集団指導・個別指導（ 〃 ）	講義中に指示の課題⑫
	14	体罰と指導死 ～校則・懲戒・関連する法令の理解に基づいた生徒指導のありかた（ 〃 ）	講義中に指示の課題⑬
	15	進路指導・生活指導における教師集団と保護者・地域・専門機関との連携（ 〃 ）	講義中に指示の課題⑭
16	期末試験		

学びの実践	テキスト・参考文献・資料など テキスト：白井利明 「生活指導の心理学」 勁草書房 文部科学省「生徒指導提要」 文部科学省 国立教育政策研究所 生徒指導・進路指導研究センター編「変わる！キャリア教育」 ミネルヴァ書房 文部科学省HP 沖縄県教育庁HP
-------	---

学びの手立て	①予習・復習は必須です。予め講義の範囲の資料を読み課題を記入したフォーマットをもとに講義内でグループディスカッションを行い、学びを深めます。 ②欠席は「履修規程」通り厳密に扱います。 ③配布物・提出物等についても、講義内で説明したとおりに進めます。 上記は成績評価に反映します。
--------	--

評価	①予習復習・課題その他青果物をつづった「ポートフォリオ」および中間テストを含む平常点 …25% ②期末試験 …75% 大学の教職課程ですので、「頑張ったから」「出席して感想文を出したから」郷学、ということはありません。あくまで、教職に就くために必要な能力を見るという観点から、①②を通して上記「到達目標」がどの程度できているかを評価します。
----	--

学びの継続	次のステージ・関連科目 この科目と「教育の思想と原則」の単位を取得すると、本学教職課程の履修階梯に添って教科教育法に進めます。これら上位の科目や教育実習では、本講義で学んだ理論に基づいて諸問題について考察し指導や授業の計画を立てることが求められます。また、心理学の関連科目として「教育心理学」があります。
-------	---

科目基本情報	科目名	期別	曜日・時限	単位
	進路指導・生徒指導	後期	水3	2
	担当者	対象年次	授業に関する問い合わせ	
	片本 恵利	1年	オフィス・アワー 水曜4校時	

学びの準備	ねらい	メッセージ
	<p>本講義は、心理学とりわけ青年期の発達に関する諸理論の立場からグループワークやロールプレイを交えながら、学校現場の実際に即して実践的に学んでいきます。全ての事例で基本的な理論を参照しながら考察を深めていくことを徹底します。また、本格的な教職課程履修の準備ができていくを見極める「関門科目」でもあり、教壇に立つことを念頭に厳しい基準で成績評価を行います。</p>	<p>「いじめが起きたらどうしよう」「不登校や非行への対応が分からない」と悩んだりすることはありませんか。本講義では基礎理論に基づいて実際の場面に即した形で課題解決の方法を探ります。「理論はこんな風に使える」「こんなときこうすることもできる」と選択肢を増やして講義室を出しましょう。本講義はスクールカウンセラー等臨床心理士としての実務経験を生かして進められます。</p>
到達目標	<p>①教職の基礎となる学問的態度について理解し、身につけるための行動を継続できる。                  ②大学での学びの基礎となる「読む」「書く」「話す」を身につけるための行動を継続できる。                  ③大学での講義への参加の基本となる予習・復習がコンスタントにできる。                  ④青年期の発達課題と学校現場の諸問題との関係について理論に基づいた理解ができるようになる。                  ⑤④をふまえて、学校現場の諸問題への対応の選択肢が増やせるようになる。</p>	

学びの実践	学びのヒント		
	授業計画		
	回	テーマ	時間外学習の内容
	1	オリエンテーション 全ての生徒を対象とした計画的組織的な進路指導・生徒指導の取り組み	シラバスを読んでくる
	2	進路指導・生活指導に関わる基礎理論① ～エリクソンを中心に（グループワークを含む）	講義中に指示の課題①
	3	進路指導・生活指導に関わる基礎理論② ～マズローを中心に（ 〃 ）	講義中に指示の課題②
	4	進路指導・生活指導の歴史 ～適材適所主義からキャリア教育・キャリア・カウンセリングへ（ 〃 ）	講義中に指示の課題③
	5	青年期の発達課題をふまえた進路指導① ～事例に見る進路指導のポイント（ 〃 ）	講義中に指示の課題④
	6	青年期の発達課題をふまえた進路指導② ～“やりたい仕事”の見つけ方～事例を通じて（ 〃 ）	講義中に指示の課題⑤
	7	生徒の心に添う進路指導とは ～個別指導と集団指導（ 〃 ）	講義中に指示の課題⑥
	8	今日の進路指導に求められるもの ～近代的アイデンティティからダイバーシティへ（ 〃 ）	講義中に指示の課題⑦
	9	生徒指導の基本方針～各教科・道徳教育・総合的な学習の時間・特別活動における生徒指導（ 〃 ）	講義中に指示の課題⑧
	10	不登校への対応 青年期の発達課題と虐待・貧困等の理解に基づく集団指導・個別指導（ 〃 ）	講義中に指示の課題⑨
	11	非行への対応① 今日の非行をめぐる動向に基づく学級集団における非行防止の取り組み（ 〃 ）	講義中に指示の課題⑩
	12	非行への対応② 青年期の発達課題を踏まえた非行への対応～性教育・法教育を含む（ 〃 ）	講義中に指示の課題⑪
	13	青年期の発達課題といじめ いじり・インターネットへの対応を含めた集団指導・個別指導（ 〃 ）	講義中に指示の課題⑫
	14	体罰と指導死 ～校則・懲戒・関連する法令の理解に基づいた生徒指導のありかた（ 〃 ）	講義中に指示の課題⑬
15	進路指導・生活指導における教師集団と保護者・地域・専門機関との連携（ 〃 ）	講義中に指示の課題⑭	
16	期末試験		

学びの実践	テキスト・参考文献・資料など
	<p>テキスト： 白井利明「生活指導の心理学」勁草書房 文部科学省「生徒指導提要」                  参考文献・参考資料等： 文部科学省 国立教育政策研究所 生徒指導・進路指導研究センター編「変わる！キャリア教育」ミネルヴァ書房 文部科学省HP 沖縄県教育庁HP</p>

学びの実践	学びの手立て
	<p>①予習・復習は必須です。予め講義の範囲の資料を読み課題を記入したフォーマットをもとに講義内でグループディスカッションを行い、学びを深めます。                  ②欠席は「履修規程」通り厳密に扱います。                  ③配布物・提出物等についても、講義内で説明したとおりに進めます。                  上記は成績評価に反映します。</p>

学びの実践	評価
	<p>①予習復習・課題その他成果物をつづった「ポートフォリオ」お呼び中間テストを含む平常点 …25%                  ②期末試験 …75%                  大学の教職課程ですので、「頑張ったから」「出席して感想文を出したから」合格、ということはありません。あくまで、教職に就くために必要な能力を見るという観点から、①②を通して上記「到達目標」がどの程度達成できているかを評価します。</p>

学びの継続	次のステージ・関連科目
	<p>この科目と「教育の思想と原則」の単位を取得すると、本学教職課程の履修階梯に沿って教科教育法に進めます。これらの科目や教育実習では、本講義で学んだ理論に基づいて指導や授業の計画を立てることが求められます。また、心理学の関連科目として「教育心理学」があります。</p>

※ポリシーとの関連性

本講義は、基礎理論に基づいて本学の養成する教員像に求められる指導の在り方を実践的に学びます。

[ /一般講義]

科目基本情報	科目名 進路指導・生徒指導	期別 後期	曜日・時限 火5	単位 2
	担当者 片本 恵利	対象年次 1年	授業に関する問い合わせ オフィス・アワー 水曜4校時	

学びの準備	ねらい 本科目は、心理学とりわけ青年期の発達に関する諸理論の立場からグループワークやロールプレイを交えながら、学校現場の実際に即して実践的に学んでいきます。全ての事例で基本的な理論を参照しながら考察を深めテイクことを徹底します。また、教職課程を本格的に履修する準備ができているかを見極める「関門科目」でもあり教壇に立つことを念頭に厳しい基準で成績評価を行います。	メッセージ 「いじめが起きたらどうしよう」「不登校や非行への対応が分からない」と悩んだりすることはありませんか。本講義では基礎理論にもとづいて実際の場面に即した形で課題解決の方法を探ります。「理論はこんな風に使える」「こんなときこうすることもできる」と選択肢を増やして講義室を出しましょう。本講義はスクールカウンセラー等臨床心理士としての実務経験を生かして進められます。
	到達目標 ①教職の基礎となる学問的態度について理解し、身につけるための行動を継続する。 ②大学での学びの基礎と鳴る「読む」「書く」「話す」を身につけるための行動を継続する。 ③大学での講義への参加の基本となる予習・復習がコンスタントにできる。 ④青年期の発達課題と学校現場の諸問題との関係について理論に基づいて理解できるようになる。 ⑤④をふまえて、学校現場の諸問題への対応の選択肢が増やせるようになる。	

学びの実践	学びのヒント 授業計画		
	回	テーマ	時間外学習の内容
	1	オリエンテーション 全ての生徒を対象とした計画的組織的な進路指導・生徒指導の取り組み	シラバスを読んでくる
	2	進路指導・生活指導に関わる基礎理論① ～エリクソンを中心に（グループワークを含む）	講義中に指示の課題①
	3	進路指導・生活指導に関わる基礎理論② ～マズローを中心に（ 〃 ）	講義中に指示の課題②
	4	進路指導の歴史～適材適所主義からキャリア教育、キャリア・カウンセリングへ（ 〃 ）	講義中に指示の課題③
	5	青年期の発達課題をふまえた進路指導① ～事例に見る進路指導のポイント（ 〃 ）	講義中に指示の課題④
	6	青年期の発達課題を踏まえた進路指導②～“やりたい仕事”の見つけ方～事例を通じて（ 〃 ）	講義中に指示の課題⑤
	7	生徒の心に添う進路指導とは ～個別指導と集団指導（ 〃 ）	講義中に指示の課題⑥
	8	今日の進路指導に求められるもの ～近代的アイデンティティからダイバーシティへ（ 〃 ）	講義中に指示の課題⑦
	9	生徒指導の基本方針～各教科・道徳教育・総合的な学習の時間・特別活動における生徒指導（ 〃 ）	講義中に指示の課題⑧
	10	不登校への対応 青年期の発達課題と虐待・貧困等の理解に基づく集団指導・個別指導（ 〃 ）	講義中に指示の課題⑨
	11	非行への対応① 今日の非行をめぐる動向に基づく学級集団における非行防止の取り組み（ 〃 ）	講義中に指示の課題⑩
	12	非行への対応② 青年期の発達課題を踏まえた非行への対応～性教育・法教育を含む（ 〃 ）	講義中に指示の課題⑪
	13	青年期の発達課題といじめ いじり・インターネットへの対応を含めた集団指導・個別指導（ 〃 ）	講義中に指示の課題⑫
	14	体罰と指導死 ～校則・懲戒・関連する法令の理解に基づいた生徒指導のありかた（ 〃 ）	講義中に指示の課題⑬
	15	進路指導・生活指導における教師集団と保護者・地域・専門機関との連携（ 〃 ）	講義中に指示の課題⑭
16	期末試験		

学びの実践	テキスト・参考文献・資料など テキスト：白井利明「生活指導の心理学」勁草書房 文部科学省「生徒指導提要」 参考文献・参考資料等：文部科学省 教育政策研究所 生活指導・進路指導研究センター編「変わる！キャリア教育」文部科学省HP 沖縄県教育庁HP
-------	--

学びの実践	学びの手立て ①予習・復習は必須です。予め講義の範囲の資料を読み課題を記入したフォーマットをもとに講義内でグループディスカッションを行い、学びを深めます。 ②欠席は「履修規程」通り厳密に扱います。 ③配布物・提出物等についても、講義内で指示したとおりに進めます。 上記は成績評価に反映します。
-------	--

学びの実践	評価 ①予習復習・課題その他成果物をつづった「ポートフォリオ」および中間テストを含む平常点 …25% ②期末試験 …75% 大学の教職課程ですので、「頑張ったから」「出席して感想文を出したから」合格、ということはありません。あくまで、教職に就くために必要な能力を見るという観点から、①②を通じて上記「到達目標」がどの程度できているかを評価します。
-------	--

学びの継続	次のステージ・関連科目 この科目と「教育の思想と原則」の単位を取得すると、本学教職課程の履修階梯に沿って教科教育法に進めます。これらの科目や教育実習では、本講義で学んだ理論に基づいて指導や授業の計画を立てることが求められます。 また、心理学の関連科目として「教育心理学」があります。
-------	---

※ポリシーとの関連性

教職に関する科目であり、本学カリキュラムポリシーにおける「専門職業人として社会貢献できる能力」の習得に関連します。

[ /一般講義]

科目基本情報	科目名	期別	曜日・時限	単位
	情報科教育法	前期	火5	2
	担当者	対象年次	授業に関する問い合わせ	
	平良 直之	3年	産業情報学科 平良直之 email: ntaira@okiu.ac.jp	

学びの準備	ねらい	メッセージ
	情報科教員には、教員としての基本的な資質に加えて、情報に関する知識と情報技術が求められる。したがって、受講者自身が情報分野において本質を深く理解するとともに、それらを効果的に教える技術も必要とされる。本講義では、教科としての「情報」の設置の経緯を概観し、現代社会における情報技術の必要性和情報技術活用の展望を解説し、情報分野を体系的に学ぶ。	本講義では高等学校で使用されている教科書をベースに学習指導要領で求められることを関連付けながら学びます。情報教員として必要不可欠の知識であることを留意してください。
到達目標	学習指導要領に示された情報教育の目標について理解し、教科の各科目の内容と関連性を具体的に説明できるようにする。また、授業設計の重要性について理解する。	

学びの実践	学びのヒント		
	授業計画		
	回	テーマ	時間外学習の内容
	1	情報科設立の背景と経緯	テキストpp. 1-17の復習
	2	社会と情報における目標と内容 (1) 情報の活用と表現、コミュニケーションについて	テキストpp. 18-22の復習
	3	社会と情報における目標と内容 (2) 情報社会の課題とモラル、望ましい情報社会について	テキストpp. 22-26の復習
	4	情報の科学における目標と内容 (1) 情報通信ネットワーク、問題解決について	テキストpp. 27-32の復習
	5	情報の科学における目標と内容 (2) 情報管理、情報技術の進展について	テキストpp. 32-37の復習
	6	情報産業と社会	テキストpp. 58-61の復習
	7	情報の表現と管理	テキストpp. 64-66の復習
	8	情報と問題解決	テキストpp. 67-70の復習
	9	情報テクノロジー	テキストpp. 71-74の復習
	10	情報コンテンツの制作・発信分野	テキストpp. 91-102の復習
	11	システムの設計・管理分野	システムの設計・管理分野の復習
	12	課題研究の目標と取り組み事例	テキストpp. 106-115の予習
	13	教育課程の編成と配慮すべき事項	テキストpp. 116-120の予習
14	指導計画の作成 (1) 指導計画作成の配慮事項について	指導計画の作成	
15	指導計画の作成 (2) 科目指導、実習実施の配慮事項について	指導計画の作成	
16	試験・総括		
テキスト・参考文献・資料など			
<p>テキスト：          高等学校学習指導要領（平成21年3月告示 文部科学省）          高等学校学習指導要領解説 情報編（平成21年3月告示 文部科学省）</p> <p>参考文献・資料：          授業時に適宜配付する。</p>			
学びの手立て			
<p>「履修の心構え」          遅刻・欠席をしないこと。毎回予習課題を課すので、必ず取り組むこと。          「学びを深めるために」          指定テキストだけでなく、図書館所蔵の書籍やDVDも適宜参考にすること。</p>			
評価			
課題レポート（50%）、試験（50%）で判断する。			

学びの継続	次のステージ・関連科目 次のステージとして「情報化教育法演習」がある。
-------	--

※ポリシーとの関連性

教職に関する科目であり、本学カリキュラムポリシーにおける「専門職業人として社会貢献できる能力」の習得に関連します。

[ /演習]

科目基本情報	科目名	期別	曜日・時限	単位
	情報科教育法演習	後期	月5	2
	担当者	対象年次	授業に関する問い合わせ	
	平良 直之	3年	産業情報学科 平良直之 email: ntaira@okiu.ac.jp	

学びの準備	ねらい 「情報科教育法」の履修成果を踏まえ、学習指導案を作成し、各自1コマ(標準50分)の模擬授業を複数回行う。模擬授業を受ける際も授業分析を行わせ、授業実践の力量形成の一助とする。	メッセージ 本講義では学習指導案の作成と模擬授業の実施を中心にすすめていきます。模擬授業は教育実習先での研究授業を想定しているため、毎回の予習課題が非常に多いことに留意してください。
	到達目標 学習指導案に基づいた授業実践能力を身につける。また、授業実施に関連する、教材の作成方法、情報機器・技術の活用法について習得する。	

学びの実践	学びのヒント 授業計画		
	回	テーマ	時間外学習の内容
	1	授業構築の実践(1)～座学授業の目的～(講義)	担当授業の資料作成
	2	模擬授業と研究討議(1)情報とメディア	当該講義復習/担当授業の資料作成
	3	模擬授業と研究討議(2)情報と通信	当該講義復習/担当授業の資料作成
	4	模擬授業と研究討議(3)情報化社会の課題	当該講義復習/担当授業の資料作成
	5	模擬授業と研究討議(4)コンピュータの仕組み	当該講義復習/担当授業の資料作成
	6	模擬授業と研究討議(5)情報通信ネットワークの仕組み	当該講義復習/担当授業の資料作成
	7	模擬授業と研究討議(6)情報の蓄積とデータベース	当該講義復習/担当授業の資料作成
	8	模擬授業と研究討議(7)情報システムとサービス	当該講義復習/担当授業の資料作成
	9	授業構築の実践(2)～演習授業の目的～(講義)	当該講義復習/担当授業の資料作成
	10	模擬授業と研究討議(8)情報検索とインターネット	当該講義復習/担当授業の資料作成
	11	模擬授業と研究討議(9)文書作成とワープロソフト	当該講義復習/担当授業の資料作成
	12	模擬授業と研究討議(10)統計処理と表計算ソフト	当該講義復習/担当授業の資料作成
	13	模擬授業と研究討議(11)発表資料作成とプレゼンテーションソフト	当該講義復習/担当授業の資料作成
	14	模擬授業と研究討議(12)インタープリタ型言語	当該講義復習/担当授業の資料作成
15	模擬授業と研究討議(13)コンパイラ型言語	当該講義復習	
16	試験・総括		
テキスト・参考文献・資料など テキスト： 高等学校学習指導要領(平成21年3月告示 文部科学省) 高等学校学習指導要領解説 情報編(平成21年3月告示 文部科学省) 参考文献・資料： 授業時に適宜配付する。			
学びの手立て 「履修の心構え」 遅刻・欠席をしないこと。毎回予習課題を課すので、必ず取り組むこと。 「学びを深めるために」 指定テキストだけでなく、図書館所蔵の書籍やDVDも適宜参考にすること。			
評価 学習指導案の内容(30%)、模擬授業の内容(30%)、課題レポート(40%)			

学びの継続	次のステージ・関連科目 本講義の次のステージは、高等学校での教育実習である。
-------	---

科目基本情報	科目名	期別	曜日・時限	単位
	情報通信ネットワーク実習	前期	水2	1
	担当者	対象年次	授業に関する問い合わせ	
	小渡 悟	2年	E-mail: sodo@okiu.ac.jp	

学びの準備	ねらい 産業社会における情報通信ネットワークの技術基盤を理解し、実習を通してネットワークシステムの構築と運用と保守管理等について理解を深める。	メッセージ 省電力小型パソコンとしての利用、無線LAN設定、サーバー(Web, ファイルサーバー)構築、プログラミングの基本、電子工作、I2Cデバイスの制御、インターネットサービスを利用した応用まで行います。
	到達目標 Raspberry Piと電子工作を通してネットワーク技術基盤の知識、IoTプログラミングの技術を修得する。	

学びの実践	学びのヒント 授業計画		
	回	テーマ	時間外学習の内容
	1	オリエンテーション	教科書・参考書の内容確認
	2	ネットワークの基本	当該演習の復習/次回演習の予習
	3	Raspberry Piの操作と設定(1)	当該演習の復習/次回演習の予習
	4	Raspberry Piの操作と設定(2)	当該演習の復習/次回演習の予習
	5	小型Linuxマシンとして利用する(1)	当該演習の復習/次回演習の予習
	6	小型Linuxマシンとして利用する(2)	当該演習の復習/次回演習の予習
	7	プログラム(Scratch, Python)	当該演習の復習/次回演習の予習
	8	電子回路の制御(1)	当該演習の復習/次回演習の予習
	9	電子回路の制御(2)	当該演習の復習/次回演習の予習
	10	I2Cデバイスの制御	当該演習の復習/次回演習の予習
	11	グループ製作によるシステムの企画・開発(1)	課題作成・発表準備
	12	グループ製作によるシステムの企画・開発(1)	課題作成・発表準備
	13	発表会	課題作成・発表準備
	14	個人製作によるシステムの企画・開発(1)	課題作成・発表準備
15	個人製作によるシステムの企画・開発(2)	課題作成・発表準備	
16	最終発表会	発表準備	
	テキスト・参考文献・資料など テキスト：福田和宏「これ1冊でできる！ラズベリー・パイ 超入門 改訂第5版」ソーテック社(2018) 参考書： 阿部和広 他「Raspberry Piではじめるどきどきプログラミング増補改訂第2版」日経BP社(2016) 石井モルナ 他「みんなのRaspberry Pi入門 第3版」リックテレコム(2016)		
	学びの手立て 「履修の心構え」遅刻・欠席をしないこと。毎回演習課題および予習課題を課すので、必ず取り組むこと。 「学びを深めるために」指定テキストだけでなく、参考文献も適宜調べること。		
	評価 グループ制作によるシステムの完成度(40%)、個人制作によるシステムの完成度(40%)、ならびに、演習への参加度(20%)などを勘案して総合的に行う。 総合評価の9割以上「秀」、8割以上「優」、7割以上「良」、6割以上「可」とし6割未満「不可」とする。		

学びの継続	次のステージ・関連科目 関連科目：情報通信ネットワーク論、システム設計実習
-------	--

※ポリシーとの関連性

教職課程の教科に関する科目であり、将来中学社会科、高校地歴科の教員としての基礎的知識・技能を養う授業である。

[ /一般講義]

科目基本情報	科目名	期別	曜日・時限	単位
	人文地理学概論	前期	木1	2
	担当者	対象年次	授業に関する問い合わせ	
	-宮内 久光	1年	授業終了後に教室で受け付けます。	

学びの準備	ねらい	メッセージ
	<p>地理的な見方や考え方の視点は「位置や分布、場所、人間と自然環境との相互依存関係、空間的相互依存作用、地域」の5つである。このうち、本講義では「地域」の枠組を基本としながら「位置や分布」「空間的相互依存作用」を中心に学習する。具体的には農業、工業、小売業の立地、移民やキセツ移動という地理的事象を取り上げて検討することで、地理の見方や考え方を養うものである。</p>	<p>将来、中学社会科、高校地歴科で地理分野を指導する際に、地理の見方や考え方は非常に重要になります。そのためには教師自身が地理の見方や考え方を身に付けなければなりません。ただし、地理の見方や考え方は漠然とした概念なので、この授業で学ぶ立地論や移動論の検討を通して身に付けていってもらえれば、と思っています。</p>
到達目標	<p>①チューネンの農業経営様式やウェーバーの工業立地に関する理論を理解する。 ②沖縄移民や沖縄からのキセツ移動から空間的相互依存作用に関する概念を理解する。 ③コンビニエンスストアの立地を流通システムの面から説明できるようにする。 ④移民データベースを作成して分析したり、キセツ経験者からの聞き取り結果をレポート化する。</p>	

学びの実践	学びのヒント		
	授業計画		
	回	テーマ	時間外学習の内容
	1	人文地理学とはどのような学問なのか、地理の見方・考え方とは何か。	地理学の概念について調べておく
	2	チューネンの農業立地論の概要を理解する。	チューネン理論について復習する
	3	日本や沖縄の農業の現状を理論的に検討する。	理論と現状について復習する。
	4	シミュレーション教材「カリフォルニア州の農民行動」を行う。	ゲーム教材の有効性と応用を考える
	5	ウェーバーの工業立地論の概要を理解する。	ウェーバー理論について復習する
	6	ウェーバーの工業立地論を輸送費の面から最適立地を検討する。	輸送費算出の計算を復習する
	7	現代日本における各産業の工場立地をウェーバー理論から検討する①	現実を理論で説明できるように復習
8	現代日本における各産業の工場立地をウェーバー理論から検討する②	現実を理論で説明できるように復習	
9	沖縄からの移民について空間的相互依存作用から検討する①	移民データベースの作成	
10	沖縄からの移民について空間的相互依存作用から検討する②	移民データベースの作成	
11	沖縄からのキセツ移動について空間的相互依存作用から検討する	空間的相互依存作用概念の復習	
12	沖縄からのキセツ移動について送出システムから検討する	キセツ経験者から話を聞く	
13	沖縄からのキセツ移動について歴史的視点から検討する	歴史と地理の関係性について復習	
14	流通の側面からみるコンビニエンスストアの展開について検討する。	立地を理論で説明できるように復習	
15	離島におけるコンビニの展開について島嶼性から検討する。	立地を理論で説明できるように復習	
16	期末評価	これまでの学習の見直し	
実践	テキスト・参考文献・資料など	テキストは使用しません。プリントを配布します。	
学びの手立て	教職の授業ですから、授業を聞きながら、どこが将来社会科系教員になった場合に参考にできるのかを常に意識をしながら聴講してください。		
評価	<p>講義の内容の理解・・・60点                  地理的技能と分析・・・20点                  聞き取りとレポート化・・・20点                  なお、この授業の内容について自分で努力をしたことについては、個別に評価して加点する。</p>		

学びの継続	<p>次のステージ・関連科目</p> <p>後期に「人文地理学特論」を開講しますので、継続して履修すると、地理の見方や考え方がより深まると思います。</p>
-------	--

※ポリシーとの関連性

教職課程の教科に関する科目であり、将来中学社会科、高校地歴科の教員としての基礎的知識・技能を養う授業である。

[ /一般講義]

科目基本情報	科目名	期別	曜日・時限	単位
	人文地理学特講	後期	木1	2
	担当者	対象年次	授業に関する問い合わせ	
	-宮内 久光	1年	授業終了後に教室で受け付けます。	

学びの準備	ねらい	メッセージ
	地理的な見方や考え方の視点は「位置や分布、場所、人間と自然環境との相互依存関係、空間的相互依存作用、地域」の5つである。このうち、本講義ではこれらの視点を用いて、都市、農村、離島の人文・自然環境を地形図から読図したり、グローバルなウチナーネットワークの諸相を検討する。	地理教育の中で、地形図の読図は重要な位置を占めています。今講義では教室での読図指導のほか、沖縄県内各地に出かけ、地形図と現地とを照合させる野外巡検を用意しました。また、沖縄は移民県と呼ばれ、現在グローバルなネットワークを構築しています。ウチナーネットワークから沖縄という場所の特性を検討していきます。
到達目標	①地形図で簡単な図上計測ができる。 ②地形図から都市や農村、離島の地域性を読み取ることができる。 ③地形図を現地と対応して地域の特徴を観察することができる。 ④グローバルなウチナーネットワークの諸相について自分で調べてレポート化する。	

学びの実践	学びのヒント	授業計画	
	回	テーマ	時間外学習の内容
	1	オリエンテーションおよび地形図の基本	浜比嘉島巡検
	2	地形図を用いた図上計測（距離、面積）を行う①	図上計測の復習
	3	地形図を用いた図上計測（距離、面積）を行う②	図上計測の復習
	4	計画都市・札幌の都市構造と都市形成について地形図から読図する（明治）。	読図の復習
	5	計画都市・札幌の都市構造と都市形成について地形図から読図する（大正・昭和初期）。	読図の復習
	6	城下町・金沢の空間構造について絵地図から読図する	読図の復習
	7	幕末・江戸の空間構造について絵地図から読図する	読図の復習
	8	那覇の都市構造と都市形成について地形図から読図する①	那覇市内巡検
9	那覇の都市構造と都市形成について地形図から読図する②	読図の復習	
10	沖縄の農業集落の成立と形態的特徴を地形図から読図する。	南部農村巡検	
11	沖縄の離島の特徴について地形図から読図する。	津堅島巡検	
12	沖縄からの移民について	移民データベースを作成	
13	ハワイ、南米におけるウチナーンチュと県人会組織	移民データベースを作成	
14	世界のウチナーンチュとは・・・世界のウチナーンチュ大会	ウチナーンチュ大会について調べる	
15	ビジネスネットワーク・・・WUB	WUBについて調べる	
16	期末評価	これまでの学習の振り返り	
テキスト・参考文献・資料など	平岡昭利編『読みたくなる地図 国土編』海青社 2019年、1600円 平岡昭利・須山聡・宮内久光編『図説日本の島 76の魅力ある島々の営み』朝倉書店 2018年、4500円 須山聡・宮内久光・助重雄久編『離島研究VI』海青社 2018年、3700円 町田宗博・金城宏幸・宮内久光編『躍動する沖縄系移民 ブラジル、ハワイを中心に』彩流社 2013年、3000円		
学びの手立て	積極的に巡検に参加してください。		
評価	講義の内容の理解・・・60点 地理的技能と分析・・・20点 巡検参加とレポート化・・・20点 なお、この授業の内容について自分で努力をしたことについては、個別に評価して加点する。		

学びの継続	次のステージ・関連科目 前期の「人文地理学概論」が立地論や移動論を通して地理の見方・考え方を学びます。もし、まだ未履修の場合は、こちらも学習すれば、地理教育の基本が一通り学べます。また、地理学関係の専門科目も積極的に受講してください。
-------	--

科目基本情報	科目名	期別	曜日・時限	単位
	総合的な学習の時間の指導法	前期	水5	1
	担当者	対象年次	授業に関する問い合わせ	
	-白尾 裕志	3年	講義終了後に教室で受け付けます	

学びの準備	ねらい	メッセージ
	他の教科・領域等で形成する見方・考え方や資質・能力を総合的に活用して、広範な事象を多様な角度から俯瞰して捉え、実社会・実生活の課題を探究する学びを実現するために、「総合的な学習の時間」の指導計画の作成および具体的な指導の仕方、並びに学習活動の評価に関する知識・技能を身に付ける。	自らの「総合的な学習の時間」の経験を確認して、受講してください。中学校学習指導要領の「総合的な学習の時間」の目標に掲げている「探究的な見方・考え方を働かせ、横断的・総合的な学習」を講義の中で一貫して行います。自由闊達で多様な意見や考え方を交流し合えるように臨んでください。
到達目標	「総合的な学習の時間」の学習指導要領上の位置づけや登場の背景や歴史を理解する。教科や特別活動と関連性や独自性を理解する。「総合的な学習の時間」の指導計画の作成および具体的な指導の仕方、並びに学習活動の評価に関する知識・技能を身に付ける。	

学びの実践	学びのヒント		
	授業計画		
	回	テーマ	時間外学習の内容
	1	講義ガイダンス／「総合的な学習の時間」学習体験の整理と批判的検討	学習経験の振り返り
	2	「総合的な学習の時間」の成立と背景、現状と課題、教育課程上の役割等	学習指導要領の変遷の理解
	3	先行実践研究1 ※①先行実践検討 ②グループ協議 ③まとめと発表	実践的特長と指導法の関係の理解
	4	先行実践研究2 ※①先行実践検討 ②グループ協議 ③まとめと発表	実践的特長と指導法の関係の理解
	5	先行実践研究のまとめ ※グループでのまとめと発表	総合的な学習の時間の指導法の総括
	6	「総合的な学習の時間」の学習過程と指導方法及び評価	総合的な学習の時間の評価法の総括
	7	「総合的な学習の時間」の指導計画作成①	教材の特長と学習資保の選択
	8	「総合的な学習の時間」の指導計画作成②及び発表・検討・まとめ	総合的な学習の時間の指導法の総括
	9		
	10		
	11		
	12		
	13		
	14		
15			
16			

実践	テキスト・参考文献・資料など
	○文部科学省『中学校学習指導要領解説 総合的な学習の時間編』2008年、2017年。 ○白尾裕志『種子島から「日本」を考える授業—初期社会科の理想を求めて—』同時代社、2014年

学びの手立て	①「履修の心構え」 ○「総合的な学習の時間」そのものが主体的・協働的な学習を求めている以上、受講にあたっては同様の態度を求めます。遅刻などは「平常点」、「授業参加度」として評価に加味します。また、「受講にあたって必要となる前提科目や推奨科目」「受講前に再度確認しておく知識」は特にありませんが、教育原理等で学修する教育的な視野や思慮深さ及び生徒の発達の・心理的特徴の理解は重要です。 ②「学びを深めるために」 ○『学習指導要領』は「総合的な学習の時間」だけでなく、「総則」も熟読し、並行した理解を進めることが重要です。また自らの学習経験を相対化して「総合的な学習の時間」の目標との関係から考察できるようにし
--------	--

評価	毎回の授業の最後に提出する小レポート(40%)、定期試験(30%)、作成した「『総合的な学習の時間』の指導計画案」で評価する(30%)。
----	--

学びの継続	次のステージ・関連科目 「総合的な学習の時間」はその背景となる学問体系は多様であるが、見方・考え方の基盤をつくるための専門性の確立も重要である。カリキュラムポリシーに掲げる「自らが専攻する学問的関心を喚起し、専門知識を系統的に習得させるための専門科目」を活用して学修を継続することが望ましい。
-------	---

※ポリシーとの関連性

専門職業人として社会貢献できる能力を習得させるための専門的な知識と実践的な経験に基づく資格科目の提供。

[ /一般講義]

科目基本情報	科目名	期別	曜日・時限	単位
	地誌 I	前期	金 1	2
	担当者	対象年次	授業に関する問い合わせ	
	小川 護	1 年	メールでお願いします。 ogawa@okiu.ac.jp	

学びの準備	ねらい 地誌 I では、オーストラリアとニュージーランド、ヨーロッパを取り上げ地誌的アプローチを試みる。	メッセージ 世界のできごとに関心を持ち、わからない場所については地図帳を引く習慣をつけよう。
	到達目標 オーストラリアとニュージーランドの自然環境、人間の諸活動を通じて地誌的な見方、考え方の一端を理解できるようにする。	

学びの準備	到達目標 オーストラリアとニュージーランドの自然環境、人間の諸活動を通じて地誌的な見方、考え方の一端を理解できるようにする。
-------	---

学びの実践	学びのヒント 授業計画		
	回	テーマ	時間外学習の内容
	1	地理学と地誌学そして地域区分	プリントおよび自筆ノートの確認
	2	オセアニアの自然環境	プリントおよび自筆ノートの確認
	3	オーストラリアの歴史と民族	プリントおよび自筆ノートの確認
	4	オセアニアの農業	プリントおよび自筆ノートの確認
	5	オセアニアの鉱工業	プリントおよび自筆ノートの確認
	6	オーストラリアの社会と環太平洋の結びつき	プリントおよび自筆ノートの確認
	7	ニュージーランド (1)	プリントおよび自筆ノートの確認
	8	ニュージーランド (2)	プリントおよび自筆ノートの確認
	9	ヨーロッパの自然環境	プリントおよび自筆ノートの確認
	10	ヨーロッパの農業	プリントおよび自筆ノートの確認
	11	ヨーロッパの鉱工業	プリントおよび自筆ノートの確認
	12	ヨーロッパの歴史と民族・宗教	プリントおよび自筆ノートの確認
	13	ヨーロッパの社会と生活	プリントおよび自筆ノートの確認
	14	EUの結成と拡大と今後	プリントおよび自筆ノートの確認
	15	これまでのまとめ	プリントおよび自筆ノートの確認
16	テスト		

学びの実践	テキスト・参考文献・資料など テキスト: 帝国書院『新詳高等地図』1800円、帝国書院『新詳資料地理の研究』1800円 参考文献: 田辺裕監修 (1997) 『図説大百科世界地理』、朝倉書店
-------	---

学びの実践	学びの手立て 毎回、世界の各諸地域について説明の後、パワーポイントをみてもらい、ノートにまとめるスタイルで授業をすすめる。 必ず、学習した地域はテキストやノートなどで復習しておくこと。 追試、再試は行わない。 【日文・英米以外対象】 ※地誌 I は中学校社会科、高校地歴科免許状の必修科目
-------	---

学びの実践	評価 成績は、テスト【50点】、レポート(2回)【50点】で評価する。
-------	--

学びの継続	次のステージ・関連科目 日本国内の諸地域について関心を持ってもらう。→地誌 II 沖縄県内の諸地域について関心を持ってもらう→沖縄の地理(共通科目: 沖縄関係科目群)
-------	---

※ポリシーとの関連性

専門職業人として社会貢献できる能力を習得させるための専門的な知識と実践的な経験に基づく資格科目の提供。

[ /一般講義]

科目基本情報	科目名	期別	曜日・時限	単位
	地誌Ⅱ	後期	金 1	2
	担当者	対象年次	授業に関する問い合わせ	
	小川 護	1年	メールでお願いします。 ogawa@okiu.ac.jp	

学びの準備	ねらい 地誌Ⅱでは九州地方と北海道地方を取り上げ、地誌的アプローチを試みる。	メッセージ 日本のできごとに関心を持ち、わからない場所については地図帳を引く習慣をつけよう。
	到達目標 日本の諸地域のうち、九州地方と北海道地方を事例として、それらの自然環境、人間の諸活動を通じて地誌的見方、考え方の一端を理解できるようにする。	

学びの実践	学びのヒント 授業計画		
	回	テーマ	時間外学習の内容
	1	ガイダンス	配布プリントの確認
	2	九州地方の由来と地理的位置	資料地理の研究、ノートの確認
	3	九州地方の地形と気候	資料地理の研究、ノートの確認
	4	九州地方の産業	資料地理の研究、ノートの確認
	5	九州地方の工業	資料地理の研究、ノートの確認
	6	九州地方の農林水産業	資料地理の研究、ノートの確認
	7	九州地方の交通と通信	資料地理の研究、ノートの確認
	8	九州地方の人口と都市	資料地理の研究、ノートの確認
9	九州地方の開発	資料地理の研究、ノートの確認	
10	北海道の地理的位置と地形・気候	資料地理の研究、ノートの確認	
11	北海道の歴史	資料地理の研究、ノートの確認	
12	北海道の農業と水産業	資料地理の研究、ノートの確認	
13	北海道の鉱工業と開発	資料地理の研究、ノートの確認	
14	北海道の都市と交通	資料地理の研究、ノートの確認	
15	北海道の生活文化	資料地理の研究、ノートの確認	
16	テスト		
	テキスト・参考文献・資料など テキスト:帝国書院『新詳高等地図』1800円、帝国書院『新詳資料地理の研究』1800円 参考文献:日本の地誌.朝倉書店, 2005、日本の地誌、立正大学地理学教室編.古今書院, 2007.		
	学びの手立て 毎回、日本の各諸地域について説明の後、パワーポイントをみてもらい、ノートにまとめるスタイルで授業を進める。 必ず、学習した地域はテキストやノートなどで復習しておくこと。 追試、再試は行わない。 【日文・英米以外対象】 ※地誌Ⅱは中学校社会科、高校地歴科免許状の必修科目		
	評価 成績は、テスト【50点】、レポート(2回)【50点】で評価する。		

学びの継続	次のステージ・関連科目 世界の諸地域について関心をもってもらう。→地誌Ⅰ 沖縄県内の諸地域について関心を持ってもらう→沖縄の地理(共通科目:沖縄関係科目群)
-------	--

科目基本情報	科目名	期別	曜日・時限	単位
	哲学概論	通年	木6	4
	担当者	対象年次	授業に関する問い合わせ	
	-大城 信哉	1年	講義時間が望ましいのですが、講義終了時にも教室にてお聞きします。	

学びの準備	ねらい	メッセージ
	<p>本講座は教職を志す人に、哲学の概略を知ってもらうことを目的としています。具体的なイメージが湧きにくい学問ですが、哲学とは考えること自体を反省する学問です。過去の哲学者たちに学びますがそれを暗記するのではなく、対話相手として自分自身で考えるというものです。本講座では主として前半に哲学の紹介と近代までの学説史の紹介、後半でさまざまな哲学的問題について検討します。</p>	<p>予備知識は取りたてて必要ありませんが、熱心に学ぶ意欲は期待しています。教室で語られるどんなことについてであれ、知らないということ、判らないことは何も悪くはありません。これから知り、判るようになれば良いのです。ただ、自分が判るか判らないかを考えないことは良くありません。自分が判っているかどうかをつねに考え、判らないときには遠慮なく質問してほしいと思います。</p>
到達目標	<ul style="list-style-type: none"> <li>・哲学という語の本来の意味から、哲学的に考えるとはどういうことかまでを理解する。</li> <li>・さまざまな哲学的問題を知り、それらを自分でも説明できるようになる。</li> <li>・教育を哲学の観点から考える視点を心得、どのような教育が望ましいかを考える。</li> <li>・さまざまな哲学的問題のなかから、自分自身の関心を見つけて考えられるようになる。</li> </ul>	

学びの実践	学びのヒント		
	授業計画		
	回	テーマ	時間外学習の内容
	1	開講にあたって受講者諸君との合意作り。	シラバスを読んでくるように。
	2	哲学という語の意味について考える。	講義後の復習をするように。
	3	哲学とはどういうことか (1) 知識について。	講義後の復習をするように。
	4	哲学とはどういうことか (2) 知識について。	講義後の復習をするように。
	5	哲学はどのように始まったかを考える。	講義後の復習をするように。
	6	ソクラテスとプラトンの考えを紹介する。	人物について自分でも調べる。
	7	アリストテレスの倫理学を紹介する。	人物について自分でも調べる。
	8	哲学と宗教との出会いについて考える。	講義後の復習をするように。
	9	アウグスティヌスの考えを紹介する。	人物について自分でも調べる。
	10	トマス・アクィナスの考えを紹介する。	人物について自分でも調べる。
	11	近代哲学の特徴について考える。	講義後の復習をするように。
	12	ベーコンとホッブズの考えを紹介する。	人物について自分でも調べる。
	13	デカルトとロックの考えを紹介する。	人物について自分でも調べる。
	14	ヒュームとカントの考えを紹介する。	自分の立場にあてはめてみる。
	15	近代までの哲学史を振り返る。	講義後の復習をするように。
	16	前期試験。	自分の理解を確認する。
	17	試験講評。	自分の理解を再確認する。
	18	近代から現代へ：ヘーゲルの考えを紹介する。	人物について自分でも調べる。
	19	マルクスとニーチェの考えを紹介する。	人物について自分でも調べる。
	20	フッサールとハイデガーの考えを紹介する。	人物について自分でも調べる。
	21	ウィトゲンシュタインと言語哲学を紹介する。	人物について自分でも調べる。
	22	正しさとはどういうことかを考える。	自分でも考えてみる。
	23	あらためて知識について考える。	自分でも考えてみる。
	24	科学と科学以外の知識について考える。	自分でも考えてみる。
	25	知ることと生きる実践との関係を考える。	自分でも考えてみる。
	26	生きるものと世界との関係を考える。	自分でも考えてみる。
	27	教育の哲学：デューイを読む①。	自分でも考えてみる。
	28	教育の哲学：デューイを読む②。	自分でも考えてみる。
	29	教育の哲学：デューイを読む③。	自分でも考えてみる。
30	どんな理解が得られたかを検討する。	自分の考えを再検討する。	
31	まとめ。およびレポート回収。	自分の理解を確認する。	

学	<p>テキスト・参考文献・資料など</p> <p>教科書は使用しません。資料はすべて教室にて配布します。参考文献は必要に応じて教室で指示します。まずは図書館で各種事典類を引く習慣を身につけるように。</p>
学びの実践	<p>学びの手立て</p> <p>受講者の人数にも多少異なりますが、こちらから諸君にも質問します。活発な議論となることを望みます。出席も含めて評価については厳正であるように努めますが、教室での時間は皆さんと楽しく共有したいと願っています。そのためにも講義には積極的に参加するように。あとでというのではなく、まずその場で考えるということをお大切にしたいと思います。なお、欠席の場合、特に事前連絡は必要ありません。あとの確認で十分です。</p>
	<p>評価</p> <p>前期最終回もしくは後期講義時の最初の方で試験をします（試験の日程は名簿が決定したときに受講者諸君の希望を聞いて決めますが、希望が分かれたら前期最終回にします）。他に後期最終回にレポートを提出してもらいます。それぞれ50パーセントの重みですので片方だけでは単位は取得できません。気をつけるように。評価方法の細部は、初回の合意作りのときに希望が出たら考慮します。考えがあれば聞かせてください。出席も取りますが、受講者が出席することは最低限の条件ですので出席それ自体を特別に評価することはありません。</p>
学びの継続	<p>次のステージ・関連科目</p> <p>哲学や倫理学は抽象的な議論になりがちですが、具体的な問題を考えるときの重要なヒントを与えてくれます。特に専門家を目指すのでないかぎり人名などを細かく覚える必要はありませんが、教室で学んだ考え方のスキルは当人の努力次第で役立ちます。皆さんがこのあと多くのことを学ぶにあたってぜひ役立てるように努めてください</p>

※ポリシーとの関連性

教育職員免許法に定める「教職に関する科目」の「教育課程及び指導法に関する科目」の内、特別活動の指導法に係る演習科目。

[ /演習]

科目基本情報	科目名 特別活動演習	期別	曜日・時限	単位
		集中	集中	1
	担当者 -神山 英輝	対象年次	授業に関する問い合わせ	
		3年	ka38mah@yahoo.co.jp	

学びの準備	ねらい よりよい生活や人間関係を築こうとする自主的・実践的な態度を育てるための演習を行い、教育実習や教育現場で活用できるようにする。	メッセージ 学級集団の中で生徒が安心して仲間達と過ごせるようにするための実践をワークショップ形式で学び、子ども達がお互いの違いを大切にしながらも仲間としてつながっていくことの楽しさ、大切さを理解していく学級づくりについて学習します。
	到達目標 ① これからの時代を生きる子ども達に必要な力を身につけさせる授業の在り方や、特別活動の概要について説明できる。 ② いじめ防止対策やSEL（ソーシャル&エモーショナル・ラーニング）の演習に積極的に参加できる。 ③ 教育実習において、わかりやすく自己紹介をする学級便りを作成できる。 ④ キャリア教育の定義と「基礎的・汎用的能力」の4つを言うことができる。 ⑤ 学級会の進め方について重要なポイントを理解し、計画を立てることができる。 ⑥ 他の人の興味を惹くように、自分の好きな本について紹介できる。	

学びの実践	学びのヒント		
	授業計画		
	回	テーマ	時間外学習の内容
	1	これからの授業と特別活動	心に残る教師の報告（予習）
	2	特別活動の概要	学習指導要領の熟読（予習）
	3	ピア・サポートプログラムとSEL	SELの実践方法の学習（復習）
	4	いじめ防止プログラム	いじめ防止基本方針の理解（復習）
	5	学級便りとキャリア教育	学級便りの作成（予習）
	6	ビブリオバトル	紹介する本の準備（予習）
	7	学級会・思考ツール	シナリオと授業例の作成（予習）
	8	人間関係づくり・まとめ	具体的実践方法の学習（復習）
	9		
	10		
	11		
	12		
	13		
	14		
15			
16			

実践	テキスト・参考文献・資料など テキスト:配布するプリント資料 参考文献:①中学校学習指導要領(平成29年告示)解説 特別活動編, 文部科学省, 東山書房, 平成29年, 256円+税、②学級・学校文化を創る 特別活動【中学校編】, 国立教育政策研究所教育課程研究センター, 東京書籍, 2016年, 1,500円+税、③生徒指導提要, 文部科学省, 教育図書, 平成22年, 290円、④中学校キャリア教育の手引き, 文部科学省, 教育図書, 2011年, 842円
----	---

学びの手立て	① 受講要領の詳細を説明するので、オリエンテーションには必ず参加すること。 ② やむを得ず遅刻・欠席する場合は、必ず事前にメールなどで連絡すること。 ③ 講義は、ワークショップ形式で、アクティビティを入れるので、動きやすい服装をしてくること。 ④ 2年生で「特別活動研究」を受講していると、理解が促進される。
--------	---

評価	平常点（40%）…受講態度（積極性）やワークシートの記入状況・内容を確認します。 課題（30%）…レポートの内容（表現力）を確認します。 実践（30%）…ワークショップやアクティビティへの取り組み状況（協調性など）を確認します。
----	--

学びの継続	次のステージ・関連科目 関連科目…「教職実践演習（中）」
-------	---------------------------------

※ポリシーとの関連性

教育職員免許法に定める「教職に関する科目」の「教育課程及び指導法に関する科目」の内、特別活動の指導法に係る演習科目。

[ /演習]

科目基本情報	科目名 特別活動演習	期別 集中	曜日・時限 集中	単位 1
	担当者 -宮城 達	対象年次 3年	授業に関する問い合わせ 携帯090-7392-0989	

学びの準備	ねらい 特別活動が個々の子どもたちや集団において、諸能力・技能の発揮・発展、豊かな人間関係の形成、自治・文化力の育成に大きな役割を果たしていることを実践を通して理解できるようにする。	メッセージ 特活のイメージ作り(学級、学年、全学別、レク、行事、自治活動の指導分野別等)と企画、実践ができるようになり、教育実習で「学級活動」の分野に挑戦できるようになるう!
	到達目標 1、特別活動の具体的なイメージを学校活動の様々な場面に位置づけることができる。 2、「特別活動」の様々な分野での取り組み内容、指導方法を学び、教育実習の中で最低、「学級活動」が実践できるようになる(原案作り・討議、レク・行事、講話等)。	

学びの実践	学びのヒント 授業計画		
	回	テーマ	時間外学習の内容
	1	I グループ活動の展開① 自己紹介 ② グループアピール ③ グループ対抗レク大会	自己アピール文作成
	2	II グループ対抗「群読・分唱・漫才」大会	漫才・コントのネタ造りと練習
	3	III 「NIE」活動入門 ①「NIE」って何だ? ②ワークシート ③特活での応用	事前の新聞研究
	4	IV 「ビブリオバトル」で優勝しよう!①グループ内チャンプ②全体チャンプ	紹介書籍の選択
	5	V 「学年開き」を構想 ①構想・企画 ②発表(ロールプレイ)	群読詩の作成
	6	VI 「包括的性教育」入門 ①性教育の意義 ②社会的現状 ③授業の導入挑戦	中高時代の「授業」の回想メモ
	7	VII 子ども・教師・教育現場の現状と課題①指導要録 ②子ども観 ③教師の現状	先輩方、新聞等での実態解明
	8	VIII 「講話」に挑戦 ①例示 ②テーマ・構想 ③発表 ④感想交換	テーマ・構想 準備
	9		
	10		
	11		
	12		
	13		
	14		
	15		
16			

学びの実践	テキスト・参考文献・資料など ・学習指導要領「特活編」 ・「学級活動」関連本、新聞紙面での教育課題、指導等の記事 ・「教育課題、子ども理解」関連文献 ・雑誌「クレスコ」
-------	---

学びの実践	学びの手立て ①「履修の心構え」 グループ活動での個性の発揮と、協力性とのバランスを考える。いかに明るく活発に、自らの積極性を出しながらグループ活動の成果を発揮できるかイメージ化する。 ②「学びを深めるために」 講義で実践したレク、パフォーマンス、原案・討議づくり、講話などを教育実習の具体場面でどのように生かせるかイメージ化し、授業、学活などの指導案に組み込んでいく作業を行う。
-------	--

学びの実践	評価 ① 授業、グループ活動への参加、積極性、協力・協調性、個性(イニシアチブ)の発揮、企画・創意力(50点) ② グループ活動の発表力(協調性、独創力、方法、訴える力)(20点) ③ 事前・事後の課題の提出(30点)
-------	--

学びの継続	次のステージ・関連科目 1、常に、具体的な学校教育の課題、子どもたちの実態の把握に努めるとともに、新しい指導法、教育機器にも理解を広めていく。 2、「特別活動」のための企画力、技能、実践力を普段に高めていく努力とともに、特に「学級活動」を豊かで、創造的なものにするための自らの人間的発達を常に目指すとともに、新しい分野(レク、イベント、討議法等
-------	--

※ポリシーとの関連性

教職に関する科目（教育学、教育心理など）を履修してきたことを前提に、教育実習を視野に入れながらより実践的な演習にする。

[ /演習]

科目基本情報	科目名 特別活動演習	期別 集中	曜日・時限 集中	単位 1
	担当者 -喜屋武 幸	対象年次 3年	授業に関する問い合わせ	
			授業終了後に教室で受け付けます。メールでの質問も受け付けます。	

学びの準備	ねらい 本集中講義では、子どもを生活主体・発達主体・権利主体ととらえ、特別活動の中で一人ひとりの子どもの発達保障をどのように実現していくかということについて深く考え、「ワークショップと討論」を通して追究します。ワークショップは身体的活動を取り入れたゲーム形式、言語活動を主とした哲学的思考アクティビティなど、教育実習で役立つ実践力の向上を図ることをねらいとする。	メッセージ 積極的に意見を述べるようにしよう。他の人の意見は聞きたいが、発言することは遠慮したいという消極的な態度を克服しよう。ひとり一人みんな違う意見をもっていることが当然なこと。それを交流させることが学ぶことである。また批判的に学ぶ姿勢をもってほしい。
	到達目標 【知識・理解】○特別活動の概念と意義を理解し、ワークショップの内容を理解している。○子どもの発達と特別活動についての関連性を理解し、実践を構想できる知識をもつ。【思考・判断】○事前に与えられた資料を読みこなし、自分の見解をもって授業に参加できる。○他者の意見を丁寧に聞き取り、自分との共通点、相違点を理解することができる。【技能・表現】○教育学はもとより一般諸科学の領域を土台に、教育の様々な事象を分析し表現できる。○他者と課題を共有し、討議・討論を通して真理を探究することができる。【関心・意欲】○常に子どもの置かれた環境（家庭・学校・地域）に関心をもち、改善しようとする意欲をもつ。	

学びの実践	学びのヒント 授業計画	
	回	テーマ
	1	ワークショップ① 集団づくりにおけるゲームの意義と指導法
	2	哲学的アクティビティ 「サイレントダイアログ」他
	3	実践分析：中学校編
	4	ワークショップ②「K」法」という手法 ラベル化 図解・構造化 発表
	5	ワークショップ③ 集団づくりの理論とスキルと
	6	ワークショップ④ 地球市民を育むアクティビティ 「創作ドラマ」他
	7	学級分析の手法－学級地図を描く 「2年1組という学級」
	8	実践分析：高校編 ゲストティーチャー招聘
	9	
	10	
	11	
	12	
	13	
	14	
	15	
16		
	時間外学習の内容	
	各班の課題に対する班の話し合い	
	配布資料の読み込み	
	事前資料の読み込み	
	資料の読み込み、考えを深める	
	各班の課題について調べ学習	
	各班の課題について事前話し合い	
	資料の読み込み、まとめ	
	資料の読み込み	

テキスト・参考文献・資料など  
特に使用しない。資料を配付する。

学びの手立て  
 (1) 積極的に意見を述べるようにしよう。--・他の人の意見は聞きたいが、発言することは遠慮したいという消極的な態度を克服しよう。・ひとり一人みんな違う意見をもっていることが当然なこと。それを交流させることが学ぶことである。  
 (2) 批判的に学ぼう。--・資料や学校現場での実践を、批判的に学び取るようにしよう。‘I understand what you mean, But it doesn't make sense’ 「おっしゃる意味はよくわかる。しかしどうも変だ」という感性をもとう。  
 (3) 他学部・学科の学生と授業の内外で交流しよう。--・異質な他者との出会いは、自分自身を創る重要な要素である。真理だと思っていることも、他の分野からは必ずしも真理ではない。

評価  
 評価は、＜知識理解＞＜思考判断＞＜技能表現＞＜関心意欲＞の観点から評価する。具体的には、出席、ワークシート、討論での発言、グループワークでの表現・技能、プレゼンテーションのレベルなどを総合的に判断して評価する。テストは行わない。  
 プレゼンテーション等を総合的に判断し評価する。

学びの継続  
 次のステージ・関連科目  
 本科目を履修した後は、教科指導などに関連する「模擬授業」「学級経営」「生徒指導」などの科目等で、理論とスキルが生かせるものと確信している。集団づくりは、学級集団、学年集団だけではなく、学習集団も含まれる。より高度な自治的集団へと自己展開していく集団指導の技が教師には求められことを理解してほしい。

科目基本情報	科目名 特別活動演習	期別	曜日・時限	単位
		集中	集中	1
	担当者 -比嘉 啓信	対象年次	授業に関する問い合わせ	
		3年	授業終了後に教室で受け付けます。	

学びの準備	ねらい 子どもを生活主体・発達主体・権利主体として捉え、特別活動の中で一人ひとりの子どもの発達保障をどのように実現していくかを、映像資料や実践事例をもとに、二重討議の方法を用いながら受講生と担当者が協同して追求していきます。	メッセージ 現場で実践力のある教師として働いていくために必要なHRにおける生活指導、集団づくりの力量を高めることができるようにともに頑張っていきましょう。
	到達目標 教科外活動における実践的指導力を養う。特に次の点に力点をおく。 ①HRにおいて生徒が抱える諸問題の根底にあるものが何かを分析し、その解決のための指導・支援のあり方を考えることができる。 ②学校行事や体験活動等の意義と課題について理解し、その実践の具体的な在り方について知ることができる。 ③教科外活動における教師の役割を理解し、実践力の基盤を身につけることができる。	

学びの実践	学びのヒント 授業計画		
	回	テーマ	時間外学習の内容
	1	いじめ問題の現実について映像から掴み取る	映像資料の視聴と問題点の分析
	2	いじめの原因・構造の分析といじめ問題を乗り越える学級集団づくり①	二重討議の方法と実践の理解
	3	いじめの原因・構造の分析といじめ問題を乗り越える学級集団づくり②	参考文献の読み込み
	4	理想のHRづくりについて考える	参考文献の読み込み
	5	実践分析「わがままなA子が成長できた理由」①	実践記録の読み込みと分析
	6	実践分析「わがままなA子が成長できた理由」②	実践記録の読み込みと分析
	7	アクティビティ「子どもとつながる、子どもがつながるLHR実践づくり」	アクティビティ選定と実践案づくり
	8	自己開示、他者理解を促し、集団の凝集性を高める実践づくりのポイントとは？	参考文献の読み込み
	9		
	10		
	11		
	12		
	13		
	14		
	15		
16			

学びの実践	テキスト・参考文献・資料など <ul style="list-style-type: none"> <li>『友だち地獄～「空気を読む」世代のサバイバル』土井隆義</li> <li>『いじめの構造～なぜ人が怪物になるのか』内藤朝雄</li> <li>『教室内カースト』鈴木翔</li> <li>『10代との対話 学校ってなあに』竹内常一</li> </ul>
-------	--

学びの実践	学びの手立て ①受講生のグループ分けと受講要領の詳細をオリエンテーションで指示します。受講生は必ずオリエンテーションに参加すること。 ②「参加・討論型」（二重討議方式）の授業なので、受講生は討論に参加できる事前の学習（資料の読み込み・分析）をしっかりと行うこと。 ③集中講義なので、遅刻は厳禁、全日程の出席を必須とする。
-------	---

学びの実践	評価 沖縄国際大学の学部共通の成績評価規定にしたがい行う。その際に以下の内容を総合して評価する。 ①学習グループ毎の発表レジュメの作成過程と内容、発表のしかたなど（25点） ②授業（二重討議方式）への参加態度（25点） ③2回の小テストの成績（50点） ④出席状況
-------	---

学びの継続	次のステージ・関連科目 教育実習での具体的実践に役立つような内容にしていきます。講義終了後も具体的な実践案について分析・計画を深めていきましょう。
-------	--

※ポリシーとの関連性

この演習を通して、専門に必要なスキルの取得する。さらに教師としての資質、能力を向上させる。

[ /演習]

科目基本情報	科目名	期別	曜日・時限	単位
	特別活動演習	集中	集中	1
	担当者	対象年次	授業に関する問い合わせ	
	-仲里 健	3年	沖縄県立博物館・美術館 098-851-5401	

学びの準備	ねらい	メッセージ
	<p>「特別活動」は人間の生きる力に直接関わって学校教育全般にわたるバックボーンとしての役割を担っている。それだけに、人間教育の側面を強く持ち、指導の多様さと奥深さを持つ。教育課程では「学級活動」「生徒会活動」「学校行事」に総時数35時間が配当されているが、時間内で多様に亘る内容を指導するには形式的に流れるきらいがある。</p> <p>到達目標</p> <p>本講義は、多岐多様にわたる「特別活動」の内容から根本要素を取り出し、それらを系統化させ、生徒を中心とした有機的な活動を展開する中から、「特別活動」の目標を効果的に達成させようとするものです。学校活動はにおいて授業はもちろんのこと、特別活動も生徒の発達段階に合わせた活動が必要です。そこで「HR活動」「生徒会活動」「学校行事」において、生徒集団と生徒個々の関わり、教師との関わり、生徒自身の発達をどのように発展させていくのか、討議形式の授業で実践を分析し、スキルアップをはかります。さらにグループ学習を通して、異質な他者との関わりや協同の意味を理解し、生徒3年間の学校生活の計画的な指導のビジョンがイメージできるように授業を展開し、資質の向上をはかれるようにします。</p>	<p>この科目は、教育実習をする上で必要な科目です。学校での教育活動は授業だけではありません。特に特別活動は、指導案があるわけではなく、それぞれが卒業した校種によっても経験が異なります。経験が無いからといって指導しないという選択はありません。中学や高校を通してどのような行事、生徒会活動があったのか、思い出してみてください。</p>

学びの実践	学びのヒント		
	授業計画		
	回	テーマ	時間外学習の内容
	1	HRの実践	各班においてレジメの作成
	2	実践分析① 学習指導要領を読み解く	各班においてレジメの作成
	3	実践分析② HR開きをどのように組み立てるか	各班においてレジメの作成
	4	実践分析③ 学校行事における総括の役割	各班においてレジメの作成
	5	実践分析④ 学校行事の意義と達成度	各班においてレジメの作成
	6	実践分析⑤ 課題解決に向けての取り組み	各班においてレジメの作成
	7	実践分析⑥ 生徒会活動の取り組み	各班においてレジメの作成
	8	実践分析⑦ カウンセリングマインド	各班においてレジメの作成
	9		
	10		
	11		
	12		
	13		
	14		
15			
16			

学びの実践	テキスト・参考文献・資料など
	テキストは、授業の内容に合わせて、講師が準備する。

学びの実践	学びの手立て
	講義に関しては、事前にオリエンテーションを行います。オリエンテーションで、個別(班別)の課題を提示します。講義において遅刻や欠席は厳禁です。教師を目指す学生の態度として認めることはできません。「一人の人間を育てる使命を責任」を理解し、行動できるように心構えをしておいて下さい。

学びの実践	評価
	①事前の課題と、毎日の課題 ②各班での発表の内容とレジメの内容 ③討議への参加の姿勢と内容 を総合的に判断する。

学びの継続	次のステージ・関連科目
	教育実習の後の「教育実践演習」も必修です。

科目基本情報	科目名	特別活動研究	期別	曜日・時限	単位
	担当者	三村 和則	前期	木6	2
			対象年次	授業に関する問い合わせ	
			2年	研究室番号：5505 E-mail：mimura@okiu.ac.jp	

学びの準備	ねらい	特別活動の内容の学級活動・HR活動と生徒会活動と学校行事を指導する際、基礎となり要となるのは学級経営である。本講義では学級経営の一助として「学級集団づくり」の方法論を解説する。「学級集団づくり」とは、子どもの必要と要求に基づき自治的・自主的な学級活動をすすめる学級を民主的集団に形成し、子どもを民主的な権利主体・自治主体に高め、同時に人間的自立を励ます営みである。	メッセージ	「学級集団づくり」は「班・核・討議づくり」とも言われ、班活動の指導方法、リーダーシップとフォロアーシップの指導方法、話し合いによる合意形成の指導方法を学ぶことができます。その前提として、今日の子どもの自立をめぐる問題状況を理解しておくことや子どもの否定的な言動の中に肯定を捉える子ども観を身につけておく必要があります。これらのことも講義では学びます。
	到達目標	自立と依存の関係、自立をめぐる問題状況、共感的要求とその方法ならびに「学級集団づくり」の方法論（指導の見通しとしての3つの発展段階と指導の切り口としての3つの側面）について、その知識・理解を身につける。共感的要求の出発点となる否定的な言動の中に肯定を見つけることや学級行事や学校行事の原案を作る技能を身につける。これらの知識・理解や技能を身につけることで、子どもに対して受容的な態度で接し豊かな人間的交流を行い子どもの抱える課題を理解できる技能を身につけ、子どもとの間に信頼関係を築き学級集団を把握して子どもを民主的な権利主体・自治主体に高める学級経営を行うことへの関心・意欲・態度と自信を持つことができる。		

学びの実践	学びのヒント		
	授業計画		
	回	テーマ	時間外学習の内容
	1	講義ガイダンス / 特別活動とは何か / 学級びらきについて	中高学習指導要領特別活動の章精読
	2	子どもの自立をめぐる問題状況1 自立の裏面としての問題行動	学級びらき実践の分析☆
	3	子どもの自立をめぐる問題状況2 子どもらしくない子どもの増加	資料pp. 2-7精読
	4	子どもの自立をめぐる問題状況3 校内暴力・いじめ	資料pp. 10-17精読
	5	子どもの自立をめぐる問題状況4 不登校、体罰	全国と沖縄県の不登校生徒数調べ
	6	共感的要求とその方法1 共感的要求とは何か	別冊資料読み物精読
	7	共感的要求とその方法2 否定の中に肯定を捉える	否定の中の肯定発見練習等の課題☆
	8	「問題児はクラスの宝」/学級における3つの集団類型/「学級集団づくり」の3段階と3側面	資料pp. 18-24精読
	9	「討議づくり」1 合意形成の指導	資料pp. 26-29精読
	10	「討議づくり」2 学級行事原案づくりコンテスト、自主管理の指導	学級行事原案づくり☆
	11	「核(リーダー)づくり」1 リーダーとフォロアの民主的な関係の指導	資料pp. 32-33精読
	12	「核(リーダー)づくり」2 リーダーシップとフォロアーシップの形成方法	資料pp. 35-39精読
	13	「班づくり」1 居場所と自治の基礎単位としての班	資料pp. 40-41精読
	14	「班づくり」2 班活動の種類と方法	資料pp. 42-47精読
15	「学級集団づくり」から全校集団づくりへ	資料pp. 48-52精読	
16	試験		

実践	テキスト・参考文献・資料など
	<p>テキスト：①配付するレジュメ集。②配付する資料集。</p> <p>主要参考文献：①全国生活指導研究協議会（全生研）常任委員会編『新版 学級集団づくり入門 中学校』明治図書、1991年。②全生研編『生活指導』（隔月誌）高文研。③全国高校生活指導研究協議会（高生研）『高校生生活指導』（季刊誌）青木書店。④文部科学省『中学校学習指導要領』2017年。⑤文部科学省『高等学校学習指導要領』2018年。残余については別途指示する。</p>

学びの手立て	<p>①「履修の心構え」：抽選となった場合、科目等履修生、4年生、3年生、2年生の順に登録を受け付ける。教職課程学生に相応しく遅刻・欠席がないよう努めること。</p> <p>②「学びを深めるために」：学級担任の役割とは何か、朝の会・帰りの会・SHR、学級会・LHR、生徒会活動及び学校行事でどんなことをしたか、また教師となったとき何をすればよいのか、生徒に何を語り、生徒と何をしたいのかを考えながら受講するとよい。シラバス集と資料集に一度、目を通して毎回の講義に臨むとよい。講義時間内だけでは到達目標を達成するには至らないため、指定された時間外学習は必ず行うこと。また、別途指示した参考文献で補ったり深めたりするとよい。</p>
--------	--

評価	<p>小レポートを3回程課し、出欠点検をしない場合、その3分の2以上の提出を持って期末試験受験資格とする。評価方法と配分は、期末試験70%、期末課題20%、小レポート10%とする。期末試験では「到達目標」に掲げた知識・理解及び関心・意欲・態度をなるべく網羅的に評価する。論述問題とする場合、各設問に関わる講義内容(専門用語や重要事項)の出現率に対応して配点する。期末課題は「学級集団づくり」の構造表の書写を予定している。時間外の講演会・研究会等への参加報告書に10%加算する(随時案内・指示する)。</p>
----	---

学びの継続	<p>次のステージ・関連科目</p> <p>教育実習に行く年(3年次2月)の「特別活動演習」(集中講義)を受講する際、本講義と関連させると演習の理解が促進される。特別活動の内容には進路指導や教育相談を含むため「進路指導・生活指導」と「学校カウンセリング」と関係する。また子どもの自立をめぐる問題状況については「教育心理学」と関係する。</p>
-------	---

科目基本情報	科目名	特別活動研究	期別	曜日・時限	単位
	担当者	三村 和則	後期	火 3	2
			対象年次	授業に関する問い合わせ	
			2年	研究室番号：5505 E-mail：mimura@okiu.ac.jp	

学びの準備	ねらい	特別活動の内容の学級・HR活動と生徒会活動と学校行事を指導する際、基礎となり要となるのは学級経営である。本講義では学級経営の一助として「学級集団づくり」の方法論を解説する。「学級集団づくり」とは、子どもの必要と要求に基づき自治的・自主的な学級活動をすすめる学級を民主的集団に形成し、子どもを民主的な権利主体・自治主体に高め、同時に人間の自立を励ます営みである。	メッセージ	「学級集団づくり」は「班・核・討議づくり」とも言われ、班活動の指導方法、リーダーシップとフォロアーシップの指導方法、話し合いによる合意形成の指導方法を学ぶことができます。その前提として、今日の子どもの自立をめぐる問題状況を理解しておくことや子どもの否定的な言動の中に肯定を捉える子ども観を身につけておく必要があります。これらのことも講義では学びます。
	到達目標	自立と依存の関係、自立をめぐる問題状況、共感的要求とその方法ならびに「学級集団づくり」の方法論（指導の見通しとしての3つの発展段階と指導の切り口としての3つの側面）について、その知識・理解を身につける。共感的要求の出発点となる否定的な言動の中に肯定を見つけることや学級行事や学校行事の原案を作る技能を身につける。これらの知識・理解や技能を身につけることで、子どもに対して受容的な態度で接し豊かな人間的交流を行い子どもの抱える課題を理解できる技能を身につけ、子どもとの間に信頼関係を築き学級集団を把握して子どもを民主的な権利主体・自治主体に高める学級経営を行うことへの関心・意欲・態度と自信を持つことができる。		

学びの実践	学びのヒント	授業計画		
	回	テーマ	時間外学習の内容	
	1	講義ガイダンス / 特別活動とは何か / 学級びらきについて	中高学習指導要領特別活動の章精読	
	2	子どもの自立をめぐる問題状況1 自立の裏面としての問題行動	学級びらき実践の分析☆	
	3	子どもの自立をめぐる問題状況2 子どもらしくない子どもの増加	資料pp. 2-7精読	
	4	子どもの自立をめぐる問題状況3 校内暴力・いじめ	資料pp. 10-17精読	
	5	子どもの自立をめぐる問題状況4 不登校、体罰	全国と沖縄県の不登校生徒数調べ	
	6	共感的要求とその方法1 共感的要求とは何か	別冊資料読み物精読	
	7	共感的要求とその方法2 否定の中に肯定を捉える	否定の中の肯定発見練習等の課題☆	
	8	「問題児はクラスの宝」/学級における3つの集団類型/「学級集団づくり」の3段階と3側面	資料pp. 18-24精読	
	9	「討議づくり」1 合意形成の指導	資料pp. 26-29精読	
	10	「討議づくり」2 学級行事原案づくりコンテスト、自主管理の指導	学級行事原案づくり☆	
	11	「核(リーダー)づくり」1 リーダーとフォロアの民主的な関係の指導	資料pp. 32-33精読	
	12	「核(リーダー)づくり」2 リーダーシップとフォロアーシップの形成方法	資料pp. 35-39精読	
	13	「班づくり」1 居場所と自治の基礎単位としての班	資料pp. 40-41精読	
	14	「班づくり」2 班活動の種類と方法	資料pp. 42-47精読	
	15	「学級集団づくり」から全校集団づくりへ	資料pp. 48-52精読	
16	試験			

学びの実践	テキスト・参考文献・資料など
	<p>テキスト：①配付するレジュメ集。②配付する資料集。</p> <p>主要参考文献：①全国生活指導研究協議会（全生研）常任委員会編『新版 学級集団づくり入門 中学校』明治図書、1991年。②全生研編『生活指導』（隔月誌）高文研。③全国高校生活指導研究協議会（高生研）『高校生活指導』（季刊誌）青木書店。④文部科学省『中学校学習指導要領』2017年。⑤文部科学省『高等学校学習指導要領』2018年。残余については別途指示する。</p>

学びの実践	学びの手立て
	<p>①「履修の心構え」：抽選となった場合、科目等履修生、4年生、3年生、2年生の順に登録を受け付ける。教職課程学生に相応しく遅刻・欠席がないよう努めること。</p> <p>②「学びを深めるために」：学級担任の役割とは何か、朝の会・帰りの会・SHR、学級会・LHR、生徒会活動及び学校行事でどんなことをしたか、また教師となったとき何をすればよいのか、生徒に何を語り、生徒と何をしたいのかを考えながら受講するとよい。シラバス集と資料集に一度、目を通して毎回の講義に臨むとよい。講義時間内だけでは到達目標を達成するには至らないため、指定された時間外学習は必ず行うこと。また、別途指示した参考文献で補ったり深めたりするとよい。</p>

学びの実践	評価
	<p>小レポートを3回程課し、出欠点検をしない場合、その3分の2以上の提出を持って期末試験受験資格とする。評価方法と配分は、期末試験70%、期末課題20%、小レポート10%とする。期末試験では「到達目標」に掲げた知識・理解及び関心・意欲・態度をなるべく網羅的に評価する。論述問題とする場合、各設問に関わる講義内容(専門用語や重要事項)の出現率に対応して配点する。期末課題は「学級集団づくり」の構造表の書写を予定している。時間外の講演会・研究会等への参加報告書に10%加算する(随時案内・指示する)。</p>

学びの継続	次のステージ・関連科目
	<p>教育実習に行く年(3年次2月)の「特別活動演習」(集中講義)を受講する際、本講義と関連させると演習の理解が促進される。特別活動の内容には進路指導や教育相談を含むため「進路指導・生活指導」と「学校カウンセリング」と関係する。また子どもの自立をめぐる問題状況については「教育心理学」と関係する。</p>

科目基本情報	科目名 特別活動研究	期別 後期	曜日・時限 火5	単位 2
	担当者 三村 和則	対象年次 2年	授業に関する問い合わせ 研究室番号：5505 E-mail：mimura@okiu.ac.jp	

学びの準備	ねらい 特別活動の内容の学級活動・HR活動と生徒会活動と学校行事を指導する際、基礎となり要となるのは学級経営である。本講義では学級経営の一助として「学級集団づくり」の方法論を解説する。「学級集団づくり」とは、子どもの必要と要求に基づき自治的・自主的な学級活動をすすめる学級を民主的集団に形成し、子どもを民主的な権利主体・自治主体に高め、同時に人間的自立を励ます営みである。	メッセージ 「学級集団づくり」は「班・核・討議づくり」とも言われ、班活動の指導方法、リーダーシップとフォロアーシップの指導方法、話し合いによる合意形成の指導方法を学ぶことができます。その前提として、今日の子どもの自立をめぐる問題状況を理解しておくことや子どもの否定的な言動の中に肯定を捉える子ども観を身につけておく必要があります。これらのことも講義では学びます。
	到達目標 自立と依存の関係、自立をめぐる問題状況、共感的要求とその方法ならびに「学級集団づくり」の方法論（指導の見通しとしての3つの発展段階と指導の切り口としての3つの側面）について、その知識・理解を身につける。共感的要求の出発点となる否定的な言動の中に肯定を見つけることや学級行事や学校行事の原案を作る技能を身につける。これらの知識・理解や技能を身につけると、子どもに対して受容的な態度で接し豊かな人間的交流を行い子どもの抱える課題を理解できる技能を身につけ、子どもとの間に信頼関係を築き学級集団を把握して子どもを民主的な権利主体・自治主体に高める学級経営を行うことへの関心・意欲・態度と自信を持つことができる。	

学びの実践	学びのヒント 授業計画		
	回	テーマ	時間外学習の内容
	1	講義ガイダンス / 特別活動とは何か / 学級びらきについて	中高学習指導要領特別活動の章精読
	2	子どもの自立をめぐる問題状況1 自立の裏面としての問題行動	学級びらき実践の分析☆
	3	子どもの自立をめぐる問題状況2 子どもらしくない子どもの増加	資料pp. 2-7精読
	4	子どもの自立をめぐる問題状況3 校内暴力・いじめ	資料pp. 10-17精読
	5	子どもの自立をめぐる問題状況4 不登校、体罰	全国と沖縄県の不登校生徒数調べ
	6	共感的要求とその方法1 共感的要求とは何か	別冊資料読み物精読
	7	共感的要求とその方法2 否定の中に肯定を捉える	否定の中の肯定発見練習等の課題☆
	8	「問題児はクラスの宝」/学級における3つの集団類型/「学級集団づくり」の3段階と3側面	資料pp. 18-24精読
	9	「討議づくり」1 合意形成の指導	資料pp. 26-29精読
	10	「討議づくり」2 学級行事原案づくりコンテスト、自主管理の指導	学級行事原案づくり☆
	11	「核(リーダー)づくり」1 リーダーとフォロアの民主的な関係の指導	資料pp. 32-33精読
	12	「核(リーダー)づくり」2 リーダーシップとフォロアーシップの形成方法	資料pp. 35-39精読
	13	「班づくり」1 居場所と自治の基礎単位としての班	資料pp. 40-41精読
	14	「班づくり」2 班活動の種類と方法	資料pp. 42-47精読
	15	「学級集団づくり」から全校集団づくりへ	資料pp. 48-52精読
16	試験		

実践	テキスト・参考文献・資料など テキスト：①配付するレジュメ集。②配付する資料集。 主要参考文献：①全国生活指導研究協議会（全生研）常任委員会編『新版 学級集団づくり入門 中学校』明治図書、1991年。②全生研編『生活指導』（隔月誌）高文研。③全国高校生活指導研究協議会（高生研）『高校生生活指導』（季刊誌）青木書店。④文部科学省『中学校学習指導要領』2017年。⑤文部科学省『高等学校学習指導要領』2018年。残余については別途指示する。
----	---

学びの手立て	①「履修の心構え」：抽選となった場合、科目等履修生、4年生、3年生、2年生の順に登録を受け付ける。教職課程学生に相応しく遅刻・欠席がないよう努めること。 ②「学びを深めるために」：学級担任の役割とは何か、朝の会・帰りの会・SHR、学級会・LHR、生徒会活動及び学校行事でどんなことをしたか、また教師となったとき何をすればよいのか、生徒に何を語り、生徒と何をしたいのかを考えながら受講するとよい。シラバス集と資料集に一度、目を通して毎回の講義に臨むとよい。講義時間内だけでは到達目標を達成するには至らないため、指定された時間外学習は必ず行うこと。また、別途指示した参考文献で補ったり深めたりするとよい。
--------	---

評価	小レポートを3回程課し、出欠点検をしない場合、その3分の2以上の提出を持って期末試験受験資格とする。評価方法と配分は、期末試験70%、期末課題20%、小レポート10%とする。期末試験では「到達目標」に掲げた知識・理解及び関心・意欲・態度をなるべく網羅的に評価する。論述問題とする場合、各設問に関わる講義内容(専門用語や重要事項)の出現率に対応して配点する。期末課題は「学級集団づくり」の構造表の書写を予定している。時間外の講演会・研究会等への参加報告書に10%加算する(随時案内・指示する)。
----	--

学びの継続	次のステージ・関連科目 教育実習に行く年(3年次2月)の「特別活動演習」(集中講義)を受講する際、本講義と関連させると演習の理解が促進される。特別活動の内容には進路指導や教育相談を含むため「進路指導・生活指導」と「学校カウンセリング」と関係する。また子どもの自立をめぐる問題状況については「教育心理学」と関係する。
-------	--

科目基本情報	科目名 特別活動研究	期別	曜日・時限	単位
	担当者 三村 和則	前期	木 4	2
		対象年次 2年	授業に関する問い合わせ 研究室番号：5505 E-mail：mimura@okiu.ac.jp	

学びの準備	ねらい 特別活動の内容の学級活動・HR活動と生徒会活動と学校行事を指導する際、基礎となり要となるのは学級経営である。本講義では学級経営の一助として「学級集団づくり」の方法論を解説する。「学級集団づくり」とは、子どもの必要と要求に基づき自治的・自主的な学級活動をすすめる学級を民主的集団に形成し、子どもを民主的な権利主体・自治主体に高め、同時に人間的自立を励ます営みである。	メッセージ 「学級集団づくり」は「班・核・討議づくり」とも言われ、班活動の指導方法、リーダーシップとフォロアーシップの指導方法、話し合いによる合意形成の指導方法を学ぶことができます。その前提として、今日の子どもの自立をめぐる問題状況を理解しておくことや子どもの否定的な言動の中に肯定を捉える子ども観を身につけておく必要があります。これらのことも講義では学びます。
	到達目標 自立と依存の関係、自立をめぐる問題状況、共感的要求とその方法ならびに「学級集団づくり」の方法論（指導の見通しとしての3つの発展段階と指導の切り口としての3つの側面）について、その知識・理解を身につける。共感的要求の出発点となる否定的な言動の中に肯定を見つけることや学級行事や学校行事の原案を作る技能を身につける。これらの知識・理解や技能を身につけると、子どもに対して受容的な態度で接し豊かな人間的交流を行い子どもの抱える課題を理解できる技能を身につけ、子どもとの間に信頼関係を築き学級集団を把握して子どもを民主的な権利主体・自治主体に高める学級経営を行うことへの関心・意欲・態度と自信を持つことができる。	

学びの実践	学びのヒント 授業計画	
	回	テーマ
	1	講義ガイダンス / 特別活動とは何か / 学級びらきについて
	2	子どもの自立をめぐる問題状況 1 自立の裏面としての問題行動
	3	子どもの自立をめぐる問題状況 2 子どもらしくない子どもの増加
	4	子どもの自立をめぐる問題状況 3 校内暴力・いじめ
	5	子どもの自立をめぐる問題状況 4 不登校、体罰
	6	共感的要求とその方法 1 共感的要求とは何か
	7	共感的要求とその方法 2 否定の中に肯定を捉える
	8	「問題児はクラスの宝」/ 学級における3つの集団類型/「学級集団づくり」の3段階と3側面
	9	「討議づくり」 1 合意形成の指導
	10	「討議づくり」 2 学級行事原案づくりコンテスト、自主管理の指導
	11	「核(リーダー)づくり」 1 リーダーとフォロアの民主的な関係の指導
	12	「核(リーダー)づくり」 2 リーダーシップとフォロアーシップの形成方法
	13	「班づくり」 1 居場所と自治の基礎単位としての班
	14	「班づくり」 2 班活動の種類と方法
	15	「学級集団づくり」から全校集団づくりへ
16	試験	
	時間外学習の内容 中高学習指導要領特別活動の章精読 学級びらき実践の分析☆ 資料pp. 2-7精読 資料pp. 10-17精読 全国と沖縄県の不登校生徒数調べ 別冊資料読み物精読 否定の中の肯定発見練習等の課題☆ 資料pp. 18-24精読 資料pp. 26-29精読 学級行事原案づくり☆ 資料pp. 32-33精読 資料pp. 35-39精読 資料pp. 40-41精読 資料pp. 42-47精読 資料pp. 48-52精読	

学びの実践	テキスト・参考文献・資料など テキスト：①配付するレジュメ集。②配付する資料集。 主要参考文献：①全国生活指導研究協議会（全生研）常任委員会編『新版 学級集団づくり入門 中学校』明治図書、1991年。②全生研編『生活指導』（隔月誌）高文研。③全国高校生活指導研究協議会（高生研）『高校生活指導』（季刊誌）青木書店。④文部科学省『中学校学習指導要領』2017年。⑤文部科学省『高等学校学習指導要領』2018年。残余については別途指示する。
-------	--

学びの実践	学びの手立て ①「履修の心構え」：抽選となった場合、科目等履修生、4年生、3年生、2年生の順に登録を受け付ける。教職課程学生に相応しく遅刻・欠席がないよう努めること。 ②「学びを深めるために」：学級担任の役割とは何か、朝の会・帰りの会・SHR、学級会・LHR、生徒会活動及び学校行事でどんなことをしたか、また教師となったとき何をすればよいのか、生徒に何を語り、生徒と何をしたいのかを考えながら受講するとよい。シラバス集と資料集に一度、目を通して毎回の講義に臨むとよい。講義時間内だけでは到達目標を達成するには至らないため、指定された時間外学習は必ず行うこと。また、別途指示した参考文献で補ったり深めたりするとよい。
-------	---

学びの実践	評価 小レポートを3回程課し、出欠点検をしない場合、その3分の2以上の提出を持って期末試験受験資格とする。評価方法と配分は、期末試験70%、期末課題20%、小レポート10%とする。期末試験では「到達目標」に掲げた知識・理解及び関心・意欲・態度をなるべく網羅的に評価する。論述問題とする場合、各設問に関わる講義内容(専門用語や重要事項)の出現率に対応して配点する。期末課題は「学級集団づくり」の構造表の書写を予定している。時間外の講演会・研究会等への参加報告書に10%加算する(随時案内・指示する)。
-------	--

学びの継続	次のステージ・関連科目 教育実習に行く年(3年次2月)の「特別活動演習」(集中講義)を受講する際、本講義と関連させると演習の理解が促進される。特別活動の内容には進路指導や教育相談を含むため、「進路指導・生活指導」と「学校カウンセリング」と関係する。また子どもの自立をめぐる問題状況については「教育心理学」と関係する。
-------	---

科目基本情報	科目名	期別	曜日・時限	単位
	特別支援教育論	集中	集中	2
	担当者	対象年次	授業に関する問い合わせ	
	-村越 雄二	3年	授業終了後に教室で受け付けます。	

学びの準備	ねらい	メッセージ
	<p>本科目では、発達障害等に関する我が国の支援制度その歴史。学校教育における特別支援教育の意義等を踏まえつつ、対象の理解と具体的な教育や連携方法について講義し、グループワークや疑似体験等を実施し、体験的に学んでいきます。</p>	<p>特別支援教育とは、特別支援学校に勤務する教職員や特別支援学級の担任のみの仕事ではありません。通用学級担任を含む全ての教職員が取り組まなければならない教育です。多様な子ども達への教育的な関わりについて学びましょう。</p>
到達目標	<p>通常の学級にも在籍する発達障害や軽度知的障害をはじめとする様々な障害等により特別の支援を必要とする幼児、児童及び生徒が授業において学習活動に参加している実感・達成感をもちながら学び、生きる力を身に付けていくことができるよう、幼児、児童及び生徒の学習上又は生活上の困難を理解し、個別の教育的ニーズに対して、他の教員や関係機関と連携しながら組織的に対応していくために必要な知識や支援方法を理解する。</p>	

学びの実践	学びのヒント		
	授業計画		
	回	テーマ	時間外学習の内容
	1	子どもの発達と学校教育	シラバスを読んでくる
	2	子どもの発達支援～特別支援教育と関連制度～	講義中に指示する課題①
	3	対象の理解Ⅰ～神経発達症を中心に～	講義中に指示する課題②
	4	対象の理解Ⅱ～視覚障害・聴覚障害・知的障害・肢体不自由・病弱を中心に～	講義中に指示する課題③
	5	局限性学習症の理解と支援～疑似体験・グループワーク①学習面の支援を中心に～	講義中に指示する課題④
	6	注意欠如多動症の理解と支援～疑似体験・グループワーク②行動面の支援を中心に～	講義中に指示する課題⑤
	7	自閉スペクトラム症の理解と支援～疑似体験・グループワーク③対人面の支援を中心に～	講義中に指示する課題⑥
	8	生活スキルや感覚や運動面等に支援を要する場合の支援について～疑似体験・グループワーク④～	講義中に指示する課題⑦
	9	就学支援並びに義務教育段階における段階的な支援体制について	講義中に指示する課題⑧
	10	校内での支援体制～通級による指導並びに特別支援学級（自立活動）の指導を中心に～	講義中に指示する課題⑨
	11	個別の指導計画及び個別の教育支援計画	講義中に指示する課題⑩
	12	特別支援コーディネーターの役割と地域連携	講義中に指示する課題⑪
	13	家族との連携と保護者支援	講義中に指示する課題⑫
14	貧困問題や母国語の違う子ども達の理解と支援	講義中に指示する課題⑬	
15	まとめと振り返り～事例を通じた支援の実際～		
16	試験		
テキスト・参考文献・資料など	<p>(テキスト) 授業ごとに資料を配布する。                  (参考書) 「発達と障害を考える本」1～4 (株) ミネルヴァ書房</p>		
学びの手立て	<p>①「履修の心得え」教職を目指す者として、積極的な姿勢で授業に臨むこと。また遅刻・欠席がないよう努めること。②「学びを深めるために」講義で実施するグループディスカッション等では、自身の考え等を積極的に発言すること。また講義を受講し内容を理解することは当然であるが、講義時間内だけでは到達目標達成には至らないため、指定された時間外学習を必ず行うこと。</p>		
評価	<p>講義への参加態度 (60%)、期末試験 (40%) から総合的に判断する。</p>		

学びの継続	<p>次のステージ・関連科目</p> <p>本講義の内容は、発達障害等を持つ幼児・児童・生徒に対する理解と対応に関する内容で有り、学校教育に関する科目・講義には全て関連がある。</p>
-------	--

※ポリシーとの関連性

教育職員免許法に定める「教職に関する科目」の「教育課程及び指導法に関する科目」の内、道徳の指導法に係る科目。

[ /一般講義]

科目基本情報	科目名	期別	曜日・時限	単位
	道徳教育の研究	後期	水3	2
	担当者	対象年次	授業に関する問い合わせ	
	三村 和則	2年	研究室番号：5505 E-mail：mimura@okiu.ac.jp	

学びの準備	ねらい	メッセージ
	<p>学校教育活動の全体(教科、総合的な学習の時間及び特別活動等の各領域)で行われる道徳教育及びそれらを補充・深化・関連づけ・発展させる「特別の教科 道徳」(以前の「道徳の時間」)で行う道徳教育について、その原理・歴史・指導方法について学修する。中学校の教育実習では「特別の教科 道徳」を担当することになるため、その直接的な準備になる。</p>	<p>明治から今日までのわが国の学校での道徳教育の歴史を振り返り、その中で、なぜ沖縄戦に至るような考え方が日本人に形成されたかがわかります。また、「特別の教科 道徳」(以前の「道徳の時間」)の指導法として指導案づくりの経験を試みる点が特徴です。</p>
到達目標	<p>道徳と道徳教育の意味、諸外国の学校での道徳教育方法、近代的学校制度が導入された明治以降、今日までのわが国の学校での道徳教育の歴史、特に戦前・戦中期の道徳教育を特徴づけた修身教育体制の生成・展開・消滅の過程と戦後、道徳の時間が特設されその延長に道徳科が生まれた経緯についての知識・理解を身につける。また、教育課程の各領域(「教科」「特別の教科 道徳」「総合的な学習の時間」「特別活動」)で行う道徳教育の考え方と方法論についての知識・理解を身につける。特に「特別の教科 道徳」については教材や授業方法についての知識・理解を身につけるとともに、指導案づくりの技能を身につける。これらを通して学校での道徳教育のあり方を批判的に吟味し同時に道徳教育を創造的に実践する技能や思考力・判断力並びに関心・意欲・態度を身につける。</p>	

学びの実践	学びのヒント		
	授業計画		
	回	テーマ	時間外学習の内容
	1	講義ガイダンス	「学習指導要領」道徳の章精読
	2	道徳と道徳教育の構造	自分なりの道徳の樹状構造作成
	3	世界の学校における道徳教育 1 宗教(科)特設の国々と道徳(科)特設の国々	A国の学校の道徳教育調べ
	4	世界の学校における道徳教育 2 宗教(科)と道徳(科)併設の国々、特設時間(教科)無しの国々	B国の学校の道徳教育調べ
	5	教育勅語と修身教育体制 1 教育勅語発布の経緯	学事奨励被仰出書精読
	6	教育勅語と修身教育体制 2 教育勅語と修身教育体制の内容	教育勅語の書写と感想☆
	7	修身教育体制への批判と抵抗 1 川井訓導事件、新興教育運動、生活綴方教育	抜粋『ボクラ少国民』精読
	8	修身教育体制への批判と抵抗 2 私学等での実践、奈良の生活修身 / 戦後教育改革	どうやって国民を戦争に・・・感想☆
	9	修身教育体制の解体 / 全面主義道徳体制から特設道徳体制へ	教育基本法前文1条書写と感想☆
	10	特設道徳(「道徳の時間」)以降の道徳教育 / 道徳の教科化(「特別の教科 道徳」)について	日本教育学会の特設道徳見解精読
	11	教科における道徳教育(訓育的教授の理論)	抜粋教育基本法改正関係文書精読
	12	特別活動と総合的な学習の時間における道徳教育	抜粋「特活における道徳教育」精読
	13	「特別の教科 道徳」の実践方法 1 道徳授業の原則	中学校時の「道徳の時間」調べ☆
	14	「特別の教科 道徳」の実践方法 2 模索される授業方法	抜粋モラルジレンマ授業精読
15	「特別の教科 道徳」の実践方法 3 授業の指導案づくり	中学時の「道徳の時間」評価調べ	
16	試験		

実践	<p>テキスト・参考文献・資料など</p> <p>テキスト：①配付するレジュメ集。②配付する資料集。          主要参考文献：①藤田昌士『学校教育と愛国心ー戦前・戦後の「愛国心」教育の軌跡』学習の友社、2008年。          ②柴田義松編著『道徳教育ー理論と実際』学文社、1992年。③大庭茂美他編著『道徳教育の基礎と展望』福村出版、1999年。④文部科学省『中学校学習指導要領』2017年。残余については別途指示する。</p>
----	--

学びの手立て	<p>①履修の心構え：「教育の思想と原則」と「教育心理学」(2017年度以前入学生)又は「進路指導・生活指導」(2018年度入学生)の単位修得が受講条件である。抽選の場合、科目等履修生、4年生、3年生、2年生の順に受け付ける。教職課程学生に相応しく遅刻・欠席がないよう努めること。</p> <p>②学びを深めるために：道徳とは何か、現代社会ではどんな道徳が望ましいか、中学校の「道徳の時間」で何をしたか、教育実習で「特別の教科 道徳」をどう授業したらよいか、教科の授業や特別活動の中で道徳性を育てるとはどのようなことか、道徳教育はなぜ難しいのか、などの問題意識を持ち受講するとよい。シラバス集と資料集に一度、目を通して毎回の講義に臨むとよい。講義時間内だけでは到達目標を達成できないため、指定された時間外学習は必ず行うこと。また、別途指示した参考文献で補ったり深めたりするとよい。</p>
--------	--

評価	<p>小レポートを3回程課し、出欠点検をしない場合その3分の2以上の提出を持って期末試験受験資格とする。評価方法と配分は、期末試験70%、期末課題20%、小レポート10%とする。期末試験では「到達目標」に掲げた知識・理解、思考力・判断力及び関心・意欲・態度をなるべく網羅的に評価する。論述問題とする場合、各設問に関わる講義内容(専門用語や重要事項)の出現率に対応して配点する。期末課題は道徳授業の実践記録分析に基づく学習指導案作成を予定している。時間外の講演会・研究会等への参加報告書に10%加算する(随時案内・指示)。</p>
----	--

学びの継続	<p>次のステージ・関連科目</p> <p>教科の授業でも特別活動の中でも道徳教育は行われるため、「教育課程・教育方法」「教科教育法」「同演習」や「特別活動研究」を受講する際、道徳教育と関連づけて受講するとよい。「特別の教科 道徳」には教科書があるが、教科書の教材に依存するのは好ましくない。教材の引き出しは豊かである方がよい。教材は日常生活にあふれている(自分や他者の言動、マスメディア、歌、小説等々)。それらの収集をしておくとういだろう。</p>
-------	---

科目基本情報	科目名	期別	曜日・時限	単位
	道徳教育の研究	後期	月 5	2
	担当者	対象年次	授業に関する問い合わせ	
	-上地 完治	2年	kanji@edu.u-ryukyu.ac.jp	

学びの準備	ねらい	メッセージ
	<p>中学校の学級担任になれば、道徳の授業を毎週1時間、年間35時間おこなわなければなりません。また、高校での道徳授業の導入も県外では始まっています。しかし、学校の先生の多くが道徳授業を苦手に思っているのが現状です。本講義では、道徳授業を「学習」の場と捉え、子どもたちに豊かな学びを提供できる教師になるために必要なことを、哲学的・歴史的・実践的側面から追究します。</p>	<p>道徳が教科化されましたが、教科化によって何がどう変わったのでしょうか。また、道徳の授業はどうすれば躰や説教の時間ではなく「学びの場」となるのでしょうか。そもそも、道徳とは誰もが従うべき普遍的なものなのでしょうか。それとも価値の多様化を反映した相対的なものなのでしょうか。本講義では、受講生一人ひとりが自分の頭で論理的・多角的・批判的に考えることを求めます。</p>
到達目標	<ol style="list-style-type: none"> <li>1. 道徳や道徳教育について論理的および批判的に考察することができる。</li> <li>2. わが国における道徳教育の歴史を理解することができる。</li> <li>3. 学習指導要領における道徳教育の規定を理解することができる。</li> <li>4. 道徳授業における「学び」を理解することができる。</li> <li>5. 資料分析を通して、「授業のねらい」「中心発問」「ゆさぶりの発問」を考えることができる。</li> </ol>	

学びの実践	学びのヒント		
	授業計画		
	回	テーマ	時間外学習の内容
	1	イントロダクション—道徳は変わる？変わらない？—	第1～3週：レポート作成
	2	わが国における道徳教育の歴史（1）	「わが国の道徳教育の歴史」
	3	わが国における道徳教育の歴史（2）	
	4	学習指導要領（1）	学習指導要領の復習
	5	学習指導要領（2）	学習指導要領解説の予習
	6	指導案の検討	第6～11週：授業の復習
	7	指導案の書き方	「学習指導案の検討」と
	8	道徳授業の方法論（1）—モラルジレンマ授業—	「基本的な考え方」の確認
	9	道徳授業の方法論（2）—モラルジレンマ授業の基本的な考え方—	「授業づくりに必要なこと」
	10	「考えること」と「話し合うこと」を中核とした道徳授業（1）	
	11	「考えること」と「話し合うこと」を中核とした道徳授業（2）	
	12	資料分析と授業づくり（1）	第12～15週：授業の復習
	13	資料分析と授業づくり（2）	「自分の考えをまとめる」
	14	カントの道徳法則—自由に考えることと道徳的正しさ—	
15	資料分析と授業づくり（3）		
16	試験		

実践	<p>テキスト・参考文献・資料など</p> <ul style="list-style-type: none"> <li>○上地完治編『道徳教育（仮題）』ミネルヴァ書房、2019年春～夏刊行予定</li> <li>○文部科学省『中学校学習指導要領解説 特別の教科道徳編』</li> </ul>
----	--

学びの手立て	<ul style="list-style-type: none"> <li>○授業中、真剣に考え、議論に参加する。（これが最も大事です）</li> <li>○自分の意見をまとめるとき、「なぜそうなのか」という理由をきちんと説明できるように考える。（これも重要なポイントです）</li> <li>○授業後に、受講生同士で授業について議論することが、良い振り返りとなります。</li> <li>○自分の考えを深めるために、教育関係の書物を多く読むだけでなく、新聞やニュース、雑誌などから多様な知的刺激を受けて、自分の意見を持つように心がける。とりわけ、新聞（できれば全国紙）を図書館などで毎日読む習慣をつけることは、よい道徳授業を実践する教師になるためにとても有効です。</li> </ul>
--------	---

評価	<p>レポート20%、期末試験80%</p> <p>※学期末試験では、テキスト、ノート、配付資料の持ち込みを認めます。</p>
----	---

学びの継続	<p>次のステージ・関連科目</p> <p>「哲学概論」「倫理学概論」</p>
-------	---

科目基本情報	科目名	期別	曜日・時限	単位
	道徳教育の研究	前期	火4	2
	担当者	対象年次	授業に関する問い合わせ	
	野見 収	2年	研究室：5号館5階5514 E-mail:onomi(at)okiu.ac.jp	

学びの準備	ねらい	メッセージ
	<p>道徳教育とは何か。それは、ある一つの道徳の形を子どもたちに教え込むことではなく、「道徳とは何か」を子どもたちとともに考えることではないだろうか。本講義では、道徳教育の歴史を整理し、これまで学校教育に求められてきた「道徳」なるものの質を確認する。そのことを通じ、学生たちとともに、教職を志す者が道徳教育について今後考えていくべき課題を模索したい。</p>	<p>テストではおもに授業の理解度をはかるので、毎回、集中して受講すること。</p>
到達目標	授業の内容を理解し、それを自分の言葉で語り直せるようになる。	

学びの実践	<p>学びのヒント</p> <p>授業計画（テーマ・時間外学習の内容含む）</p> <ol style="list-style-type: none"> <li>1 オリエンテーション</li> <li>2 道徳教育の歴史（1）—近代教育の幕開け</li> <li>3 道徳教育の歴史（2）—皇民化教育</li> <li>4 道徳教育の歴史（3）—戦後教育改革</li> <li>5 道徳教育の歴史（4）—現代教育と道徳教育①</li> <li>6 道徳教育の歴史（5）—現代教育と道徳教育②</li> <li>7 道徳教育の歴史（6）—現代教育と道徳教育③</li> <li>8 道徳教育の歴史（7）—現代教育と道徳教育④</li> <li>9 日の丸・君が代について（1）</li> <li>10 日の丸・君が代について（2）</li> <li>11 道徳教育の現状と課題（1）—沖縄における道徳教育①</li> <li>12 道徳教育の現状と課題（2）—沖縄における道徳教育②</li> <li>13 道徳教育の現状と課題（3）—沖縄における道徳教育③</li> <li>14 道徳教育はどうあるべきか（1）</li> <li>15 道徳教育はどうあるべきか（2）</li> </ol> <p>期末試験</p> <p>※毎回、これまでに学んだ現代史、沖縄史の内容を復習したうえで授業に臨むこと。</p>
	<p>テキスト・参考文献・資料など</p> <p>特定のテキストは使用しない。レジュメを配布する。参考文献については授業中に適宜紹介する。</p>
	<p>学びの手立て</p> <p>無断欠席、遅刻、私語、正当な理由のない途中退席は認めない。 授業内容の復習は必ずおこなうこと。 毎回、授業終盤にリアクション・ペーパーを課す。数名分を次回授業時に紹介、コメントする。</p>
	<p>評価</p> <p>期末試験の結果によって評価する。</p>

学びの継続	<p>次のステージ・関連科目</p> <p>哲学概論 倫理学概論</p>
-------	--------------------------------------

科目基本情報	科目名	期別	曜日・時限	単位
	道徳教育の研究	前期	火6	2
	担当者	対象年次	授業に関する問い合わせ	
	野見 収	2年	研究室：5号館5階5514 E-mail:onomi(at)okiu.ac.jp	

学びの準備	ねらい	メッセージ
	<p>道徳教育とは何か。それは、ある一つの道徳の形を子どもたちに教え込むことではなく、「道徳とは何か」を子どもたちとともに考えることではないだろうか。本講義では、道徳教育の歴史を整理し、これまで学校教育に求められてきた「道徳」なるものの質を確認する。そのことを通じ、学生たちとともに、教職を志す者が道徳教育について今後考えていくべき課題を模索したい。</p>	<p>テストではおもに授業の理解度をはかるので、毎回、集中して受講すること。</p>
到達目標	授業の内容を理解し、それを自分の言葉で語り直せるようになる。	

学びの実践	<p>学びのヒント</p> <p>授業計画（テーマ・時間外学習の内容含む）</p> <ol style="list-style-type: none"> <li>1 オリエンテーション</li> <li>2 道徳教育の歴史（1）—近代教育の幕開け</li> <li>3 道徳教育の歴史（2）—皇民化教育</li> <li>4 道徳教育の歴史（3）—戦後教育改革</li> <li>5 道徳教育の歴史（4）—現代教育と道徳教育①</li> <li>6 道徳教育の歴史（5）—現代教育と道徳教育②</li> <li>7 道徳教育の歴史（6）—現代教育と道徳教育③</li> <li>8 道徳教育の歴史（7）—現代教育と道徳教育④</li> <li>9 日の丸・君が代について（1）</li> <li>10 日の丸・君が代について（2）</li> <li>11 道徳教育の現状と課題（1）—沖縄における道徳教育①</li> <li>12 道徳教育の現状と課題（2）—沖縄における道徳教育②</li> <li>13 道徳教育の現状と課題（3）—沖縄における道徳教育③</li> <li>14 道徳教育はどうあるべきか（1）</li> <li>15 道徳教育はどうあるべきか（2）</li> </ol> <p>期末試験</p> <p>※毎回、これまでに学んだ現代史、沖縄史の内容を復習したうえで授業に臨むこと。</p>
	<p>テキスト・参考文献・資料など</p> <p>特定のテキストは使用しない。レジュメを配布する。参考文献については授業中に適宜紹介する。</p>
	<p>学びの手立て</p> <p>無断欠席、遅刻、私語、正当な理由のない途中退席は認めない。 授業内容の復習は必ずおこなうこと。 毎回、授業終盤にリアクション・ペーパーを課す。数名分を次回授業時に紹介、コメントする。</p>
	<p>評価</p> <p>期末試験の結果によって評価する。</p>

学びの継続	<p>次のステージ・関連科目</p> <p>哲学概論 倫理学概論</p>
-------	--------------------------------------

科目基本情報	科目名	期別	曜日・時限	単位
	日本史	通年	月3	4
	担当者	対象年次	授業に関する問い合わせ	
	市川 智生	1年	t. ichikawa@okiu.ac.jp	

学びの準備	ねらい	メッセージ
	<p>1) 考古・古代から近代・現代にいたる日本の通史を、政治・外交・経済・文化を軸に概説する。</p> <p>2) 各時代の冒頭に史料についての回を設け、歴史叙述の成り立ちを説明する。</p> <p>3) 講義の内容は最新の歴史学の研究成果に基づくものとし、中学・高校教科書の記述のもととなる学説の変遷についても説明する。</p>	<p>本講義は、教職課程の「教科に関する科目」であり、中学校社会科および高等学校地理歴史科教員免許取得のための必修科目である。</p>
	到達目標	
	<p>1) 日本の通史を把握し、中学校および高校教員として必要な知識を身に着ける。各時代の特徴的な出来事や人物について理解を深め、因果関係を説明できるようになる。</p> <p>2) 考古・古代から近代・現代にいたる日本の歴史がどのような史料をもとに語られているのかを理解する。</p> <p>3) 疑問に感じた事柄を、文献などによって自ら調べ解決することができるようになる。</p>	

学びの実践	学びのヒント		
	授業計画		
	回	テーマ	時間外学習の内容
	1	開講ガイダンス	事前にシラバスを熟読のこと。
	2	古代の史料	配布資料の読解、参考文献の確認。
	3	日本列島の原始・古代	配布資料の読解、参考文献の確認。
	4	律令国家の成立	配布資料の読解、参考文献の確認。
	5	平安王朝の形成	配布資料の読解、参考文献の確認。
	6	平安政治の展開と兵乱	配布資料の読解、参考文献の確認。
	7	摂関政治と国風文化	配布資料の読解、参考文献の確認。
	8	中世の史料	配布資料の読解、参考文献の確認。
	9	院政の展開と内乱	配布資料の読解、参考文献の確認。
	10	鎌倉時代の政治・社会	配布資料の読解、参考文献の確認。
	11	室町時代の政治・社会	配布資料の読解、参考文献の確認。
	12	戦国時代の政治・社会	配布資料の読解、参考文献の確認。
	13	近世の史料	配布資料の読解、参考文献の確認。
	14	天下統一	配布資料の読解、参考文献の確認。
	15	江戸幕府の成立	配布資料の読解、参考文献の確認。
	16	享保改革と社会変容	配布資料の読解、参考文献の確認。
	17	田沼時代から寛政の改革へ	配布資料の読解、参考文献の確認。
	18	幕藩体制の動揺：天保の改革	配布資料の読解、参考文献の確認。
	19	幕末の政治・外交 同上	配布資料の読解、参考文献の確認。
	20	近現代の史料	配布資料の読解、参考文献の確認。
	21	明治維新と地域社会	配布資料の読解、参考文献の確認。
	22	明治憲法と帝国議会の成立	配布資料の読解、参考文献の確認。
	23	日清・日露戦争と都市騒擾	配布資料の読解、参考文献の確認。
	24	政党政治の展開	配布資料の読解、参考文献の確認。
	25	植民地領有と日本社会	配布資料の読解、参考文献の確認。
	26	明治・大正期の日本経済	配布資料の読解、参考文献の確認。
	27	昭和戦前期の日本経済：恐慌の時代	配布資料の読解、参考文献の確認。
	28	昭和の戦争・敗戦	配布資料の読解、参考文献の確認。
	29	政党の復活と地方自治	配布資料の読解、参考文献の確認。
	30	戦後の生活と高度経済成長	配布資料の読解、参考文献の確認。
31	学年末試験もしくはレポート	通年分の復習。	

学	<p>テキスト・参考文献・資料など</p> <p>特定の教科書は使用せず、講義の骨格を記したレジメを配布し、図表・絵画・写真・史料などをスライドで紹介する。全体にわたる参考文献は次の通り。（各論については講義で随時紹介する。）</p> <ul style="list-style-type: none"> <li>・佐藤信 編『大学の日本史』1（古代）山川出版社、2016年</li> <li>・五味文彦編『大学の日本史』2（中世）山川出版社、2016年</li> <li>・杉森哲也編『大学の日本史』3（近世）山川出版社、2016年</li> <li>・小風秀雅編『大学の日本史』4（近代）山川出版社、2016年</li> </ul>
学びの実践	<p>学びの手立て</p> <ol style="list-style-type: none"> <li>1) 履修の心構え 遅刻、私語厳禁とします。</li> <li>2) 学びを深めるために 前回の配布資料で、どこまで学習したのかを必ず確認しておくこと。配布資料への書き込みや自分のノートなど、講義内容をメモする習慣を身につけること。</li> </ol>
	<p>評価</p> <ol style="list-style-type: none"> <li>1) 毎回、講義の最後に課題（史料あるいは研究文献の読解）を1点配布します。この課題は次の講義の冒頭に提出してもらい、出席の確認も兼ねます。遅刻・欠席者の提出は認めません。（3点×30回=90点）。</li> <li>2) 理解度を確認するため、前期終了時にレポート(50点)、後期終了時に論述式の試験(60点)を実施します。</li> </ol> <p>1)および2)の計200点を100満点に換算して成績評価します。なお、1)の提出回数が2/3に満たない場合は、2)の点数に関係なく不可となる場合があるので注意すること。</p>
学びの継続	<p>次のステージ・関連科目</p> <p>教職課程の「外国史I」および「同II」と合わせて、自身で内容を比較・検討する。</p>

科目基本情報	科目名	期別	曜日・時限	単位
	福祉科教育法	前期	月7	2
	担当者	対象年次	授業に関する問い合わせ	
	-請盛 亜季	3年	ukemoriaki@gmail.com	

学びの準備	ねらい この科目は高等学校福祉教育の指導法にかかる科目である。福祉教育の意義について理解し、目標、内容、課題について学習を深める。指導計画、指導方法について研究し、指導案を作成する力を身につけ、指導法の基礎・基本の定着を図る。又、高等学校福祉教師を目指す者としての資質を養い、校旗に開設される「福祉科教育法演習」につなげていく。	メッセージ この科目は福祉科教師を目指す者が履修する科目であるため、将来教師を目指すという自覚を持って履修して下さい。
	到達目標 (1) 福祉教育に関する基礎的知識・技能を習得する。 (2) 指導計画、教材研究、指導の方法を学び、学習指導案を作成することができる。 (3) 福祉科教師としての素養を身につける。	

学びの実践	学びのヒント 授業計画		
	回	テーマ	時間外学習の内容
	1	オリエンテーション	シラバスの確認
	2	高等学校福祉教育の意義及び目標について	高等学校学習指導要領を予習・復習
	3	高等学校福祉教育の変遷及び現状と課題	資料の予習・復習
	4	高等学校福祉教員に求められる資質	資料の予習・復習
	5	実習や演習を行う科目における指導法	資料の予習・復習
	6	福祉施設の現場実習における指導法	資料の予習・復習
	7	指導計画、教材研究、指導方法と学習指導案作成の方法	資料の予習・復習
	8	教材研究と学習指導案の研究(1)	学習指導案作成
9	教材研究と学習指導案の研究(2)	学習指導案作成	
10	教材研究と学習指導案の研究(3)	学習指導案作成	
11	教材研究と学習指導案の研究(4)	学習指導案作成	
12	教材研究と学習指導案の研究(5)	学習指導案作成	
13	教材研究と学習指導案の研究(6)	学習指導案作成	
14	授業実践の見学	高校訪問(授業見学)	
15	授業見学の考察	レポート作成	
16	総括		
	テキスト・参考文献・資料など (1) 高等学校学習指導要領(福祉) (2) 高等学校福祉科の教科書又は副読本 (3) その他、適宜紹介		
	学びの手立て (1) 事前に履修すべき科目を確認し履修しておくこと。 (2) 無断欠席、遅刻は認めない。やむを得ない場合は事前に届出を出すこと。 (3) 課題は期限を厳守し提出する。		
	評価 課題(50%) 授業態度(50%) 減点:遅刻、無届欠席、居眠り、忘れ物、私語、その他の不適切な態度		

学びの継続	次のステージ・関連科目 後期の「福祉科教育法演習」を履修し、教育実習、教員免許取得、教員採用試験に向けて学んだ事をいかして下さい。
-------	--

科目基本情報	科目名	期別	曜日・時限	単位
	福祉科教育法演習	後期	月 7	2
	担当者	対象年次	授業に関する問い合わせ	
	-請盛 亜季	3年	ukemoriaki@gmail.com	

学びの準備	ねらい この科目は高等学校福祉教育の指導法にかかる科目である。前期に履修した「福祉科教育法」で学んだ事を基に、指導案を作成して模擬授業を実施し、授業実践の能力と態度を養う。その際、他の福祉科目や教職科目との関連も深める。	メッセージ この科目は福祉科教師を目指す者が履修する科目であるため、将来教師を目指すという自覚を持って履修して下さい。
	到達目標 (1) 福祉の専門科目や教職科目で学んだ基礎的知識・技能を、授業実践にいかすことができる。 (2) 指導計画、教材研究、指導の方法を身につけ、学習指導案を作成することができる。 (3) 教師を目指す者としての自覚を持ち（立ち居振る舞い、言葉遣い）、教師としての即戦力・実践力を身につける。	

学びの実践	学びのヒント	
	授業計画	
	回	テーマ
	1	オリエンテーション
	2	指導計画、教材研究、指導方法と学習指導案作成の方法（復習）
	3	学習指導案の作成（1）「社会福祉基礎」
	4	模擬授業の実践（1）「社会福祉基礎」
	5	学習指導案の作成（2）「介護福祉基礎」
	6	模擬授業の実践（2）「介護福祉基礎」
	7	学習指導案の作成（3）「コミュニケーション技術」
8	模擬授業の実践（3）「コミュニケーション技術」	
9	学習指導案の作成（4）「こころとからだの理解」	
10	模擬授業の実践（4）「こころとからだの理解」	
11	学習指導案の作成（5）「生活支援技術」	
12	模擬授業の実践（5）「生活支援技術」	
13	学習指導案の作成（6）「介護実習」	
14	模擬授業の実践（6）「介護実習」	
15	授業の振り返り	
16	総括	
		時間外学習の内容
		シラバスの確認
		資料の復習
		学習指導案の作成
		学習指導案の作成
		学習指導案の作成
		学習指導案の作成
		学習指導案の作成
		学習指導案の作成
		学習指導案の作成
		レポート作成
	テキスト・参考文献・資料など	
	(1) 高等学校学習指導要領（福祉） (2) 高等学校福祉科の教科書又は副読本 (3) その他、適宜紹介	
	学びの手立て	
	(1) 事前に履修すべき科目を確認し履修しておくこと。 (2) 無断欠席、遅刻は認めない。やむを得ない場合は事前に届出を出すこと。 (3) 課題は期限を厳守し提出する。	
	評価	
	【課題】 学習指導案の提出（6回×10点＝60点） 【実技】 模擬授業（2回×20点＝40点） 減点：遅刻、無届欠席、居眠り、忘れ物、私語、その他の不適切な態度	

学びの継続	次のステージ・関連科目 教育実習、教員免許取得、教員採用試験に向けて学んだ事をいかして下さい。
-------	--

※ポリシーとの関連性 教職（情報）における「コンピュータ及び情報処理（実習を含む）」に類される実習形式での科目となる。

[ /実験実習]

科目基本情報	科目名	期別	曜日・時限	単位
	プログラミング実習	後期	水3	1
	担当者	対象年次	授業に関する問い合わせ	
	大井 肇	2年	ohi@okiu.ac.jp、研究室(5522)、オフィスアワー月4	

学びの準備	ねらい	メッセージ
	<p>本講義は、基本的なプログラミング技術を習得した者を対象とした応用的な範囲を含む教職（情報科）の科目となります。教職課程を専攻する者を対象としてはいるが、それ以外の学生でプログラミングに興味がある者は登録を受け付けます。基本的にプログラミング言語としてはjavaを用い、実習および課題制作を中心に進めていきます。</p> <p>到達目標</p> <p>① 構造化プログラミングを理解し、その実装ができる。 ② オブジェクト指向プログラミングを理解し、その実装ができる。 ③ システム設計を行い、それに従った実装ができる。</p>	<p>プログラミングは、複雑な問題を単純な要素に分解することからはじまります。そして分解した各要素の関係を捉えることで、問題の理解が深まり、解決の糸口が掴めます。試行錯誤の連続になりますが、その経験によって問題解決能力が育まれていきます。</p> <p>【実務経験】 応用アプリケーション研究開発の経験を活かし、実務領域までを念頭においたプログラミングの知識、技術を実習する。</p>

学びの実践	学びのヒント		
	授業計画		
	回	テーマ	時間外学習の内容
	1	ガイダンス	ガイダンスの理解、配布資料の熟読
	2	構造化プログラミング	当該講義の復習、配布資料の熟読
	3	オブジェクト指向プログラミング1	当該講義の復習、配布資料の熟読
	4	オブジェクト指向プログラミング2	当該講義の復習、配布資料の熟読
	5	Javaプログラミング1	テキストpp. 01-68、次回講義予習
	6	javaプログラミング2	テキストpp. 73-114、次回講義予習
	7	javaプログラミング3	テキストpp. 123-136、次回講義予習
	8	javaプログラミング4	テキストpp. 151-178、配布資料熟読
	9	課題システム構築1	課題作成
	10	課題システム構築2	継続的な課題作成
	11	課題システム構築3	継続的な課題作成
	12	課題システム構築4	継続的な課題作成、発表資料の作成
	13	課題システム構築5	継続的な課題作成、発表資料の作成
	14	制作システムプレゼンテーション1	発表資料の作成、発表の振り返り
15	制作システムプレゼンテーション2	発表の振り返り	
16	講評、総括		

テキスト・参考文献・資料など

- ・柴田 望洋「新・明解 Java 入門編」SBクリエイティブ (2016)
- ・柴田 望洋「新・明解Javaによるアルゴリズムとデータ構造」SBクリエイティブ(2017)
- ・小森裕介「なぜ、あなたはJavaでオブジェクト指向開発ができないのか」技術評論社(2004)
- ・Robert Simmons Jr. 「Java魂ープログラミングを極める匠の技」オライリージャパン (2004)

また理解の手助けとなる資料を随時配布します。

学びの手立て

- ① 毎回、出欠を取ります。欠席するのであれば、できれば事前にメールをください。また翌週に、「欠席届け」を提出してください。
- ② 講義において、求められる課題(宿題)の提出期限は、必ず守るようにしてください。
- ③ 準備学習に要する時間は2時間程と考えますが、講義内容の理解が不十分あるいは課題の進捗が思わしくなければ、さらに時間をかけてください。
- ④ 講義に関する疑問は放置せず、講義中に尋ねることはもちろん、オフィスアワーあるいはメールを利用しながら、自ら積極的に解消してください。

評価

学習への取り組み姿勢も評価したいと考えるため、受講態度となる平常点(20%)、課題レポート(30%)そして制作システムプレゼンテーション(50%)の総合評価とします。

学びの継続

次のステージ・関連科目

本演習におけるプログラミングの応用レベルの習得を基礎とし、教職（情報）における「情報システム」に類される「システム設計実習」、「情報処理システム演習」そして「データベース」に取り組んでもらいたいと考えます。

科目基本情報	科目名	期別	曜日・時限	単位
	法学概論	通年	火4	4
	担当者	対象年次	授業に関する問い合わせ	
	-長嶺 弘善	1年	教室または授業時間前後の非常勤教員控室で受け付ける。	

学びの準備	ねらい	メッセージ
	<p>法は社会における人々の行為規範として機能しており、私たちは法と向き合って暮らさざるをえない。日常生活における契約関係、予期しない交通事故などの損害賠償、婚姻・離婚と親子関係における法的保護、そして人の生死にかかわる法律問題など、さまざまな法現象が存在する。社会人として有益な、これらの法現象理解の一助としたい。</p> <p>到達目標 講義はできるだけ具体的事例に即しておこなう。法とは何か、法はこの社会においてどのように機能しているのか、さらに、自分自身の行動がどのように法と関連づけることができるのかを理解しよう。そして、身の回りに生起する具体的な問題を法的に思考し、解決する助けとなることを期待する。</p>	<p>授業は一方通行ではなく、学生の間に入り、質問・対話を取り入れながら進める。教室はすべて自由席で、演劇鑑賞と同じく前方の席が特等席である。しかし鑑賞と違い、参加型講義を目指しているの で、常に思考回路を働かせてもらいたい。なお、飲食・携帯・私語は禁止です。</p>

学びの実践	学びのヒント		
	授業計画		
	回	テーマ	時間外学習の内容
	1	登録確認および導入：法現象	本シラバス熟読
	2	六法の使い方：大学の単位と法	学則中の「単位」条文熟読
	3	社会規範：法と道徳の異同	教科書一読・再読、ノート整理
	4	法の存在形式：法源論と分類論	教科書一読・再読、ノート整理
	5	法の適用：解釈と適用	教科書一読・再読、ノート整理
	6	憲法原則：統治章典、権利章典	教科書一読・再読、ノート整理
	7	日本国憲法制定：押付か革命か	教科書一読・再読、ノート整理
	8	人権の本質：自然権	教科書一読・再読、ノート整理
	9	自由権：表現を中心に	教科書一読・再読、ノート整理
	10	包括的人権：幸福と平等	教科書一読・再読、ノート整理
	11	生存権と教育権	教科書一読・再読、ノート整理
	12	労働：労働契約、労働基準	教科書一読・再読、ノート整理
	13	刑法：罪刑法定、違法と有責	教科書一読・再読、ノート整理
	14	刑法：新しい刑法、裁判員制度	教科書一読・再読、ノート整理
	15	国際関係と人権	教科書一読・再読、ノート整理
	16	前期試験	ノート読み直し
	17	前期試験講評	教科書流し読み
	18	民法家族法：親族	教科書一読・再読、ノート整理
	19	婚姻成立：婚姻意思と届出	教科書一読・再読、ノート整理
	20	婚姻効力：身分と財産、日常家事	教科書一読・再読、ノート整理
	21	離婚：成立と効果、財産分与	教科書一読・再読、ノート整理
	22	離婚：子どもの親権・監護権	教科書一読・再読、ノート整理
	23	相続：遺言自由と非嫡出子	教科書一読・再読、ノート整理
	24	民法財産法：法律行為論	教科書一読・再読、ノート整理
	25	契約自由の原則：有効要件	教科書一読・再読、ノート整理
	26	消費者契約：特別法による保護	教科書一読・再読、ノート整理
	27	不法行為：成立、過失責任	教科書一読・再読、ノート整理
	28	不法行為：効果、損害賠償論	教科書一読・再読、ノート整理
	29	権力分立：三権、法制定	教科書一読・再読、ノート整理
30	権力分立：司法、法番人	教科書一読・再読、ノート整理	
31	期末試験	ノート読み直し	

学	<p>テキスト・参考文献・資料など</p> <p>教科書：中川淳編『新やさしく学ぶ法学』法律文化社（2, 600円）          法令集：『ポケット六法 平成31年版』有斐閣（1, 800円）等          参考書：竜崎喜助『生の法律学【改訂版】』（尚学社）、稲垣明博『生活と法律—生命の誕生から終焉まで【改訂版】』（泉文社）、大村敦志『生活民法入門—暮らしを支える法』（東京大学出版会）、初宿正典『いちばんやさしい憲法入門【第3版】』（岩波書店）</p>
び の 実 践	<p>学びの手立て</p> <p>授業は教科書に沿って進めるので、教科書一読し、六法持参して出席すること。講義に集中することが大切である。質問を大いに歓迎するが、飲食・携帯・私語は禁止する。さらに、講義の聞きっぱなしで終わるのではなく、教科書再読・ノート整理など、自学することが重要である。また、講義中に配布する資料・プリント類を読み込むことで、理解は一層深まるであろう。なお、上記参考書どれか一冊でも、土日など利用して、読み通すことを期待する。</p>
	<p>評価</p> <p>評価基準および出欠席の扱いについては、『学則』・『学部履修規程』による。          前期・後期の期末試験（穴埋め式および正誤式）で評価する。試験得点調整が必要な場合、授業参加度を考慮する（10%以内）。</p>
学 び の 継 続	<p>次のステージ・関連科目</p> <p>法学に興味を湧いたら、法学部専門科目を聴講するのも良い。社会で発生する様々な法現象に、継続的に興味を持ち、法的推論を働かせることを期待する。</p>

科目基本情報	科目名	期別	曜日・時限	単位
	マルチメディア実習	前期	火3	1
	担当者	対象年次	授業に関する問い合わせ	
	-中西 利文	2年	メールにて受け付ける ptt465@okiu.ac.jp	

学びの準備	ねらい	メッセージ
	本実習では、グラフィックツールの基本的な操作及び効果的な表現技術の習得を目的とする。ドロー系、ペイント系の特徴を理解し、うまく使い分け、統合することで効率的な画像資料作成技術を身につけ、オリジナルコンテンツ作成までを実習する。	いろいろとチャレンジして慣れることが習得への近道です。初めてでも問題ないので興味のある学生は気軽に受講してみてください。

到達目標	ドロー系、ペイント系それぞれの特徴を把握し、効率的にグラフィックコンテンツを作成することができるようになる。
------	--

学びの実践	学びのヒント		
	授業計画		
	回	テーマ	時間外学習の内容
	1	ガイダンス	操作方法の復習、表現方法の応用
	2	Adobe Photoshop の効率的な操作について (1)	操作方法の復習、表現方法の応用
	3	Adobe Photoshop の効率的な操作について (2)	操作方法の復習、表現方法の応用
	4	Adobe Photoshop の効率的な操作について (3)	操作方法の復習、表現方法の応用
	5	Adobe Photoshop の効率的な操作について (4)	操作方法の復習、表現方法の応用
	6	Adobe Illustrator の効率的な操作について (1)	操作方法の復習、表現方法の応用
	7	Adobe Illustrator の効率的な操作について (2)	操作方法の復習、表現方法の応用
	8	Adobe Illustrator の効率的な操作について (3)	操作方法の復習、表現方法の応用
	9	Adobe Illustrator の効率的な操作について (4)	操作方法の復習、表現方法の応用
	10	オリジナルグラフィックコンテンツ作成演習 (1)	進行遅れの補完作業
	11	オリジナルグラフィックコンテンツ作成演習 (2)	進行遅れの補完作業
	12	オリジナルグラフィックコンテンツ作成演習 (3)	進行遅れの補完作業
	13	オリジナルグラフィックコンテンツ作成演習 (4)	進行遅れの補完作業
	14	オリジナルグラフィックコンテンツ作成演習 (5)	進行遅れの補完作業
15	作品提出、総括	進行遅れの補完作業	
16			

学びの実践	テキスト・参考文献・資料など 開講時に指定する
-------	----------------------------

学びの手立て	普段よりいろいろなCGやwebサイト、印刷物などのグラフィック作品を見るようにして下さい。
--------	---

評価	出席状況と10回～15回のオリジナルグラフィックコンテンツ作成演習で作成した作品により、評価する 平常点30%、作品評価70%
----	--

学びの継続	次のステージ・関連科目 他の演習、自主制作、卒業論文において、わかりやすく美しい説明図や視覚表現、レイアウトができるよう継続してグラフィックツールの操作技術の熟練を目指して下さい。
-------	---

科目基本情報	科目名	期別	曜日・時限	単位
	倫理学概論	通年	木5	4
	担当者	対象年次	授業に関する問い合わせ	
	-大城 信哉	1年	講義時間内が望ましいのですが、講義終了時にも教室にてお聞きします。	

学びの準備	ねらい	メッセージ
	<p>本講座は教職を志す人を対象に、倫理学の概略を伝えることを目的としています。最近よく道徳教育の必要ということを聞きますが、教職に就く人が倫理学を学ぶ必要があるのはそうした理由によるものではありません。倫理学研究では、そもそも道徳的であるとはどういうことかを再検討します本講座では主として前半に倫理学の学説史を紹介し、後半で現代の問題に即して具体的に検討します。</p> <p>到達目標</p> <ul style="list-style-type: none"> <li>・ 倫理という語の本来の意味から、道徳的であるとはどういうことかまでを理解する。</li> <li>・ 現代のさまざまな倫理学的立場の違いを知り、自分でも説明できるようになる。</li> <li>・ 教育を倫理の観点から考える視点を心得、どのような教育が望ましいかを考える。</li> <li>・ 倫理について、あるいは教育について、しっかりした自分自身の考えを作る。</li> </ul>	<p>予備知識は取りたてて必要ありませんが、熱心に学ぶ意欲は期待しています。教室で語られるどんなことについてであれ、諸君が知らない、判らないということは悪くはありません。これから知り、判るようになれば良いのです。ただ、自分が判るか判らないかを考えないことは良くありません。自分が判っているかどうかをつねに検討し、判らないときには遠慮なく質問してほしいと思います。</p>

学びの実践	学びのヒント		
	授業計画		
	回	テーマ	時間外学習の内容
	1	開講にあたって受講者諸君との合意作り。	シラバスを読んでくるように。
	2	倫理という語の意味について考える。	講義後の復習をするように。
	3	倫理という語の成り立ちについても考える。	講義後の復習をするように。
	4	ソクラテスとプラトンの考えを紹介する。	人物について自分でも調べる。
	5	アリストテレスの倫理学を紹介する。	人物について自分でも調べる。
	6	カントの考えを紹介する。	人物について自分でも調べる。
	7	カントの考えについて教室で検討する。	講義後の復習をするように。
	8	功利主義の思想について考える。	現代の問題にあてはめてみる。
	9	功利主義的な自由主義について考える。	自由について自分でも考える。
	10	カント説と功利主義の対立点を考える。	講義後の復習をするように。
	11	正義とは何かを考える。	現代の問題にあてはめてみる。
	12	政治や経済と自由について考えてみる。	政治についても調べてみる。
	13	徳について考える。	講義後の復習をするように。
	14	共同体の意義について考える。	自分の立場にあてはめてみる。
	15	あらためて正義について考える。	講義後の復習をするように。
	16	前期試験。	自分の理解を確認する。
	17	試験講評。	自分の理解を再確認する。
	18	積極的自由と消極的自由の違いを考える。	現代の問題にあてはめてみる。
	19	自由と責任との関係について考える。	講義後の復習をするように。
	20	パターナリズムについて考える。	講義後の復習をするように。
	21	教育の倫理学を考えてみる①。	教職の特質について考える。
	22	教育の倫理学を考えてみる②。	教職の特質について考える。
	23	現代の倫理問題について考える①。	講義後の復習をするように。
	24	現代の倫理問題について考える②。	講義後の復習をするように。
	25	現代の倫理問題について考える③。	講義後の復習をするように。
	26	現代の倫理問題について考える④。	講義後の復習をするように。
	27	自由と権力との関係について考える。	講義後の復習をするように。
	28	趣味と教養について考える。	楽しむことについて考える。
	29	教育は誰のためのものかをあらためて考える。	自分の考えをまとめてみる。
30	どんな理解が得られたかを検討する。	自分の考えを再検討する。	
31	まとめ。およびレポート回収。	自分の理解を確認する。	

学	<p>テキスト・参考文献・資料など</p> <p>教科書は使用しません。資料はすべて教室にて配布します。参考文献は必要に応じて教室で指示します。まずは図書館で各種事典類を引く習慣を身につけるように。</p>
び の 実 践	<p>学びの手立て</p> <p>受講者の人数にも多少異なりますが、こちらから諸君にも質問します。活発な議論となることを望みます。出席も含めて評価については厳正であるように努めますが、教室での時間は皆さんと楽しく共有したいと願っています。そのためにも講義には積極的に参加するように。あとでというのではなく、まずその場で考えるということをお大切にしたいと思います。なお、欠席の場合、特に事前連絡は必要ありません。あとの確認で十分です。</p>
	<p>評価</p> <p>前期最終回もしくは後期講義時の最初の方で試験をします（試験の日程は名簿が決定したときに受講者諸君の希望を聞いて決めますが、希望が分かれば前期最終回にします）。他に後期最終回にレポートを提出してもらいます。それぞれ50パーセントの重みですので片方だけでは単位は取得できません。気をつけるように。評価方法の細部は、初回の合意作りのときに希望が出たら考慮します。考えがあれば聞かせてください。出席も取りますが、受講者が出席することは最低限の条件ですので出席それ自体を特別に評価することはありません。</p>
学 び の 継 続	<p>次のステージ・関連科目</p> <p>倫理学や哲学は抽象的な議論になりがちですが、具体的な問題を考えるときの重要なヒントを与えてくれます。特に専門家を目指すのでないかぎり人名などを細かく覚える必要はありませんが、教室で学んだ考え方のスキルは当人の努力次第で役立ちます。皆さんがこのあと多くのことを学ぶにあたってぜひ役立てるように努めてください。</p>